# トヨタ・アートマネジメント講座の軌跡 1996-2004

全講座収録版

トヨタ自動車株式会社

主催者あいさつ（トヨタ自動車株式会社） 1

トヨタ・アートマネジメント講座に寄せて 2
（TAM運営委員会事務局［社］企業メセナ協議会）

TAM運営委員会・ディレクターからのメッセージ 3

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）～主旨と開催方法 7

開催セッション一覧 8

TAMを開催して（地域コーディネーターコメント）
1996年度 Vol. 1 ― 4 13
1997年度 Vol. 5 ―13 25
1998年度 Vol.14―21 51
1999年度 Vol.22―28 73
2000年度 Vol.29―35 93
2001年度 Vol.36―42 117
2002年度 Vol.43―49 139
2003年度 Vol.50―53 161

# TAMの取り組みと今後の展望

トヨタ自動車は、メセナ（芸術文化支援）活動の一環として、1996年6月に「トヨタ・アートマネジメント講座」（以下TAM）を開始いたしました。

アートを通して地域社会を活性化する「地域のアートマネージャー」を各地で育成し、行政・文化機関・地域など、さまざまなレベルで地元密着型のアートマネジメントが盛んになることを目的に、活動を推進してまいりましたが、2004年3月までに、全国32地域で53回開催し、延べ1万人の方に参加いただきました。

アートを取り巻く環境は、TAM開始当初より大きく変化しました。文化芸術振興基本法が制定され、大学・大学院でのアートマネジメント関連講座は80を超え、芸術系NPOも約1000団体を超えるとも言われます。TAMを通じて各地域のアートマネージャーによる独自の活動も活性化し、マスコミにも大きく報道されるようになりました。

このような背景のもと、TAMの2003年度（03年4月～04年3月）は総括の年とし、名古屋、大阪、山口、東京で、4つの講座を開催しました。名古屋大会（03年10月11日）では、各地の芸術文化環境の現状や問題点を把握し、大阪（04年1月24日・25日）・山口（04年2月7日・8日）ではその地域の特性に即したケーススタディを実施しました。最終講座の東京会議2004（04年3月20日）では「これからの日本社会とアートについて、私の主張」を公募し、さまざまな立場の方からの意見をお寄せいただき、今後の文化振興のため、国・自治体・NPO・企業の役割と連携についても包括的に議論いたしました。講座を通して、アートマネジメントに対する認識が広く社会に浸透し、専門家だけではなく、市民の方々がより積極的にアートと関わるようになり、社会とアートの関係が多様化してきている現状を把握することができました。

こうした現状を確認できたこともあり、TAMにおきましては従来の「講座形式」での活動は一区切りとさせていただき、今後はアートマネジメント総合情報を幅広い方々にご利用いただくことを目標に、2004年秋にはホームページ「ネットTAM」を開設する予定です。

またTAMの財産である、ノウハウやネットワークを今後の当社のメセナ活動へフィードバックし、引き続き芸術活動を通じた地域社会の活性化に向け、鋭意努力して参りたいと存じます。

最後になりましたが、この場をお借りして、8年間当講座の運営に多大なご協力を賜りました、社団法人企業メセナ協議会様および各分野のディレクター様、各地の実行委員会の皆様、そして講座に参加いただきました皆様に対しまして、厚く御礼申し上げます。

2004年9月

トヨタ自動車株式会社

# 企業メセナとしてのTAM

TAM運営委員会事務局／社団法人企業メセナ協議会事務局長　角山紘一

企業メセナといえば、アーティスト自身の育成やその活動に対して支援するケースが一般的であるが、芸術と社会を結ぶ人材の育成という、どちらかといえば地味なプログラムに取り組む事例はそう多くない。その意味でもTAMはユニークな企業メセナのひとつであった。

1996年の8月14日付け日本経済新聞「文化往来」欄には、「トヨタ、低予算で効果的メセナ」という見出しが掲げられ、スタートしたTAMについて紹介し、「これからの企業の文化支援のあり方を示す一つの好例といえるだろう」という言葉で結ばれている。

企業メセナ協議会は1990年の発足以来、芸術文化を取り巻く環境の改善、すなわち芸術文化振興のための基盤整備、とくにソフト面の整備促進を大きな目標の1つに掲げてきたが、TAMはまさにそのような問題意識のもとで、トヨタ自動車広報部社会文化広報室と企業メセナ協議会事務局との間での幾度かにわたる協議を経て1996年6月にスタートした。

当時、すでにアートマネジメントの必要性や重要性についての認識は高まりつつあり、大学をはじめさまざまな機関で関連の講座が開かれ始めていたが、TAMはあえてそれらとは一線を画し、あくまで「実践」を重視し、企画・運営の一部を開催地の人々の手に委ねて、地元密着型の内容で展開されることになった。

このように内容面においても一味違ったこのプログラムは、各地に熱心なファンを生み出しながら、その後8年間にわたって継続された。

本年（2004年）3月16日付け、同じく日本経済新聞「文化往来」欄は、「トヨタの芸術支援講座、最終回迎える」との見出しで、「TAMはとりわけ実践的だった」ことを紹介し、「今後、アート・マネジメントの領域では議論よりも現場で汗を流すことが求められてくるだろう」と述べている。

企業メセナの成果を正しく評価することはなかなかの難問ではあるが、TAMは間違いなく日本のアートマネジメントの世界に貴重な一石を投じ、多く人々の関心をあつめた点において、優れたプログラムであったことは間違いないだろう。

日本の芸術文化の環境には、まだまだ解決すべき課題も多く、協議会としてもひきつづきTAMのようなユニークなメセナプログラムの開発に取り組んでいきたい。

[演 劇]

# トヨタ・アートマネジメント講座を終えて

TAM運営委員会ディレクター（演劇）　市村作知雄

この講座をはじめた頃の状況は隔世の感があるが、終わってみるとかすかに胃に残る消化不能な小石のようなものが存在することに気づいた。数々の都市で「アートマネジメント」を説いてまわったが、何かアートの現場とは少し遠い場所にいるのではないかという「恐れ」にいつもつきまとわれていたのかもしれない。

私は「アート」の専門家でありたいとは思うが、果たしてそれは「アートマネジメント」の専門家であることとイコールなのだろうか。「アート」の専門家でない者が「アートマネジメント」の専門家であることなどありえるのだろうか。アートの現場を知らない者が「アートマネジメント」を教えることなどできるのだろうか。理屈より現場を体験しろ、いやいや、そんな保守的な発想が、現場の新陳代謝を阻害しているのかもしれない。いつまでも現場の地位にしがみついていないで早く世代交代を進めなければ、若い制作者の才能とチャンスをつぶしてしまうのではないだろうか。この講座のディレクターを最初からつとめて、最後まで交代もしなかったことが本当に悔やまれる。

過去の記録を読み返すと実に多くの出会いがあって、最後の年に開催していただいた大阪の應典院の住職の秋田さんの説法が聞けたり、その前年の高知では映画のセッションでユーロスペースの堀越さんの刺激的な話が聞けたりと、きっと一番得をしたのは私だろう。感謝、感謝。

舞台芸術はあいかわらず厳しい状況が続いている。いい作品に観客がこない。テレビで名の通ったタレントが出る作品にしか観客がこない。つまり作品を見る観客があまりいない。それは長い間、タレントにたよって制作（マネジメント）をしてきたことのツケがまわっているだけなのだが、どうしたらこのスパイラルから抜け出せるのか、まだ道はみえない。そろそろ「アートマネージャー」たちの腕の見せ所ではないのか。

アートのマネジメントなんて、やればやるほど問題だらけなのだから、しぶとくかつ過激に、つまり根底的に問題を提起してやりつづける以外にない。

市村作知雄（いちむら・さちお）　東京国際芸術祭ディレクター
1983年～97年、ダンスグループ山海塾制作。1990年、APA（芸術振興協会）設立、代表。1997年～2003年、パークタワー・アートプログラムアドバイザー。2001年、NPO法人アートネットワーク・ジャパン設立、理事長。2002年、NPO法人「芸術家と子どもたち」副理事長。2003年、東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科助教授。主な論文・調査に、「アートの援助システム確立のための基礎研究」（トヨタ財団、日豪交流基金助成）、「アートの情報整備」（セゾン文化財団助成、国際交流基金）、翻訳『NONPROFIT HANDBOOK』（笹川平和財団より委託）、「日本船舶振興会への提言」（博報堂より委託）。多岐にわたる舞台芸術関連の公演・講座・シンポジウムなどのプロデュースおよび制作を多数手がけている。

[美 術]

# トヨタ・アートマネジメント講座を終えて……

TAM運営委員会ディレクター（美術）　森　司

時節を得た必然性のある企画はブレイクする。まさにトヨタ・アートマネジメント講座（TAM）はその典型だった。企業名を冠するメセナプログラムとして1996年から2004年3月まで開催された、アートの良きつなぎ手を育成する新領域でのメセナがTAMであった。

社会貢献の意識からアート活動を支援するメセナ部署の企業内アート関係者にとって、さらには新しくアートの世界に関わりを持ちたいと思う多くの人に、アートとアートマネジメントを知るための座学は、その世界に参入するためのゲート・ウエイとして機能した。延べ参加数が如実にそのことを物語ってくれている。

では、かくまでに好評を博したプログラムを終える理由はあるのか？ いかなる理由をもってして初期目的を達成したと判断するのか。TAMの活動はアートマネジメントへの興味と感心を一気に高め、多くの人に何らかの有益な情報や知識を提供することができた。その幸福な事実が、同時に、同一の形態での変わらぬ継続を困難にさせる不幸を生む。意識を持ち、自信を得た参加者は、それを実践する現場を求め、さらにより実践的な場の提供を求めることとなったからだ。その要請に応える根本的なスキームをTAMは持ち合わせていない。あくまでも初期段階における啓蒙・啓発と概要の紹介以上のことができないからだ。このレベルに対応するには講座からスクーリングへと、教室から現場へと、座学から実践へと、ステージを移すしかない。幸いなことに、大学におけるアートマネジメント学科の開設にみられるように、体系的に基礎から学ぶことができるようにもなった。しかし、畳の上での水泳の稽古だけでは泳げるようにならないように、企画したアートプログラムを意図どおりに、さらには理想とする領域を目指してつつがなく十全に展開するための技術は現場で磨かれる必要がある。

混沌とした現場から経験的に抽出されたアートの現場で求められるさまざまな事を学んだ後は、プロジェクトが展開する際のリズムやプロジェクトの展開が求める反応速度といったものは、実践の現場に身をさらすなかで体感し習得するしかないものだ。経験知とか勘といってしまって良いほどに危ういとらえどころのない意識を身体化すること。それがアートマネジメントの仕上げの学習領域となるだろう。プロジェクトを取り巻く環境を整えながら、プロジェクト固有の「質」を保証していくマネジメントになって、初めて他者から求められるアートマネジメントになるだろう。

座学のために切り取られ言語化されたアートマネジメントの世界から、現場と融合した身体的なアートマネジメントの世界への橋渡しの場のひとつにインターン制度が有効かもしれない。教室での講座のあとには、実社会の実践の場とつながった体験教育の場が不可欠であり、そのような部分に新しいTAMの需要があると確信しつつ、第一期の活動を終えることとなった。長い間おつきあいいただきどうもありがとうございました。また、皆様とどこかでお目にかかり共に学び実践することができる日を待望して。

森　司（もり・つかさ）　水戸芸術館現代美術センター学芸員
開館準備室時代から勤務し「クリスト展」「長沢英俊展」「絵画考」「野村仁展」「川俣正デイリーニュース」「椿昇国連少年展」などを手がける。1992年度からは同センターの広報・渉外も担当。共著に『美術館革命』（大日本印刷）、『現代アート入門』（平凡社）がある。第11回バングラディシュビエンナーレ（2003）の日本コミッショナーを努める。アートWEBサイト「ARTSCAPE」に参画する他、2004年取手アートプロジェクトためのTAP塾インターン生向け講座ディレクターを務める。

[音 楽]

# コンサートの現場は、ますます面白くなってきた

TAM運営委員会ディレクター（音楽）　西巻正史

TAMの8年の間に、アートマネジメントに関する社会の認識は大幅に変化した。それは他のジャンルに比較して変化の緩やかなクラシック音楽の分野においても同様である。社会から孤立しがちなアートと社会のいい関係を作る、「つなぎ手づくり」の種を地域に蒔こうと、様々な形で試みてきたセッションの数々は、試行錯誤の歴史であると同時に、お互いの共同作業の歴史でもあったように思う。

音楽分野の場合、もともとアートの現場にかかわること自体はさほど難しいことではない。かなりシステマチックに整備されたコンサートパッケージを買うなどして、地域のアートマネージャーを目指す方々が、コンサートを開くことに参画するのは易しい。が、そのことが同時に、他の2つのジャンルに較べて、アートシーンを立ち上げる目的意識を希薄にさせていたのではないだろうか？ かつての演劇や現代美術の現場を地域で立ち上げるときのような、緊張と高揚と困難がそこにはあまり存在していなかった。もちろん例外はあるが、一般的には、参加者の意識の中に、広く深い問題意識や、胸の中に煮えたぎる熱い想いのようなものを感じ取れる機会がことのほか少なかった。

しかし時を経るにつれて、そうした状況も少しずつ変わりつつある。単にコンサートを開くことが最終目的ではなく、さらに一歩踏み込んで、アーティストを刺激したり、聴衆を掘り起こしたりして、アートやアーティストの中に眠っている可能性を引き出したり、社会ともっと積極的に関わりたいと願うアートマネージャーの存在も増えてきた。TAMで行われた数々の試みがそうした人のヒントや刺激になれば、それは望外の喜びである。

いまクラシックのコンサートシーンも様々な意味で大きな転換期を迎えている。聴衆の減少と自治体の財政の逼迫の結果、クラシックのコンサートの開催について公共ホールが大きく手を引き始めた。しかし裏返してみれば、新たな力の台頭できる機会の到来でもある。世界に例をみないほどに、全国津々浦々に立派なホール・劇場が整備されている日本で、そうした場を眠らせることなく、地域のアートマネージャーの知恵と汗の結晶で、そこに優れたアートの花を咲かせる時が来たとも解釈できるであろう。

アートと社会をつなぐといっても、そのためにはまず何よりアートそれ自体が魅力的であり続けなくては意味がない。21世紀の現代においても魅力的なクラシック音楽というものをアーティストと一緒に育てあげていくことも、これからの大切なアートマネージャーの仕事となるであろう。アートと社会のつなぎ手の責任とやりがいは日に日に高まっている。お互い切磋琢磨し、その腕を磨き、腕を競いあいたいものである。

西巻正史（にしまき・まさし）　株式会社トッパンホール企画制作部長
上智大学卒業後、(株) ワコールに入社。東京・青山のスパイラルホールの企画・制作を準備室時代から担当。その後、社会工学研究所に移り、芸術文化のインフラ整備と具体的なプロデュース活動を行う。また、「ステージラボ」をはじめとした、ホールスタッフ育成事業を企画・実施。1997年より2001年4月まで水戸芸術館コンサートホールATMに勤務。東京藝術大学、東京純心女子大学等でも教鞭をとる。2001年5月より東京・小石川にあるトッパンホールの企画制作部長を務め、年間40本の主催公演を企画・実施している。

[総 合]

# アートマネジメントのこれまでとこれから

TAM運営委員会ディレクター（総合）　熊倉純子

アートマネジメントという概念が日本で広く意識されるようになって、すでに10年以上の年月が経ちます。芸術と現代社会の関係をさまざまな角度から検証し、今日のわれわれの暮らしや未来の社会において芸術がどのような意味を持つのかを考察するのが、アートマネジメントの原点です。そして、アートマネジメントの実践とは、人類がその誕生の直後から営んできた「芸術」というさまざまな表現活動を、今日の暮らしや未来の社会を潤す豊かな水脈として育みかつ機能させてゆくことです。

1970年代後半、高度成長を遂げた経済が爛熟期に入ったこの時代から、日本社会は文化の民衆化の時代を迎えました。海外旅行が身近になり、最新の海外文化事情に敏感になった日本人に対し、企業の広告は文化的付加価値を追求するようになり、都会の百貨店は美術館や劇場を併設する文化拠点となって新しい芸術を発進し、若者たちの知的好奇心を大いに刺激しました。1979年には大平首相が施政方針演説で「文化の時代」に言及し、続く80年代にはこうしたスローガンのもと、全国各地に文化施設が建てられました。こうして、かつては大都市のみで享受できるもの、あるいは一部のエリート層のものと考えられていた芸術は、爆発的な勢いであらゆる社会階層に浸透し、同時に地域的な格差を減らして、いまや日本全体に普及しつつあるのです。

しかし、経済が右肩上がりの時代には「アートマネジメント」などという概念はそれほど必要視されませんでした。芸術の社会的位置を見直し、その「運営」などというものを考える必要が生じたのは、皮肉なことにバブル経済が破綻した後の不況の時代です。余剰な資金などどこにもないことが明白なった1990年代後半に、芸術を単なる贅沢品ではなく有効な社会資本として捉え直すことが急務となりました。つまり、文化的気運の高まりと経済的停滞の狭間で注目が高まったのがアートマネジメントだったのです。

こうした時代の希求に呼応して、各地で胎動しつつあるさまざまなアートマネジメントの試みに光を当てるべく始まったのが「トヨタ・アートマネジメント講座」（TAM）です。現在、全国で多彩に展開しつつあるアートマネジメントの動きには、官にも民にもきらりと光る人材や活動が数多く見られます。規模は小さくとも、そうした先駆的な活動に注目し、アートの現場の最新の動きを全国に伝えたい ―― そんな思いで走りつづけてきたTAMは、当初の予想をはるかに越えて8年の年月を重ねることとなりました。連鎖反応の如くあちこちで始まる面白そうな活動を追いつづけるうちに、TAMを通じて現場レベルのゆるやかなネットワークが生まれ、芸術ジャンルを超えた情報交換や事業交流が派生したことは、われわれの大きな励みとなりました。

この10年間、日本の数多くの大学にアートマネジメントの講座や学科が誕生しました。現場での実践に加え、科学的な研究や専門家育成の機関も充実しつつある昨今ですが、しかし、21世紀は市民社会の時代です。文化や芸術の問題も専門家のみに任せておくのではなく、市民も最新の動向や叡智を共有して、現場や研究者たちと芸術環境について考えていくべきだと思われます。その意味で、今日、各地で草の根的な議論の場が増えていることは、心強い限りです。TAMをきっかけに議論が始まり、活動にまで展開しているまちもありますが、今後もさまざまな形で議論の輪が拡がって、多くの人が社会と芸術の問題に想いをめぐらす機会をもってくださることを祈念しています。

熊倉純子（くまくら・すみこ）　東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科助教授
慶應義塾大学および大学院で美術史を専攻し、大学院在学中にフランスに留学。パリ大学で6年間、現代美術論を学ぶ。帰国後、1992年から2002年まで（社）企業メセナ協議会事務局に勤務。企業の芸術文化支援活動の促進に従事する傍ら、アウトリーチ（社会普及活動）や芸術NPO、アーティスト・イン・レジデンスなどの調査研究に携わる。2002年 4月より東京藝術大学に新設された音楽環境創造科で社会と芸術を結ぶ人材を養成する。

# トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）～主旨と開催方法

**[主旨と目的]**

・アートを社会につなぐべく日夜奮戦している各地のアートマネージャー達に、地域の人々とともに社会とアートの関係を考える機会を提供する。
・非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアートマネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが行政・文化機関・市民などさまざまなレベルで盛んになることを目的とする。
・今日における芸術と社会の関係に焦点をあて、同時代のアートをより地域社会に開かれたものにしていくための方途を皆で模索することを通じて、今後のより創造的なアート環境づくりに市民が積極的に参加し、官民共同の、アートマネジメントの輪が広がるよう、一粒の種を蒔く試みとする。

※ 2000 年度からは、種が芽を出した地域には、アートマネジメントが社会にしっかり根付いて枝葉を広げていくためのセカンドステップとして「チャレンジ編」を開催するチャンスが開かれた。

**[運営体制]**

TAM運営委員会
主　催　トヨタ自動車（株）広報部社会文化広報室
監　修　TAMディレクター
　　演劇：市村作知雄（東京国際芸術祭ディレクター）
　　美術：森　司（水戸芸術館現代美術センター学芸員）
　　音楽：西巻正史（[株]トッパンホール企画制作部長）
　　総合：熊倉純子（東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科助教授）
事務局　（社）企業メセナ協議会

**[開催方法]**

・演劇、美術、音楽、総合のいずれかのジャンルで実施。
・開催にあたっては、まずTAM運営委員会の監修ディレクターが、開催地と地域コーディネーター（実行委員会）を選定する。
・地域コーディネーターは、開催地域に則した独自のプログラムを組むべく、ディレクターとともにセッション（開催地で行う講座の総称）のコンセプトや方向性、具体的内容を企画立案する。ターゲットや会場、日程などの運営面においても、各地域のニーズや条件に照らしてもっとも有効な方法が優先される。
・開催予算の枠内であれば、ワークショップを加えるなど、プログラムは自由に構成できる。
・実際の制作作業（会場手配、講師依頼、告知・広報、参加申込受付など）はすべて地域コーディネーターの責任でおこなわれる。TAM運営委員会、担当ディレクターを中心に企画・運営・広報をサポート。主催であるトヨタ自動車はチラシ印刷や広報協力（開催地域のトヨタ販売会社の告知協力）など、開催費支援以外にも経営資源を生かして全面的にバックアップする。
・チャレンジ編では、講座に加え、地域でのアートマネジメントが実現するために、より実践的あるいは長期的なプロジェクトも試みることができる。

# 開催セッション一覧

**[1996年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 1 | 岡山 | 美術 - 1 | 1996年6 - 8月 | 「コミュニティ・コミュニケーション ― アートが演ずる交流と交通 ― 」 |
| Vol. 2 | 札幌 | 演劇 - 1 | 9月 | 「同時代の演劇と社会」 |
| Vol. 3 | 福岡 | 美術 - 2 | 10月 | 「アートのビッグ・チャレンジ ― アートは社会とともに始まる」 |
| Vol. 4 | 神戸 | 演劇 - 2 | 1997年3月 | 「神戸発　演劇の可能性」 |

**[1997年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 5 | 京都 | 美術 - 3 | 1997年6月 | 「アートを育てる／ハートを育てる」 |
| Vol. 6 | 松山 | 美術 - 4 | 7月 | 「アートワールド探検講座 ― アートの道も一歩から」 |
| Vol. 7 | 新潟 | 演劇 - 3 | 9月 | 「公立劇場の役割 ―‘ 公 ’(おおやけ) の意味を考える」 |
| Vol. 8 | 札幌 | 音楽 - 1 | 10月 | 「あなたも音楽マネジャー ― この街で音楽の明日を語りたい。」 |
| Vol. 9 | 仙台 | 美術 - 5 | 11月 | 「アートマネジメントの実験 ― まちがアートと出会うとき」 |
| Vol. 10 | 金沢 | 演劇 - 4 | 12月 | 「〈市民参加〉と〈公共性〉ってなぁに？」 |
| Vol. 11 | 盛岡 | 演劇 - 5 | 1998年1月 | 「地域文化と演劇～ことばの役割～」 |
| Vol. 12 | 福岡 | 音楽 - 2 | 2月 | 「音楽の明日をひらく」 |
| Vol. 13 | 高松 | 演劇 - 6 | 3月 | 「明日のアートを語る」 |

**[1998年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 14 | 東京 | 総合 - 1 | 1998年7月 | 「アートマネジメントの力」 |
| Vol. 15 | 新潟 | 音楽 - 3 | 9月 | 「きほんにもどって、オーケストラ」 |
| Vol. 16 | 横浜 | 演劇 - 7 | 9月 | 「コミュニティーアートとしての演劇 ― 横浜から新しい波は起こせるか」 |
| Vol. 17 | 北九州 | 演劇 - 8 | 10月 | 「芸術文化でまちを育てる」 |
| Vol. 18 | 千葉 | 美術 - 6 | 10月 | 「アートで人を育てよう!」 |
| Vol. 19 | 札幌 | 演劇 - 9 | 1999年1月 | 「まちにひろがるアート ― コミュニティシアターの可能性」 |
| Vol. 20 | 佐世保 | 音楽 - 4 | 2 - 3月 | 「音楽との新しい出会いをもとめて」 |
| Vol. 21 | 高知 | 美術 - 7 | 3月 | 「アートはつかれる？― 回路を開く ― 」 |

**[1999年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 22 | 沖縄 | 音楽 - 5 | 1999年5月 | 「おきなわとアートマネジメント ― 地域社会・アーティストをつなぐ輪を求めて」 |
| Vol. 23 | 岡山 | 演劇 -10 | 9月 | 「劇場 ― 演劇が生まれる場をつくる」 |
| Vol. 24 | 青森 | 美術 - 8 | 10月 | 「ミューズたちの新世紀 ― 新たな芸術環境を醸成するためのセッション」 |
| Vol. 25 | 松江 | 音楽 - 6 | 2000年2月 | 「“ 温故知新 ”～日本音楽ルネッサンス～」 |
| Vol. 26 | 栗東 | 演劇 -11 | 2月 | 「劇団が劇場をつくる ― 地域演劇の将来像 ― 」 |
| Vol. 27 | 神戸 | 美術 - 9 | 3月 | 「芸術の基礎体力 ― アートマネジメントのＡＢＣ」 |
| Vol. 28 | 釧路 | 演劇 -12 | 3月 | 「地域演劇が未来をきりひらく ― 21世紀にむけた地域演劇の可能性を探る」 |

**[2000年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 29 | 岡山 | チャレンジ編 - 1 | 2000年5 -11月 | 「アートマネジメント実践道場 」 |
| Vol. 30 | 名古屋 | 総合 - 2 | 9月 | 「アートマネジメントの魅力 ― これからの暮らしをアートで耕す ― 」 |
| Vol. 31 | 福岡 | チャレンジ編 - 2 | 9月 - 01年3月 | 「21世紀へのチャレンジ」 |
| Vol. 32 | 神戸 | チャレンジ編 - 3 | 9 - 10月 | 「演劇と社会の接点」 |
| Vol. 33 | 沖縄 | 演劇 -13 | 10月 | 「アートチャンプルマネジメント」 |
| Vol. 34 | 宇都宮 | 音楽 - 7 | 11月 | 「アートで開こう! 地域の未来 ～舞台と地域をつなぐアートマネジメント新世紀～」 |
| Vol. 35 | 大阪 | 美術 -10 | 2001年2月 | 「アートマネジメントに必要な発想の転換」 |

**[2001年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 36 | 福岡 | チャレンジ編 - 4 | 2001年7月 | 「冷泉藝館 ― 3 days アートセンター」 |
| Vol. 37 | 新潟 | チャレンジ編 - 5 | 7 - 8月 | 「翔ばたけ! ジュニアオーケストラ～ 子どものために、地域、企業、行政、そしてホールは何ができるか～」 |
| Vol. 38 | 帯広 | 美術 - 11 | 8 - 9月 | 「はじめてのアートマネジメント ―人が動く、地域が目覚める」 |
| Vol. 39 | 広島 | 音楽 - 8 | 10月 | 「コンサートって何？―クラシックの音楽会について徹底的に考える」 |
| Vol. 40 | 浪岡 | 演劇 - 14 | 11月 | 「映画祭メチエ ― 新しいアートマネジメントを目指して」 |
| Vol. 41 | 名古屋 | 総合 - 3 | 2002年1月 | 「アートで、つながる ― 芸術活動と地域社会を結ぶ橋渡し役・アートマネジメントの真相とは―」 |
| Vol. 42 | 盛岡 | チャレンジ編 - 6 | 3月 | 「市民参加から市民協働へ～アートの地産地消運動を～」 |

**[2002年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 43 | 名古屋 | 総合 - 4 | 2002年8月 - 9月 | 「アートマネジメントを動かす力 ― 求められる〈場・人・ネットワーク〉」 |
| Vol. 44 | 神戸 | チャレンジ編 - 7 | 10月 - 03年8月 | 「システムリサイクルプロジェクト 期間限定〈芸術環境整備事務所〉の設立と運営」 |
| Vol. 45 | 東京 | 総合 - 5 | 10月 | 「アートマネジメント教育 ― 現場が求める人材とは」 |
| Vol. 46 | 浜松 | 美術 - 12 | 11月 | 「アートマネジメント・こと・はじめ ― 地域にとって、美術は何ができるか ―」 |
| Vol. 47 | 小出郷 | 音楽 - 9 | 11 - 12月 | 「子どもはハタラけ、大人は学べ?!」 |
| Vol. 48 | 高知 | 演劇 - 15 | 2003年1月 | 「シネママネジメントの挑戦 ― 公共的な映画事業を立ち上げよう!」 |
| Vol. 49 | 横浜 | 音楽 - 10 | 3月 | 「もう一度! アートマネジメント」 |

**[2003年度]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Vol. 50 | 名古屋 | 総合 - 6 | 2003年10月 | 「これでいいのか? アートマネジメント!」 |
| Vol. 51 | 大阪 | 総合 - 7 | 2004 年1月 | 「まちとアートの練習問題 ― 芸術化する現場のフィールドワーク」 |
| Vol. 52 | 山口 | 総合 - 8 | 2月 | 「評価システムを評価する ― 21世紀型の公共文化施設をめざして ―」 |
| Vol. 53 | 東京 | 総合 - 9 | 3月 | 「続・これでいいのか? アートマネジメント! 次世代からのマニフェスト ― TAM スピーチ大会」 |

# ジャンル別開催セッション一覧

**[美 術]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1996年6‐8月 | Vol. 1 | 岡山 | 「コミュニティ・コミュニケーション ― アートが演ずる交流と交通 ―」 |
| 2 | 1996年10月 | Vol. 3 | 福岡 | 「アートのビッグ・チャレンジ ― アートは社会とともに始まる」 |
| 3 | 1997年6月 | Vol. 5 | 京都 | 「アートを育てる／ハートを育てる」 |
| 4 | 1997年7月 | Vol. 6 | 松山 | 「アートワールド探検講座 ― アートの道も一歩から」 |
| 5 | 1997年11月 | Vol. 9 | 仙台 | 「アートマネジメントの実験 ― まちがアートと出会うとき」 |
| 6 | 1998年10月 | Vol.18 | 千葉 | 「アートで人を育てよう!」 |
| 7 | 1999年3月 | Vol.21 | 高知 | 「アートはつかれる？― 回路を開く ―」 |
| 8 | 1999年10月 | Vol.24 | 青森 | 「ミューズたちの新世紀 ― 新たな芸術環境を醸成するためのセッション」 |
| 9 | 2000年3月 | Vol.27 | 神戸 | 「芸術の基礎体力 ― アートマネジメントのＡＢＣ」 |
| 10 | 2001年2月 | Vol.35 | 大阪 | 「アートマネジメントに必要な発想の転換」 |
| 11 | 2001年8‐9月 | Vol.38 | 帯広 | 「はじめてのアートマネジメント ―人が動く、地域が目覚める」 |
| 12 | 2002年11月 | Vol.46 | 浜松 | 「アートマネジメント・こと・はじめ ― 地域にとって、美術は何ができるか ―」 |

**[演 劇]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1996年9月 | Vol. 2 | 札幌 | 「同時代の演劇と社会」 |
| 2 | 1997年3月 | Vol. 4 | 神戸 | 「神戸発　演劇の可能性」 |
| 3 | 1997年9月 | Vol. 7 | 新潟 | 「公立劇場の役割 ―‘ 公 ’(おおやけ)の意味を考える」 |
| 4 | 1997年12月 | Vol.10 | 金沢 | 「〈市民参加〉と〈公共性〉ってなぁに？」 |
| 5 | 1998年1月 | Vol.11 | 盛岡 | 「地域文化と演劇～ことばの役割～」 |
| 6 | 1998年3月 | Vol.13 | 高松 | 「明日のアートを語る」 |
| 7 | 1998年9月 | Vol.16 | 横浜 | 「コミュニティーアートとしての演劇 ― 横浜から新しい波は起こせるか」 |
| 8 | 1998年10月 | Vol.17 | 北九州 | 「芸術文化でまちを育てる」 |
| 9 | 1999年1月 | Vol.19 | 札幌 | 「まちにひろがるアート ― コミュニティシアターの可能性」 |
| 10 | 1999年9月 | Vol.23 | 岡山 | 「劇場 ― 演劇が生まれる場をつくる」 |
| 11 | 2000年2月 | Vol.26 | 栗東 | 「劇団が劇場をつくる ― 地域演劇の将来像 ―」 |
| 12 | 2000年3月 | Vol.28 | 釧路 | 「地域演劇が未来をきりひらく ― 21世紀にむけた地域演劇の可能性を探る」 |
| 13 | 2000年10月 | Vol.33 | 沖縄 | 「アートチャンプルマネジメント」 |
| 14 | 2001年11月 | Vol.40 | 浪岡 | 「映画祭メチエ ― 新しいアートマネジメントを目指して」 |
| 15 | 2003年1月 | Vol.48 | 高知 | 「シネママネジメントの挑戦 ― 公共的な映画事業を立ち上げよう!」 |

**[音 楽]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1997年 10月 | Vol. 8 | 札幌 | 「あなたも音楽マネジャー ― この街で音楽の明日を語りたい。」 |
| 2 | 1998年 2月 | Vol.12 | 福岡 | 「音楽の明日をひらく」 |
| 3 | 1998年 9月 | Vol.15 | 新潟 | 「きほんにもどって、オーケストラ」 |
| 4 | 1999年2‐3月 | Vol.20 | 佐世保 | 「音楽との新しい出会いをもとめて」 |
| 5 | 1999年5月 | Vol.22 | 沖縄 | 「おきなわとアートマネジメント ― 地域社会・アーティストをつなぐ輪を求めて」 |
| 6 | 2000年2月 | Vol.25 | 松江 | 「“ 温故知新 ”～日本音楽ルネッサンス～」 |
| 7 | 2000年11月 | Vol.34 | 宇都宮 | 「アートで開こう! 地域の未来～舞台と地域をつなぐアートマネジメント新世紀～」 |
| 8 | 2001年10月 | Vol.39 | 広島 | 「コンサートって何？―クラシックの音楽会について徹底的に考える」 |
| 9 | 2002年11‐12月 | Vol.47 | 小出郷 | 「子どもはハタラけ、大人は学べ?!」 |
| 10 | 2003年3月 | Vol.49 | 横浜 | 「もう一度！ アートマネジメント」 |

**[総 合]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1998年7月 | Vol. 14 | 東京 | 「アートマネジメントの力」 |
| 2 | 2000年9月 | Vol. 30 | 名古屋 | 「アートマネジメントの魅力 ― これからの暮らしをアートで耕す ― 」 |
| 3 | 2002年1月 | Vol. 41 | 名古屋 | 「アートで、つながる ― 芸術活動と地域社会を結ぶ橋渡し役・アートマネジメントの真相とは ― 」 |
| 4 | 2002年8月-9月 | Vol. 43 | 名古屋 | 「アートマネジメントを動かす力 ― 求められる〈場・人・ネットワーク〉― 」 |
| 5 | 2002年10月 | Vol. 45 | 東京 | 「アートマネジメント教育 ― 現場が求める人材とは」 |
| 6 | 2003年10月 | Vol. 50 | 名古屋 | 「これでいいのか？ アートマネジメント!」 |
| 7 | 2004 年1月 | Vol. 51 | 大阪 | 「まちとアートの練習問題 ― 芸術化する現場のフィールドワーク」 |
| 8 | 2004 年2月 | Vol. 52 | 山口 | 「評価システムを評価する ― 21世紀型の公共文化施設をめざして ― 」 |
| 9 | 2004 年3月 | Vol. 53 | 東京 | 「続・これでいいのか? アートマネジメント!　次世代からのマニフェスト ― TAM スピーチ大会」 |

**[チャレンジ編]**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2000年5 - 11月 | Vol. 29 | 岡山 | 「アートマネジメント実践道場 」 |
| 2 | 2000年9月 - 01年3月 | Vol. 31 | 福岡 | 「21世紀へのチャレンジ」 |
| 3 | 2000年9 - 10月 | Vol. 32 | 神戸 | 「演劇と社会の接点」 |
| 4 | 2001年7月 | Vol. 36 | 福岡 | 「冷泉藝館 ― 3 days アートセンター」 |
| 5 | 2001年7 - 8月 | Vol. 37 | 新潟 | 「翔ばたけ! ジュニアオーケストラ～ 子どものために、地域、企業、行政、そしてホールは何ができるか～」 |
| 6 | 2002年3月 | Vol. 42 | 盛岡 | 「市民参加から市民協働へ～アートの地産地消運動を～」 |
| 7 | 2002年10月 - 03年8月 | Vol. 44 | 神戸 | 「システムリサイクルプロジェクト 期間限定〈芸術環境整備事務所〉の設立と運営」 |

## 1996年度

### トヨタ・アートマネジメント講座はじまる

岡山で産声をあげたTAM。「アートマネジメント」という言葉はどの町でもまだ耳慣れない時代でした。
消費者の多い大都市をモデルとした従来型のアートマネジメントの手法を全国に広めるのではなく、地域ごとに社会とアートの橋渡しを考えてもらおうという試行錯誤が始まります。
TAMはスタート当初から、東京で組んだパッケージ型の講座を各地に受け入れてもらうのではなく、開催地ごとに何が問題なのかを共に考えるオーダーメイド型の講座をめざしたのです。

Vol. 1　岡山　美術－1　1996年6－8月
「コミュニティ・コミュニケーション
―アートが演ずる交流と交通―」
Vol. 2　札幌　演劇－1　1996年9月
「同時代の演劇と社会」
Vol. 3　福岡　美術－2　1996年10月
「アートのビッグ・チャレンジ
―アートは社会とともに始まる」
Vol. 4　神戸　演劇－2　1997年3月
「神戸発　演劇の可能性」

Vol. 1　1996年6月-8月

## コミュニティ・コミュニケーション―アートが演ずる交流と交通―

岡山セッション　美術-1

岡山県立美術館学芸員　柳沢秀行

岡山でやる意味を問うた結果、何から何まで岡山を向いた「こてこて岡山セッション」をTAMの冒頭に置くことになった。

この街の規模なら、美術、音楽、演劇等の表現活動やマネジメントにかかわる人間が互いに顔を合わせる機会も多く、おのずとアートと社会にかかわる問題意識あるいは共通認識をかなりの部分で共有する人脈もできている。それゆえ、まずそのネットワークを広げる場として、そしてそんな意識や認識をさらに深める議論や、あるいは実践が発生してゆく起点として、TAMのプログラムを性格づけたほうがよいと判断したからこその「こてこて岡山セッション」となったのだ。

具体的には、議論のテーマを全て岡山での現実的な事象とし、パネリストもその当事者ばかりで、そこに外部の人間を1人加える構成とした。それゆえディスカッションよりも知識提供的な事例報告の比重が増したが、一方でアートに限定されず各事象にかかわるさまざまな人間がパネリストや聴衆として参加することとなった。特に毎回、行政の担当者を招きいれたことで、民間レベルで培われている人脈やノウハウを提示する場としてもTAMが機能し、さらには民間側の意思が行政を通じて自己実現する回路が開かれ始めたのは極めて効果的だった。こうした出会いの場として毎回終了後にセッティングされたパーティーもかなり機能したろう。それだけ金はかかったけれど。

さて、その後の具体的な展開を列記するにはとても紙数が足りない。TAMを起点としたアクション・プログラムは次々と相乗効果を呼び、密度濃く進行中であるとだけお伝えしておく。TAM岡山セッションは「岡山」の「明日」につながる種蒔きだった。芽を育てるのは岡山にいる僕らだが、時おりとびっきりの肥料や水をまた与えてほしい。　（98年7月）

Vol. 2　1996年9月

## 同時代の演劇と社会

札幌セッション　演劇-1

北海道演劇財団事務局長　平田修二

札幌の講座は、96年9月に、「同時代の演劇と社会」というテーマでおこなわれました。

96年は、北海道演劇財団が設立された年でした。また、95年の知事選公約で急浮上した北海道立劇場の基本計画が検討されていた年でもありました。そのような年に、トヨタ・アートマネジメント講座を札幌で開催したいというお話をTAM運営委員の市村さんからいただきました。

その時、「しめた、これを機会に断片的に語られてきた演劇のマネジメントに関する問題を系統的に整理してみよう」と思いました。ちょうどその1カ月後に、「文化の見えるまちづくり政策研究フォーラム」が札幌で開催され、全国の事例報告がたくさんある予定でしたので、こちらは理論的にいこうということになりました。そこで、視点を、演劇プロデューサー、アートマネージャーは今何を考えるべきか、の1点に絞ることを提案させていただきました。何度も市村さんと打ち合わせする中で、演劇に内在する問題、社会的存在としての演劇にテーマを設定することになりましたが、その過程で私自身が一番勉強になりました。

本番の講座は大変好評で、各界に大きな影響を与えました。北海道の補助金でその報告集が発行されましたが、2年経った今でも少しずつ売れていることからも、その好評さがうかがえます。　（98年7月）

報告集申込先：〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 幸ビル3F 北海道演劇財団 （頒価￥1000）

Vol. 3　1996年10月

## アートのビッグ・チャレンジ―アートは社会とともに始まる

福岡セッション　美術-2

福岡県立美術館学芸員　川浪千鶴

福岡セッションを96年秋に開催してから、「アートマネジメント講座以降は」とつい前置きして語り始めることが多くなった。本講座が与えた影響は、福岡という地域にとっても、福岡県立美術館という組織にとっても大きかったと感じているが、それはこういう前置きをする私個人に多分もっとも色濃く反映されているだろう。

「アートは社会とともに始まる」というタイトルのもと、芸術と社会の関係に関心をもつさまざまな人が集う場をつくり、これからのことを語り合うきっかけをつくる。3日間の集中セミナー形式で開催された講座の目的はこれに尽きている。

美術、音楽、演劇など、ジャンルは異なっても福岡の関係者はこれまでの枠組みや内輪の愚痴で終始することにそれぞれ限界を感じていたし、ネットワークの時代といっても一体どこから連携を始めていいやらという焦りも共通していた。では、愚痴を内輪ではなく公にしてみたらどうだろうか、個人個人の顔つなぎからネットワークを考えてみたらどうだろうか。切実な問題意識と素朴なアプローチが、福岡県内・九州はもとより全国各地からの参加者が100名をこえるという盛況につながったといえるかもしれない。

さて、現在私は企画展を準備しているところだが、本講座をきっかけに始まった交流から、調査、ウィークエンド・ギャラリー・イベントの開催、広報など、さまざまな面で新たな試みが進行中である。講座成果の一端としても、今秋の福岡のアート・シーンにご期待いただきたい。　（98年7月）

報告書申込先：〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1 福岡県立美術館学芸課　川浪
（郵送料￥340分の切手同封）

Vol. 4　1997年3月

## 神戸発　演劇の可能性

神戸セッション　演劇-2

神戸アートビレッジセンター　岡野亜紀子

神戸開催時の状況は、阪神・淡路大震災から2年余りが経過。被災地は生々しい傷痕を抱えたまま、周囲との温度差が日増しに激しくなり、焦りと不安が高まる中、また、個人的には、震災後にオープンした唯一の公共文化施設のスタッフとして、試行錯誤の1年をなんとか乗り切ろうとしていた春でした。

当時、神戸でアートマネジメントについて議論する場合、震災体験をぬきに考えることはできませんでした。というより、震災直後、アーティストはもとより、アートマネジメントにかかわるすべての人々が一様に感じた無力感を正しく検証しなければ、いくらすばらしい意見を述べ合ったところで机上の空論、虚しい美辞麗句に終わることは目に見えていました。

結局、悩みに悩んだ末、神戸のTAMは、震災体験というファクターを通して演劇の可能性を見直すことで、その普遍性を確信しようという構成にしました。結果、パネリストの人選は至難を極め、「震災ニツイテハ一言アリ!」という人が多い中、被害者意識の強い人は避けて、震災体験を通して、演劇人の視点で、冷静に、また真摯に意見を述べていただけそうな方々を選びました。

4日間の講座を終えてみれば、準備不足、気負いすぎ等々反省材料ばかりが思いあたり、参加者の方々に十分満足していただけたのか、いささか不安を感じています。また、取り上げたテーマの大きさから、今もってその問題と格闘する最中で、成果云々はまだまだ先の話になりそうです。ただし、講座のおかげで、ともに格闘する心強い仲間が増えたことは、大きな収穫として深く感謝をしています。　（98年7月）

報告集問合せ先：〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14 神戸アートビレッジセンター
Tel. 078-512-5353　Fax. 078-512-5356

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

# コミュニティ・コミュニケーション
## ーアートが演ずる交流と交通ー

第1回　人々のコミュニケーションにアートは有用か　岡山での3つの実例
6月30日(日)　於　まつもとコーポレーション　デヴィッド・ホール

小石原　剛（御野小学校PTA会長　現代美術作家）
しばたゆり（岡山市今　彫刻ストリート作品設置者　現代美術作家）
原田　博子（ベネッセコーポレーション　直島キッズ・アートランド展担当者）
村田　　真（美術ジャーナリスト）
柳沢　秀行（岡山県立美術館学芸員）

第2回　後楽園築庭300年に向けて　築庭の精神と空間造形の妙を街に
7月14日(日)　於　後楽園　鶴鳴館

赤木里香子（岡山大学教育学部助教授）
斎藤　忠一（作庭家）
高山　雅之（岡山県郷土文化財団常務理事）
山本　利幸（前・後楽園所長）

第3回　アートを主軸とした街づくり　その実例と可能性
8月4日(日)　於　岡山県立美術館ホール

北川フラム（アートフロントギャラリー代表）
長崎　卓　（岡山県土木部建築指導課長）
太田　隆信（坂倉建築設計事務所）
柳沢　秀行（岡山県立美術館学芸員）

第4回　インターネットと文化
8月25日(日)於　まつもとコーポレーション　デヴィッド・ホール

藤井　健　（岡山県企画部企画課長）
森　　司　（水戸芸術館学芸員）

**各回とも参加　　無　　料**

ただし第２回は後楽園入場料　350円が必要

**毎回午後２時開会　（開場は３０分前）**

☆事前の申し込みは不要ですが、入場者多数が見込まれますので、開場時間より先着順に定員分の整理券を配付いたします。定員はデヴィッド・ホール１２０名後楽園鶴鳴館、岡山県立美術館ホールは各２００名です。
満員の際は入場をお断りいたしますので、ご容赦ください。

主催　トヨタ自動車株式会社　アートマネジメント講座実行委員会岡山事務局
共催　岡山県　岡山市　岡山トヨタ販売店グループ
後援　岡山街づくり連絡協議会（UPCO）　まつもとコーポレーション　山陽新聞社
協力　社団法人企業メセナ協議会

# トヨタ・アートマネジメント講座
## コミュニティ・コミュニケーション　アートが演ずる交流と交通

岡山は、古くは雪舟、宮本武蔵、浦上玉堂、さらには国吉康雄、坂田一男などの美術家を輩出し、あるいは古代吉備勢力を伝える巨大古墳群、また岡山城、後楽園などの歴史的な史跡にも恵まれた土地柄です。

「コミュニティ・コミュニケーション　ーアートが演ずる交流と交通ー」では、本年度より各地で開催される「トヨタ・アートマネジメント講座」の一環として、こうした岡山ならではの環境を生かし、美術館やギャラリーのみならず、広く社会の中に置かれたアートという観点より、アートと社会の関わり、また社会活性化の手段の一つとしてのアートを考えてみます。

## 各　回　の　内　容

### 第１回　人々のコミュニケーションにアートは有用か　岡山での３つの実例

岡山市立御野小学校「アート・ワークみの」、岡山市今地区「今　彫刻ストリート」、直島コンテンポラリー・アート・ミュージアム「キッズ・アートランド」。各々の当事者をむかえ、従来の美術館やギャラリーの外側で行われた美術活動の在り方について、資金、人材の運用から、人々のコミニケーションの道具としての美術の存在について考える。

### 第２回　後楽園築庭３００年に向けて　ー築庭の精神と空間造形の妙を街にー

まもなく築庭３００年をむかえる後楽園をテーマに、その築庭の目的・機能についての歴史的過程を追いつつ、庭園や風景に美を認める感性がいかに育まれてきたか、また後楽園の景観に息づく美学を、現代の街づくりにどのように生かすことができるのかを検証する。

### 第３回　アートを主軸とした街づくり　その実例と可能性

建築物のみならず、道幅や区画割の選択にも、それを作った時代の意志や美学の表象を見てとれる。重層的な歴史の痕跡として存在する街に対して、アートはいかに関りをもち、自らと街との活性化を果たせるのか。大規模にアートを導入した街づくりとしてファーレ立川（東京）の実例を紹介しつつ、街とアートをめぐる景観、地域コミュニティとの関係などを検討する。

### 第４回　インターネットと文化

急速に発展するインターネットをテーマに、これからの社会や文化の在り方にインターネットはどのような影響を及ぼしうるのか。インターネットを利用した美術・文化情報の流通の実情、ヴァーチャルミュージアムなど、インターネットの特性を活かした表現活動について。

## 会　場　案　内

◎まつもとコーポレーション　デヴィッド・ホール　086-253-2111
JR岡山駅西口より徒歩１５分
JR岡山駅東口　岡電バス津高営業所行　清心町下車
乗用車利用の場合　国体町駐車場（有料）を利用下さい

◎岡　山　県　立　美　術　館　086-225-4800
JR岡山駅東口より徒歩１５分
市内電車東山行　城下下車　徒歩５分

◎後　楽　園　鶴　鳴　館　086-272-1148
JR岡山駅東口より徒歩２０分
市内電車東山行　城下下車　徒歩１０分

☆いずれの会場も駐車場の混雑が予想されます。
なるべく公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ
実行委員会事務局（柳沢）086-282-7572

トヨタ アートマネジメント講座

TOYOTA

# 演劇講座 同時代の演劇と社会

トヨタ・アートマネジメント講座は、芸術文化事業の企画・実施など、
アートマネジメントに携っている人、志す人を対象として、
今年度全国4ヵ所で開催されます。
札幌では演劇を中心に4回シリーズで、
アートの社会的位置付け、現在の問題点、その解決に通じる考え方、
地域の事例等実際に即した講座内容を用意しました。

● 主　催 ●

トヨタ自動車株式会社／北海道演劇財団

● 共　催 ●

北海道トヨタ販売店グループ

● 後　援 ●

北海道／札幌市／財団法人札幌国際プラザ

● 協　力 ●

社団法人企業メセナ協議会

● 企　画 ●

アートマネジメント講座実行委員会

■お申込み・お問合せ

北海道演劇財団

〒060 札幌市中央区北1条西3丁目 幸ビル3F　TEL.011-281-0775　FAX.221-6260

# 演劇講座

# 同時代の演劇と社会

演劇を、現在に生きる我々自身の目でとらえ、社会との接点を形成することをテーマに講座を実施します。講師には、演劇の歴史的なとらえかたではなく、現在の問題意識にしぼって問題提起をしていただきます。
演劇を素材にしますが、芸術文化全般の問題を念頭において内容を組み立てますので、幅広いジャンルの方々の参加をお待ちしています。

●会場：札幌国際プラザ・コンベンションホール　札幌市中央区北1条西3丁目 MNビル5階

●定員：70名　●資料実費：2,000円（4回通し）

## 総論：演劇の必要性・演劇が抱える問題

**第1回** 9月6日(金) 18:45〜21:00

講　師／平田オリザ（青年団主宰・劇作家・演出家）
コメンテイター／市村作知雄（山海塾事務局長・APA代表）
司　会／平田　修二（北海道演劇財団事務局長）

生きていく上での演劇の価値について演出家の平田オリザ氏に語っていただき、続いて第2回以降で討議する演劇の直面する諸問題を全般的に洗い出します。

## 同時代の演劇・演劇の課題

**第2回** 9月13日(金) 18:45〜21:00

講　師／扇田　昭彦（演劇評論家）
コメンテイター／斉藤　歩（TPS契約アーティスト・AGS所属俳優）
司　会／市村作知雄（山海塾事務局長・APA代表）

朝日新聞で長年にわたり演劇を擁護する記事を書き続けておられる扇田昭彦氏を迎え記事とは違った観点から演劇の現在の到達点について語っていただきます。
また札幌在住の演劇人斉藤歩氏にコメンテイターとして参加していただきます。

## 演劇の社会性・演劇を支える構造

**第3回** 9月20日(金) 18:45〜21:00

講　師／伊藤　裕夫（㈱電通総研チーフプロデューサー）
コメンテイター／柴田　英杞（㈱ダブルフェイス代表・TPSプロデューサー）
司　会／熊倉　純子（㈶企業メセナ協議会プログラムディレクター）

演劇を社会的に支えるための考え方や方法について伊藤裕夫氏の基調講演、続いて企業メセナ協議会の熊倉氏を迎えてディスカッションを行います。

## 地方からの発信の方法〜北海道の先進プロジェクトの価値と課題〜

**第4回** 9月25日(水) 18:45〜21:00

講　師／衛　紀生（演劇評論家）
コメンテイター／伏島　信治（㈱たくぎん総研主任研究員）
司　会／市村作知雄（山海塾事務局長・APA代表）

地域での演劇活動をテーマに活躍されている衛紀生氏をナビゲーターに、実際に進められている北海道でのプロジェクトを検証しながら、その意義と評価を行う計画です。コメンテイターとして、道内各地の文化政策の策定などに携わっておられるたくぎん総研の伏島信治氏をお迎えします。

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

集中レクチャー●アートのビッグ・チャレンジ

# アートは社会とともに始まる

アート
はアーテ
ィストだけが
つくるものではな
いこと、つまり鑑賞者
がいなくてははじまらない
ことが理解されるようになって
きました。そしていま、アートと鑑賞
者のあいだをつなぎ、アートを通じて地
域社会を活性化させる役割の重要性が注
目されはじめています。トヨタ・アートマネジメント
講座は、こうした文化のつなぎ手、アートマネージャ
ーの育成のために企画されました。テーマは「アートの
ビッグ・チャレンジ」。アートマネジメントの現場から第一線の
担当者を招き、それぞれのビッグ・チャレンジについて語っていた
だきます。出会いと交流の場をつくり、そこからまたひとつ新たなネット
ワークを生み出すこと。これが福岡セッションのビッグ・チャレンジです。

**1996年10月17日(木)——19日(土)**

レクチャー+ワークショップ+公開シンポジウム
受講料5000円、募集定員50名

■主催:トヨタ自動車株式会社、アートマネジメント講座実行委員会福岡事務局 ■共催:福岡県立美術館、福岡県トヨタ販売店グループ ■後援:福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡県博物館協議会、第8回全国生涯学習フェスティバル実行委員会、財団法人アクロス福岡、西日本新聞社 ■協力:社団法人企業メセナ協議会、ミュージアム・シティ・プロジェクト、日本音楽家ユニオン九州地方本部、美術館準備室ネットワーク

## Lecture 集中レクチャー

**17日[木]** 受付18:00－ 18:30 アクロス福岡 607会議室 20:30

### 1 地域本位のこころみのなかで ― 社会が輝きだす

社会の土壌を耕し、文化の種をまき、そしてその種を芽ぶかせ年を追うごとに豊かに実らせる人を育てたい。開拓の前線で常にパワフルな活動を続けている小暮さんに、「地域創造」での事例などをもとに、まずアートマネジメントの理念について熱く語っていただきます。

小暮宣雄（財団法人市町村国際文化研修所参与兼教授）／聞き手：森 司（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

**18日[金]** 10:00 アクロス福岡 607会議室 12:00

### 2 美術館の未来とは？ ― 社会とつながる

各県1美術館時代といわれて久しい今、改めて美術館とは何か問うてみましょう。美術館が地域において今後どのような役割を担うことができるのか、その過去と現在をふまえながら、3つの現場から来たるべき未来像を鼎談形式で探ります。

後小路雅弘（福岡市美術館学芸員、アジア美術館開設担当）／後藤耕二（福岡県立美術館学芸課長）／森 司

14:00 アクロス福岡 607会議室 16:30

### 3 サポーターの育て方 ― 社会をつないでいく

サッカーでサポーターが大切なように、美術にもサポーターの存在は欠かせません。的確な目、鋭い洞察力、豊かな感受性をもったサポーターの育成、指導に活躍している福さんに、最前線のニューヨークからエキサイティングなレポートをお願いします。

福のり子（グッゲンハイム美術館非常勤講師、インディペンダント・キューレイター）／聞き手：後小路雅弘

**19日[土]** 10:00 アクロス福岡 練習室1 及び天神界隈 12:00

### 4 自分の眼と言葉で ― 社会を明らかにする

レクチャー3で示された方法論をもとに、外にでて「ミュージアム・シティ・天神」の展示作品などを実際に自分の眼で見、自分の言葉で表現し、まわりに伝えてみましょう。眼からうろこが落ちるような体験が待っているかもしれません。

コメンテーター：福のり子

## Workshop ワークショップ「アート・ピクニック」

受付13:30－ 14:00 福岡ボート場内 16:00

### 5 ワークショップで深呼吸

同時期に体験型セミナー「アート・ピクニック」が開催されます。アーティストや子どもたちと一緒に表現が生まれる現場に参加してみませんか？ 日本音楽家ユニオンの協力を得て、音が音楽になっていくプロセスを体感するワークショップなどを予定しています。身も心も軽装でお越しください。

●アート・ピクニックは参加無料です。
詳細については、ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局 092-521-6772にお問い合わせください。

## Symposium 公開シンポジウム

（受講者以外の方も無料で参加できます。事前申し込みは不要ですが、満員の際は入場をお断りする場合もあります）

開場18:00－ 18:30 あいれふ講堂（10階） 21:00

### 6 企業メセナの本音 ― アートは社会とともに始まる

締めくくりに講座のメインテーマを掲げて、円卓会議を行います。ミュージアム・シティ・天神など全国のアート・プロジェクトを事例に、支援する側の活動に詳しい4人のパネラーに、文化支援を行う企業の価値観をめぐって本音の討議を展開していただきます。

加藤種男（アサヒビール株式会社企業文化部）
福のり子／佐々木喜美代（ミュージアム・シティ・プロジェクト実行副委員長）／司会：熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター）

アクロス福岡
福岡市中央区天神1-1-1／tel: 092-725-9111
福岡ボート
福岡市中央区那ノ津1-6-1（アート・ピクニックについては092-521-6772まで）
あいれふ
福岡市中央区舞鶴2-5-1　健康づくりセンター／tel: 092-751-7778

■受講申込方法

以下の4項目を明記のうえ、9月25日必着で福岡県立美術館 アートマネジメント講座係（福岡市中央区天神5-2-1 〒810 fax 092-715-3552）まで郵送もしくは fax でお申込みください。（電話での申込は不可）
希望者多数の場合は選考を行い、結果は10月の1週目に送付いたします。

1. 氏名
2. 職業：所属、部署
3. 連絡先：住所、tel、fax、e-mail address
4. 受講を希望する動機（企画、広報、教育・普及などアートマネジメントの業務に現在携わっている方は、担当している仕事内容についてもお書き添えください）

■受講料5,000円は初日会場受付で徴収いたします。
■10月18日(金)19:00から懇親会を予定しています。（別途会費が必要です）
■上記プログラムは、都合により変更になる場合もあります。

■問い合わせ先

福岡県立美術館 普及課 ／福岡市中央区天神5-2-1 〒810
tel: 092-715-3551／fax: 092-715-3552
担当者：川浪千鶴

Design：Hisayasu Ihara

# 神戸発 演劇の可能性

**現在の私たちの生活は、押し寄せる情報の津波に、画一化し、**
**価値観の格差は認められません!**
**私たちの感性は磨耗し、個人は集団に埋没するいっぽうです!**

一昨年の阪神大震災は、その地域にほむ人々のあらゆるものを破壊し、後には、悲しみと憤りと虚しさだけを残しました。
しかし、あの震災に唯一の救いを見いだすとすれば、破壊は大切なものと同時に私たちの生活の負の部分=画一化、均一化していく没個性の集団=にも及んだことでしょう。
震災の記憶は風化しても、あの時、多くの人々が無意識に感じた"生きていくうえで最も大切なこと"そして"人間の抱える普遍的な課題"は決して忘れ去ってはなりません。
現在、日本各地でアーティスティックな活動が見直されています。
それは、アーティスティックな行為こそが唯一、埋没してゆく個性や軽んじられる人間性に歯止めをかけるパワーがあり、救いのエネルギーを持っているからです。
この春 神戸でも、アート=演劇という視点から、私たちの生活にとって何が大切なのか、普遍的な課題とは何なのかを改めて検証し、演劇の持つエネルギーと可能性をさぐってみたいと思います。
ご期待ください!

**3/22土・23日**
**29土・30日**

受講料/2000円(4回通)　募集定員/50名
神戸アートビレッジセンター　リハーサル室2

■主催:トヨタ自動車株式会社
　　神戸アートビレッジセンター
■共　催:兵庫県トヨタ販売店グループ
■後　援:兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、神戸新聞社
■協　力:社団法人企業メセナ協議会

FROM KOBE

トヨタ アートマネジメント講座

# 神戸発　演劇の可能性

## 地域社会の中の演劇

**3/22日土**

■受付開始18:30〜
19:00〜21:00

現在、日本全国に充実した公共文化施設が建設され、東京一極集中であったアートへの取り組みが地域に分散し、日本のあちらこちらで魅力的な活動が報告されています。
この回では、今最も注目を集める公共文化施設の関係者にお集まり頂き現状報告とともに、各々の抱える問題点、また、今後の展開、全国的なネットワークの確立、そして何より、地域社会の中でアート=演劇の果たす役割を話し合っていきます。

司会　津村卓
（(財)地域創造チーフディレクター、伊丹アイホールプロデューサー）

パネラー　佐藤信（劇作家・演出家　世田谷パブリックシアター ディレクター）
坂田裕一（盛岡劇場事業係長）
荻野伸明（兵庫県立青少年創造劇場次長）

## 神戸演劇事情　大震災は演劇にどんな影響をもたらしたか　PART1

**23日日**

■受付開始13:30〜
14:00〜16:00

阪神大震災の記憶は徐々に風化しています。しかし被災地のかかえる問題は日増しに深刻になっています。
この回では、震災が演劇に与えた影響を検証するとともに、表現という域に止まらず、演劇の力や可能性を見いだし、心のケアやコミュニティづくりに取り組む「神戸シアターワークス」の活動をご紹介します。

基調講演「大震災がうみだしたもの」　志賀紀生（演劇評論家、神戸シアターワークス代表）

司会　志賀紀生

パネラー　加藤種男（アサヒビール株式会社企業文化部次長）
羽下大信（サイコセラピスト、カウンセラーズネット・神戸）
有光るみ（ボランティア団体PROJECT1-2代表）

## 神戸演劇事情　大震災は演劇にどんな影響をもたらしたか　PART2

**29日土**

■受付開始18:30〜
19:00〜21:00

前回の続編として、この回では、震災が演劇に与えた影響を劇作家・演出家の立場から、その作品や活動を例にあげて検証していきます。
今後の演劇の方向性、可能性をさぐります。

司会　九鬼葉子（演劇評論家）

パネラー　梶武史（劇団四紀会）
北村想（プロジェクト・ナビ）
内藤裕敬（南河内万歳一座）
深津篤史（桃園会）

## 神戸からはじまる演劇　過去・現在・未来

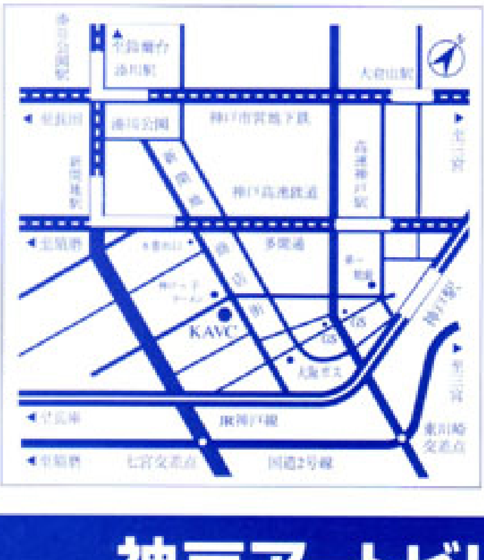
**30日日**

■受付開始13:30〜
14:00〜16:00

震災を経験した神戸の動向は、今後の日本、ひいては世界の動向をも示唆するものです。この回では、地元神戸で演劇に係わる人々が立場や世代を越えて、神戸の演劇の未来を展望します。
"神戸からはじまる演劇"が、今後の演劇の流れの中でエポックメーキングな役割を果たすことを願って。

司会　河内厚郎
（演劇評論家・文化プロデューサー）

パネラー　平田謙（神戸をほんまの文化都市にする会代表）
米川睦子（兵庫県子ども劇場おやこ劇場協議会事務局長）
長沼隆之（神戸新聞社文化部）
ウォーリー木下（劇団☆世界一団）
吉村シュークリーム（劇団赤鬼）




### ■受講申込方法

以下の5項目を明記のうえ、3月10日必着で神戸アートビレッジセンター　アートマネジメント講座係（神戸市兵庫区新開地5−3−14　〒652　fax:078−512−5356）まで郵送もしくはfaxでお申込みください。（電話での申込は不可）
希望者多数の場合は抽選を行い、結果は3月11日〜16日の間に送付致します。

1. 氏名
2. 職業：所属、部署
3. 連絡先：住所、tel、fax
4. 受講を希望する動機（企画、広報、教育・普及などアートマネジメントの業務に現在携わっている方は、担当している仕事内容についてもお書き添えください）
5. 受講料2,000円は初日会場受付で申し受けます。

### ■お問い合わせ先


**神戸アートビレッジセンター〈KAVC〉**
神戸市兵庫区新開地5−3−14　〒652　tel:078−512−5500／fax:078−512−5356
担当者：岡野亜紀子


**神戸アートビレッジセンター〈KAVC〉**

# 1997年度

## 音楽セッションが加わる

**演劇と美術の2ジャンルでスタートしたTAMに音楽が加わります。**
**各地で「アートマネジメント」という言葉に対するさまざまな解釈が噴出し、収益第一なのかそれともノン・プロフィットなのか、主役は公立文化施設なのかそれとも「市民」なのか、「アーティスト」と「まちづくり」双方の思惑が一致することなどありうるのか —— さまざまな観点から問題提起がおこなわれました。アートマネジメントの幅の広さ、奥の深さが提示されたTAM開始2年目の年は、開催地も一気に9都市に拡がりました。**

Vol. 5　京都　美術－3　1997年6月
「アートを育てる／ハートを育てる」
Vol. 6　松山　美術－4　1997年7月
「アートワールド探検講座 — アートの道も一歩から」
Vol. 7　新潟　演劇－3　1997年9月
「公立劇場の役割 — '公'（おおやけ）の意味を考える」
Vol. 8　札幌　音楽－1　1997年10月
「あなたも音楽マネジャー
— この街で音楽の明日を語りたい。」
Vol. 9　仙台　美術－5　1997年11月
「アートマネジメントの実験 — まちがアートと出会うとき」
Vol. 10　金沢　演劇－4　1997年12月
「〈市民参加〉と〈公共性〉ってなぁに？」
Vol. 11　盛岡　演劇－5　1998年1月
「地域文化と演劇～ことばの役割～」
Vol. 12　福岡　音楽－2　1998年2月
「音楽の明日をひらく」
Vol. 13　高松　演劇－6　1998年3月
「明日のアートを語る」

Vol. 5　1997年6月

## アートを育てる／ハートを育てる

京都セッション　美術-3

京都市美術館学芸員　中谷至宏

本講座のコーディネーターをお引き受けするにあたり、正直なところ私の中にアートマネジメントという言葉への抵抗感があった。経済というにはあまりにパイの小さな予算の中での小さなやりくりをしている者にとって、マネジメントというかっこいい言葉はなじみにくく、逆に汗の匂いの希薄な言葉に響いていた。

講座は美術館のマネジメントに終始する結果となり、ノウ・ハウの提供やアートマネジメント全般での議論の欠如に物足りなさを感じた参加者の声も聞かれた。ただ、日本という国の中でアートを支え広めるにあたって障害となることがらは、美術館しかも公立の美術館における問題にかなり集約されるに違いないと考えている。また基本理念を中心とした議論も、「マネジメント」に対して個々の参加者が抱くイメージの多様さ、問題意識の差異をあらわにしたが、そのことが逆に本セッションの意義ともなったと思われる。

小さなやりくりとアートマネジメントの基本理念との落差、つまりは私自身の抵抗感を本セッションを通して示し、同時に解消させたいというひそかな目論見が功を奏したかどうかは計りかねるところである。だが理念の実践のための必要性と、意義ある汗のための方向を参加者、パネリストを問わず共有できたことは、それぞれの荒れ地を耕す糧となったと信じたい。　（98年7月）

Vol. 6　1997年7月

## アートワールド探検講座―アートの道も一歩から

松山セッション　美術-4

（財）乗松巌記念館エスパス21ディレクター　福西哲唯

4つのパネルディスカッションと2つのセミナーで構成された3日間のセッションに先立って、約1カ月にわたり断続的に実施された2つのワークショップが松山セッションを特徴づけている。地元アートマネージャーの掘り起こしとジャンルをこえたネットワークづくりという当地セッションの目的を達成するため、準備期間そのものを人材獲得のプロセスとして位置づけることとし、「仕掛け」としてのワークショップを、時間をかけ、高い密度で実施することにした。美術関連のセッションであるにもかかわらず映画のワークショップ（8ミリ映画制作）を盛りこんだのも、それまでのセッションではテーマとなることのなかった映画に焦点をあてると同時に、地元の自主上映団体の意欲的で組織的な活動を巻きこむためでもあった。また、ワークショップを通してボランティアとしても育った参加者が、事務局と連携してセッション本体を支える裏方のみならず、パネリストとして発言したのも当地セッションならではのことだといえる。

現在、実行委員会のコアメンバー、ワークショップ参加者、ダンスカンパニー主催者、メディア関係者など20名による、月に1度の情報交換と交流を目的に集まる会（ミーツアートの会）ができ、すでに5回の集まりをもっている。ダンスのプロモーションビデオをメンバーの協力（映像、音楽、その他）で制作するプランも具体化しようとしており、活動は積極的。ちなみに「良質の仕掛け人は良質のアソビ人である」がこの会のテーゼである。

（98年7月）

Vol. 7　1997年9月

## 公立劇場の役割―‘公’（おおやけ）の意味を考える

新潟セッション　演劇-3

（財）新潟市芸術文化振興財団　稲葉麻里子

新潟では、97年9月に「公の意味を考える」というタイトルで、演劇セッションを開催しました。演劇制作、劇場運営、アートマネジメントの研究などの第一線で活躍する講師をお招きし、70名の参加者がありました。今秋オープンする大規模な複合文化施設、新潟市民芸術文化会館の運営についても活発に話し合われ、市民の関心の高さが反映されました。

新潟は、市民芸術文化会館の建設と並行して、N-PAC（劇場芸術講座）が開催されたり、プレイベントの公演や市民参加のワークショップが頻繁におこなわれたり、市民の文化活動がさかんな所です。現場をよく知る講師を揃えたせいか、トヨタ・アートマネジメント講座の評判は上々で、新潟日報や地元の雑誌にも関連記事が掲載されました。

再び9月には音楽セッションを開催させていただきますが、今度は「オーケストラ」にテーマを絞り、根本的なその存在意義について話し合いたいと思います。芸術運営について考える貴重な機会を与えられて、大変感謝しています。

（98年7月）

Vol. 8　1997年10月

## あなたも音楽マネジャー―この街で音楽の明日を語りたい。

札幌セッション　音楽-1

パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会　吉田雅文

TAMをおこなうにあたり、「全体プログラムをどのようにするか」「参加者をいかに集めるのか」が大きな問題でした。

1点目は、内部で話し合い、自分たちが知りたい「クラシック音楽は儲かるか」と「ネットワークの必要性」を中心としました。特に前者はタイトルとしては直接的で露骨すぎないかなと心配しましたが、講師の中藤先生から「面白いですね」といっていただき、問題なく運びました。次にPRですが、パンフレットをトヨタ自動車関係、道内自治体および音楽祭を運営している人たち、PMFボランティアなどに送付しましたが、音楽マネージャー向けの講座のため参加者が集まるか気がかりでした。案の定、あまり集まりません。そこで、地元新聞に掲載していただいたところ、フリーターや主婦、定年後の方、お医者さん等一般の方が20人も集まりました。その動機は「将来音楽関係の仕事がしたい」「聴衆でなく音楽関係者の考え方を知りたかった」「小コンサートをお手伝いしているので」などさまざま。一般の方も興味があるものだと感心するのとともに講座として何とかかたちになったとほっとしました。

今年、ホールがオープンする北広島市と斜里町からの参加者は今後の事業計画の参考にと、また、PMFボランティアには、この講座が縁でひとりの男性が加わり、活躍しており、種々、TAMの波紋は広がっています。

（98年7月）

Vol. 9　1997年11月

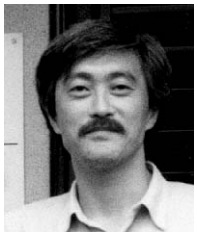
## アートマネジメントの実験―まちがアートと出会うとき

仙台セッション　美術-5

宮城教育大学助教授　新田秀樹

仙台は、美術の分野に限ってみれば「発信」が得意な街ではない。はじめは実行委員会でも仙台近辺で美術系の「アートマネジメント」へのニーズが一体どれくらいあるものなのかつかみきれなかったのだが、ふたを開けてみると60名をこえる応募者があった。こうした企画に期待感をもつ一定の層があることがわかっただけでも講座のひとつの成果といえるだろう。プログラムには仙台ではあまり知られていない他県のアートプロジェクトや「光州ビエンナーレ」のような国際的事例を数多く取り入れたこともあってかおおむね好評で、このような企画があればまた受講したいという希望が多かった。TAM自体が一過性のイベントで終わってしまうのでは惜しい気がする。こうした関心を将来にどうつないでいけるかが今後の課題だろう。

美術館などの組織によらずにまったくの個人の集まりで実施したこの講座は、その運営自体が「アートマネジメントの実験」だった。できれば「芸術文化関連のNPOのつくり方」をメインテーマとしたかったのだが、準備不足もあって、個別のノウハウ紹介と組織論の中間あたりにとどまったといえるかもしれない。これからはTAMのような啓蒙的なアートプロジェクトの実施母体ともなりうる恒常的な非営利組織が地域にできればいいと思う。ようやくNPO法も実現した。この講座が刺激となって、「受講者」から「実行者」に立場を変えて、積極的に他地域とネットワークづくりをしながら、仙台の文化環境をつくっていくことに興味をもつ人たちが増えてくることを期待したい。　（98年7月）



Vol. 10　1997年12月

## 〈市民参加〉と〈公共性〉ってなぁに？

金沢セッション　演劇-4

金沢市民芸術村・ドラマ工房ディレクター　青海康男

96年10月にオープンした金沢市民芸術村は365日24時間低料金で使用できる練習施設として、市民の大きな注目の中スタートした。特に市民による自主運営、ディレクター制度は、利用者の市民参加意識を高めている。がしかし、この施設の文化ボランティア活動の大きな期待とその課題は、日増しに具体的になりつつあった。

98年12月、4日間にわたる金沢セッションは、こうした現場と、それを取り囲む演劇人の意識や、新しい制作の概念へと視野を拡大し、これからの課題としてこの施設に求められるもの、さらには舞台芸術を発信する市民参加型公共施設の未来の姿を提示しようというストーリーで展開された。

遠く県外から、施設見学も含め参加された方も多く、演劇のためのドラマ工房であるにもかかわらず、受益者として居直る地元演劇人に対し、時には市民から批判の声も出るほど、最終日にはその抱えている課題の大きさと深さが赤裸々となるセッションとなった。

終了後、番外編開催の声も多くあり、こうして新しい制作の概念を具体的、実践的に学習する場へと、この講座はその後発展することになった。今年度6講座おこなわれる「アート・マネジメント・セミナー」の開催は、私たちにとって、2000年ドラマ工房発信の制作公演のインターンシップとしての一歩となるだろう。　（98年7月）

Vol. 11　1998年1月

## 地域文化と演劇〜ことばの役割〜

盛岡セッション　演劇-5

盛岡市産業部商業観光課　坂田裕一

盛岡セッションでは、地域演劇のあり方について、「場」「人」「芸能」「ことば」の4つの方向から論議を展開させた。

盛岡は、盛岡劇場の誕生をひとつの契機として、演劇活動が大変活発になってきている。
また、演劇をめぐる環境も比較的整備されている都市である。その核となっている盛岡劇場が進めている「演劇の広場づくり事業」は、市民生活の中に演劇を浸透させ、市民誰もが「演劇という広場」に集えるような市民社会をつくろう、というもので、演劇ワークショップ、市民参加劇、「八時の芝居小屋」、演劇批評紙の発行、文士劇、市民参加の演劇賞、演劇ボランティアなどさまざまな活動を展開させている。確実に演劇層は広くなり、市民も「盛岡は演劇の街」と呼ばれることへの期待感を高めている。

しかし、その中で生み出される作品の質の高さとオリジナリティ、活動の核となるべき人材の層、地域の表現との関係、経済的基盤等は、必ずしも満足するべき程度まで達しているとはいい難い。演劇が地域の中で、地域で欠かすことのできない表現として育つために、克服すべき課題は少なくない。

盛岡セッションでの成果は、この課題を整理するという点において、「場と人と責任の関係」「生活と演劇と言葉の関係」など各パネリストがかなり核心をついて発言されたことだ。地域では今後、こうした課題を克服するためのプログラムを論議していかなければならない。そのためにもこうした機会が数多く企画されることが望まれる。

（98年7月）

Vol. 12　1998年2月

## 音楽の明日をひらく

福岡セッション　音楽-2

ジェイエムシー音楽研究所所長　大畑恵三

TAM'98福岡（音楽編）開催にあたり実行委員のメンバーで話し合ったことは、一過性のシンポジウムに終わらせることなく、議論を深め将来につなげる講座にしたい……ということだった。われわれは「音楽との出会いを楽しくする会」実行委員会を結成して、音楽普及プログラムの実験コンサートやアンケート調査等3つの事業を実施した。その結果について、事例報告とともに講座の討論資料として提供することを考えたのである。3人の実行委員で2つの実行委員会を運営するのは容易なことではなかったが、結果としてはまずまずの成果を得られたのではないかと思っている。

音楽をとりまくアートマネジメントの領域は大きく3つに分けられるのではないだろうか。音楽愛好家やアマチュア音楽家、公的立場（教師・役所・公共施設担当者）から芸術の普及に携わる者、プロフェッショナルな芸術家（団体）やプロデューサーなど、それぞれの領域が抱える問題を同一に語ることはできない。アートマネジメントの技法が整理確立されていない現在、3つの領域それぞれの問題を掘り起こし、解決策の検討や試行錯誤が繰り返される中から、「アートマネジメントの技法」ともいえる共通の理論と技法が浮かび上がってくるのではないかと思う。実行委員会では7月11日にTAM'98福岡の同窓会を開催、それぞれの領域が抱える問題の掘り起こしを試みた。

（98年7月）

Vol. 13　1998年3月

# 明日のアートを語る

高松セッション　演劇-6

香川県商工労働部企業振興課　出口マミ

まず、この講座を高松で開くにいたった経緯からお話ししましょう。私は当時県民ホールの事業担当で、TAMのディレクターの市村さんから「こんな話があるぞ」と紹介してもらったのが始まりでした。企業メセナ協議会の熊倉さんの話を聞くにおよんでは、「これは絶対にやらねば」と決意したのですが、ホールの事業として、上司が認めず、どうしてもあきらめられない私は、市村さんの「やりたい奴でやったらいいじゃん」という言葉にすがり、「えい!」とやってしまったわけです。

実は高松（香川）では、県のホールでさえ舞台芸術の専門的なポストがなく、長いスパンで、そして広い視野をもって見渡す機関や人がいないということがとても不満でした。また県内の文化団体が意外とお互いの交流がないことを残念に思っていました。そういったことがこのTAM高松セッションを契機に動き出せばいいな、と思って取り組んだのです。

市村さんの紹介だったので演劇セッションでしたが、私がまったく演劇に疎く、皆様に迷惑をかけながらの準備でした。しかしジャンルをこえて県内のさまざまな方が参加して下さり、また県外からも大変熱心な方々にお集まりいただいて有意義な講座とすることができました。私個人としても、いろいろな方とお知り合いになることができ、アートに関するさまざまな意見をうかがうことができて実り多い仕事となりました。

ただ、これで答えが出るというものではないと思います。これを契機に、さまざまな試みが生まれることが大切だと思っています。今年からは県も県内のホール施設を中心にアートマネジメント講座を開催する予定ですし、どんどんこの輪が広がればいいと思っています。（98年7月）

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

連続トークセッション

# アートを育てる／ハートを育てる

アートを育み、拡げるため、作り手と受けてのつなぎ手、つまりアート・マネジャーの果たす役割がますます重要となってきています。トヨタ・アートマネジメント講座は、アートを通して地域を活性化する優れたアート・マネジャーを育成するために企画されました。つなぎ手として動きはじめるためには、アートを育てる強くしなやかなハートが求められます。京都プログラムのテーマは「アートを育てる／ハートを育てる」。さまざまなアート・マネジメントの現場から、具体的でハートのこもった議論を交わします。明日に向けてアートを育てるアート・マネジメントの可能性を切り拓くため、共にハートを育みたいと思います。

**1997年6月6日(金)～8日(日)**

**会 場：京都市美術館講演室(6日のみ)**
**みやこめっせ(京都市勧業館) B1大会議室**

トークセッション+公開シンポジウム 受講料3,000円 募集定員80名
(受講者以外の方もシンポジウムには無料で参加できます)

主催：トヨタ自動車株式会社
アートマネジメント講座実行委員会京都事務局

共催：京都市美術館、京都府トヨタ販売店グループ

後援：京都府、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都新聞社(予定)

協力：社団法人企業メセナ協議会、(財)重本恒喜記念近代美術振興財団

連続トークセッション **アートを育てる／ハートを育てる**

トヨタ アートマネジメント講座

## 6月6日(金) 会場:京都市美術館講演室

### session 1 14:00~16:30 アートを伝える <ミュージアム・マネジメントの過去と未来>

昭和8年、京都では市民、財界の寄付によって大礼記念京都美術館（現・京都市美術館）が生まれました。
社会がアートを支える原型をそこに見ることができます。
アートを伝える場所としてのミュージアムがいかに構想されたかを振り返り、将来の美術館像を展望します。

佐藤道信（東京芸術大学助教授）
中谷至宏（京都市美術館学芸員）

## 6月7日(土) 会場:みやこめっせ(京都市勧業館)B1大会議室

### session 2 10:00~12:30 見ること／魅せること <ミュージアムの魅力とは>

自分自身で何かを見つけることをうながす工夫。
いつも新鮮な出会いを導くためには優れたマネジメントが必要とされます。
何度でも訪れたくなるミュージアムを目指して最近オープンした琵琶湖博物館のプランが、
どのようにして練り上げられたかを語っていただきます。

布谷知夫（滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員）
<聞き手>
山盛英司（朝日新聞社大阪本社学芸部記者）

### session 3 14:00~16:30 アートを拡げ、いかにして人を惹きつけるか? <アートと情報>

社会とアートの関係をより潤滑にしていくためには、
より積極的なリサーチと広報活動が必要となってきます。
どのような方法でアプローチを重ねていくか、
また美術というジャンルに適した方法は見い出せるのでしょうか。
それぞれの立場から語り合います。

太下義之（株式会社三和総合研究所副主任研究員）
<聞き手>
山盛英司（朝日新聞社大阪本社学芸部記者）

## 6月8日(日) 会場:みやこめっせ(京都市勧業館)B1大会議室

### session 4 10:00~12:30 お金がかかる! アートを支える人々と資金 <アートの経済事情>

アートの活動を資金面で支える「助成財団」の役割が近年注目されています。
支援する側とされる側、それぞれが抱えている問題、今後の可能性を語っていただき、
さらには仲介役としての有能なアート・マネジャーの必要性を考えていきます。

植木浩（財団法人ポーラ美術振興財団理事）
熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター）
出口正之（国立総合研究大学院大学教授）
松井紫朗（アーティスト）

## 公開シンポジウム 会場:みやこめっせ(京都市勧業館)B1大会議室(受講者以外の方も無料で参加できます)

### session 5 14:00~16:30 アートを育てる／ハートを育てる <アート・マネジメントの可能性>

いま求められているのはアートを育てる熱いハートです。
この講座の締めくくりとして、4つのセッションでの議論をまとめて紹介し、
今後展開するアートマネジメントのさまざまな可能性を、
パネリストとともに自由に語り合いましょう。

加藤哲弘（関西学院大学教授）
河崎晃一（芦屋市立美術博物館学芸課長）
喜多村明里（兵庫教育大学助教授）
中谷至宏（京都市美術館学芸員）
司会
森司（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

### 受講申込方法

以下の4項目を明記の上、5月31日必着で京都国立近代美術館内（財）堂本印象記念近代美術振興財団アートマネジメント講座係(京都市左京区円勝寺町〒606 fax.075-771-5792)まで郵便またはfaxでお申し込みください。(電話での申込は不可) 希望者多数の場合は抽選により受講者を限定することがあります。結果は郵送にて通知します。

1.氏名
2.職業：所属、部署
3.連絡先：住所、tel、fax、e-mail address
4.受講を希望する動機 (企画、広報、教育・普及などのアートマネジメントの業務に現在携わっている方は、担当している仕事内容についてもお書き添えください)

- 受講料3,000円は初日受付で徴収いたします。
- 6月7日(土)19：00から懇親会を予定しています。(別途会費が必要です)
- 上記プログラムは都合により変更になる場合があります。

問い合わせ先
京都国立近代美術館内 (財)堂本印象記念近代美術振興財団 京都市左京区円勝寺町〒606 Tel.075-771-2629／Fax.075-771-5792

# アートワールド探検講座

## アートの道も一歩から

近年、アートの魅力を町づくりに活かし、地域社会を活性化させる動きが各地で活発に起こっています。豊かな自然にめぐまれた愛媛は、これまでも美術、文学、映画、演劇などの世界でパイオニアと呼ぶにふさわしい人材を多く輩出し、豊かな文化を育んできた地域です。トヨタ・アートマネジメント講座は、トヨタのメセナ活動として、愛媛のアートの可能性を拡げ、育て、地域社会へ送り届ける役割を担う講座です。セミナー、シンポジウムを通じて"地域社会を豊かにし、アートとうまく付き合っていくにはどうすればいいか、その方法はどのようなものか"アート界で活躍する専門家を講師にお招きし、実際の活動を通して得た経験や考え方を語っていただく3日間です。

トヨタ・アートマネジメント講座・松山

**日時：1997年7月25日(金)～7月27日(日)**

**会場：財団法人 乗松巖記念館エスパス21**

3日間連続トークセッション　受講料1,500円（募集定員100名）

主催：トヨタ自動車株式会社
トヨタアートマネジメント講座実行委員会松山事務局

共催：財団法人乗松巖記念館エスパス21、愛媛県トヨタ販売店グループ

後援：松山市、松山市教育委員会、愛媛新聞社、南海放送、テレビ愛媛
あいテレビ、愛媛朝日テレビ

協力：社団法人企業メセナ協議会、絵画、松山キネマ倶楽部

## 7月25日（金）　ゼロベースからのアート体験

<トークセッション1>
14：00～15：55

### まずはアートに触れてみた

◇これまでアートと深く関わったことのない参加者とワークショップの講師が今回の実体験をもとに振り返ります。アートを通してのコミュニケーションとは何か。アートのある場をつくることとは何かを考えます。

※「8ミリ映画をつくろう」の講師の河瀬直美さんはビデオでの参加となり、代わってアシスタントの野中晃さんに加わっていただきます。

パネリスト：　井上明彦（アーティスト、京都市立芸術大学助教授）
野中　晃（松山ネネマ倶楽部代表）
ワークショップ参加者代表2名
司　　会：　秋元雄史（ベネッセコーポレーション岡山CC室　統括）

<ワークショップ報告1>
16：10～16：40

### アートを見せる

◇この日はワークショップ「眠りのレッスン」の展覧会のオープニングの日でもあります。それまでのプロセスをスライドやビデオを使ってワークショップの経過を報告していただきます。

パネリスト：　ワークショップ「眠りのレッスン」参加者3名

<ワークショップ報告2>
16：50～17：20

### 映画を見せる

◇参加者が作ったプライベート・フィルムの試写会をかねて、自分の作品にコメントをつけて体験談を報告していただきます。

パネリスト：　ワークショップ「8ミリ映画をつくろう」参加者3名

## 7月26日（土）　アートを楽しみ、伝える

<トークセッション2>
13：00～14：30

### 趣味であること・仕事であること

◇熱烈な映画ファンである藤田直義さんと田中教夫さんに映画に対する想いと、趣味が仕事に結びついている現在の立場や活動について語っていただきます。

パネリスト：　藤田直義（高知県文化財団・アートコーディネーター）
田中教夫（松山市職員・まつやま国際交流映画祭プロデューサー）
司　　会：　徳永高志（松山東雲女子大学助教授）

<トークセッション3>
14：45～16：15

### 創造力を刺激する場所・ひと

◇アーティストはどのように創造力を生み出しているのか。世界を旅し作品を作り続ける大竹伸朗さんに、出会いがもたらすクリエイティブな場所や関係について、これまでの活動を語っていただきます。

ゲ　ス　ト：　大竹伸朗（アーティスト）
き　き　手：　秋元雄史（ベネッセコーポレーション岡山CC室　統括）

<セミナー>
16：40～17：40

### アートと観客をつなぐ

◇アーティストのやる気を最大限に引きだす。それを観客が楽しめるように仕組む。それぞれの立場のニーズに答えながら一つの目的に向かって施設を作る。アーティストと観客の間をつなぐ仕事について、瀬戸内海の小島・直島のベネッセ・ハウスでのアート活動の実例から紹介していただきます。

講　　師：　秋元雄史（ベネッセコーポレーション岡山CC室　統括）

## 7月27日（日）　今、社会の中でアートの役割を考える

<セミナー>
10：00～12：00

### アートマネジメント相談室

◇自分たちで何か展覧会をしてみたい、イベントを作ってみたい、そんな時どんなところに気をつけたらいいか？メセナってなに？アート・マネジメントの素朴なギモンにお答えします。

アドバイザー：　熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター）
　　：　森司（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

<トークセッション4　第1部>
13：00～14：30

### アートのはたらきって何？

◇東京アトピックサイト（96）をオーガナイズした岡崎氏。広島のダム建設予定地でアースワークを展開する灰塚アートプロジェクトの矢吹氏。京都でアーティストや学生が運営するNPO、アートスケープに携わる鬼塚氏。アートを社会に必要な要素として位置づけ、社会や地域において機能させようとしている人たちの事例報告です。

パネリスト：　岡崎乾二郎（アーティスト）
矢吹正直（総領町まちづくり推進課）
鬼塚哲郎（アートスケープ・京都産業大学教員）
司　　会：　毛利義嗣（高松市美術館学芸員）

<トークセッション4　第2部>
14：45～16：15

### アートマネジメントの意味

◇第1部で紹介したそれぞれの事例を踏まえて、アートマネジメントの議論を深めていきます。パブリックな面から社会の中でのアートの役割を考え、実務的な側面とアートの理想とのあいだに生まれるさまざまな問題を考えてみます。

パネリスト：　岡崎乾二郎（アーティスト）
矢吹正直（総領町まちづくり推進課）
鬼塚哲郎（アートスケープ・京都産業大学教員）
司　　会：　毛利義嗣（高松市美術館学芸員）

■受講申込方法

以下の3項目を明記のうえ、7月19日（土）必着で（財）乗松巌記念館エスパス21　トヨタ・アートマネジメント講座係（〒790松山市小坂2丁目4－37　TEL／FAX：089・934・3621）まで郵送もしくはTEL／FAXにてお申し込みください。希望者多数の場合は先着順となりますので早めにお申し込みください。尚、当日の申し込みも可（ただし定員を超えた場合は入場をお断りする事があります。）

1 氏名　　2 職業　　3 連絡先：住所、TEL、FAX、E-mail address

■受講料1,500円は初日受付で徴収します。
■7月26日（土）19：00から懇親会を予定しています（別途料金が必要です）
■上記プログラムは、都合により変更となる場合があります。
■お問い合わせ先

財団法人　乗松巌記念館エスパス21　トヨタアートマネジメント講座実行委員会松山事務局
〒790　松山市小坂2丁目4－37　TEL／FAX：089・934・3621

## 関連企画　ワークショップ

「8ミリ映画をつくろう」
6月21日（土）、28日（土）、29日（日）
講師　河瀬直美（映画監督）

「眠りのレッスン」
7月5日（土）、7月12日（土）、7月24日（木）
作品展示期間7月25日（金）～8月4日（月）
講師　井上明彦（アーティスト、京都市立芸術大学助教授）

# 公立劇場の役割
# ‘公’（おおやけ）の
# 意味を考える

9月
5（金）
6（土）
12（金）
13（土）

●会場／
新潟市職員研修所

８０年代から各地で続いている劇場、コンサートホール、オペラハウス、美術館の建設ラッシュにより、私達が芸術を鑑賞する場は劇的に増えてきました。一方で、立派な外見に反して、提供する舞台や展示品の数が少なくお粗末で、「無用の長物」扱いされる建物も少なくありません。「アートマネジメント」は、こういった建物や劇団、オーケストラなど芸術団体の活動を社会にどのように活かし、運営すべきかを考える言葉として関心が高まっています。トヨタ・アートマネジメント講座は、「演劇」「舞踊」「音楽」「美術」の各分野から、芸術と地域社会の橋渡し役となるアート・マネージャーと、現在のアーチストや文化施設のあり方に関心や疑問を持つ人たちのために、それぞれの現場の第一線で活躍する担当者を講師に迎えて全国各都市で開催されています。今回の「新潟演劇編」は、来年秋の（仮称）新潟市民文化会館の開館を控え、演劇そのものよりもっと間口を広げた、公立の劇場、文化施設の役割を探り、また、民間企業が「公」の存在として、芸術活動を応援する意味を考える講座です。前もった知識は要りません。劇場は周りの人々の生活を変えてしまう可能性を秘めています。演劇の好きな方はもちろんですが、「芸術なんて私には関係ない世界」とか、「劇場なんていらない」と思っている方のより一層のご参加をお待ちしています。

■日程／　平成９年　９月５(金)・６(土)・12(金)・13(土)
■受講料／　２,０００円(４回通し)
■募集定員／７０名(先着順)
■会場／　新潟市職員研修所
■対象／　原則として４回連続して受講できる方

主催／(財)新潟市芸術文化振興財団
　　トヨタ自動車株式会社
共催／新潟県トヨタ販売店グループ
後援／新潟県、新潟市
協力／社団法人企業メセナ協議会

# 公立劇場の役割「公」（おおやけ）の意味を考える

## 9／5（金） ■受付開始18:30～ ■19:00～21:00

### 劇場はどのように生まれ、誰に支えられてきたか

「豪華なハコばかり作って中身がない」と批判を受ける日本の文化行政ですが、そもそも「劇場」は演劇や音楽を見る空間だけでなく、人との出会いの場として需要があってこそ生まれ、残ってきたのです。改めて劇場の歴史を考え、劇場が人々とのコミュニケーションの手段として活用されている例を紹介します。

講師　草加叔也（劇場コンサルタント）
　　伊藤裕夫（（株）電通総研研究主幹）
ゲスト　桜井俊幸（小出郷文化会館館長）
進行　市村作知雄（ＡＰＡ代表）

## 6（土） ■受付開始13:30～ ■14:00～16:00

### 民間企業の公共性－消費者、そして地域に還元する企業のメセナ活動

「行政」と「民間企業」は、よく相対する存在として見られますが、実はどちらも不特定多数の人に支えられている「公」の組織なのです。儲けるだけでなく、顧客や地域の人に還元するための、企業の文化支援活動を「メセナ」と呼びますが、実際どのように行われているのでしょうか。東京、新潟の企業を例にとって考察します。

講師　加藤種男（アサヒビール株式会社企業文化部次長）
ゲスト　中野憲太（株式会社　新交企画取締役専務）
　　廣川佳子（第四銀行　総合企画部広報室）
進行　熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会　プログラムディレクター）

## 12（金） ■受付開始18:30～ ■19:00～21:00

### 地域と劇場の幸せな関係とは

来秋、演劇専用ホール、コンサートホール、能楽堂を備えた大規模な文化会館がオープンする新潟では、市民の思いも様々です。せっかく出来る本格的な施設であるからこそ、地元の人に親しまれ、支えられたいものです。そのためにはどうすればよいのでしょうか。地域に密着し、喜ばれている劇場の例を挙げ、新潟の状況をふまえて話し合います。

講師　坂田裕一（前盛岡劇場）
　　ロジャー・バルバース（作家・劇作家）
進行　高橋　建適（（仮称）新潟市民文化会館開設準備室主任）

## 13（土） ■受付開始13:30～ ■14:00～16:00

### 「休演中」の劇場を楽しむ方法 －芸術の普及・教育プログラム－

公演以外の時には鍵がかかっていて、芝居や音楽を観たり聴いたりするだけの「特別な場所」でしかない文化会館もあるけれど、公立の施設はもっとオープンで気軽に立ち寄ったり、芸術の鑑賞だけでなく、深く学んだり体験できる所でありたいものです。最近、地方自治体が各文化施設で主催するワークショップが盛んになってきていますが、どんな反響を呼んでいるのでしょうか。具体例を聞きながら、劇場の新しい活用方法を探ります。

講師　平田オリザ（演出家・劇作家）
　　衛　紀生（演劇評論家）（予定）
進行　津村　卓（（財）地域創造芸術環境部チーフディレクター）

※上記プログラムは、都合により変更になる場合があります。

●交通
○新潟駅前より浜浦町（先回り）バス乗車　松波町１丁目バス停下車徒歩３分
○新潟駅前より信濃町（先回り）バス乗車　新潟商業高校前バス停下車徒歩３分

## ●受講申込方法

○以下の４項目を明記のうえ、８月２９日（金）必着で新潟市芸術文化振興財団アートマネジメント講座係まで郵送又はＦＡＸでお申込みください。（電話での申込みはできません。）
- ●氏名
- ●職業：所属、部署
- ●連絡先：住所、ＴＥＬ、ＦＡＸ
- ●受講を希望する動機

○受講料２０００円（４日通し）は初日会場受付で申し受けます。
出席できない日があっても返金はいたしませんので予めご了承ください。

## ●受講申込、お問い合わせ先

財団法人　新潟市芸術文化振興財団
アートマネジメント講座係
〒951　新潟市学校町通１番町６０２番地１
　　新潟市役所市民文化会館整備課内
　　担当者：稲葉麻里子
TEL.(025)228-1000　内線2169,2170
FAX.(025)228-8620

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

# この街で音楽の明日を語りたい。

いま、地域とアートをむすび、アーティストと鑑賞者をつなぐアートマネジャーの存在が、ますます重要になっています。
トヨタ・アートマネジメント講座は、そうしたさまざまなアートと鑑賞者をつなぐアートマネジャーの育成のために企画されました。
札幌セッションのテーマは「あなたも音楽マネジャー」。
北海道の新たなる音楽の拠点札幌コンサートホール「Ｋｉｔａｒａ」を舞台に、音楽とアートの明日を考えていきます。
音楽をより地域社会に開かれた身近なものにしていくのは、ここで学ぶあなたかもしれません。

トヨタ・アートマネジメント講座・札幌セッション「あなたも音楽マネジャー」

**1997年10月22日(水)―24日(金)** 会場：札幌コンサートホール「Kitara」小ホール、リハーサル室
受講料：2,000円

■主催：トヨタ自動車株式会社、アートマネジメント講座実行委員会札幌事務局、北海道音楽祭ネットワーク、(財)札幌芸術の森 ■共催：北海道トヨタ販売店グループ
■後援：北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社 ■協力：(社)企業メセナ協議会、(財)札幌交響楽団

# この街で音楽の明日を語りたい。

MUSIC ART

## 22 WED

### PROGRAM1 「歴史に見る作曲家の有様」

13:00
大リハーサル室
15:00

（講師：北海道教育大学助教授・作曲家　南　　聡）

### PROGRAM2 「クラシック音楽は儲かるか」

15:30
大リハーサル室
17:30

（講師：日本クラシック音楽マネジメント協会 会長　中藤　泰雄）

## 23 THU

### PROGRAM3 「オルガンという楽器を知ってみよう」

15:00
小ホール
16:30

（ワークショップ　講師：長谷川　尚敏 ／ 演奏：富田　節子）

### PROGRAM4 「室内楽について考える/トーク&演奏会」

17:30
小ホール
19:30

お話しと演奏：札幌交響楽団首席奏者
フルート／森　圭吾　　オーボエ／岩崎　弘昌
クラリネット／多賀　登　　ファゴット／一戸　哲
ホルン／橋本　敦
司　　会：竹津　宜男

## 24 FRI

### PROGRAM5 「ネットワークは必要か」

10:30
大リハーサル室
12:00

（講師：北とぴあ国際音楽祭企画委員長　井口　直巳）

### PROGRAM6 「これからのアート・マネジメントネットワーク」

（ディスカッション）

13:00
大リハーサル室
15:00

パネリスト：井口　直巳（北とぴあ国際音楽祭企画委員長）
熊倉　純子（(社)企業メセナ協議会プログラム・ディレクター）
西巻　正史（水戸芸術館音楽部門学芸員）
田口　昇治（北海道音楽祭ネットワーク事務局長）
司　　会：竹津　宜男（PMF組織委員会オペレーティング・ディレクター）

**■受講申込方法**

以下の4項目を明記の上、10月17日(金)必着でPMF組織委員会内 アートマネジメント講座係
(〒064 札幌市中央区中島公園1-15 札幌コンサートホール内 fax:011-520-1687)まで郵便またはfaxでお申し込みください。(電話での申し込みは不可)

1.氏名　2.職業:所属、部署　3.連絡先　4.受講を希望する動機(企画、広報、教育・普及などアートマネジメントの業務に現在携わっている方は、担当している仕事内容についてもお書き添えください。)

■受講料2,000円は初日会場受付で徴収いたします。
■10月23日(木)20:00から講師を囲んで懇親会を予定しています。(別途会費が必要です。)
■上記プログラムは、都合により変更になる場合があります。

**■お問い合わせ先**

PMF組織委員会内 アートマネジメント講座係／〒064 札幌市中央区中島公園1-15 札幌コンサートホール内
tel:011-520-2222 fax:011-520-1687

会場案内図：札幌コンサートホール「Kitara」

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

集中トーク・セッション

# アートマネジメントの実験

ART MANAGEMENT EXPERIMENT

# まちがアートと出会うとき

文化によるまちづくり――
その潮流は、今日ますます勢いを増しています。
まちのミュージアム化が進むにつれ、アートの表現を
社会に伝える「アートマネジメント」の仕事が注目されるようになってきました。
「トヨタ・アートマネジメント講座」の仙台セッションは、
国内外の実験精神溢れる美術系アート・プロジェクトをとりあげ、
地域のアート・パワーを引き出す「アートマネジメント」の今日的意義や
実践的なノウハウを解き明かそうというものです。
この講座はまた、公共および民間の文化機関で
アートマネジメントに携わる方々から一般市民まで、
さまざまな領域の人々に交流とネットワークづくりの機会をも提供します。

■期 日：1997年11月21日㊎～23日㊐ ■会 場：仙台市青年文化センター・エッグホール

■主 催：アートマネジメント講座実行委員会仙台事務局、トヨタ自動車㈱

■共 催：宮城県トヨタ販売店グループ ■後 援：宮城県、宮城県文化振興財団、仙台市、仙台市市民文化事業団、仙台商工会議所 ■協 力：社企業メセナ協議会

集中トーク・セッション　アートマネジメントの実践

# まちがアートと出会うとき

トヨタ アートマネジメント講座

## 11/21(金)

### アートマネジメント事始め ―― メセナの現場から

19:00～19:30　熊倉純子（企業メセナ協議会・プログラム・ディレクター）

文化事業を企画・運営する「アートマネジメント」の手法は、日本ではまだ芽生えたばかり。一体、「アートマネジメント」とは何なのでしょうか。まずは、そのアウトラインを掴まえることから始めてみましょう。

### 基調レポート●アートがまちを創る ―― まちがアートを創る

19:30～21:00　村田　真（美術ジャーナリスト）

美術館の壁を越えてアートを生活の中に解き放つ試みが盛んになり、都市のミュージアム化が進んでいます。「まち」や「くらし」と「アート」の新しい関係づくりの事例を、国内外の豊富な取材体験をもとに紹介し、本講座全体のマップを描いていただきます。

## 11/22(土)

### 現代美術センター・CCA北九州のできるまで ―― 産・学・官はどう連携できるか

10:30～12:30　小嶋一碩（現代美術センター・CCA北九州事務局長）●聞き手：志賀野桂一（舞台芸術環境フォーラム）

市民の熱意から始まった「鉄鋼彫刻を核とした現代美術のまちづくり」、「現代美術セミナー」が10年を経て、今年、国内初の現代美術専門の学習・研究機関「CCA北九州」に成長。その立役者、小嶋さんが語る、民間パワーの活かし方、行政、学校との連携の秘訣とは。

### アーティスト・イン・レジデンスを成功させるには ―― 『アーカス構想』の舞台裏

14:00～16:00　尾崎宣之（ワコールアートセンター営業部副部長）

地域にアーティストを招き制作や交流の場を提供するアーティスト・イン・レジデンスは、町おこしのメニューの一つとして定着しつつあります。その先駆け、元小学校の校舎をスタジオ化した茨城県の「アーカス構想」の企画者が運営のノウハウ、課題などを語ります。

### 光州ビエンナーレ'97の現場から ―― 国際アート展と都市の文化戦略

16:30～18:30　朴　有福（光州ビエンナーレ広報部長）

韓国の光州市で、まちをあげて大規模な国際美術展が開かれています。今やアートは都市の個性を世界に示す戦略的な道具です。同ビエンナーレの広報責任者・朴 有福さんを韓国から招き、都市と芸術のホットな関係について企画者側から掘り下げた話題を提供していただきます。

## 11/23(日)

### せんだいメディアテークの冒険 ―― 変わらなきゃ、公共文化サービス

14:00～14:45　佐藤　泰（仙台市教育委員会・学芸員）

2001年にオープン予定の「せんだいメディアテーク」（仮称）。市民のアイディアを運営に活かす新手法とは ―― ハコ物からどう脱皮するか、ネットワークの効用など、お役所の壁を突き破る文化サービスの未来像について行政の側から議論を投げかけます。

### フォーラム 第1部●地域のアート・パワーをどう育むか ―― 人・お金・場所の活かし方

15:00～17:00　小石原　剛（元・御野小学校PTA会長、アーティスト）芹沢高志（P3 art and environment ディレクター）
吉川由美（プロデューサー）　●司会：熊倉純子（企業メセナ協議会・プログラム・ディレクター）

岡山市御野（みの）小学校で100周年記念「アート・ワークみの」を企画したアーティストで元PTA会長の小石原さん。東京・四谷の東長寺講堂P3を拠点に異分野協同のアートプロジェクトを推進してきた芹沢さん。仙台でフリーのアートプロデューサーとして地域文化の演出にたずさわる吉川さん。地域に根ざしたアート活性化の条件を探ります。

### フォーラム 第2部●総括討論 ―― これから始めるアートマネジメント

17:15～18:15　●司会：新田秀樹（宮城教育大学助教授）・森　司（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

講座のまとめとして、講師陣、受講者の皆さんが自由に意見を交換する場です。質問、批判、提案など活発なディスカッションを期待します。

### 受講申し込み方法

以下の4項目を明記の上、11月15日(土)必着で「〒984 仙台市若林区河原町郵便局留め・アートマネジメント講座仙台事務局」まで郵便でお申し込みください。FAX：022-211-5377でもお申し込みになれます。（電話での申し込みは受け付けておりません。）希望者多数の場合は抽選となる場合があります。結果は郵便等にてお知らせします。

1. 氏名
2. 職業：所属、部署
3. 連絡先：住所、Tel,Fax,E-mail address
4. 受講を希望する動機（企画、広報、教育・普及などアートマネジメントの業務に現在携わっている方は、担当している仕事内容についてもお書き添えください）

**募集定員**：60名

**受講料**：2,500円（受講料は初日に会場にて申し受けます。）

●22日(土)19：00から懇親会を予定しています。（参加を希望される方は別途会費3,000円程度が必要です。）

●上記プログラムは都合により変更になる場合があります。

会場案内
仙台市青年文化センター TEL.022-276-2110
〒981 仙台市青葉区旭ヶ丘3丁目27-5
地下鉄旭ヶ丘駅下車

■問い合わせ先：アートマネジメント講座仙台事務局 TEL&FAX 022-211-5377 〒984 仙台市若林区河原町郵便局留め

# 「市民参加」と「公共性」ってなぁに？

「トヨタ・アートマネジメント講座」は「演劇」「音楽」「美術」の各分野から芸術と地域社会の橋渡しとなるアートマネージャーと、現在のアーチストや文化政策の在り方に関心や疑問を持つ人たちのために、それぞれの現場の第一線で活躍する担当者を講師に迎えて全国各都市で開催されているものです。

今回の「市民参加と公共性ってなぁに？」は、昨年１０月、２４時間３６５日利用できる施設としてオープンした金沢市民芸術村に関わることをテーマにしてみました。特にこの施設の特徴でもある「市民による自主運営システム」を柱に、公共性のとらえ方や、市民参加型活動の公共性の姿を展望しようというものです。

どんな方でも素朴に疑問をもつ「なぁに？」シリーズの、４つのテーマに分けてみました。日頃、芸術活動を応援する社会の仕組みに疑問を持っている方や、社会的に支援される演劇に関心のある方、制作やプロデュース担当の方、また演劇に関心のある方はもちろんのこと、「芸術なんて私には関係ない世界」とか、「演劇とは無縁」と思っている方の一層のご参加をお待ちしています。この講座は貴方の世界を広げます。

**受講料4回通し2,000円/1回1,000円**

**所/金沢市民芸術村・ドラマ工房**

■主催／金沢市民芸術村アクションプラン実行委員会
トヨタ自動車株式会社
■共催／石川県トヨタ販売会社グループ
金沢市　（財）金沢市公共ホール運営財団
■協力／かなざわ演劇人協会
演劇復興５ケ年計画プロジェクト
社団法人企業メセナ協議会
■後援／北陸中日新聞社、北陸放送

| １２月 | |
|---|---|
| 6土 | 7日 |
| １３土 | １４日 |

トヨタアートマネージメント講座

# 『市民参加』と『公共劇』ってなぁに？

## ●「PART1」 地域の演劇ってなぁに？《今、演劇が必要なもの》

12/6日土
■受付開始18:15~
18:45~21:00

日本各地で演劇活動に関わっている人達が何故かこの頃東京で活躍を？また、東京から離れて、各地で地域の人達と一緒に演劇を作る作業も？
全国各地で、演劇が変わろうとしているのでしょうか？こうした現象を見据えながら、今演劇が必要としているものを、それぞれの立場から話し合います。

パネリスト
佐藤　信（劇作家、演出家、世田谷パブリックシアターディレクター）
衛　紀生（演劇評論家）
東　修（かなざわ演劇人協会事務局長）

## ●「PART2」 市民参加ってなぁに？《市民参加のめざすもの》

7日日
■受付開始13:15~
13:45~16:00

市民参加型公共施設の現場のお話をお聞きしながら社会が求めている、いろいろな分野での市民参加と、その主体となる市民意識の在り方を検証します。

パネリスト
坂田裕一（前盛岡劇場事業係長）
細川紀彦（金沢市民芸術村村長）
浅瀬石裕子（ドアクラブ北陸支局代表）
山岡義典（日本NPOセンター常務理事）

## ●「PART3」 マネージメントってなぁに？《ボランティアの意味》

13日土
■受付開始18:15~
18:45~21:00

最近よく耳にするアートマネジメントとは？
アーチストの可能性を広げるアートマネジメントの仕事を紹介しながら、舞台芸術を社会的に支える考え方や方法について話し合ってもらいます。

パネリスト
伊藤裕夫（株・電通総研研究主幹）
加藤種男（アサヒビール㈱芸術企業文化部次長）
福光松太郎（福光屋社長）
佐々木雅幸（金沢大学経済学部教授）
司会
市村作知雄（山海塾事務局・APA代表）

## ●「PART4」 芸術村がつくりだすものってなぁに？《金沢市民芸術村とは》

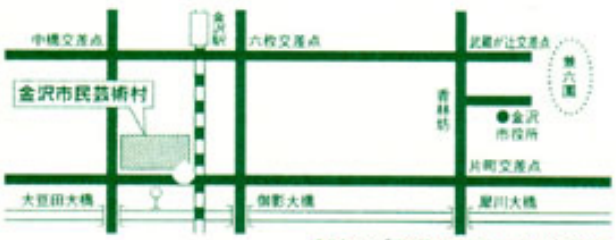
14日日
■受付開始12：30～
①施設見学13：00～
②基調報告13：30～
③パネルディスカッション
14：00～16：00

全国から注目されている「芸術村」。地元の人達が想像する以上に、全国からの眼差しは熱いものがあります。地元のアーチストにとってはどんな場所なのでしょうか？この施設がもっている可能性を、外と内の眼差しで、表現と社会と公共施設の関わりで深めます。

基調報告
青海廉男（芸術村ドラマ・ディレクター）
パネリスト
古賀弥生（福岡・文化芸術ネットワーク）
佐藤裕康（仙台市青年文化センター）
宮口としゆき（金沢市民劇団わんぱくランド）
司会
衛　紀生（演劇評論家）

## ■受講申込方法

1.四回連続受講を希望する方は右の欄に必要事項を書いて、「金沢市大和町1－1金沢市民芸術村ドラマ工房・トヨタアートマネジメント講座係」まで切り取って郵送か、問い合わせ先まで、FAXで、お送り下さい。電話での受け付けはいたしません。
2.受講料2，000円は初日会場受付で申し受けます。
3.締切は11月25日です。
4.一回づつの受講を希望する方は受講料1，000円を毎回会場受付で申し受けます。当日受付です。




●北鉄バス「西金沢4丁目」行き大豆田バス停下車
●金沢駅・片町交差点より徒歩15分、タクシー5分

## ■お問い合わせ先

〒920 石川県金沢市大和町1-1
TEL(0762)65-8300 FAX(0762)65-8301
Kanazawa Citizen's Art Center
金沢市民芸術村

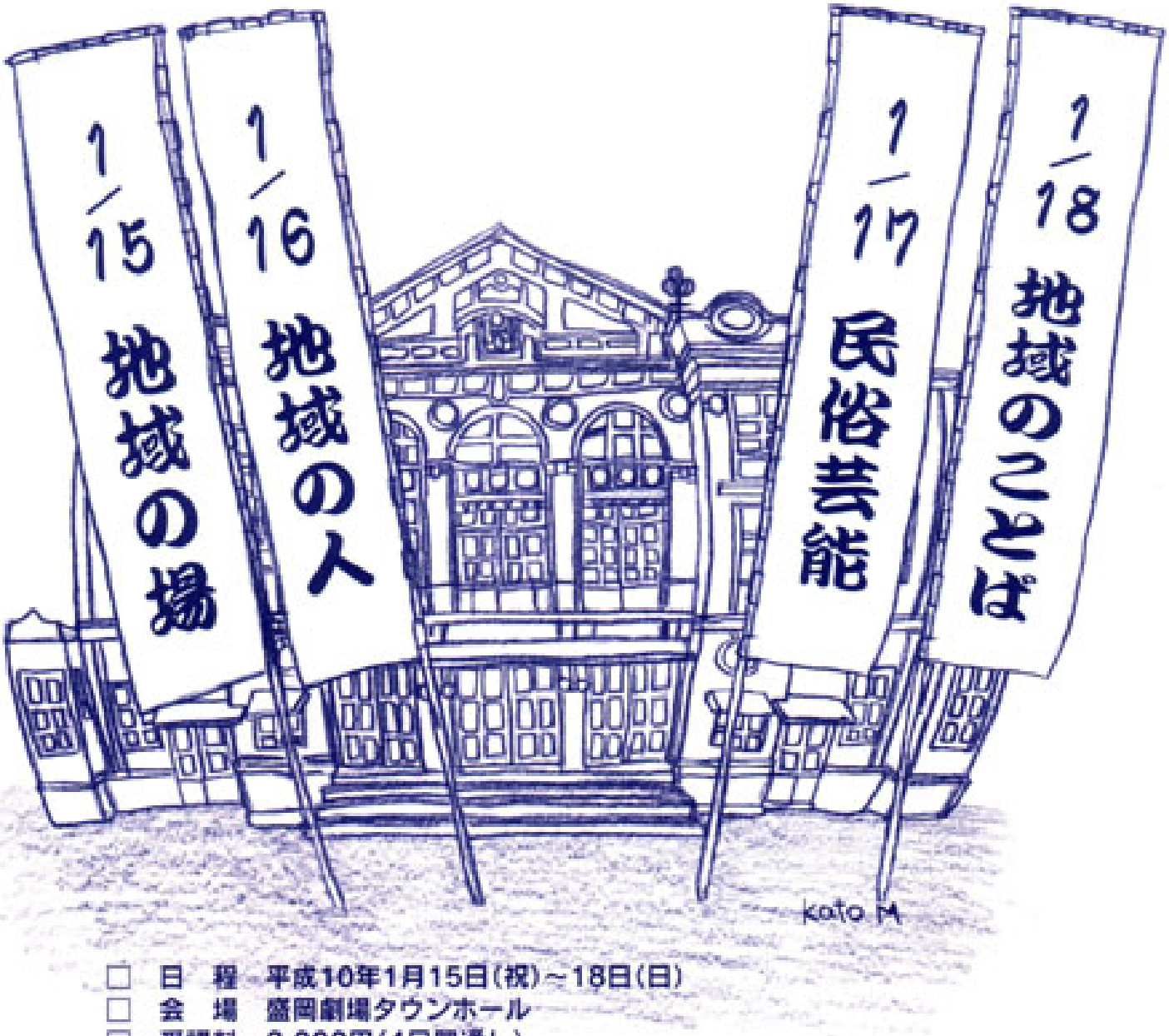
## トヨタ・アートマネジメント講座 参加申し込み用紙

| | | |
|---|---|---|
| お名前（フリガナ） | | 男・女 |
| 住　所 | | |
| 電　話 | 職業 | 年齢 |
| 所属・役職名 | | |

TOYOTA

トヨタアートマネジメント講座

# 「地域文化と演劇 ～ことばの役割～」




□ 日　程　平成10年1月15日(祝)～18日(日)
□ 会　場　盛岡劇場タウンホール
□ 受講料　2,000円(4日間通し)
　　1,000円(1日のみ)
□ 定　員　70名程度

主催/　トヨタアートマネジメント講座盛岡セッション実行委員会
　　トヨタ自動車株式会社
共催/　盛岡市　盛岡市教育委員会　盛岡劇場　財団法人盛岡市文化振興事業団
　　岩手県トヨタ販売会社グループ
協力/　社団法人企業メセナ協議会　岩手県演劇協会　盛岡演劇協会

## 「地域文化と演劇～ことばの役割～」

アートと鑑賞者を結んでマネージメントするアートマネージャーの育成を目的に開催されているトヨタアートマネジメント講座。アートをとおして地域を豊かにする可能性について考えます。

今回は、地域演劇のあり方を地域固有の文化との関係から紐解いていきます。

表現者や受け手である観客が、どのような文化の営みに支えられて来たのかを、まずは知ることからはじめてみたいのです。ものづくりの場で人と人との間に介在し、また表現創造の上でも大切な要素となる「ことば」。その役割を見直し、地域演劇が成立するための可能性、更にはそれらをとりまく環境がどうあるべきかを考えます。

## 〈プログラム〉 総合コーディネーター/坂田裕一

### 1月15日(木) 16時～19時(受付15時30分～)

「地域演劇と地域の場」～ホールの状況昨今

表現を創造する"場"、人が出会う"場"としての文化ホールの役割と可能性について考えます。昨年10月に金沢市にオープンした365日24時間営業の施設「金沢市民芸術村」は、市民による自主運営システムを取り入れ全国の注目を集めています。

□実践報告 「金沢市民芸術村のしごと」 青海康男(金沢市民芸術村ドラマ工房ディレクター)
□パネリスト 衛 紀生(演劇評論家)
青海康男
三浦 隆(感劇地図編集委員長)
□コーディネーター 坂田裕一(岩手県演劇協会副会長)

「夜楽塾」 もりげき八時の芝居小屋の観劇 20時開演
喜劇「冬眠まんざい」 作/秋浜悟史 演出/阿部正樹

### 1月16日(金) 19時～21時(受付18時30分～)

「地域演劇と地域の人」～仕掛ける人

地域の表現活動を社会とどう結びつけられるか、その仕掛けとプロデュース能力が今後の表現活動の鍵をにぎる!?毎月定期的に良質の演劇作品を提供する「もりげき八時の芝居小屋」は地域の演劇人とホールとが提携して市民に新しい演劇のかたちを提示しています。

□実践報告 「もりげき八時の芝居小屋の試み」 新沼祐子(もりげき八時の芝居小屋制作委員会副委員長)
□パネリスト 伊東正示(シアターワークショップ代表)
津村 卓(財団法人地域創造芸術環境部チーフディレクター)
新沼祐子
□コーディネーター 瀬川君雄(イベントプロデューサー)

「夜楽塾」 講師を囲んでお気軽意見交換会(会費実費)

### 1月17日(土) 19時～21時(受付18時30分～)

「地域演劇と民俗芸能」～表現の原点をさがして

早池峰神楽などの山伏神楽をはじめ、岩手は民俗芸能の宝庫。農閑期には、今も民家の庭先や神社の境内で、土地が受け継いできた神楽が舞われ、人々が集い酒が酌みかわされています。演じ手の存在を基本に成立する民俗芸能は、いわば演劇表現の原点。地域独自の表現にもたらす影響とその関係について探っていきます。

□パネリスト 門屋光昭(盛岡大学教授)
小野寺英子(山城組)
くらもちひろゆき(劇作家 演出家 俳優)
□コーディネーター 市村作知雄(山海塾事務局 APA代表)

「夜楽塾」 講師を囲んでお気軽意見交換会(会費実費)

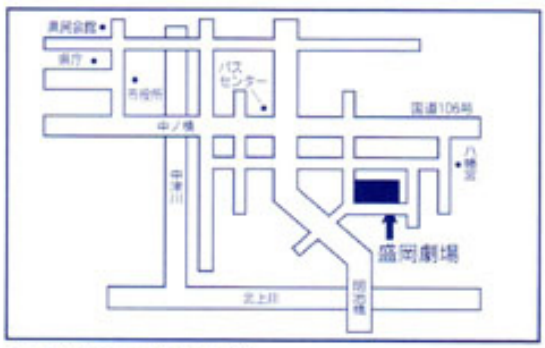
### 1月18日(日) 13時～16時(受付12時30分～)

「地域演劇と地域のことば」～方言をめぐって

「ことば」は、その土地が生んだ独自の文化であり財産です。そんな「ことば」へのこだわりは、地域で演劇表現を成立させる上で一つのキーポイントになるのでは?盛岡では文士劇の「方言劇」が市民に大好評。盛岡だから成立したのか。方言の役割と可能性について考えます。

□VTR鑑賞 盛岡版「結婚の申込」(平成7年11月盛岡文士劇復活公演にて上演)
原作/チェーホフ 翻案/おきあんご 演出/小野寺瑞穂
□パネリスト 山谷初男(俳優 秋田県角館市はっぽん館館長)
山元清多(劇団黒テント芸術監督)
おきあんご(劇作家 劇団赤い風)
□コーディネーター 藤原正教(劇作家 演劇集団九月とアウラー)

□ファイナルトーク 川村光夫(劇作家 岩手ぶどう座 岩手県演劇協会会長)
□クローズドパフォーマンス 「雨ニモマケズ」大森健一(劇団赤い風)




○交通/タクシー 盛岡駅から10分
バス 盛岡バスセンター下車 徒歩5分
南大通り1丁目下車 徒歩2分

●受講申込方法
○以下の3項目を明記のうえ、平成10年1月10日(土)必着で「トヨタアートマネジメント講座盛岡セッション実行委員会」まで郵送またはFAXでお申し込み下さい。
●氏名
●職業:所属、部署
●連絡先:住所、TEL、FAX
○受講料2000円(4日通し)・1000円(1回のみ)は初日会場受付で申し受けます。
出席できない日があっても返金はいたしませんので予めご了承ください。

●受講申し込み・お問い合わせ先
事務局/盛岡劇場内
〒020 岩手県盛岡市松尾町3番1号
☎019(622)2258 FAX 019(622)1910 担当:松本法子 新田英子

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

# 音楽の明日をひらく

21世紀は「心」の時代。誰もが物質文明に行き詰まりを感じている今、人々が求めるものも「物」から「心」へと変化していく…　その様な兆しが、21世紀の夜明けを待つ今日に感じられます。心豊かな社会、芸術を楽しむゆとりある市民生活とそれを包みこむ街の姿…　そこに、次の時代の理想の市民生活像を見ることができます。いま日本では、アートと社会を繋ぐ存在としてのアート・マネジメントに注目が集まっています。「トヨタ・アートマネジメント講座」は、アートと鑑賞者を結ぶたくさんのアートマネジャーが育ってくださることを願って、全国の各都市で開催されています。本年度、その音楽編が福岡で開催されます。アート・マネジメントとは何でしょう？はたすべき役割とは何なのでしょうか？「豊かな音楽の明日」へつなげる「今日の問題点」とは一？　参加者みんなで話し合いながら、アート・マネジメントについて分かりやすく学んでまいります。音楽の専門家も愛好家の方々や行政に携わる人、そして若い学生さん達も…　マネジメントのプロだけでなく、音楽が好きなすべての人が集まって「音楽の明日をひらく」ために話し合いましょう！

## トヨタ・アートマネジメント講座 '98福岡

**1998年2月6日[金] 7日[土] 15日[日]**

**会　　場：アクロス福岡／円形ホール[6・7日]　あいれふ／講堂[15日]**
**受 講 料：¥3,000[全講座]　¥1,000[1講座のみ]**
**募集定員：100名**

主催：トヨタ自動車株式会社　「トヨタ・アートマネジメント講座'98福岡」実行委員会
共催：福岡県トヨタ販売会社グループ
後援：福岡市　福岡県教育委員会　福岡市教育委員会　ＫＢＣ九州朝日放送
協力：社団法人企業メセナ協議会

通し受講券の取り扱い／チケットぴあ 092-706-9999

## 2月6日[金] 15:00〜17:00 アクロス福岡／円形ホール

### ○セッション1 『アートマネジメントの役割とは』

アートと社会を繋ぐ存在としてのアート・マネジメントが注目されています。アート・マネジメントとは何か、はたすべき役割とは何なのか。芸術を社会の中に生かす方法論としてのアート・マネジメントを検証し、本講座の基本理念を明確にします。

**西巻正史**（水戸芸術館 コンサートホールATM 学芸員）

## 2月7日[土] 10:00〜12:00 アクロス福岡／円形ホール

### ○セッション2 『アンケート調査結果から見えるもの』

音楽と社会の関わりにおいて「何が問題なのか？」。この点を明確にすることが、改革への第一歩となるでしょう。この認識に立って、設問に対する考えをポストイットに記入、ＫＪ法を用いて現状や問題点をあぶり出すと言う手法で、アンケート調査（平成9年12月〜平成10年1月）を実施しました。浮かび上がる現状と問題点を提起し、参加者全員によって討論を行います。討論後には、さらに参加者の考えや提案をその場でポストイットに記入。その結果を集計整理し、15日の総括討論の場に提示して、さらに議論を深めてゆきます。

**大畑恵三**（ジェイエムシー音楽研究所 所長）

## 13:00〜15:00 アクロス福岡／円形ホール

### ○セッション3 『音楽普及プログラム… 音楽の新しい明日へ』

今、音楽普及プログラムに多くの関心が集まっています。福岡では「アーチスト・ホームステイ・プラン」と言う実験プログラムが実施されました。2月8日アクロス福岡シンフォニーホールにおいても同様のプログラムが企画されています。企業メセナ活動や公共施設の自主事業などにおいても同様な事例をみることができます。これらに実際に関わって来られた三人の方々の報告をもとに、音楽普及プログラムの今後について参加者全員で話し合っていきます。

**西巻正史**（水戸芸術館 コンサートホールATM 学芸員）
**宮崎たかし**（日本音楽家ユニオン九州地方本部 代表運営委員）
**塩田和代**（サーチ・アンド・キー代表取締役）

## 15:20〜17:20 アクロス福岡／円形ホール

### ○フォーラム 『福岡、ホール乱立の中で…』

福岡は今、近郊都市を含め新設ホールのラッシュです。こうした中で、公共施設事業担当者として、行政に所属しさらに「文化芸術ネットワーク」活動を推進している立場の者として、また演奏家として芸術活動の最前線にいる者の立場からそれぞれ発言していただき、参加者と共に公共ホールのこれからの役割と生き残りの方策を探ります。

**後藤龍伸**（名古屋フィルハーモニー交響楽団 首席コンサートマスター）
**荻尾雅典**（九州文化芸術ネットワーク 事務局）
**檜田 寛**（ミリカローデン那珂川 事業係主事）
**西巻正史**（水戸芸術館 コンサートホールATM 学芸員）

## 2月15日[日] 14:00〜16:30 あいれふ／講堂

### ○統括討論 『音楽の明日をひらく』

6、7日の講座と全ての関連事業を統括して参加者全員で討論を行います。熊倉氏は各地のアート・マネジメント講座に関わった者として全国的な傾向や特徴などについて発言。企業メセナ活動等への質問にも答えていただきます。吉浦氏は九州交響楽団の団員として演奏家の立場から、大畑氏は今回の講座の実行委員長としての経験のなかからそれぞれ発言していただきます。司会進行と討論の統括は西巻正史氏。

**熊倉純子**（社団法人企業メセナ協議会 プログラムディレクター）
**吉浦勝喜**（九州交響楽団 コントラバス奏者／インスペクター）
**大畑恵三**（ジェイエムシー音楽研究所 所長）
**西巻正史**（水戸芸術館 コンサートホールATM 学芸員）

### 受講申込方法

下記の4項目を明記のうえ、2月1日必着でトヨタ・アートマネジメント講座係まで、郵送もしくはFAX.にてお申し込みください。（電話での申込は不可）

1. 氏名
2. 職業：所属、部署
3. 連絡先：住所、TEL.、FAX.、E-mail address
4. 受講を希望する動機

（宛先）
〒816 福岡県大野城市雑餉隈町5丁目4番21号
ジェイエムシー音楽研究所
「トヨタ・アートマネジメント講座」係

■ 募集定員 100名

希望者多数の場合は、先着順となります。当日のお申し込みも可能ですが、定員を越えた場合お断りすることがございますので、あらかじめご了承ください。

■ 受講料 通し受講料 ¥3,000
（初日、会場受付で徴収いたします）
一講座の受講料 ¥1,000
（会場受付で納入してください）

■ 懇親会 2月7日(土) 19:00より懇親会を予定しています。（別途会費が必要です）

※上記プログラムは、都合により変更される場合があります。

アクロス福岡 TEL092-725-9113
あ い れ ふ TEL092-751-7778

■お問い合わせ
「トヨタ・アートマネジメント講座'98福岡」実行委員会 事務局
〒816 福岡県大野城市雑餉隈町5丁目4番21号 ジェイエムシー音楽研究所内
TEL.092-575-3267 FAX.092-581-6797
〈E-mail〉jmc@ea.mbn.or.jp 〈NIFTY〉DZF07362

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

Vol.13

【演劇セッション#6】

# ART TALK SESSION

aRt maNAgEmenT

27th fri……29th sun・3march 1998

kagawaken・kenmin hall

明日のアートを語る

アートを育み、広げるため、作り手（アーティスト）と受け手（観客）のつなぎ手、つまりアート・マネージャーの果たす役割がますます重要になってきています。「トヨタ・アートマネジメント講座」は「演劇」「舞踊」「音楽」「美術」のジャンルにおいての今日における芸術と社会の関係に焦点をあて、同時代のアートを地域社会に開かれたものにしていくための方途を模索するものです。高松セッションでは、今回「演劇」ジャンルをとりあげますが、広く舞台芸術全般を見渡しての未来に向けたアート・マネジメントの可能性を探っていきたいと思いますので、様々なジャンルの方にご参加いただきたいと思います。既にアート・マネジメントに関わっている人はもちろん、これから目指す人、興味のある方もふるってご参加ください。

1998年3月27日(金)～29日(日)　香川県県民ホール会議室（27、28日は大会議室と29日は第1・第2会議室）

トークセッション＋公開シンポジウム　受講料2,000円

※公開シンポジウムは受講者以外の方も無料で参加できます。

主催●トヨタ自動車株式会社、アートマネジメント講座実行委員会高松事務局　共催●香川県トヨタ販売会社グループ

協力●社団法人企業メセナ協議会、香川市民劇場、香川県演劇協議会、高松交響楽団、(株)メディアミックス研究所

TOYOTA

トヨタ アートマネジメント講座

Vol.13

［演劇セッション＃6］

ART TALK SESSION

27th fri ― 29th sun 3march 1998

主催■トヨタ自動車株式会社

アートマネジメント講座
実行委員会高松事務局

共催■香川県トヨタ販売会社グループ

協力■社団法人企業メセナ協議会

香川市民劇場

香川県演劇協議会

高松交響楽団

（株）メディアミックス研究所

■受講申込方法

以下の4項目を明記のうえ、3月10日必着でトヨタ・アートマネジメント講座実行委員会高松事務局（〒760-0050高松市亀井町4の2岡内ビル3Fメディアミックス研究所内TEL.087-863-4800 FAX.087-863-4801）まで郵送もしくはFAXでお申し込みください。（電話での申込は不可）

1.氏名
2.職業：所属・部署
3.連絡先：住所、TEL、FAX、e-mail adress
4.受講を希望する動機（企画、広報、教育・普及などアートマネジメントの業務に現在携わっている方は、担当している仕事内容についてもお書き添えください）

●受講料2,000円は初日会場で徴収いたします。
●3月28日（土）18:00から懇親会を予定しています。（別途会費が必要です）
●プログラムは、都合により変更になる場合もあります。

●お申し込み先

トヨタ・アートマネジメント講座
実行委員会高松事務局
〒760-0050高松市亀井町4の2岡内ビル3F
メディアミックス研究所内
TEL.087-863-4800
FAX.087-863-4801

# 明日のアートを語る

## 1st

3月27日（金）
香川県県民ホール大会議室（北館4階）
受付18:00～,18:30～20:30

### 地方におけるアート・マネジメントとは～公共ホールの役割

アーティストと観客をつなぐアート・マネージャー。その役割はますます重要になってきています。地方におけるアート・マネージャーはとりわけアーティストが兼ねていたり、観客が兼ねていたりと様々な形態をとっています。何が重要で何を求めていけばよいのか、公共ホールとの役割もあわせて考えてみましょう。

講師：津村卓（財団法人地域創造　伊丹アイホール・プロデューサー）
佐藤信（世田谷パブリックシアター・アートディレクター）

## 2nd

3月28日（土）
香川県県民ホール大会議室（北館4階）
受付13:00～,13:30～17:00

### 現代におけるアートの状況～演劇におけるコンテンポラリー

実際に体で感じ取りながら、演劇を例にとって現代におけるアートの状況を考えてみましょう。演劇関係でない人にも考えて欲しいコンテンポラリーの問題です。

講師：平田オリザ（青年団主宰）
扇田昭彦（朝日新聞学芸部編集委員）

## 3rd

3月29日（日）
香川県県民ホール第1・第2会議室（本館5階）
受付9:30～,10:00～12:00

### 企業と文化のありかた

企業メセナが叫ばれて久しいですが、企業の売名行為ではない本当の意味でのメセナとは何なのか。企業側、演じる側、そしてその間をつなぐマネージャーの多方向から考えてみましょう。

パネリスト：岡部修二（トヨタ自動車株式会社社会文化室室長）
加藤種男（アサヒビール株式会社企業文化部次長）
池田清一郎（池田経営コンサルタント事務所代表）
司会：熊倉純子（企業メセナ協議会）

## 4th

3月29日（日）
香川県県民ホール第1・2会議室（本館5階）
受付12:30～,13:00～16:00
（受講者以外の方も無料で参加できます。事前申込は不要ですが、満員の際は入場をお断りする場合もあります。）

### 公開シンポジウム 地方発信の舞台芸術とは

高松セッションの総まとめとして、地方発信の舞台芸術についてジャンルを越えて考えてみましょう。かがわの芸術に係わる者、これから係わっていく者が本気で語り合い、未来に向けてのアートマネジメントの可能性を追求しましょう。。

パネリスト：衛紀生（演劇評論家　地域オーガナイザー）
市山裕之（北九州演劇祭実行委員会主査）
山本恵三（高校演劇作家）
司会：橋本一仁（四国学院大学学長）

## 1998年度

### 総合セッション“東京会議”開始

3年目を迎え、ジャンルを超えたクロストークの総合セッション、「東京会議」を試みました。
各地で提起された問題を踏まえ、これからのアートマネジメントの方向を探ろうと初めて東京で開催したTAMには、なんと500人近い人々が参加。この分野への熱い視線がひしひしと感じられはじめた年です。また各地のセッションでは、座学のみでなく方法論を実際に披露する体験型ワークショップがさまざまに展開されました。

Vol.14　東京　総合－1　1998年7月
「アートマネジメントの力」
Vol.15　新潟　音楽－3　1998年9月
「きほんにもどって、オーケストラ」
Vol.16　横浜　演劇－7　1998年9月
「コミュニティーアートとしての演劇
―横浜から新しい波は起こせるか」
Vol.17　北九州　演劇－8　1998年10月
「芸術文化でまちを育てる」
Vol.18　千葉　美術－6　1998年10月
「アートで人を育てよう!」
Vol.19　札幌　演劇－9　1999年1月
「まちにひろがるアート―コミュニティシアターの可能性」
Vol.20　佐世保　音楽－4　1999年2-3月
「音楽との新しい出会いをもとめて」
Vol.21　高知　美術－7　1999年3月
「アートはつかれる？―回路を開く―」

Vol. 14　1998年7月

## アートマネジメントの力

東京会議'98　総合-1

TAM運営委員会

3年目を迎えたトヨタ・アートマネジメント講座のひとつの節目として開催された「東京会議'98」は、これまで各地で提起されてきた問題をふまえ、これからのアートマネジメントの方向を提案する場として企画された。

通常のTAMのセッションは、演劇・美術・音楽、いずれかの芸術ジャンルに特化して企画されるが、普段はアドバイザー役のディレクター達がみずから企画したこの「東京会議」では、芸術分野の垣根を取り払うクロストークを試みた。「市民参加」「観客創造」「社会のドア」という、アートマネジメントの今日的な3つのテーマのもと、各ジャンルの論客が一堂に会し、それぞれの方法論やヴィジョンを提示、400人をこえる参加者を前に、熱い討議を繰り広げたのである。

パネリスト達はいずれもジャングルの処女地を切り開いてきた強者ぞろい。その報告はアートマネジメントが常に新たなチャレンジであり、道なき地をゆく冒険に等しいものであることをうかがわせる。アートマネジメント待望論があちこちで聞かれる昨今だが、今回の会議では、アートと社会の関係をより緊密にするには、単に出会いの数を増やせばいいという次元をこえて、両者の関係の質を変え、相互浸透を深めるという次のステップに進まなければならないことがさまざまに指摘された。

アートマネジメントが本領を発揮する新たな段階に向けて、脱皮の方途を探った東京会議。さまざまな方向性が示唆されたが、いずれも平坦な道はなさそうだ。痛みを伴わぬ脱皮はないのかもしれないが、「アートが少しずつ自由になることは、社会が少しずつ自由になることに違いない」という共通認識が確認され、次なる一歩を踏み出す勇気を与えてくれた2日間であった。（文責：ディレクター・熊倉）　（99年7月）

会議録申込先：〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F
TAM運営委員会事務局（企業メセナ協議会内）e-mail:kmk@mecenat.or.jp

Vol. 15　1998年9月

## きほんにもどって、オーケストラ

新潟セッション　音楽-3

（財）新潟市芸術文化振興財団　寺田尚弘

99年4月10日、新潟市民芸術文化会館コンサートホールでおこなわれた、東京交響楽団第1回新潟定期演奏会は、満員のお客様の熱烈な拍手で始まりました。この公演は、新潟市と提携を結んだ東京交響楽団の「サントリーホール定期演奏会」を年5回開催するものです。「定期演奏会」はオーケストラの真の実力が問われる公演です。地方公演にありがちな名曲コンサートではなく、定期演奏会をおこなうことで、単発の公演では取り上げることができなかった大曲も数多く紹介できます。また、同じ団体を定期的に聴くことにより、「オーケストラを聴く耳の基準」ができるなど、多くのメリットが考えられます。

97年度の演劇に引きつづき開催した、新潟セッションでは、「オーケストラ」をテーマに、3日間の講座をおこないました。ヨーロッパでは小さな町にもプロのオーケストラがあり、市民は「自分たちのオーケストラ」として応援しているそうです。では日本は？ 今回は、指揮者、団員、事務局、主催者（ホール）など、いろいろな立場でオーケストラにかかわる方々をお招きし、オーケストラの歴史、オーケストラと地域の結びつきなどについて現場の声を聞かせていただきました。

新潟市では、新潟市民芸術文化会館のオープン後、オーケストラのコンサートが数多く開催され、そのほとんどが満席に近い状態で公演日を迎えています。TAMの開催によって、オーケストラと地域社会のあり方や、新潟市の今後の音楽界をどう発展させていくかなど、市民とともに考える機会を与えていただいたことに深く感謝しています。　（99年7月）

Vol. 16　1998年9月

## コミュニティーアートとしての演劇―横浜から新しい波は起こせるか

横浜セッション　演劇-7

PAW YOKOHAMA 代表　一宮　均

「横浜の演劇は元気ですか?」これが横浜のアートマネジメント講座を始めるきっかけでした。近代演劇の基礎をつくってきた歴史をもつ横浜ですが、最近はどうも元気が感じられません。コミュニティーアートとしての演劇を横浜でつくっていくにはどうすればよいのか。私たちは横浜演劇状況の象徴として、今回の会場であるテアトルフォンテの使い方をさまざまに探ることでテーマを掘り下げることにしました。この横浜で初めての演劇専用施設といわれているテアトルフォンテは不便な立地条件のため利用する側にも、管理する側にも「ここでやってもだめだ」というある種のあきらめの感情がありました。劇場とは何か、公演だけの場ではなく、トータルに演劇を創造していく場なのだという視点をもち、他都市の事例や演劇の現場にいる方からの提案を受けることで、地域から演劇を育てていくことの可能性を探りました。

今回出されたさまざまな提案が今後どう生かされていくのか、これは利用する側にも、管理する側にも、厳しい条件の中で自分たちを取り巻く演劇状況をよくするための試練の場になると思います。今回行政の方からも率直な意見を出していただきました。利用する演劇人の側も単なる要望ではなく、提案型の意見を出すことで実際の仕組みを少しずつ変えていくきっかけになればと思います。

劇場という摩訶不思議な空間にさまざまな人が集い、出会い、何かが生まれていく、私たちは市民の立場でそのような状況にどのように立ち会っていくのか、この魅力あるアートマネジメントという仕事をより深く追求していきたいと思っています。NPOの拡がりなど最近ではパブリックという言葉の概念を、従来の「公共」というよりも「市民」ととらえる考え方が増えてきていると思いますが、私たち市民グループ「PAW」もPAWの読み方にPublic Art Wave を取り入れ、Pubulic Artとしての演劇を横浜から発信していけるよう努力していきたいと思います。

（99年7月）

Vol. 17　1998年10月

## 芸術文化でまちを育てる

北九州セッション　演劇-8

北九州市建築都市局都心・副都心開発室　神野譲嗣

2003年に演劇ホールを中心とした文化施設を北九州市に開設することから、北九州演劇祭事務局を通じて、市村さんから「開催してみては」とのお話があり、「～を育てる」をテーマに演劇セッションを開催することにしました。

テーマ選定にあたっては、文化施設の開設に向けて、今自分たちの抱えている課題（観客、ホールの人材をどう育てていくか）は、ホールを実際に運営している方々にとっても共通の課題であろうということで、これを劇場運営、マーケティング、アートマネジメントの研究などで活躍されている方々に論じていただくことにしました。

出席者は、講師の方はもちろんのこと、セミナー参加者も全国各地のホール企画運営担当者や制作の関係者等第一線で活躍されている方々ばかりで、講師と参加者の双方向の熱心な議論を目の当たりにして、あらためてアートマネジメントに対する関心の深さ、むずかしさというものを感じました。と同時に、「演劇という労働集約型産業が、事業構造的に成り立ちにくくなっている今日、公共ホールの果たせる役割は今後も大きくなっていくのではないか」という講師の言葉に勇気づけられました。

準備期間も短く関係者の方々に大変ご迷惑をおかけしましたが、この講座を機会にネットワークも広がり個人的にも有意義な講座だったと思います。

一度や二度の講座で結論が出るものではないので、今後も、こうした論議の機会を多くもてればと思います。

（99年7月）

Vol. 18　1998年10月

## アートで人を育てよう！

千葉セッション　美術-6

川村記念美術館学芸員　林　寿美

本セッションのテーマ「アートで人を育てよう!」は、ふたつの意味をこめて設定したものである。まずは、「人間が豊かな人生を送るためにもっとアートを楽しんでもらおう!」というメッセージ。そしてふたつめは、「アーティストというつくり手あるいは作品そのものと、鑑賞者という受け手をつなぐための〈担い手〉を積極的に育てていこう!」というメッセージである。この「担い手」が誰かを考えた時、まずはギャラリー・トークを担当する美術館ボランティアが筆頭に挙げられることが常だが、本セッションではこれに限らず、美術に携わる仕事の可能性を幅広く探ることをねらいとした。すなわち、第一のメッセージを基本姿勢として、第二のメッセージをさまざまな角度からとらえることが、本セッションの趣旨となったわけである。よって、レクチャーの講師には、現職の学校の先生、例年野外彫刻展やコンサートなどの各種イベントを境内でおこなっている寺の副住職、美術館でボランティア教育に携わった学芸員と他分野の方々にお願いすることにした。

参加者は70名余り。県内でアートに携わる仕事にすでについている方々、美術館教育を専攻している学生、学校関係者、作家、美術館ボランティア、美術館学芸員など、講師の顔ぶれに応じたメンバーが集まった。参加者人数が適当であったせいか、あるいは各講師がそれぞれ情熱的に生の声で語ってくれたせいか、セッションが進むうちに講師と参加者の間の垣根が取り払われ、会場全体がひとつの目的意識をもっている空気に包まれていったのはしごく幸いであった。つづく2日目の公開シンポジウムとワークショップ「ギャラリー・トーク」でも、参加者による活発な発言が印象的であった。

千葉らしさや首都圏におけるアート活動を追求したわけではなかったものの、それまではただの顔見知り程度にすぎなかった本セッション実行委員会のメンバー9名が、お互いの考えを再認識することができたこと、さらにはその輪が参加者全員にまで広がったことが、千葉でのアートをめぐるネットワークづくりにおいて、大いなる一歩をしるしたのはまちがいないだろう。今後の具体的なプロジェクトへの発展を、次なる課題としたい。　（99年7月）

Vol. 19　1999年1月

## まちにひろがるアート―コミュニティシアターの可能性

札幌セッション　演劇-9

札幌舞台芸術家協議会代表　松崎霜樹

北海道における舞台芸術周辺の環境整備と、将来的な展望を見据えた趣旨で開催の運びとなった「北海道舞台塾」は、現北海道知事の選挙公約にあった公立ホール「道立劇場（仮称）」設立実現のための、ソフトコンテンツづくりに向けての前哨戦である。

驚くべきことに、その共催として開催された今回のTAMは、「まちにひろがるアート～コミュニティシアターの可能性」と題されていたにもかかわらず地元舞台芸術関係者にしてみれば「意識外」の存在であったようだ。

のべ動員数1万人以上というお祭り的イベントのさ中、2日間に渡っておこなわれた本プログラムのうち「地域社会とアート」「コミュニティアートを担うシステム」などのセッションは、今後の公共ホールが担うべき役割を十分に示唆する内容であったのだが、残念ながら地元舞台芸術関係者の参加は皆無で、医療・福祉関係者や教育・生涯学習などに興味をもつ方々が大部分を占めていたし、その方々からの疑問の声もあった。

今回は「北海道舞台塾」のみならず「日本劇作家大会北海道大会」併催と、全体プログラムの多さもあり、別会場に分かれたことも原因のひとつと考えられるのだが、「コミュニティアート」や「地域社会」のキーワードは、北海道の舞台芸術関係者にとって興味を引かなかったようなのだ。地元舞台芸術関係者が、自分たちこそが「コミュニティアート」の当事者のひとりであることを、どの程度認識しているかを推測するうえでも、今回の共催というプログラムは興味深かったわけだ。

地域内のさまざまな「コミュニティアート」の活動が、地域の文化を育み、支えていくことは自明の理であり、今後、地元に密着した「アートプログラム」を生み出すうえでも「アートマネジメント講座」の周期的開催を望みたい。無論、舞台芸術関係者のみならず、さまざまなカテゴリーからの市民参加を願って。　（99年7月）

Vol. 20　1999年2月-3月

## 音楽との新しい出会いをもとめて

佐世保セッション　音楽-4

デュエトリオ・コンソート代表　松尾　望

TAM'99佐世保セッション（音楽編）では、2001年完成予定の県民文化ホールのオープンの前に市民や音楽愛好家の方にアートマネジメントの役割に関心をもってもらい、芸術活動と地域社会のかかわりに市民の参加意識を高めることにより、文化による「まちづくり」を考えるきっかけになればと思い、2日間の講座とトークコンサートによるワークショップを企画しました。

講座ではまず、音楽を通した「まちづくり」で全国の草分けとなった「ゆふいん音楽祭」や、福岡を中心に室内楽の音楽会を運営された方から報告をいただき、それぞれの20数年に渡る活動で、音楽家の信頼を得て、「手作り」の音楽会を一過性のものでなく継続させてこられたお話をいただきました。また、カザルスホールや水戸芸術館の専門スタッフからは、室内楽の愉しみ方を例に音楽会のプログラムづくりのポイントを聞きました。奏者（音楽）と聴き手の親密な出会いから、地域文化とアートマネジメントのかかわりをあらためて学び、その多様性を知ることができたと思います。

長崎県では、すでに大村市の「シーハットおおむら」や、長崎市の「ブリックホール」などが昨年誕生し、公共ホールの活用法や問題意識の共有など、互いの交流の必要性を語る声も聞かれていましたが、今回の県内初の本格的なアートマネジメント講座の試みには、県内にとどまらず九州各地や広島、東京、北海道からの参加もあり、アートと地域を結びつけるアートマネジメントの役割の意義深さと、それを担う人々の熱意を感じることができました。開催にあたり、地元の関心が得られず苦労しましたが、これから地域に根ざしたアートマネジメントから芸術文化を発信し、その役割が多くの方へ広まることを期待したいと思います。　（99年7月）

Vol. 21　1999年3月

## アートはつかれる？ ― 回路を開く―

高知セッション　美術-7

高知県文化財団企画課　藤田直義

「アートはつかれる?」。このタイトル、実はプログラムが決まった後で今回の講座のパネリストのお一人から提案のあったものである。思わず笑ってしまったが、半年以上立場も仕事内容も問題意識も微妙に異なる9名の実行委員が会合を重ね、さらにTAM運営委員の森氏や熊倉氏との協議を経て開催にいたるトヨタ・アートマネジメント講座は、見方を変えれば相当疲れる作業だったのである。

冗談はさておき、熱心なアートマネージャーならこのタイトルに共感いただけると思っていた。アートマネージャーの仕事というのは、官民問わず大変なエネルギーを要するからだ。本講座は、サブタイトルに「回路を開く」とつけてあるように、価値観の違う社会とのコミュニケーションの方法を身につけ、エネルギーの省力化を図ることが目的であった。具体的には企画書のつくり方と企業へのプレゼンテーション・シミュレーションに時間を割き、その他の部分は地元パネリストの事例報告を中心に、高知県の文化政策のキーパーソンである橋本大二郎高知県知事にも登場願った。その結果、幅広いジャンル、セクターからの一般参加者は93名と定員を大きくオーバー、当初の目標のひとつであった出会いと交流の場はかなり達成した模様である。また、今年5月に高知県が四国銀行に委託したNPO支援公益信託の助成金審査方法が、書面審査ではなく公開プレゼンテーションと決まっており、本講座はタイムリーな模擬審査会となった。

ただ、私自身は本講座の1週間前に倒れてしまい、「アートはつかれる!」ことを身をもって証明してしまった。
（99年7月）

報告書問合せ先：〒780-8123 高知市高須353-2 高知県立美術館内 高知県文化財団企画課
Tel. 088-866-8006　Fax. 088-866-8008

TOYOTA

Vol. 14
トヨタ・アートマネジメント講座
東京会議 '98

7 29 WED / 30 THU

# アートマネジメントの力

東京会議 '98

## 東京国際フォーラム

7月29日(水) 分科会「3つのアクションプラン―アートマネジメント次の一手」
7月30日(木) 全体会議「報告―3つの分科会から」
シンポジウム「アートマネジメントの力―才能をさがせ!」

参加費　2000円(2日間通し)

## 秘めたるパワーを探し出せ―音楽・美術・舞台芸術クロストーク

アートマネジメントはまだまだ持てる力のすべてを発揮しているとはいえません。メセナ、文化行政、アートによる街おこし、教育普及と生涯教育、ワークショップや市民参加…。日本の芸術環境が大きく変容したこの10年、アートと社会は少しずつ新たな融合を果たしてきました。しかし、未来の芸術を育むマネジメントはこれからが本領発揮です。時代を切り拓くアートの力を社会に活かす、次のアクションプランを具体的に探る時が来ているのです。そのために先端的な模索の現場から、さまざまな実験に携わる人々が東京に集います。右往左往の中から見えてくるアートマネジメントの力とは?開かれた議論の場で今回取り上げるのは「参加型アート」「観客創造」「社会のドア」の3つのテーマ。それぞれ音楽・美術・舞台芸術、ジャンルの垣根を越えて方法論とヴィジョンを提示しあいます。

●「トヨタ・アートマネジメント講座」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として96年から各地で開催されています。これまでに11都市で11回の講座が開催され、それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索してきました。東京会議'98では、これまで各地で提起された問題を踏まえ、これからのアートマネジメントの方向を探ります。

# 東京会議 '98 アートマネジメントの力

## 3つのアクションプラン—アートマネジメント次の一手

**29**

**分科会**
ガラス棟会議室
14:00～18:30
定員　各90人

分科会1
402会議室

### 「参加型アート」のゆくえ
「市民参加」と「アート」の違いを明らかにする

ワークショップに市民オペラ、公共ホールの増加とともに観客参加型のプログラムが人気を集めています。芸術の市民化は、プロの芸術家の創作活動にどのような影響を及ぼしつつあるのか、「作品」はどこまで開かれていくのか。創造の原点を再考します。

モデレーター　市村作知雄（舞台芸術プロデューサー）
パネリスト　衛　紀生（演劇評論家・地域文化オーガナイザー）
高萩　宏（世田谷パブリックシアター制作課長）
中村　透（沖縄県佐敷町シュガーホール芸術監督）
藤　浩志（美術作家・プラントデモンストレーション代表）

分科会2
502会議室

### 今、もとめられている観客創造とは
オーディエンスとの新たな出会い

お手軽なものが好まれる時代にあって、アートは「難解、高尚、敷居が高い」と敬遠されがちです。現代芸術の観客は首都圏ですら数千人といわれる中で、アートの面白さをどのように伝えていくか、アートの極意を垣間見せるには…。そうしたメソッドを探ります。

モデレーター　西巻正史（水戸芸術館コンサートホールATM主任学芸員）
パネリスト　後藤龍伸（九州交響楽団コンサートマスター）
高橋直裕（世田谷美術館教育普及課学芸員）
平田オリザ（劇作家・演出家・劇団青年団主宰）
福のり子（インデペンデント・キュレーター）

分科会3
510会議室

### 社会のドアを開くには
メセナ・ボランティア・NPO...

社会システムの変革にアートが取り残されないために、従来の枠を越えたマネジメント戦略が求められつつあります。きたるべき市民社会でアートを支え、機能する場を与えてくれるのは誰なのか。あなたは、ドアを開ける鍵を正しく見分けられますか?

モデレーター　森　司（水戸芸術館現代美術センター学芸員）
パネリスト　一宮　均（PAW YOKOHAMA代表）
加藤種男（アサヒビール企業文化部次長）
野口　修（クリエイティブハウスアクアク主宰・つくば市会議員）
宮本初音（ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長）

## アートマネジメントの力—才能をさがせ!

**30**

**全体会議**
ホールD
定員　270人

報告
13:00～14:30

### 3つの分科会から

分科会のモデレーターが集まって、前日の討議内容を報告します。3つのジャンルによる3つのテーマのアクションプランを総括すると、それぞれのテーマの相関関係と、ジャンルごとの温度差が見えてきます。

分科会1　市村作知雄
分科会2　森　司
分科会3　西巻正史
司　会　熊倉純子（企業メセナ協議会プログラム・ディレクター）

シンポジウム
15:00～16:30

### アートマネジメントの力
才能をさがせ!

アクションプランを可能にしてくれる主役は誰なのでしょう。アートの消費を加速するマネジメントではなく、時代を切り拓く才能を発掘し、サポートするマネジメントを考えます。

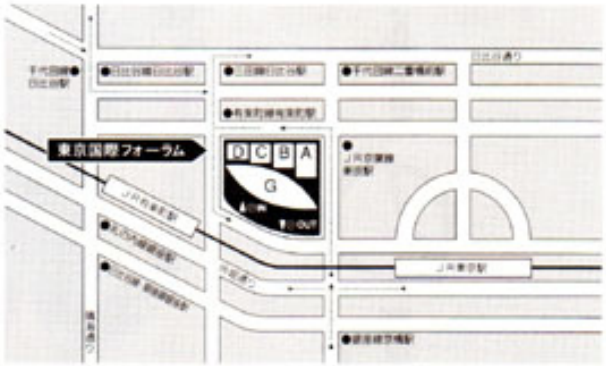
ゲストパネリスト　加藤種男（アサヒビール企業文化部次長）
高萩　宏（世田谷パブリックシアター 制作課長）
関島領一（美術作家）
ホストパネリスト　市村作知雄・森　司・西巻正史
司　会　熊倉純子

**受講申込方法**
以下の項目を明記の上、（社）企業メセナ協議会のTAM運営委員会事務局まで、郵便、FAX、またはE-mailでお申し込みください。（電話での申込は不可）
希望者多数の場合は先着順となります。

1　氏名
2　職業（団体名）
3　連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail address）
4　参加希望日
5　参加希望分科会（第1希望と第2希望）
6　懇親会への参加の有無（29日 19:00～　別途会費5000円程度を予定）

・参加費　2000円（2日間通しのみ。当日受付にて申し受けます。）
・上記プログラムは都合により変更になる場合もあります。

**お申し込み先**
TAM運営委員会事務局
〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1　有楽町マリオン13F　（社）企業メセナ協議会
FAX：03-3215-6222　E-mail：mecenat@kt.rim.or.jp




A:ホールA　B:ホールB　C:ホールC
D:ホールD　G:ガラス棟会議室
●JR線：東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅と地下1階コンコースにて連絡）有楽町駅より徒歩1分
●地下鉄：有楽町線有楽町駅と地下1階コンコースにて連絡
---► 車輌進入路

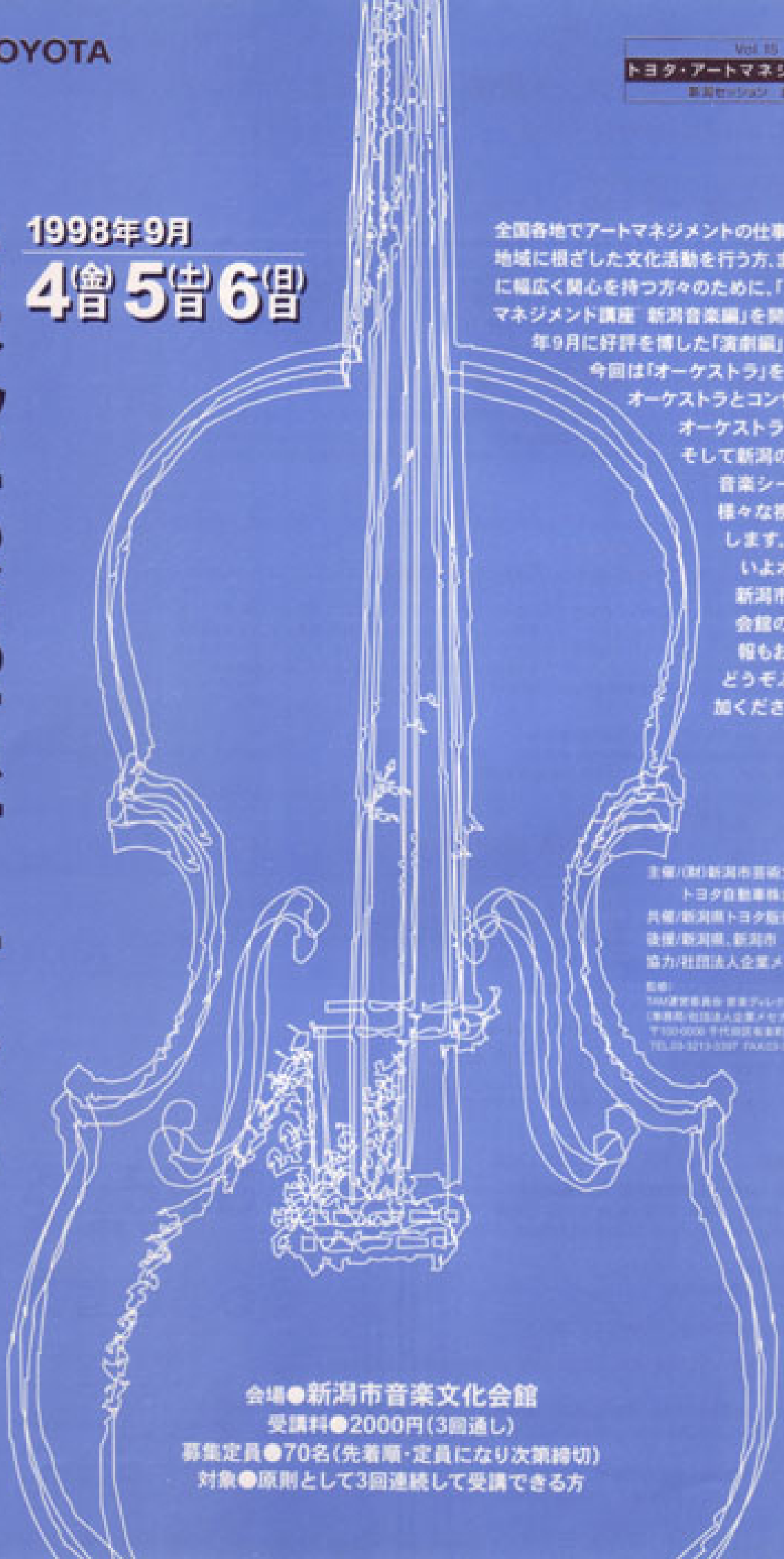
TOYOTA

Vol.15
トヨタ・アートマネジメント講座
新潟セッション 音楽-3

# きほんにもどって、オーケストラ

1998年9月
4(金)日 5(土)日 6(日)日

全国各地でアートマネジメントの仕事に携わる方、地域に根ざした文化活動を行う方、また芸術文化に幅広く関心を持つ方々のために、「トヨタ・アートマネジメント講座 新潟音楽編」を開催します。昨年9月に好評を博した「演劇編」に引き続き、今回は「オーケストラ」をテーマとし、オーケストラとコンサートホール、オーケストラと地域社会、そして新潟のこれからの音楽シーンについて様々な視点から考察します。10月にいよいよオープンする新潟市民芸術文化会館のホットな情報もお伝えします。どうぞふるってご参加ください。



主催/(財)新潟市芸術文化振興財団
トヨタ自動車株式会社
共催/新潟県トヨタ販売会社グループ
後援/新潟県、新潟市
協力/社団法人企業メセナ協議会

監修:
TAM運営委員会 事業ディレクター 長谷 正光
(事務局)社団法人企業メセナ協議会内
〒100-0006 千代田区有楽町マリオン1F
TEL03-3213-3397 FAX03-3215-4222

会場●新潟市音楽文化会館
受講料●2000円(3回通し)
募集定員●70名(先着順・定員になり次第締切)
対象●原則として3回連続して受講できる方

# トヨタ・アートマネジメント講座 新潟音楽編

## ―きほんにもどって、オーケストラ―

### 4日(金) 18:30～21:15 於:ホール
### Ⅰ 第一部「アートマネジメントとは」

過去10年近くに渡って、全国各地で高度な芸術専門施設の建設が相次ぎましたが、必ずしもその建物にふさわしい運営がされず、ハードが充分に活用されていないのが現状です。企業、行政などの組織を経営・管理すること、あるいは「ビル管理」と、芸術・文化の運営・管理＝マネジメントとは、どう異なるのでしょうか。オーケストラ、コンサートホール、劇団、美術館など芸術団体のマネジメントは、何が特別なのでしょうか。芸術運営に携わるスタッフが認識すべき点を明らかにします。

講　師:西巻 正史(水戸芸術館 主任学芸員)

### 第二部「オーケストラの歴史―オケって19世紀の遺物?」

学校の音楽教室などで、オーケストラの楽器編成については誰でも学ぶ機会があっても、「オーケストラ」という組織はどのように誕生したのかを知る機会は少ないはずです。現代においては、ともすれば、非生産的で「19世紀の遺物」と揶揄されるこの音楽家集団の歴史と役割を探ります。講師には新進気鋭の若手作曲家・指揮者の伊東 乾氏を招きます。

講　師:伊東　乾(指揮者・作曲家)

### 5日(土) 14:00～16:30 於:練習室1
### Ⅱ「ホールと手を結ぶオーケストラ―その効果について」

日本では、専門のコンサートホールの数は増えたものの、「ホールの住人」となるオーケストラを専属にもつ所はまだ多くありません。そんな中でホールと提携したオーケストラ、また専属のオーケストラを組織したホールの例を聞き、お互いにどんな効果があるのかを検証します。すみだトリフォニーホールを本拠地とする新日本フィル、レジデントアンサンブルを持つ水戸芸術館からゲストを迎え、新潟市民芸術文化会館コンサートホールと東京交響楽団の理想的な関係についても考察します。

ゲスト:西巻 正史
　　新日本フィルハーモニー交響楽団の楽団員
　　宮原 源治(新潟市芸術文化振興財団 参事)
進　行:稲葉 麻里子(新潟市芸術文化振興財団事業課 主査)

### 6日(日) 14:00～16:30 於:練習室1
### Ⅲ「オーケストラと地域社会―わが街の楽隊のサポーターになろう」

地元の野球チームやサッカーチームを応援するように、地域の人々に親しまれるオーケストラとは、どんな存在なのでしょうか。停滞しているといわれるクラシック人口を増やし、「明日の聴衆」を育てるために、オーケストラは何をすべきでしょうか。また、新潟の現在の音楽状況に必要なものは何でしょうか。オーケストラ、そしてコンサートホールが地域に根づくための条件を、第一線の現場で仕事をする専門家と、新潟のリスナーとしての音楽愛好家の声をまじえ、共に探ります。

講　師:森 千二(すみだトリフォニーホール館長補佐兼ゼネラルプロデューサー
　　新潟市民芸術文化会館アドヴァイザリープロデューサー)
　　吉井 實行(仙台フィルハーモニー管弦楽団 事務局長)
ゲスト:新潟の音楽愛好家
進　行:稲葉 麻里子

※9月5日(土)に新潟市民芸術文化会館の見学も行う予定です。

### 受講申込方法

以下の4項目を明記の上、新潟市芸術文化振興財団アートマネジメント講座係(担当:稲葉)まで、郵送またはFAXでお申し込みください。(電話では受け付けいたしません)
定員を超えてから申し込まれた方にのみ、ご連絡しますので、ご了承ください。
・氏名
・職業:所属、部署
・連絡先:住所、電話・FAX番号
・受講を希望する動機
受講料2,000円は開催初日に会場受付で申し受けます。

### 受講お申込・お問い合わせ先(8/29～31は事務所移転のため受け付けられません)

8月28日(金)まで
〒951-8550　新潟市学校町通1番町602番地1　新潟市役所市民文化会館整備課内
TEL.025-224-5616　FAX.025-228-8620

9月1日(火)より
〒951-8132　新潟市一番堀通町3番地2　新潟市民芸術文化会館
TEL.025-224-5616　FAX.025-224-5626

### 会場:新潟市音楽文化会館

●ＪＲ新潟駅万代口(北口)より「昭和大橋経由入船町」行で「白山公園前」バス停下車、徒歩2分
●高速バス・その他「市役所前」バス停下車、徒歩7分
●高速道より…R8(新潟バイパス)「桜木インターチェンジ」より車で5分
●駐車場案内:市役所分館駐車場 有料 徒歩10分
(満車及び市役所で使用している場合は駐車できません)

TOYOTA

Vol.16
トヨタ・アートマネジメント講座
横浜セッション　演劇-7

『コミュニティーアートとしての演劇』

# 横浜から新しい波は起こせるか

## 1998年9月15日[火・祝]-9月20日[日]

横浜市泉区民文化センター **テアトルフォンテ**

### 横浜の演劇は元気ですか?

横浜は、近代文明流入の地として先進文化を発信してきた歴史を持つ街です。
それは演劇に関しても例外ではなく、近代演劇の基礎を創ってきた街でもあるのです。
しかし、最近では横浜独自の動きを創るには各方面からの協力が必要なのが現状です。

「トヨタ・アートマネジメント講座」では『演劇』『音楽』『美術』の各ジャンルにおける芸術と社会の関係に焦点を当て、同時代芸術をより地域社会に開かれたものにしていくための方法を98年度から全国各地で模索しています。

今回の連続講座では「コミュニティーアートとしての演劇」と題して、地域からどうやって演劇を発信していくことが可能なのか、そのためにやらなければならないことは何なのか。私たちは横浜の現状を検証し、他都市の事例なども参考にアートマネジメントの視点から、演劇を育成していくシステム作りを探り、行政、企業と連携して今後の展開へつなげていきたいと考えています。

演劇に関心のある人、アートマネジメントに興味のある人の参加をお待ちしています。

...to find your own way.

# 『コミュニティーアートとしての演劇』 1998年9月15日[火・祝]—9月20日[日]

横浜から新しい波は起こせるか

## 15 シンポジウム

テアトルフォンテ　ホール

### 『喰える演劇』

9/15[火・祝]14:00〜17:00

役者にとって、演出家にとって喰える演劇とはどのような状況を指すのか。演劇が地域に受け入れられるような状況になるなら、それは公共ホールにとっても喰える演劇になるのでは。

パネリスト　西川信廣　演出家(文学座)　　松田正隆　劇作家
　　川村　毅　第三エロチカ主宰・劇作家　　五大路子　俳優
司　会　　松井憲太郎　演劇評論家

## 19

テアトルフォンテ　ホール

### 『演劇を育てる』

9/19[土]14:00〜17:00

地域から演劇を発信していくには何をしていけば良いのか。最近では教育の中にも演劇を取り入れていく動きがあります。市民・行政・演劇人が連携して、地域から育てていくという視点で探ってみます。

パネリスト　小宮山智津子 世田谷パブリックシアター学芸係　　坂田裕一 前盛岡劇場事業係長
　　能祖将夫 青山劇場こどもの城　　多田慶子 俳優(かもねぎショット)
司　会　　衛　紀生 演劇評論家

## 20

テアトルフォンテ　ホール

### 『横浜の演劇・現状と今後を探る』

9/20[日]14:00〜17:00

横浜には芸術文化マスタープランなどすばらしい理念が発表されています。さあ、後は実行あるのみ。そのためには何から手を着けていけばいいのか。そこを探ります。

パネリスト　岡村　一　横浜市市民局文化企画課長
　　飯田克衛　横浜演劇研究所所長
　　遠藤啄郎　横浜ボートシアター代表
　　間瀬勝一　(財)横浜市文化振興財団　テアトルフォンテ館長
司　会　　一宮　均　PAW YOKOHAMA代表

## 15 セミナー

テアトルフォンテ　会議室

### 『松田正隆 劇作を語る』

9/15[火・祝]19:00〜21:00
9/17[木]　19:00〜21:00

## 17

講　師　松田正隆　1962年長崎県生まれ。立命館大学文学部卒。
1990年劇団『時空劇場』設立。以後同劇団の全作品を作・演出する。
1997年『時空劇場』解散。
代表作『坂の上の家』第1回OMS戯曲賞大賞受賞
『海と日傘』　第40回岸田國士戯曲賞受賞
『月の岬』　第5回読売演劇大賞最優秀作品賞受賞

◎9/15[火・祝]11:00amから『月の岬』のビデオ上映を行います。

## 18 ワークショップ

テアトルフォンテ　ギャラリー

### 『からだとことばのレッスン —私に出会う、あなたに出会う』

9/18[金]19:00〜21:00
9/19[土]14:00〜21:00
9/20[日]10:00〜13:00

## 19

## 20

講　師　竹内敏晴　1925年生まれ。ぶどうの会、代々木小劇場を経て71年より竹内演劇研究所を開き、ワークショップの可能性を探る。宮城教育大、東京大学教育学部、南山大等で教鞭を執り表現及び人間関係の講義を行う。
現在「からだ'98」を主催している。
主な著書「ことばが劈かれるとき」ちくま文庫
「日本語のレッスン」講談社現代新書
「からだ・演劇・教育」岩波新書

...to find your own way...

■会場
横浜市泉区民文化センター
**テアトルフォンテ**
(いずみ中央ライフ3F)

■料金
シンポジウム
一回　¥500
三回通し¥1000
セミナー・ワークショップ
一回　¥500

■問い合せ
●テアトルフォンテ
TEL 045−805−4000
受付9:00〜21:00
火曜日休館日
●横浜事務局
PAW　YOKOHAMA
一宮　均
TEL 010−262−5520

■受講申込方法
8月1日(土)からテアトルフォンテまで電話でお申し込み下さい。
TEL 045−805−4000・
ワークショップは定員20名。申し込み先着順とさせていただきます。

会場までの交通
相鉄線/横浜駅より23分、急行-二俣川駅でいずみの線に乗り換え終点
いずみ中央駅より徒歩2分
神奈中バス/
泉区総合庁舎前より徒歩3分
いずみ中央駅より徒歩2分

いずみ中央ライフ3F

正面入口階段からお入りになれない方は、電話をいただければエレベーターをご利用できます。

トヨタ・アートマネジメント講座に関するお問い合わせは
TAM運営委員会事務局
100-0006　東京都千代田区
有楽町2-5-1　有楽町マリオン13階
㈱企業メセナ協議会
TEL.03-3213-3397
FAX.03-3215-6222

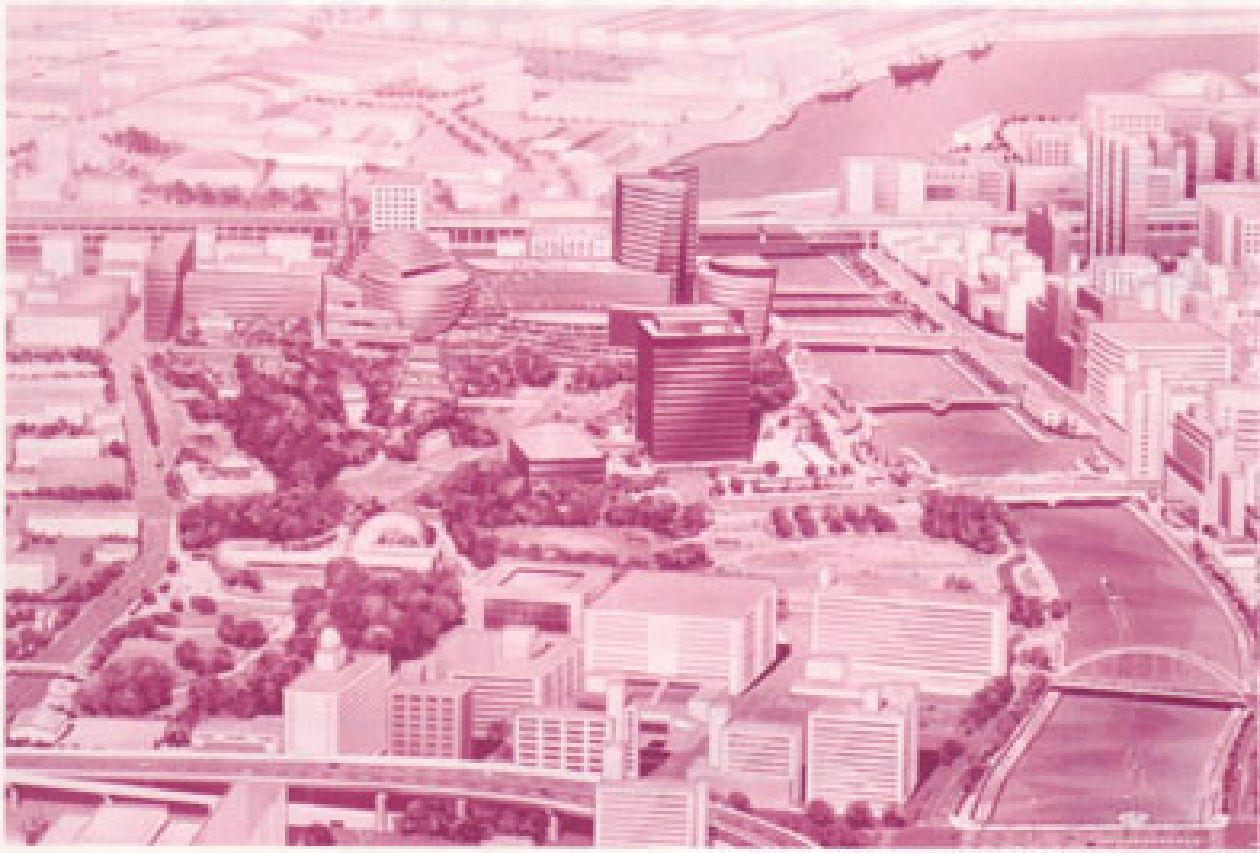
TOYOTA

Vol.17
トヨタ・アートマネジメント講座
北九州セッション　演劇-B

ART MANAGEMENT

# 「芸術文化でまちを育てる」

（演劇セッション）



■北九州市の文化発信地となるマイタウン・マイリバー事業計画

日　時　1998年10月10日［祝］・11日［日］

会　場　北九州国際会議場（21会議室・32会議室）

定　員　50名

受講料　1,500円（2日間通し）

主　催　トヨタ自動車株式会社・アートマネジメント講座実行委員会
共　催　福岡県トヨタ販売会社グループ
監　修　TAM運営委員会（舞台芸術ディレクター・市村作知雄）
協　力　社団法人企業メセナ協議会

地域の文化施設整備が進むなか、ますます、施設の中身となるソフト事業を充実させていく必要性が高まっています。特に、地域の芸術文化振興を担う人材の育成は時間と手間が掛かるため急務とされています。

このようなソフト分野における課題に対して、演劇を中心としたアートと観賞者を結び付ける人材の育成と地域における芸術のあり方を探る講座を開設します。

講座では、アーティストやアートマネジメントにかかわる講師を招き、今後の舞台芸術について考えながら、出会いと交流の場をつくります。さらに新たに企業やまちづくりの関係者等による幅広い、ホールを支えるネットワークをつくり出します。

TOYOTA

Vol.17
トヨタ・アートマネジメント講座
北九州セッション　演劇-8

# 「芸術文化でまちを育てる」

## （演劇セッション）

### 1　10月10日〔祝〕　21会議室

**『人を育てる』**

第一部（マーケティング・流通ルート開拓等）…13:00~14:15
パフォーマンス（Stringraphy）……15:00~15:30
第二部（人材育成プログラム等）……15:45~17:00

ホールを軸に、それを取り巻いている観客、実演者そして舞台技術者を地域でどう育てていけばよいのか。マーケティングや流通ルート開拓の手法、人材育成プログラムのあり方などを通して考えます。

■小坂　弘治　（株）博多座 総支配人
■松本　雄二　子ども劇場北九州連絡会事務局長・北九州演劇祭実行委員会副委員長
■村上　完売　チケットぴあ九州（株）取締役
■水嶋　一江　作曲家・パフォーマー
■市村作知雄　TAM舞台芸術ディレクター

### 2　10月11日〔日〕　32会議室

**『メセナで育てる（企業と文化）』**　13:00~14:45

21世紀には社会が大きく変わり、メセナの環境も変転していきます。これからの地域はどのような夢やビジョンでメセナの舞台を育んでいくのかを考えます。

■川越　光夫　東陶機器（株）文化推進部部長
■清永　　彰　（株）ケイ・プラン取締役支配人
■岡部　修二　トヨタ自動車（株）広報部社会文化室室長
■熊倉　純子　（社）企業メセナ協議会プログラムディレクター

### 3　10月11日〔日〕　32会議室

**『ホールを育てる（地域における公立ホールの役割）』**　15:15~17:00

受け身の「貸し館」ではなく、地域を文化的なまちにするために、自主事業を中心とした積極的に活動する「主体」としての公共ホールを考えます。

■草加　叔也　空間創造研究所
■嘉島克三郎　春日市ふれあい文化センター
■大嶋　　正　かめありリリオホール 副館長
■坪池　栄子　文化科学研究所 プロデューサー
■市山　裕之　北九州市職員研修所政策研究フォローアップ事業研究員

### ■受講申込方法

下記の4項目を明記の上、9月25日必着でアートマネジメント講座実行委員会まで、往復はがきにてお申し込みください。
（電話での申し込みは受け付けません。）

1.氏名
2.職業／所属、部署
3.連絡先／住所、TEL、FAX
4.受講を希望する動機

●募集定員　50名
希望者多数の場合は抽選を行い、結果は郵送にて通知します。

●受講料1,500円（2日間通し）は初日会場受付で申し受けます。出席できない日があっても返金はいたしませんので予めご了承ください。

●10月10日（土）18:00から懇親会を予定しています。（別途会費が必要です）

●プログラムは、都合により変更になる場合があります。

●受講申し込み、お問い合せ先

**アートマネジメント講座実行委員会**
〒803-8501
北九州市小倉北区城内1-1
北九州市建築都市局都心開発課
TEL093-582-2502
FAX093-582-2694

●トヨタアートマネジメント講座に関するお問い合せは

**TAM運営委員会事務局**
〒100-0006
東京都千代田区有楽町2-5-1
有楽町マリオン13階（社）企業メセナ協議会
TEL03-3213-3397
FAX03-3215-6222

### 会場

**北九州国際会議場**
北九州市小倉北区浅野3丁目9番30号

ART MANAGEMENT

TOYOTA

Vol.18
トヨタ・アートマネジメント講座
千葉セッション　展覧-6

アートの楽しみ。それは、美術作品とコミュニケーションのなかから生まれます。
時空を超えて作品と対話すれば、世界は思いがけず豊かになるでしょう。
アートは人が人として生きていくのに、もっとも必要なものかもしれません。
けれど、アートという宝の山をひとりで探っていくのは、そう簡単ではありません。
今、送り手でも受け手でもない「アートと人をつなぐための人材」が必要とされています。

「トヨタ・アートマネジメント講座」の千葉セッションでは、誰もがアートと幸せな出会いをし、その魅力を十分に享受できるために、仲立ちとなる「人」について、さまざまな視点から考えていきます。

# アートで人を育てよう！

**1998年10月24日（土）・25日（日）**

会場：千葉市美術館　受講料：3,000円（展覧会入場料込み）　募集定員：80名　（25日のシンポジウムは参加無料・定員200名）

主催：トヨタ自動車株式会社／トヨタ・アートマネジメント講座　千葉セッション'98実行委員会　共催：千葉県トヨタ販売会社グループ
後援：千葉県教育委員会／千葉市教育委員会／(財)千葉市美術振興財団　協力：社団法人企業メセナ協議会／川村記念美術館
監修：TAM運営委員会 美術ディレクター　森 司　（事務局＝社団法人企業メセナ協議会内　〒100-0006　東京都千代田区有楽町マリオン13F）

「トヨタ・アートマネジメント講座」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、'96年から全国各地で開催されています。
「美術」「演劇」「音楽」の3つのジャンルで行われるこの講座は、芸術活動を通じて地域社会を活性化するアート・マネージャーを各地に増やし、地元の密着したアート・プロデュースが行政、文化機関、市民などのなかで盛んになることを目的にしています。

トヨタ・アートマネジメント講座 千葉セッション

# アートで人を育てよう！

募集定員 80名

## 10月24日 土

千葉市美術館 11F講堂

**10：00～10：45**

**「アートの受け手から担い手にするには ～人を育てるアート・マネジメント～」**

林 寿美（川村記念美術館 学芸員）

アートと人、両者は切っても切れない関係にあります。美術作品には鑑賞者が必要であり、実りある人生を送るのにアートは大いに役に立つのです。その関係づくりに貢献する「人」の存在に注目して行われる本セッションの主旨を概説します。

**10：55～12：25**

**「学校からの実践：アートを通じて子どもたちを心豊かに育てたい」**

新保 育夫（市原市立清水谷小学校 校長）

目まぐるしく変貌し続ける社会のなかで、これほどまでに子どもたちが素早く順応するとは、誰が想像したでしょうか。このような状況下で、真の教育のあり方が問われ、大きな教育の改革が求められています。今こそ美術教育を通して、子どもたちを心豊かに育てるため、地域社会のアートのもつ夢と楽しさを伝えるべきなのです。明日の子どもたちのために。

＊昼休みを利用して、千葉市美術館「モスクワ国立東洋美術館所蔵 民族のかざり 中央アジアとコーカサスの美術」展をご覧ください（入場料は参加費に含まれています）。

**2：10 ～ 3：40**

**「イベント坊主の哲学」**

浜名 徳順（芝山仁王尊・観音教寺 副住職）
聞き手／宇野 洋子（㈱銀鈴社 代表取締役）

現代美術のつなぎ手が「仏様」をあらためて見直してみたら、そこは「手法」の宝の山。「夢見山イベント寺」こと千葉県内有数の古刹・芝山仁王尊の副住職、浜名徳順氏は、１５年前から三重塔などを使って音楽イベントや現代美術の展覧会を開催しています。たんなる文化好きにとどまらない副住職のエネルギー源は？

**4：00 ～ 5：30**

**「美術館が生まれ変わるために――美術ボランティアの役割」**

黒岩 恭介（前・北九州市立美術館 学芸員）
沼辺 信一（川村記念美術館 学芸員）

立派な建物、充実したコレクションと展覧会、見識ある学芸員。でも、それだけで美術館は機能しません。来館者がアートと幸せな出会いをはたすには、仲立ちとなる「人」の役割が不可欠です。日本で初めて美術ボランティアを送り出した北九州、一般からガイド・スタッフを募り、美術館教育に力を注ぐ川村。優れた人材を育て上げ、美術館の活性化をめざす２つの現場からのレポート。

**5：50 ～ 6：50**

**特設「アート・マネジメントQ&A」**

森 司（水戸芸術館現代美術センター 学芸員）
熊倉 純子（企業メセナ協議会 プログラム・ディレクター）

お金は、人は、情報は、いったいどうしたらいいの？アート・マネジメントを実践しようとするたびに沸いてくる問題の数々。この際だから聞いておきたい素朴な疑問に答える、特設アート・マネジメント・トークです。

**7：00 ～**

**懇親会 レストラン「かぼちゃわいん」にて**

＊参加費（3,000円）が別途必要です

講座の講師陣へ質問をしたり、参加者同士の交流を深めてもらうためのパーティです。新たなネットワークを築くチャンスにもなるでしょう。ふるってご参加ください。

## 10月25日 日

千葉市美術館 11F講堂

**10：00～12：00**

**公開シンポジウム「アートで人を育てよう！」**（シンポジウムのみ参加無料・定員200名）

長田 謙一（千葉大学教育学部美術科 教授）
米田 耕司（千葉県立美術館 副館長）
酒井 清一（千葉県立船橋北高等学校 教諭）
司会／永山 智子（佐倉市立美術館 学芸員）

前日行われた５つの講座を振り返りつつ、「アートで人を育てる」可能性について、さまざまな角度から考察します。

＊昼食後、川村記念美術館への移動にはバスをご用意いたします。集合場所・時間については当日会場でご案内をさしあげます。

**2：30 ～ 4：30**

**ワークショップ「ギャラリー・トーク探訪」**

小グループに分かれ、川村記念美術館で「なぜ、これがアートなの？」展を見学しながら、ディスカッション形式のギャラリー・トークに参加します。トーカーとなる同館のガイド・スタッフの生の声にぜひ耳を傾けてください。

＊お帰りは自由ですが、千葉市方面へのバスもご用意いたします。

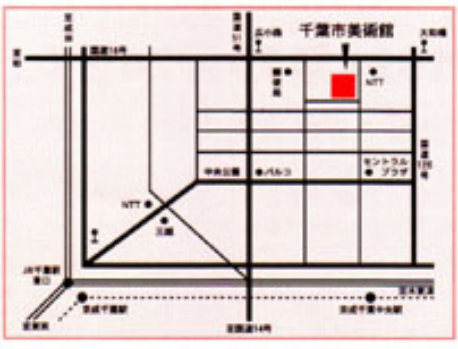
【受講申込方法】

《氏名》《職業／所属団体名》《連絡先／住所・TEL・FAX》《懇親会への参加の有無》を明記の上、「トヨタ・アートマネジメント講座 千葉セッション実行委員会事務局」まで、郵送またはＦＡＸでお申し込みください（電話での申込はご遠慮ください）。
希望者多数の場合は、先着順とさせていただきます。

●受講料3,000円は、初日に会場受付にて申し受けます。 ●上記プログラムは、都合により変更になる場合があります。

【交通案内】

●JR総武線千葉駅東口より徒歩15分 ●JR千葉駅東口より 京成バス大学病院行（のりば7）「大和橋」下車徒歩2分
京成バス矢作台市営住宅・川戸行（のりば7）または小食バス八幡宿駅行（のりば4）「広小路」下車徒歩1分
無料巡回バス「チーバス」（のりば19）「中央区役所・美術館前」下車（11：00-18：00の毎時05分と35分に出発）
●京成千葉中央駅東口より徒歩10分 ●自家用車でのご来場はご遠慮ください。




【お問い合わせ先】

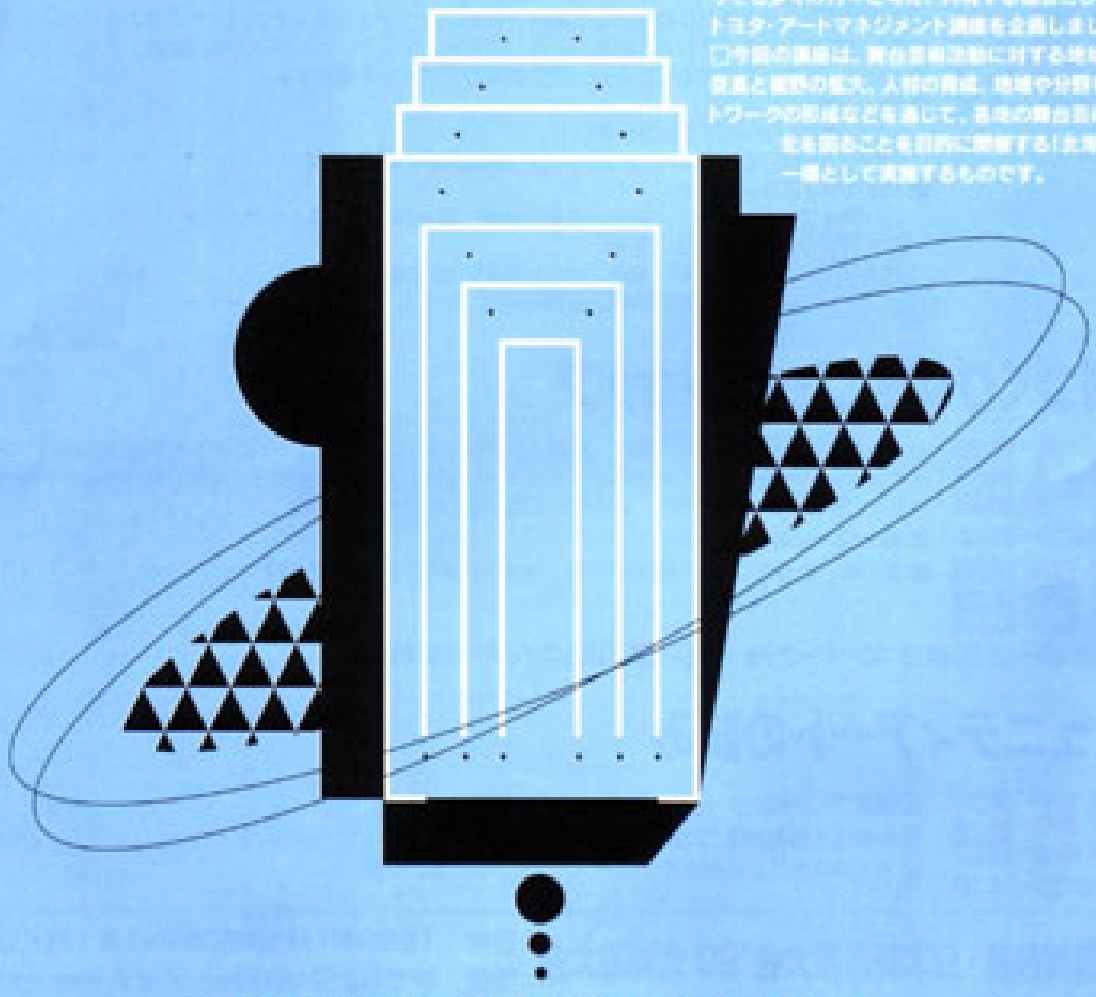
トヨタ・アートマネジメント講座 千葉セッション実行委員会事務局
〒263-0023 千葉市稲毛区緑町1-26-8-203 TEL：(043)244-0392 FAX：(043)244-9625

TOYOTA

Vol.19
トヨタ・アートマネジメント講座
札幌セッション 連動④

# まちにひろがるアート
## コミュニティシアターの可能性

□80年代から90年代にかけて盛んに建設された公共ホールは、財政事情の悪化のなかで、いま、その社会的使命のあり方が問われています。
□一方では、子どもたちを取り巻く教育環境、高齢者のコミュニティでの孤立化、求められる真のバリアフリー社会、経済危機のなかでの青年失業者の急増など、すぐにでも取り組まなければならない社会的課題は山積しています。
□地域社会におけるアートマネジメントとは、これらの社会的ニーズと劇場経営手法の一致をめざして「新しい価値」を創造することにほかなりません。
□21世紀――その到来の時代に求められる劇場経営と舞台芸術の可能性をひとりでも多くの方々と考え、共有する機会として、私たちは今回のトヨタ・アートマネジメント講座を企画しました。
□今回の講座は、舞台芸術活動に対する地域の皆さんの参加の裾野と範囲の拡大、人材の育成、地域や分野を越えた広範なネットワークの形成などを通して、各地の舞台芸術活動の一層の活性化を図ることを目的に開催する「北海道舞台塾」の取組の一環として実施するものです。



**1999●1/14木15金**

**札幌市教育文化会館**（札幌市中央区北1条西13丁目）

参 加 費／2,000円（2日通し・高校生以下 1,000円）

募集定員／100名（先着順）

試される大地 北海道

［主　催］トヨタ自動車株式会社／北海道舞台塾実行委員会　［共　催］札幌地区トヨタ販売会社グループ

［後　援］北海道新聞社／朝日新聞北海道支社／毎日新聞北海道支社／読売新聞北海道支社／日本経済新聞社／産経新聞社札幌支局／NHK札幌放送局／北海道放送／札幌テレビ放送／北海道テレビ放送／北海道文化放送／テレビ北海道／道新スポーツ／スポーツニッポン新聞北海道支社／報知新聞北海道支社／日刊スポーツ新聞北海道本社／AIR-G' FM北海道／エフエムノースウェーブ　［協　力］社団法人企業メセナ協議会　［企画協力］衛　紀生

［監　修］TAM運営委員会　舞台芸術ディレクター 市村作知雄（事務局 〒100-0006東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン13階　社団法人企業メセナ協議会内）

Vol.19
トヨタ・アートマネジメント講座
札幌セッション　演劇-9

# まちにひろがるアート
## コミュニティシアターの可能性

トヨタ・アートマネジメント講座は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として全国で開催されるものです。本講座は非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアートマネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが行政・文化機関・市民などさまざまなレベルで盛んになることを目的とするものです。

### 講演とパネルディスカッション① 地域社会とアート

**1/14 木**
●14:30～18:00

こども、高齢者、障害者など様々な対象と共に続けられているコミュニティアーツプログラムの事例とその成果を、ビデオ等をまじえて紹介し、地域社会と共にあるアートについての認識を広げる。

■講　演
川口　淳一／作業療法士・老人保健施設ふらの勤務
「演劇リハビリの実際～長崎のこのこの会、ふらの老健における事例を中心に」

■パネルディスカッション
コーディネーター　松崎　霜樹／A.G.S.(札幌舞台芸術家協議会)代表・演出家・俳優
コメンテーター　川口　淳一
パネリスト　坂口　芳貞／文学座・演出家・俳優
尾田　浩／釧路演劇集団事務局長

### 講演とパネルディスカッション② コミュニティアートを担うシステム

**1/15 金**
●14:30～18:00

公立劇場が担うべき新たな役割として期待されているコミュニティアプローチの重要性について認識を深め、その実り豊かな実現に必要とされる仕組みづくり、コミュニティアーツ・ワーカーの育成、アーティストのスタンスのありかたなど、まちと共にあるあたらしい公立劇場のデザインを検討する。

■講　演
中山　夏織／アーツ・コンサルタント
「演劇と地域のパートナーシップ～英国の地域劇場を事例として」

■パネルディスカッション
コーディネーター　衛　紀生／演劇評論家・舞台芸術環境フォーラム代表
コメンテーター　中山　夏織
パネリスト　高野　泰造／(財)北海道文化財団副理事長
松井憲太郎／世田谷パブリックシアタープロデューサー

### 演劇づくり体験ワークショップ

**1/14 木**
●19:00～21:00
**15 金**
●10:00～12:00 ●13:00～ワークショップ成果発表(コミュニティアートの試み)

リラクゼーション、呼吸法、発声、発音、シアターゲーム、エチュードなど演劇の基礎訓練の一端を体験することにより、アートを通じて人と人とのコミュニケーション、共感、信頼など、地域社会の基盤が培われることを実感し、コミュニティアートの可能性、重要性を認識することを目的とする。

■講　師　松崎　霜樹
■定　員　参加者15名／見学者15名　※事前にお申し込みください

### コミュニティアートの試み

**1/15 金**
●13:00～14:30

①演劇づくり体験ワークショップ　成果発表
②札幌ろうあ者劇団「舞夢」発表
③視力障害者による朗読劇グループ「うそっぷの会」発表

**北海道舞台塾・日本劇作家大会'99 北海道大会**
日時：1999年1月14日(木)～1月17日(日)
場所：かでる2.7(道民活動センタービル) 札幌市中央区北2条西7丁目

■ 受講申込方法
〈氏名〉〈職業／所属団体〉〈連絡先／住所・TEL・FAX〉を明記の上、「北海道舞台塾実行委員会事務局」まで郵送又はFAXでお申し込みください。(電話での申込みはご遠慮ください)
希望者多数の場合は、先着順とさせていただきます。

○ 参加費：2,000円(高校生以下：1,000円)
「北海道舞台塾・日本劇作家大会'99北海道大会」の4日間通し入場券付き
※当日会場にて申し受けます。

■ 受講申込・お問い合わせ先
北海道舞台塾実行委員会事務局
「(財)北海道文化財団企画課・アートマネジメント講座担当」
〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目　プレスト1-7／6F
TEL：011-272-0501　FAX：011-272-0400

TOYOTA

Vol.20
トヨタ・アートマネジメント講座
佐世保セッション　西海-4

# トヨタ・アートマネジメント講座
# '99 佐世保セッション

# 音楽との新しい出会いをもとめて

ところ／西海パールシーセンター
'99 2月27日(土)・28日(日) PM 1:30～：クロスホール
3月15日(月)　　PM 7:00～：マリナホール

「トヨタ・アートマネジメント講座」では、アートと地域、アーティストと聴衆をつなぐ
アートマネジメントの役割の大切さをわかりやすく学び、アートを育て地域社会に開かれた
より身近なものにしていくために、参加者全員と考えたいと思います。
「'99 佐世保セッション」では「音楽との新しい出会いを求めて」をテーマに、
さまざまな出会いや交流、地域とのネットワークづくりの場を提供し、
新しい時代に向かっての夢や展望を語り合いたいと思ってます。

■ 主　催／TAM '99サセボセッション実行委員会　トヨタ自動車株式会社
■ 共　催／長崎県トヨタ販売会社グループ
■ 協　力／(社) 企業メセナ協議会
■ 後　援／佐世保市教育委員会
■ 監　修／TAM運営委員会　音楽ディレクター　西巻 正史
(事務局／社団法人企業メセナ協議会内
〒100-0006 千代田区有楽町マリオン13F)

お問い合わせ
〒857-0851 佐世保市稲荷町9－3
デュエトリオコンソート
「トヨタ・アートマネジメント講座」係
TEL・FAX 0956-34-0757(松尾)
〃　0956-31-4040　〃

受講料　5回通し　¥2,500
ワークショップのみ　¥1,500

## 第1日　2月27日(土)

### 1st セッション　PM1:30～3:00　●クロスホール

■地域のアートマネージャー達

20数年にわたって、九州各地でアートシーンを担ってきたプロデューサーたちの目を通して地域社会の中での音楽の可能性を考えてみたいと思います。

加藤昌邦（湯布院）　ゆふいん音楽祭実行委員長
田中　孝（福　岡）　「クフモの心」、元 福岡モーツァルトアンサンブルを聴く会
松尾　望（佐世保）　デュエトリオコンソート、室内楽フォーラム

### 2nd セッション　PM3:30～5:00

■アートマネジメントと社会

地域でのアートへの関わり方は様々な形があります。アートマネジメントって、メセナって何。それをみんなで考えてみませんか。

岡部修二（東　京）　トヨタ自動車広報部 社会文化室
熊倉純子（東　京）　企業メセナ協議会

## 第2日　2月28日(日)

### 3rd セッション　PM1:30～3:00　●クロスホール

■公共ホールって…？

いまや私の町にもあなたの町にもある公共ホール。この地域の財産の可能性と活用法について考えます。

西巻正史（茨　城）　水戸芸術館

### 4th セッション　PM3:30～5:00

■音楽の楽しみ 自由自在

音楽の魅力や愉しみは、音楽家（ステージ側）がつくりだすだけでなく、聴衆自身の関わり方も重要な要素です。音楽とコミュニケートする楽しさを講師の方々と考えてみながら、3月15日のワークショップへの橋渡しをします。

村島寿深子（東　京）　テレビマン ユニオン、カザルス ホール
西巻正史（茨　城）　水戸芸術館

## 第3日　3月15日(日)

### 5th セッション　PM7:00～　●マリナホール

■ワークショップ＆トークコンサート　ウィーンからの贈り物

～音楽との新たな出会いを求めて～

音楽家は普段の言葉ではなく、音をとおして自分達の感じている世界を表現します。ここでは、言葉と音楽を通じて彼らの感じる音楽の深さ、面白さを語ってもらう予定です。一方、我々聴衆も音楽の楽しみ方は千差万別。あなたなりの自由な楽しみ方があるはずです。それを見つける旅にでかけませんか。講師は音楽の都ウィーンからお招きしました。

久保田　巧（東京/ウィーン）　ヴァイオリニスト
アヴォ・クユムジャン（ウィーン）　ピアニスト　ウィーン国立音大教授

久保田さんは、ウィークエンドコンサート以来2度目の来演、マリナホールの響きを高く評価されています。

西海パール・シー
佐世保市鹿子前町 ☎(0956)28-4187

受講料　5回通し　¥2,500
ワークショップのみ　¥1,500

1．受講ご希望の方は右記の用紙に記入の上、郵送かFAXにてお申し込み下さい。
2．受講料は、初日会場受付けにて申し受けいたします。

申し込み／お問い合わせ
〒857-0051　佐世保市稲荷町9－3
デュエトリオコンソート
「トヨタ・アートマネジメント講座」係
TEL・FAX 0956-34-0757（松尾）
〃　0956-31-4040　〃

### トヨタ・アートマネジメント講座 参加申し込み用紙

| 選択希望（○） | 講座受講 ／ ワークショップ参加 | |
|---|---|---|
| お名前（フリガナ） | | 男・女 |
| 住　所 | | |
| 電　話 | 職業 | 年齢 |
| 所属・役職名 | | |

講座受講者は受付け順、定員50名で締め切ります。

Vol.21
トヨタ アートマネジメント講座
高知セッション 美術-7

TOYOTA

# アートはつかれる？

回路を開く

アートが、社会性を獲得するまでの時間・エネルギーを考えると
その担当者は相当「つかれる？」のかもしれない。
しかし「つかれる？」の「？」の中に、答えはある。
うまくいくかも、いかないかも知れない
アートマネジメントへの挑戦とは？

## プログラム

橋本知事
VS
熊倉純子・森司
50分対談

アートドア① －市民編－
↓
アートドア② －地域編－
↓
アートマネジメントABC…
↓
ワークショップ「プレゼンテーション・スキルを磨く」
①プレゼンテーション・ツールのここがポイント（グループディスカッション）
↓
②プレゼンテーション・シミュレーション（演習）
↓
③プレゼンテーションの全体講評
↓
パネルディスカッション／明日の文化的アクションを考える

1999年
3/5日金
6日土
7日日

会 場 高知県立美術館ホール
受 講 料 1,000円（3日間通し）
募集定員 70名

主催 トヨタ自動車株式会社
トヨタ・アートマネジメント講座高知セッション'99実行委員会
共催 高知県トヨタ販売会社グループ・(財)高知県文化財団・高知県立美術館
後援 高知県・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知
エフエム高知・KSSさんさんテレビ
協力 社団法人企業メセナ協議会
監修 TAM運営委員会 美術ディレクター 森司
（事務局 社団法人企業メセナ協議会内
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-5-1丸の内マリオン13階）

# 3/5 (金)

■6時30分～7時20分

## アートはつかれる？

藤田直義
高知県文化財団企画課長
高知県立美術館アートコーディネーター

アートが社会とうまく付き合うための回路を探る本セッションの趣旨を、自身の体験も交えながら説明し、問題提起を行います。

■7時30分～9時

## アートドア①－市民編－

藤崎幸雄　美術作家
平岡　望　ギャラリー星ヶ岡アートヴィレッヂ
司会 松本教仁　高知県立美術館学芸員

ポリクロスアート展など、行政を巻き込みながら高知の若手作家の活動のフィールドを広げる藤崎幸雄さんと、数多くの自主企画展を開催するなど個性的なギャラリー運営を手がけ、高知の美術のキー・ステーションの役割を果たす平岡望さんに活動の考え方をお聞きします。

「トヨタ・アートマネジメント講座」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一貫として'96年から全国各地で開催されています。「美術」「演劇」「音楽」の3つのジャンルで行われるこの講座は、芸術活動を通じて地域社会を活性化するアート・マネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデユースが行政、文化機関、市民などのなかで盛んになることを目的にしています。

# 3/6 (土)

■10時～12時30分

## アートドア②－地域編－

**21世紀こどもの文化浴事業（高知県）**
栗原雄二　同事業実行委員会・専門プロデューサー
**アーティストインレジデンスさめうら（高知県土佐町）**
上村明弘　同事業実行委員・土佐町企画振興課企画情報係長
**砂浜美術館（高知県大方町）**
畦地和也　砂浜美術館事務局
司会　梅原真　デザイナー

若年人口の減少を背景に、県民の声を施策に反映した高知県のこども文化事業、木の文化とアートを結び付けた土佐町の事業、自然を美術館に見立ててユニークな企画展を開催する砂浜美術館。これらのアートプロジェクトがいかにして立ち上がり、社会性を帯びるに至ったのか、その過程からアートの社会化の鍵を探ります。

■1時30分～3時

## アートマネジメントABC…

森　司　水戸芸術館現代美術センター学芸員
熊倉純子　企業メセナ協議会プログラムディレクター

そもそもアートマネジメントって何？素朴な疑問や、実践しつつも確信をもてない様々な事柄にお答えします。

■3時30分～5時30分

## ワークショップ

<プレゼンテーション・スキルを磨く>❶
－プレゼンテーション・ツールのここがポイント－
グループディスカッション
各グループには講師陣と現地実行委員が各1名づつ入ります

社会の窓口のひとつ、企業へのプレゼンテーションを取り上げます。社会の価値観、ルールに通じる言葉を、プレゼンテーション・ツールの在り方を通じて考えます。

■6時～7時30分

## 懇親会（美術館内レストラン・ピチカート）

※別途参加費3,000円が必要です。

新たなアクションはネットワークを築くことから始まります。参加者と講師、参加者同士、お互いに顔見知りになるための交流の場です。ふるってご参加下さい。

# 3/7 (日)

■10時～10時50分

## 橋本知事VS 熊倉純子 森　司 50分対談

橋本大二郎　高知県知事
熊倉純子　TAM運営委員会
森　司　TAM運営委員会　美術ディレクター

高知県の文化ビジョンとアートマネジメントに期待することについて、本講座運営委員会美術ディレクターが橋本知事にお聞きします。

■11時～12時

## ワークショップ

<プレゼンテーション・スキルを磨く>❷
－プレゼンテーション・シミュレーション－ 演習
加藤種男　アサヒビール環境文化推進部 エグゼクティブプロデューサー
中井久志　トヨタ自動車広報部社会文化室課長

企業メセナ担当者との交渉はどうすれば成功するのか。昨日検討したプレゼンテーション・ツールを使い、実際に体験してみます。

■1時30分～2時30分

## ワークショップ

<プレゼンテーション・スキルを磨く>❸
－プレゼンテーションの全体講評－
加藤種男　アサヒビール環境文化推進部 エグゼクティブプロデューサー
中井久志　トヨタ自動車広報部社会文化室課長

社会とのコミュニケーションが図れるプレゼンテーションとは？経験豊富な講師陣が、個々の事例についてアドバイスします。

■2時50分～4時50分

## パネルディスカッション

**明日の文化的アクションを考える**
梅原　真　デザイナー
加藤種男　アサヒビール環境文化推進部 エグゼクティブプロデューサー
浜田康男　高知県文化環境政策課芸術文化班班長
司会　大野由紀夫　高知新聞社学芸部副部長

3日間の講座を通じて、アートの社会化への道筋は見えたのか。そしてアートがうまく機能する地域社会や制度の在り方が描けるのか？市民、行政、企業それぞれが取り組むべき次のアクションプランを探ります。

総合司会　津田加須子
高知県立文学館学芸員

# ART MANAGEMENT

## [受講申込方法]

■以下の5項目を明記の上、郵送もしくはFAXで、2月25日必着でお申込ください。
❶氏名
❷職業／所属団体名
❸連絡先／住所・TEL・FAX
❹プレゼンテーション資料（企画書）の提出の有無
※企業及び助成財団から、協賛、協力、助成を受けようとするために提出するプレゼンテーション資料（企画書）を、氏名を記入の上、初日受付時までにご準備ください。計画中の内容でも、架空の内容でも結構です。
❺懇親会への参加の有無
※3月6日午後6時より美術館内レストラン・ピチカートで行います。
※別途参加費3,000円が必要です。

## [宛先]

**高知県文化財団トヨタ・アートマネジメント講座係**
〒780－8123高知市高須353－2　FAX0888（66）8006
■受講料1,000円は、初日に会場受付にて申し受けます。
■上記プログラムは、都合により変更になる場合があります。

■ 高知空港から車で20分
■ 「はりまや橋」から土電車で20分、「県立美術館通り」下車達5分
■ 土電バス高知医大行き・県交通バス高知大行き、「県立美術館前」下車すぐ

## [お問い合わせ先]

高知県文化財団 企画課
〒780－8123
高知市高須353－2
TEL0888（66）8006
FAX0888（66）8008

# 1999年度

## テーマの多様化が進む

これまでは県庁所在地など比較的規模の大きな都市で開催されることの多かったTAMですが、沖縄県佐敷町、滋賀県栗東町など、より小規模の町でもアートマネジメントの未来を担う人々が活躍する時代となりました。これまでも各セッションはそれぞれに個性的でしたが、各地のターゲットやテーマ設定はどんどんユニークさを増し、TAMの多様化が進みました。神戸では300人の参加者を集め、「アートマネジメント」という言葉が不思議な魅力をもってさまざまな人々を惹きつけ、社会的なパワーを持ちつつあることに気付かされた年でした。

Vol.22　沖縄　音楽－5　1999年5月
「おきなわとアートマネジメント
―地域社会・アーティストをつなぐ輪を求めて」
Vol.23　岡山　演劇－10　1999年9月
「劇場―演劇が生まれる場をつくる」
Vol.24　青森　美術－8　1999年10月
「ミューズたちの新世紀
―新たな芸術環境を醸成するためのセッション」
Vol.25　松江　音楽－6　2000年2月
「“温故知新”～日本音楽ルネッサンス～」
Vol.26　栗東　演劇－11　2000年2月
「劇団が劇場をつくる―地域演劇の将来像―」
Vol.27　神戸　美術－9　2000年3月
「芸術の基礎体力―アートマネジメントのABC」
Vol.28　釧路　演劇－12　2000年3月
「地域演劇が未来をきりひらく
―21世紀にむけた地域演劇の可能性を探る」

Vol. 22　1999年5月

## おきなわとアートマネジメント―地域社会・アーティストをつなぐ輪を求めて

沖縄セッション　音楽-5

琉球大学教育学部教授・シュガーホール芸術監督　中村　透

沖縄セッションは、99年5月22(土)～23(日)の2日間、佐敷町文化センター・シュガーホールで開催された。実行委員はシュガーホール芸術監督を中心に、公共ホールスタッフ・音楽大学教授・声楽家・フリープロデューサーと、産官学の共同ティームによる。「音楽」部門の講座(監修西巻正史)ではあったが、アートマネジメントの概念そのものが沖縄に新しく、また開催前からジャンルを問わず多くのアート関係者の関心を呼んだ。また伝統芸能のさかんな沖縄では、この領域のマネジメントの探究も避けては通れない。こうした事情で、エキシビション、懇親会とともに4つのセッションを組むといういささかよくばりなプログラムではあったが、のべ参加者総数154名で盛況のうちに熱心な討議と意見交換がなされた。

各セッションの内容は次の通りである。

セッション1　対談と討議「沖縄にプロ・アーティストはイるか」
セッション2　ミニ講座「アートマネジメント、メセナとは・・・Q&A」
セッション3　パネルディスカッション「企業の創る文化・地域の拓く文化」
セッション4　対談と情報交換「公共ホールの芸術教育とは」

セッション1では、とくにクラシック・アーティストの地域社会における位置、伝統芸能家の地域をこえた存在意義などが、いわばプロ意識との関連で討議された。セッション3では、国際的な政治・経済の拡大化の中で、アートや文化がどのように新しい局面を迎えているかが具体的に提示され、「グローバリゼーション」の中の地域独自の文化のあり方が議論された。全日程を通して、受講者からの質問や意見も多く出され、沖縄にとっての「アートマネジメント元年」にふさわしい講座となった。　(99年7月)

Vol. 23　1999年9月

## 劇場――演劇が生まれる場をつくる

岡山セッション　演劇-10

おかやまアートファーム代表　大森誠一

岡山セッションのテーマは二転三転した。“レジデント・シアターの可能性”→“まちづくりと公立ホール”→“地域演劇の台頭”といった標題が浮かんでは消え、やがてシビレを切らした監修の市村作知雄氏から「どうするの?」の催促。土俵際で生まれたのが『劇場―演劇が生まれる場をつくる』だった。市村氏の「プロジェクトとしての劇場」というヒントをもとに、「劇場をつくろう、演劇をはじめよう」というビジョンを標題にしたものだ。

開催までに時間は要したが、それまでのプロセスが文字通りアートマネジメントの実践そのものであった。公立ホールの事業担当者や企業のメセナ担当者へのプレゼン、商店街組合や経済団体・市民団体へのアプローチ、アーティストへの出演交渉や芸術文化団体への呼びかけ…など。費やした時間は無駄ではなかった。セッションが成立する磁場の中にアートと社会の確かな出会いがあった。

劇場には公営も民営もあるが、岡山セッションでは民営に力点をおいた。とりわけ、小劇場演劇やオルタナティブな空間を題材に内容と人選を決め、会場もそれにふさわしい地元企業が運営するデビットホールと旧ピンク映画館の貸ホールを充てた。企画段階では、商店街の空き店舗も候補になったが、とにかく会場は、テーマを具現化したようなシンボリックな場所を選んだ。

セッションでは、多彩な顔ぶれのパネリストに出席いただき、全国から大勢の参加者があった。民営の小劇場がどのような専門家に支えられ、どのように優れた才能と作品を輩出してきたか。公営の劇場よりも鋭角的に時代と格闘してきた民営劇場は、常に退っ引きならない公共性を体現してきた事実が、さまざまな角度から語られた。

そして、講座の後には膨大な録音テープと色褪せることのない問いが残った。新しい劇場は造られるの? 新しい演劇は生まれるの?―― YES!　(00年7月)

Vol. 24　1999年10月

## ミューズたちの新世紀―新たな芸術環境を醸成するためのセッション

青森セッション　美術-8

青森県美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸主査　立木祥一郎

TAM青森の開催にあたり考えたこと。青森では県の美術館、青森市の現代アートセンターのプロジェクトが進行中。双方にすでにディレクターがおりソフトの計画のただなか。ほんとに進行中のプロジェクトは、どきどきと面白い。だから、TAMでもプロジェクト作るというプロセスをリアルに伝えたかった。同時にTAM青森を作るプロセスそのものが、まさにアートマネジメントを実践するスタートになるかもしれない。うまい教師より、不器用でも生きてることを感じさせてくれた反面教師のほうが重要だったなあという経験則。パワフルで生なプロセスを開示することが受講者にとっても説得力を持ちえるだろう。

そういうわけで、実在の埠頭倉庫で架空の大展覧会を行うことを想定して行われたシンポジウムと、それを実現するためのマネジメント・プロセスの間接的な解析という形でセッションをセットした。また、青森の実行委員会には、アートに手慣れたスタッフだけではなく、なるべく、これまでアートにコミットしていない新しい人材を発掘したいと考えた。アート以外の職能、燻製の達人とか、ネブタ中毒者とか、福祉行政のプロとか、アートに無縁だった人が、アーティストなどと一緒に議論しながら、アートに自分の力が有効というのを実証する。このことは、地域の創造力を喚起し、アートマネジメントの領域を広げることになるだろう。そして焦点が結論ではなくプロセスであるからにはTAM青森以後も培われた関係性、運動性は継続し、公開されることになるだろう。

受講数93人と講座当日の実行委員33人。予想をはるかにうわまわる盛況。大いに盛り上がった青森実行委員たちは、甲子園球児のごとく、すぐに次ぎなるプロセスに入りつつある。

県の美術館公開設計コンペは国内のコンペ史上最大の激戦となり43才の気鋭の建築家、青木淳氏がグランプリに。ソフト構築から基本設計というハードに着手している。市のプロジェクトは安藤忠雄氏で設計中。TAM青森の実行委員会は、TAM運営を評価され、あおもりNPOを中心に今年秋の青森市の国際AIRの事業制作を委託された。シンポジウムでテーマにした埠頭の倉庫は、この企画で展示会場となることを検討中である。（00年7月）

Vol. 25　2000年2月

## “温故知新”～日本音楽ルネッサンス～

松江セッション　音楽-6

（財）島根県文化振興財団　久保田孝

心の安らぎや精神的充実を求めることに重きを置かれる今日です。しかし、一方では伝統的なもの、地域の固有性といったものが弱まり、文化的風土の画一化が進みつつあります。

そこで、松江セッションのテーマは「温故知新」～日本音楽ルネッサンス～と題し、日本の伝統音楽をひとつの題材として取り上げ、これからの地域とアートのあり方を探っていくこととしました。

今回のセッションは、学問として主に西洋音楽を中心に教わってきた私たちが、「日本の伝統音楽を肌で感じて、心から楽しんでいくことが本当にできるのか?」「あなたの中に日本人のDNAは残っているか?」ということを具体的なテーマとして、三味線や安来節の実演を交えながら参加者の体と心に問いかけてみることにしました。

イヤー。しっかり残っていましたよ。洋会議室が、目を閉じるとお座敷にいるように感じてしまうぐらい日本の音が心に響いてしまいました。実はここでしくじると2日目はなかったのですが…。

まあ、何はともあれ、このセッションで殆どの参加者が「なんだ、日本の伝統音楽もなかなかいいじゃないか。」と感じていただけたようです。この感じることが動機付けであり、既にそこにはアーティストとアートマネージャーとの関係が生まれていることになると思います。

そして、現状分析と理想論に終わることなく、この講座を契機にアーティスト、教育機関、行政機関、地域の文化施設や文化団体が一体となった身近なアートマネージメントが行われるようになれば幸いです。

また、今回の講座は島根大学の音楽プロデュース論の授業にも組み込まれ、多くの大学生が受講したことも、今後のことを考えると大きな収穫となったと思います。（00年7月）

Vol. 26　2000年2月

## 劇団が劇場をつくる―地域演劇の将来像―

栗東セッション　演劇-11

栗東芸術文化会館さきら　中村七恵

97年3月の神戸セッションに参加した頃、さきら建設予定地はまだ更地だった。その4ヶ月後工事が始まり、99年3月竣工、10月グランドオープンを迎えた。そして、オープニング事業の真っ只中、何年も夢物語のように話していた演劇セッションの企画が始まった。過去2回の演劇フォーラムの流れを汲み「演劇」や「創造」にはこだわりたいなどと考えていた矢先、ディレクターの市村氏から「劇団」というキーワードが提案された。

滋賀県には、30ほどの劇団があり、自主公演のほか、合同公演や演劇について話す会を行うなど、積極的な活動を起こしつつある。特に、98年秋、琵琶湖畔でテント公演を行った第2回滋賀県演劇フェスティバルは、県内演劇人の交流において大きな節目となった。その中心でもあり、栗東に確かに存在する「劇団」としての『異国幻燈舎』にスポットライトをあてよう。そして、実際に彼らの舞台を観て話そう―。かくして、『まな板の上の鯉』にする、という非情な案は現実となった。

栗東セッション3日間のプログラムは、劇団異国幻燈舎公演、トークセッション（2回）、ウォークセッション（2回）の大きく3つ。トークセッションでは『まな板の上の鯉』となった宮沢氏だったが、様々な人の意見や指摘を快く受け入れ自らの公演を再確認していた。「歩きながら劇場や演劇のことを話そうよ」と名付けたウォークセッションでは、劇場見学を含め「見る」「聞く」を意識しながら全員で劇場内を巡った。プログラム構成にあたっては、体験する機会をつくりたい、また、現実に密着した講座に、という思いがあったが、真剣で柔軟な講師と積極的な参加者のおかげで楽しく意義深い時間となった。

「才能との出会い」、講師として参加いただいた津村氏の言葉である。刺激や緊張がお互いを高め、良い競争をし合って育っていくのだと。それは、アーティスト同士のことだけでなく、劇場と創造者が出会うことにもいえるだろう。そして、今回たくさんの出会いの機会を与えていただいたことを感謝している。劇団や参加者にとっての「これから」に、少しでも勇気と希望を抱かせた3日間であったならと願うばかりである。　（00年7月）

Vol. 27　2000年3月

## 芸術の基礎体力―アートマネジメントのABC

神戸セッション　美術-9

神戸アートビレッジセンター美術担当　木ノ下智恵子

「アートを育む」重要なファクターとしてのアートマネージャーには、広報担当・技術者・経営者・創造者・鑑賞者といった、さまざまな役割をインタラクティブに使い分ける、しなやかでしたたかな心と身体が求められます。今回の神戸セッションでは、この至難の業を演じ分けるために、自身の中でのグラデーションを見事に使いこなしながら、オルタナティブな精神に則った独自の横断的な活動を続けている「アーティスト、ディレクター、ライター、メセナ経験者、画廊勤務経験者」の方々と共にプログラムを組みました。独自の経験から得た「人、モノ（場）、金」の有益な活用法を洗い出しながら、アートに携わる様々な事象を網羅していく中、出てきた唯一無二のキーワードが「芸術の基礎体力」でした。

アートと向き合う情熱を形にし、第三者に伝え、他者と価値の交換を行うために立ち上がる意欲がことの始まりです。そのビジョンを形にしていく上で、自身の経験に基づいた知恵袋こそが、最も有効なマネジメントといえます。その前提として心と頭と体を鍛える集中トレーニングが3日間の講座でした。ここでは、アートの現場でご活躍の講師陣を迎え、『アートマネジメント』にまつわる事象を基礎講座的に展開していきました。その結果、当初予定90名を遙かに超える300名近くの参加申し込みを受け、3日間の講座は、所属や年齢層共に実にバラエティーに富んだ顔ぶれの参加者の方々と共に、大盛況の内に終了いたしました。本講座を通じて、流行り言葉のように氾濫している『アートマネジメント』という漠然とした言葉の意味が、講師陣、参加者の方々の意見によって明確になっていったように思われます。また、その各人の『アートマネジメント』のイメージを実体験する場として、実際にアートプロジェクトを立ち上げるワークショップ「芸術の基礎体力　自主トレ編」を約1年という長期に渡って開催しています。自分が信じるアートの魅力をいかにして第三者に伝えるか。新しい価値観の創造に繋がるような緩やかなアウトリーチの模索と共に、未来に向けての種まきが、今始まったばかりです。（00年7月）

Vol. 28　2000年3月

## 地域演劇が未来をきりひらく― 21世紀にむけた地域演劇の可能性を探る

釧路セッション　演劇-12

北海道舞台塾 in 釧路実行委員会（釧路生涯学習センター）　尾田　浩

釧路市内には、9劇団（子どもミュージカル、高校演劇研究会も含む）が集まり、釧路演劇協議会を組織しており、その活動は20年を越えています。この演劇協議会を母体として、北海道舞台塾釧路地域大会の2年度目を開催し、その一つとしてTAM講座のショートバージョンを行いました。

今回のテーマは、1960年代からの日本の演劇を振り返り、その影響を受けながら進んできた地域演劇の課題を見いだす事にありました。

1960年代からの日本の演劇の変化を、特徴的な舞台のVTRを視聴しながらの講座は、具体的であり変化（変動）への指摘が理解しやすくとても勉強になりました。また、まともにその時代の風を受けながら、あるいは先取りしながら創造がなされてきている事が実感されました。そして、90年代に台頭してきた、京都、大阪そして青森県弘前劇場の実態についてが2日目の講座として展開され、地域演劇が新たな創造へ向かい実践し、高い評価を得て来ていることが報告されました。

けっして創造的にも経済的にも豊かではないと思い込んでいる地域演劇に、新たな視点から動きが始められていることが感じられました。また、アートマネジメントを考える側から、こういう創造内部の考え方に触れる機会は大変有効であったと思います。経済不況と自治体の財政難で、補助金が削られていく現状の中で、良質な補助金を探すのがアートマネージャーの仕事と勘違いしていた（自我をこめて）ムキには、大変勉強になったと思います。今こそ、時代と演劇、時代とアート、アートの力等、議論すべきではないかと感じました。大きな時代の流れの中で、演劇がもっともっと豊かになるための課題は、地域演劇の中にあると確信した2日間でした。

（00年7月）

Vol.99
トヨタ・アートマネジメント講座
沖縄セッション'99

# おきなわとアート・マネジメント

## 地域社会・アーティストをつなぐ輪を求めて

アートマネジメントとはなにか？
公共ホールの文化事業はどうあるべきか？
プロフェッショナルな芸術家がここ沖縄で市民権を得るには？
市民、行政、企業そしてアーティストが
一体となってこの問題をさぐります。

| | |
|---|---|
| 日　時 | 平成11年5月22日(土) 23日(日) |
| 場　所 | 佐敷町文化センター／シュガーホール(会議室・集会室) |
| 主　催 | TAM沖縄セッション'99実行委員会・トヨタ自動車株式会社 |
| 共　催 | 佐敷町・沖縄県トヨタ販売会社グループ |
| 後　援 | 沖縄県・沖縄県教育委員会・佐敷町教育委員会<br>沖縄タイムス社・琉球新報社・NHK沖縄放送局・琉球放送・<br>沖縄テレビ・琉球朝日放送 |
| 協　力 | (社)企業メセナ協議会 |
| 監　修 | TAM運営委員会音楽ディレクター　西巻正史<br>(事務局／社団法人企業メセナ協議会内)<br>〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13階 |
| 参加費 | 一般2,000円　学生1,500円 |
| 問い合せ | TAM沖縄セッション'99実行委員会事務局 098-947-1100(シュガーホール内) |

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として全国で開催されるもので、非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアートマネジメントを各地に増やし、地元に密着したアートプロデューサーが行政・文化機関・市民などまざまなレヴェルで盛んになることを目的とするものです。

TOYOTA

## 五月二十二日（土）

13:00　受付（2F集会室入口）

13:30～14:00（於：洋会議室）

**オリエンテーション／ゲスト・スピーカー紹介・TAMとは**

司会　中村　透（琉球大学教育学部教授・シュガーホール芸術監督）

14:00～15:30（於：洋会議室）

### ■セッション1　対談と討議 沖縄にプロ・アーティストはイるか

伝統芸能のプロって、沖縄に居(い)るのでしょうか？
クラシックのプロ・アーティストは沖縄に要(い)るのでしょうか？
みなさんで、ホンネの議論をしませんか……。

対談　大城　学（沖縄県教育庁文化課主幹）
　　小池　哲央（声楽家・沖縄県立芸術大学教授）
進行　豊里ひとみ（月刊「琉球舞踊」編集長）

15:50～17:10（於：洋会議室）

### ■セッション2　ミニ講座 アートマネジメント、メセナとは‥‥Q&A

沖縄には未だあまりなじみのない言葉**アートマネジメント**と**メセナ**とは？
この道の最先端を行くお二人、熊倉さんがシャープな語り口で、西巻さんがソフトなタッチでみなさんの疑問にこたえます。

講師　西巻　正史（水戸芸術館音楽部門主任学芸員）
　　熊倉　純子（社団法人企業メセナ協議会プログラムディレクター）

17:30～18:00（於：シュガーホール）

**エキシビジョン　さしき創造の小屋 オペラ「クシュナ」**
ちょっと不思議な沖縄新歌劇、新情報疲れのあなたにつかのまのやすらぎを‥‥

作　玉城　篤
出演　玻名城律子・宮城竹茂・與儀竹乃・中田治己

18:30～（於：厚生年金休暇センター・ぬちばな）

**懇親会と情報交換会**

## 五月二十三日（日）

10:00　第二日受付（2F集会室入口）

10:30～12:30（於：シュガーホール）

### ■セッション3　パネルディスカッション 企業の創る文化・地域の拓く文化

今日、全国規模で展開する企業だけでなく、地方規模でも文化支援を行う企業や機関が増えてきました。NPOという民間の支援システムも新しい課題です。「**文化**」といえば**行政**の‥‥といったこれまでのパラダイムが大きく変わろうとしています。その背景にはいったいどんな時代の変化があるのでしょう‥‥？

パネリスト　池上　惇（京都大学名誉教授・文化経済学者）
　　岡部　修二（トヨタ自動車広報部社会文化室長）
　　照屋　幹夫（沖縄市民小劇場あしびなー副館長）
司会　加賀美正明（日本文化経済学会理事）

**昼　食**

13:30～15:00（於：洋会議室またはシュガーホール）

### ■セッション4　対談と情報交換 公共ホールの芸術教育支援とは

2002年からは、いよいよ小中学校も週５日制。町には子どもターゲットの消費ならぬ**浪費社会**がやってくるのでしょうか。はたまた地域に放り出された子どもたちは**ヤマ学校**を再現するのでしょうか？公共ホールと子どもを結ぶ新しい絆をともにさぐりませんか、未来の文化のために。

対談　西巻　正史（水戸芸術館音楽部門主任学芸員）
　　伊敷　健（浦添市立仲西中学校教諭）
進行　中村　透（シュガーホール芸術監督・琉球大学教授）

### 受講申込方法

以下の項目を明記のうえ、事務局まで、郵便またはFAXでお申し込み下さい。但し、定員（70名）に達し次第、締め切らせていただきます。

1. 氏名
2. 職業（団体名）
3. 連絡先（住所、TEL、FAX）
4. 参加希望日（５月22日・23日両日であれば、記入不要）
5. 懇親会への参加の有無（５月22日　１８：３０～　別途会費3,000円程度を予定）

● 参加費　2,000円（２日間通しのみ。当日受付にて申し受けます）

### お申し込み先

TAM沖縄セッション'99実行委員会事務局（シュガーホール内）
〒901-1403 沖縄県佐敷町字佐敷307番地 TEL.098-947-1100 FAX.098-947-0099

---

**池上　惇**（いけがみ・じゅん）
京都大学名誉教授・文化経済学者
1990年代に日本における文化経済学会の設立を推進し、副会長、会長を歴任する。現在は理事、編集責任者として「文化経済学」の編集にあたる。
（主な著作）「ラスキン・モリスと現代」「情報社会の文化経済学」他多数

**熊倉純子**（くまくら・すみこ）
社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター
機関誌やニュースレターの編集のほか、国際交流プログラム、セミナーなどを担当。メセナの活性化のためには、市民がもっとアートになじむような関係構築が必須と考え、「人」が主役の新たなインターフェイスを研究する。

**西巻正史**（にしまき・まさし）
水戸芸術館音楽部門主任学芸員・トヨタ・アート・マネージメント講座音楽セッションナショナルディレクター
芸術文化のインフラ整備と具体的なプロデュース活動を行う。また、「ステージ・ラボ」をはじめとした、ホールスタッフ育成事業を企画・実施。その間、昭和音楽芸術学院、東京純心女子大学等でアートマネジメントを教える。

**岡部修二**（おかべ・しゅうじ）
トヨタ自動車広報部社会文化室長・担当部長
法務部門、海外営業部門、渉外広報部門・米国トヨタを経験。現在の主要業務は、社会貢献活動・メセナ活動の企画・総括、環境・安全・福祉分野の広報・啓発活動、コミュニケーション企画、全国のトヨタ販売会社の広報・社会貢献活動の支援。地方自治体・公益法人・大学・NPO等での講演活動も行う。

**照屋幹夫**（てるや・みきお）
沖縄市民小劇場「あしびなー」副館長
沖縄市議会事務局に採用後、県観光文化局文化振興課、観光振興課などに勤務。その間、沖縄市と県との文化振興におけるパイプ役として重要な責務を担う。沖縄市民小劇場「あしびなー」の構想準備段階から関わる。

**大城　學**（おおしろ・まなぶ）
沖縄県教育庁文化課主幹
県教育庁文化課専門員、県立博物館学芸員、県教育庁文化課主任専門員を経て、現在に至る。
（主な著書）「沖縄新民謡の系譜」「エイサー」他

**小池哲央**（こいけ・てつお）
沖縄県立芸術大学教授・声楽家
ドイツシュトゥットガルト音大卒。演奏活動の他、舞台作品の企画・構成・演出なども手掛け、昨年は県立芸術大学・キプロス合同オペラ「フィガロの結婚」の共同制作・音楽監督としてキプリア国際芸術祭に参加。

**伊敷　健**（いしき・けん）
浦添市立仲西中学校教諭
那覇市立開南小学校に吹奏楽部を創設し、県下の小学校では初めて吹奏楽コンクールの全国大会出場を果たす。以後中学校教諭として、赴任校の吹奏楽部を地域社会の連携のもとで活動展開し、全国レヴェルへ導く。

**中村　透**（なかむら・とおる）
琉球大学教育学部教授・シュガーホール芸術監督・作曲家
北海道出身。1975年琉球大学に赴任。合唱組曲、オペラなど数々の作品を発表。その後「キジムナー時を翔ける」を作曲。同作品は文化庁舞台芸術創作奨励特別賞を受賞。

佐敷町文化センター
シュガーホール
〒901-1403 沖縄県佐敷町字佐敷307番地
TEL.098-947-1100 FAX.098-947-0099

TOYOTA

Vol.23
トヨタ・アートマネジメント講座
岡山セッション 演劇-10

# 劇場

## 演劇が生まれる場をつくる

"東京一極集中"といわれてきたアートの構図に変化が起こりつつあるようです。演劇の分野でも、地方から傑出した才能や作品が誕生し、これまでの公演や劇場のあり方にまで影響力をもち始めています。岡山セッションでは、各地で成果をあげているメセナとの関係づくりや、フリースペース・民間小劇場における先駆的な例を通して、地域から優れた演劇作品を創り出し、新しい観客と芸術環境を育てていくための"プロジェクトとしての劇場"へのアプローチを試みます。

トヨタ・アートマネジメント講座は、トヨタ自動車(株)のメセナ活動の一環として、<演劇><音楽><美術>の各分野を対象に、アートと社会を橋渡しする人材を各地に増やし、地域の豊かな芸術環境を醸成することを目的に、1996年から全国で開催されています。

**トヨタ・アートマネジメント講座'99岡山**

**1999年 9月10日(金)・11日(土)・12日(日)**

**会　場** デビットホール(10日)／千日前貸ホール(11日・12日)

**参加費** 2,500円(全講座) 1,000円(1講座のみ)

主催　トヨタ自動車株式会社、トヨタ・アートマネジメント講座岡山セッション'99実行委員会
共催　岡山県トヨタ販売会社グループ
後援　岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、岡山商工会議所、株式会社まつもとコーポレーション、山陽新聞社
協力　社団法人企業メセナ協議会、おかやまアートファーム劇場開発委員会
監修　TAM運営委員会・舞台芸術ディレクター　市村作知雄
(事務局／社団法人企業メセナ協議会内　〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F)

Vol.23
トヨタ・アートマネジメント講座
岡山セッション '99劇場-10

# TAM トヨタ・アートマネジメント講座'99岡山セッション

# 劇場——演劇が生まれる場をつくる

## 9/10 FRI セッション❶ メセナと演劇が手を結ぶ社会を描く

18:30~20:30(受付18:00~) 会場：デビットホール

企業の文化支援活動の歴史において、演劇は"遅れてやってきた青年"でした。しかし近年、その距離は社会的なニーズの高まりと広がりのなかで、着実に狭まりつつあるようです。メセナリーダーに聞く——企業と演劇が出会える条件とは？両者の幸福な関係のあり方とは？

ゲスト：石田規夫(株式会社まつもとコーポレーション代表取締役)
コメンテーター：片山正夫(財団法人セゾン文化財団事務局長)
岡部修二(トヨタ自動車株式会社社会文化室室長・担当部長)
司会：加藤種男(アサヒビール株式会社環境文化推進部エグゼクティブプロデューサー)

## 9/11 SAT セッション❷ フリースペースは冒険する

13:00~15:30(受付12:30~) 会場：千日前貸ホール

ビルのフロア、貸し倉庫、空き店舗…など、フリースペースの出自はさまざまです。"何もない空間"に新しいコンセプトとビジョンを与え、生命のかよう「劇場」へと進化させてきたプロジェクト・マネージャーと共に、フリースペースの過去・現在・未来を検証します。

コメンテーター：二村利之(名古屋・七ツ寺共同スタジオ代表)
大谷　燠(大阪・トリイホールプロデューサー)
司会：市村作知雄(TAM運営委員会・舞台芸術ディレクター)

## 9/11 SAT セッション❸ 民間小劇場が演劇に新しい風をおこす

16:00~19:00(受付15:30~) 会場：千日前貸ホール

公立ホールが全国各地に誕生する一方、民間による運営管理や劇団が本拠地とする小劇場の存在を見逃すことができません。経済性と創造性のタイトロープの上で、果敢に新しい演劇創作に挑む民間小劇場の演劇人が、創作現場としての「劇場」のあり方について語り合う。

パネリスト：長谷川孝治(青森・弘前劇場主宰)
岩崎正裕(大阪・199Q太陽族主宰)
福井美保+赤木貴(岡山・劇団ソフトギア)
司会：小堀　純(「劇の宇宙」編集長)

## 9/12 SUN セッション❹ まちづくりに劇場は有益である

13:00~15:00(受付12:30~) 会場：千日前貸ホール

まちづくりの精神的な依り拠として感動との出会いがあります。その拠点施設となる「劇場」のハードとソフトをいかに位置づけ、感動をプロデュースする創造・鑑賞・交流のシステムを築いてゆけるか。地域の文化や産業の活性化につながる「劇場」の意義について考えます。

ゲスト：萩原誠司(岡山市長)
パネリスト：大島正勝(岡山市西大寺町商店街理事長)
草加叔也(空間創造研究所代表)
大森誠一(おかやまアートファーム代表)
司会：熊倉純子(社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター)

## 9/12 SUN セッション❺ 劇場をつくろう、演劇をはじめよう

15:30~17:30(受付15:00~) 会場：千日前貸ホール

「劇場——演劇が生まれる場をつくる」をテーマにした岡山セッションの総括討議。全国の公立ホールや民間小劇場の成功例・失敗例を交えながら、地域から優れた演劇作品を創り出し、新しい観客と芸術環境を育てていく"プロジェクトとしての劇場"へのアプローチを試みます。

パネリスト：草加叔也(空間創造研究所代表)
松尾綾子(元ミッシング・リング・ピース主宰)
大森誠一(おかやまアートファーム代表)
司会：市村作知雄(TAM運営委員会・舞台芸術ディレクター)

## 【受講申込方法】

以下の項目を明記のうえ、郵送もしくはFAXにて、9月3日必着でお申し込み下さい。
定員(120名)に達し次第締め切らせていただきます。

1.氏名
2.職業(所属団体名・役職)
3.連絡先(住所・TEL・FAX・E-mail address)
4.参加希望日
5.参加の動機
6.懇親会への参加の有無(9月11日19:30~　別途会費3,000円程度を予定)

●参加費　全講座2,500円(初日受付にて申し受けます)
1講座のみ1,000円(当日受付にて申し受けます)

＊プログラムは都合により変更になる場合もあります。

## 【お問い合わせ・お申し込み先】

TAM岡山セッション'99実行委員会事務局(おかやまアートファーム内)
〒701-1133 岡山市富吉1909　TEL+FAX 086-294-3764

## 【会場へのアクセス】

■デビットホール
岡山市表町1-40　(株)まつもとコーポレーション内
バス：JR岡山駅より岡電バス津高営業所行き、または京山ロープウェイ行き「清心町」下車、徒歩北へ2分　徒歩：JR岡山駅西口より駅前通りを北へ直進、徒歩15分

■千日前貸ホール
岡山市表町3丁目11-60
市内電車：東山行き「西大寺町」電停下車、商店街を千日前映画館街へ徒歩3分

TOYOTA

Vol. 24
トヨタ・アートマネージメント講座
青森セッション　実例-8

# ミューズたちの新世紀

## 新たな芸術環境を醸成するためのセッション

青森には個性的な人、自然、祭り、縄文遺跡などアートの原石がいっぱい、宝庫といえましょう。でも、いくら宝庫でも原石が埋もれたままではなにもおこりません。原石をいかに掘り起こし、磨き輝かせるか。そのために、アートと人々、地域、行政などをつなぎ、アートを巡る環境を整備・活性化するアートマネジメントが必要です。今、青森では、県美術館・芸術パークや青森市のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）工房の計画等々、アートが地域を元気にし、地域がアートを育むための機運が高まっています。いよいよ新世紀。ミューズ（美の女神）たちが軽やかに舞踏する地域づくりのための可能性を探ります。

**トヨタ・アートマネジメント講座青森(TAM/A)1999**
**1999年10月30日(土)、31日(日)**

**会場**　青森市国際交流ハウスセミナー室、聖パトリック教会　他
**参加費**　2,000円(2日間通しのみ)　定員70人
**交流パーティー参加費**　3,000円

主催　トヨタ自動車株式会社
　　トヨタ・アートマネジメント講座青森実行委員会
共催　あおもりNPOサポートセンター、青森県トヨタ販売会社グループ
協賛　青森トヨペット株式会社、株式会社トヨタレンタリース青森
後援　青森県、青森県教育委員会、青森市、青森市教育委員会、
　　東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、青森放送、
　　青森テレビ、青森朝日放送、ＮＨＫ青森放送局、エフエム青森
協力　社団法人企業メセナ協議会　八甲田ホテル
監修　TAM運営委員会ディレクター/美術　森司
　　(事務局/社団法人企業メセナ協議会内
　　〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン13F)

トヨタ・アートマネジメント講座は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、<演劇><音楽><美術>の各分野を対象に、アートと社会を橋渡しする人材を各地に育成し、地域の豊かな芸術環境を醸成することを目的に、1995年から各地で開催されています。

トヨタ・アートマネージメント講座青森（TAM/A) 1999

# ミューズたちの新世紀 — 新たな芸術環境を醸成するためのセッション

## 10/30（土）

<青森市国際交流ハウスセミナー室>

午前10時 —12時（受付9時30分～）
**◆セッション1「空間/場」**
アートのための空間/場

青森県の美術館・総合芸術パークと青森市のAIRプロジェクト[芸術創作工房]。
建築設計の前からソフト展開の責任者が決まっている画期的な公共プロジェクトです。青森を発端とした新たなアート潮流のリーダーに、アートのための空間、場づくりについて語っていただきます。

パネリスト　黒岩恭介（(仮称)青森県立美術館館長予定者）
　　浜田剛爾（(仮称)青森市芸術創作工房ディレクター）
司会　松林拓司（東奥日報社文化部）

午後1時 — 2時45分
**◆セッション2「WWW」**
WWWにアートマネージメントは適応できるか

インターネットWWW [World Wide Web] は新しい世界観をもたらし、進化しつづけています。アートマネジメントはいかにこの環境に適応するのか。日々WWWのデジタル環境を飛び回る専門家と一緒にアートとアートマネジメントの新世紀について考えます。

パネリスト　得丸英俊(電通インターラクティブ・ソリューション部）
　　九戸貴樹（青森県政策推進室副参事、クラフトデザイナー）
司会　森司（TAM ディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）

午後3時 — 4時45分
**◆セッション3「アーティスト」**
じんじんさんの青森野点紀行

じんじんさんは、ごっついクールな格好でリヤカーを引き、フランスでも日本でも、街の人々に楽焼きや野点をたしなんでもらうという京都のアーティスト。初の青森での野点紀行の模様を本人がビデオ解説。地域とアートマネジメントのエレガントな関係が見えてきます。

きむらとしろうじんじん（アーティスト）
熊倉純子（企業メセナ協議会プログラムディレクター）

午後5時 — 6時
**◆アートマネージメントQ&A**

アートマネジメントについて疑問質問。アートマネジメントの達人が、みなさんの難問をばりばり解消。目から鱗のQ&A

森司（TAM ディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）
熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会プログラムディレクター）

<聖バトリック教会>

午後6時15分 — 8時
**◆交流パーティー**

アトラクション：パイプオルガン演奏　竹迫貴希（青森県浪岡町在住）
＊パーティー終了後、青森駅まで専用バスが出ます。(無料)

## 10/31（日）

<青森市国際交流ハウスセミナー室 >

午前10時 —12時
**◆セッション4「コミュニティ」**
ネブタはアートマネージメントの原点？

年1週間程度のネブタ祭のために観客350万人！資金調達、ボランティア組織の方法。これぞマネジメントの極意。でもマネジメントと地域社会に根ざした祭り本来の意義の両立は意外に難しい？ねぶたは地域でのアートマネジメントの原点!?

パネリスト　加藤種男（アサヒビール株式会社環境文化推進部エクゼクティブプロデューサー）
　　斎藤博之（民俗研究・フォトルポルタージュ）
司会　立木祥一郎（青森県美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸主査）

午後1時 — 3時
**◆パネルディスカッション「アーモリーショウ」**
青森でアートマネージメントをシミュレーション

第一次大戦前夜、ニューヨークの兵器庫で、デュシャンなど欧州近代美術等を展示して物議を醸した空前絶後の大展覧会「アーモリーショウ」。ところかわって今の青森市。埠頭にかつて零戦を格納していたというアーモリー（兵器庫の意）が残っている。この場所と出会ったアーティストが、アオモリでアーモリーをやったらと考えた。
オンボロ倉庫とインターネット、ローテクとハイテクを組み合わせたら、どんな事件が起こるのか。仮想展覧会「アーモリーショウ21」を手掛かりに、セッションを総括。展覧会のシミュレーションを行いながら、新世紀のアートとアートマネジメントについて検討します。

パネリスト　佐々木高雄(東奥日報社代表取締役社長)
　　浜田剛爾（(仮称)青森市芸術創作工房ディレクター）
　　中瀬康志（現代美術作家、「フィールドワーク　イン　藤野」企画運営、PSI代表）
モデレーター　橋本尚恣（画家）

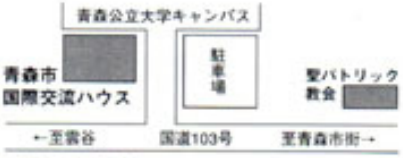
---

[受講申し込み方法]
以下の事項を明記のうえ、郵送もしくはFAXにて　10月22日（金）必着でお申し込みください。定員（70人）になり次第締め切らせていただきます。

1　氏名
2　職業（所属団体名、役職）
3　連絡先（住所、Tel、Fax、E-mail）
4　交流パーティへの参加の有無　会費別途3,000円

●　参加費　2,000円（2日間通しのみ、当日会場受付にて申し受けます）
＊プログラムは都合により変更になる場合もあります。

[お問い合わせ・お申し込み先]
TAM/A実行委員会事務局（あおもりNPOサポートセンター内）
〒030-0844　青森市柳木3-2-1
電話：0177-23-5070／FAX：0177－44－1100




[会場へのアクセス]
JR青森駅より、JRバスまたは市営バス、
「青森公立大学行」または「ヴィラシティ雲谷行」にて
「青森公立大学前」下車。
＊交流パーティー終了後、青森駅行専用バス有(無料)

[青森市国際交流ハウス]
青森市大字合子沢字山崎153-4
TEL：0177－64－1610

Vol.25
トヨタ・アートマネジメント講座
松江セッション　音楽会

TOYOTA

# 温故知新

## 日本音楽ルネッサンス

心の安らぎや精神的充実を求めることに重きを置かれる今日、しかし一方では伝統的なもの、地域の固有性といったものが弱まり、文化的風土の画一化が進みつつあります。文化に対する見方やニーズも多様化したいま、地域とアート、アーティストと鑑賞者をつなぐアートマネージャーの存在がますます重要になっています。そうしたアートマネージャー育成のために企画されたトヨタ・アートマネジメント講座。

松江セッションのテーマは「温故知新」～日本音楽ルネッサンス～です。「安来節」を始め伝統芸能の宝庫である島根の特長を生かし、日本の伝統音楽をひとつの題材として、これからの地域とアートのあり方を参加者の皆様と探っていきながら、アートマネジメントについて分かりやすく学んでいく講座です。行政で文化に携わっている方や文化ホールの担当者から音楽愛好家や一般の方までどなたでも参加できます。プロの方だけでなく、興味のある方みんなで話し合ってみませんか。

## トヨタ・アートマネジメント講座
## 松江セッション

●日　時／2000年2月5日（土）～6日（日）

●会　場／島根県民会館2階第1・2多目的ホール

●参加費／2000円（2日間通し）

●主催／トヨタ自動車株式会社・（財）島根県文化振興財団●共催／島根県トヨタ販売会社グループ●後援／島根県・島根県教育委員会●協力／（社）企業メセナ協議会・（財）日本民族芸能国際交流協会●監修／TAM運営委員会　ディレクター／音楽　西巻正史（事務局／（社）企業メセナ協議会内　〒100-0005 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F）

## 2月5日(土)

13:00~14:30

### ①日本の音楽界の現状

クラシックはヨーロッパ、ジャズはアメリカ、それでは日本は?と聞かれると、またまた困ってしまう。はて?。何でこんなことになってしまったのか。歴史的な背景も踏まえて、日本の音楽界の現状を検証していきます。

パネリスト　河添達也(島根大学教育学部音楽教育研究室助教授)
　　本條秀太郎(アーティスト・三味線演奏家)
コーディネーター　山崎篤典(山崎音楽事務所代表取締役)

15:00~17:00

### ②音楽の楽しみ方~日本音楽ルネッサンス~

①の講座で日本の音楽の現状を検証してきましたが、決して悲観してはいけません。本来音楽は楽しいものです。人の数だけ楽しみ方があります。これはすばらしいことです。この講座では日本の伝統音楽を題材に、実際の演奏を交えながら、音楽の楽しみ方と地域に根ざしたアート活性化の条件を探っていきます。

パネリスト　本條秀太郎(アーティスト・三味線演奏家)
　　渡部お糸(安来節家元4代目)
コーディネーター　河添達也(島根大学教育学部音楽教育研究室助教授)

### ●オプション

2月5日(土)17:30~19:30
**＊交流パーティー(別途参加費3,000円が必要です。)**

新たなアクションはネットワークを築くことから始まります。それには、参加者と講師、参加者同士がお互いに顔見知りになるのが一番近道。ご参加お待ちしております。

トヨタ・アートマネジメント講座(TAM)は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として全国各地で開催されています。「美術」「演劇」「音楽」の3つのジャンルで行われるこの講座は、芸術活動を通じて地域社会を活性化するアート・マネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが行政、文化機関、市民などさまざまな分野で盛んになることを目的としています。

## 2月6日(日)

10:30~12:00

### ③アートマネジメント、メセナってなあに?

ディレクター、プロデューサー、アートマネジメント、メセナ、横文字(カタカナ)は何となくカッコイイ!と思われがち。がしかし、面と向かって「それってなあに?」と聞かれると、はたと困ってしまう。皆様はそんな経験ありませんか。そこで、2日目の今日は「アートマネジメント、メセナってなあに?」と題して、本講座のアウトラインからスタートします。

パネリスト　西巻正史(水戸芸術館主任学芸員)
　　岡部修二(トヨタ自動車(株)広報部社会文化室長・担当部長)
コーディネーター　熊倉純子((社)企業メセナ協議会プログラムディレクター)

13:00~14:30

### ④社会の中でのアートの役割

「始めまして。私はアートです。私は金食い虫、人食い虫といわれています。でも、決して無駄食いをしているわけではありません。皆様の心と体を癒すというような仕事もしています。しかし、それには私とお客様をきちんと橋渡ししてくださるアートマネージャーの方々のお力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。」

そこで、このアート氏のお願いに私たちがどう答えていけばよいかを皆様と共に探っていきたいと思います。

パネリスト　小野晋司(日本民族芸能国際交流協会国際事業室室長)
　　吉田　裕(イベントプロデューサー)
　　山崎篤典(山崎音楽事務所代表取締役)
コーディネーター　西巻正史(水戸芸術館主任学芸員)

15:00~16:30

### ⑤総括討論　これから始めるアートマネジメント

講座のまとめとして、講師陣、受講者の皆さんが自由に意見を交換する場です。質問、提案、批判何でもOKです。活発な討論を期待しています。

パネリスト　吉田　裕(イベントプロデューサー)
　　小野晋司(日本民族芸能国際交流協会国際事業室室長)
　　山崎篤典(山崎音楽事務所代表取締役)
　　西巻正史(水戸芸術館主任学芸員)
コーディネーター　熊倉純子((社)企業メセナ協議会プログラムディレクター)

**受講申込方法**

以下の項目を明記の上、島根県文化振興財団文化振興部トヨタ・アートマネジメント講座係まで郵送またはFAXでお申し込み下さい。(電話での申込は不可)希望者多数の場合は、先着順とさせていただきます。

1.氏名
2.職業、所属
3.住所、TEL、FAX
4.参加希望日(2月5日、6日両日であれば記入不要)
5.交流パーティーへの参加の有無(参加費2,000円のほかに別途3,000円(税込)が必要です。当日受付にて申し受けます。)

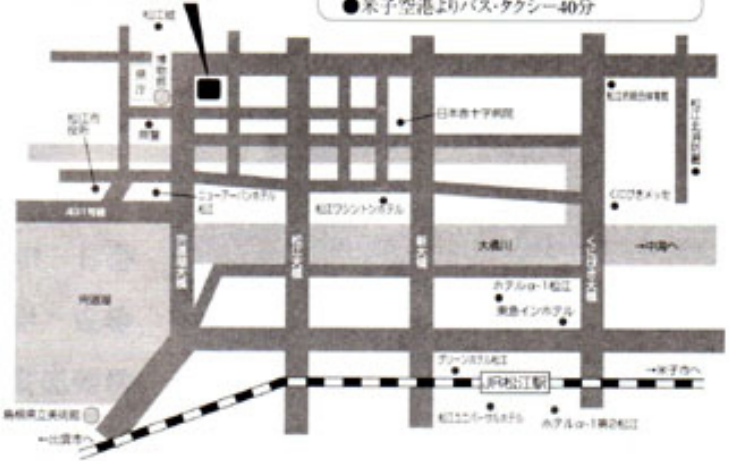
※プログラムは都合により変更になる場合があります。

**お申し込み先**

〒690-0887
松江市殿町158
島根県文化振興財団文化振興部
トヨタ・アートマネジメント講座係
TEL(0852)22-5505・FAX(0852)24-0109

■島根県民会館案内図

交通案内
●JR松江駅より徒歩20分　バス10分
(松江温泉行き県民会館前下車)
●出雲空港よりバス・タクシー40分
●米子空港よりバス・タクシー40分



TOYOTA

Vol. 26
トヨタ・アートマネジメント講座
栗東セッション 演劇-11

Theme

劇団異国幻燈舎公演『眠り姫』

# 劇団が劇場をつくる

トークセッション1
「『眠り姫』を語る」

ウォークセッション1
「劇場を聞く」

- AUDIENCE
- COMMUNITY
- SPONSOR
- THEATER
- THEATRICAL COMPANY

ウォークセッション2「劇場を見る」

## ―地域演劇の将来像―

トークセッション2
「地域の演劇を知る」

**会場** 栗東芸術文化会館さきら

トヨタ・アートマネジメント講座は、メセナ活動の一環として、1996年より全国各地で開催されています。<演劇><音楽><美術>の各ジャンルで行われるこの講座は、「アート(つくり手)」と「社会(受け手)」をつなぐ「つなぎ手=アートマネージャー」たちを増やすことを目的に、それぞれの地域における芸術創造活動の可能性を模索しています。
栗東セッションでは、滋賀県という一地方の舞台で、「劇団」にスポットライトをあてます。演劇を行う場が「劇場」です。地域をも「劇場」としてとらえ、地域演劇の"これから"を探ります。
演劇好きな方も、初めての方も、どうぞ、演劇に会いに来てください。

平成12年 2月
11(祝) 12(土) 13(日)

主催 財団法人栗東町文化体育振興事業団・トヨタ自動車株式会社
共催 滋賀県トヨタ販売会社グループ
後援 栗東町 栗東町教育委員会
協力 社団法人企業メセナ協議会
監修 TAM運営委員会 舞台芸術ディレクター 白井佳夫
【事務局/社団法人企業メセナ協議会内】
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1
有楽町マリオン11F

栗東芸術文化会館 SAKIRA さきら

お問い合せ 栗東芸術文化会館さきら tel077-551-1455

栗東芸術文化会館さきら

# Program

# 劇団が劇場をつくる

## 地域演劇の将来像

FEB 11／12／13 2000

トヨタ・アートマネジメント Vol.26 栗東セッション 演劇 - 11

平成12年 2月 11(祝)

### 1 劇団異国幻燈舎『眠り姫』 作・演出 宮沢十馬

滋賀県を拠点に浪漫あふれる芝居を続ける劇団異国幻燈舎。さきらオープニング事業での初演作品（99年12月、中ホール）を、小ホールバージョンで再演します。
語り継ぐ「恋した形見」を探す人々。恋する情熱と忘れるはかなさを、エネルギッシュに描く自信作です。
まずはご覧ください。そして、あなたの感想を持って、明日のトークセッションへ。

開演 18:30（開場18:00） 会場 小ホール（自由席） 終了後、交流会を予定しています

平成12年 2月 12(土)

### 2 トークセッション1「『眠り姫』を語る」

劇団が成長していく上で、「批評」は大切な要素です。ここでは、『眠り姫』を様々な角度から見つめ、参加者を交え語る場とします。そして、劇団異国幻燈舎の活動の実状から、地域における演劇・劇団の未来を探ります。

時間 14:00～16:30（受付13:30～） 会場 小ホール
パネリスト 太田省吾（演出家、京都造形芸術大学教授）
津村卓（財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー）
宮沢十馬（劇団異国幻燈舎座長）
司会 市村作知雄（TAM運営委員会 舞台芸術ディレクター）

### 3 ウォークセッション1「劇場を聞く」

ウォークセッションは、歩きながら語り合う時間です。まずは、「音」を通して、劇場を感じてみましょう。1では、楽屋まわりや舞台などの舞台裏を中心に、騒さや静けさなど様々な音に耳を傾けて歩きます。

時間 17:00～19:00（受付16:30～） 集合 小ホール
ナヴィゲーター 岩村原太（舞台照明美術家） 協力 プランニングルーム ヒステリックプレイン

平成12年 2月 13(日)

### 4 ウォークセッション2「劇場を見る」

2では、アトリウムやホワイエなどのお客様のエリアを、「光」を探して歩きます。
ゆっくり見つめていけば、劇場のいつもと違う顔が見えてくるかも…？ どうぞ、いっしょに歩きましょう。

時間 10:30～12:30（受付10:00～） 集合 小ホール
ナヴィゲーター 岩村原太（舞台照明美術家） 協力 プランニングルーム ヒステリックプレイン

### 5 トークセッション2「地域の演劇を知る」

様々な人やモノとの出会いによって、演劇・劇団は成長します。事例を基に、行政や企業の支援・劇場や観客との関わりなどの要素が果たす役割を考えます。そこには、未来へのヒントがあるはずです。

時間 14:00～17:00（受付13:30～） 会場 小ホール
パネリスト 土田英生（劇作家、演出家、俳優、MONO代表）
長谷川孝治（劇作家、演出家、弘前劇場主宰）
水戸裕（舞台監督／滋賀県演劇フェスティバル実行委員長）
司会 小暮宣雄（芸術環境研究者／全国市町村国際文化研修所参与）

■参加費 2,000円（3日間通し）
※参加費は当日受付にて申し受けます。※参加できない日があっても、返金いたしません。

■定員 120名

■申し込み方法
●〈氏名〉〈所属〉〈郵便番号、住所〉〈連絡先（TEL、FAX、E-mail address）〉を記入の上、郵送またはFAXでお申し込みください。定員に達し次第締め切ります。
●準備の都合上、ウォークセッションへの参加の有無をご記入ください。

■お申し込み・お問い合せ
栗東芸術文化会館さきら TAM係
〒520-3031 滋賀県栗太郡栗東町綣（へそ）二丁目1番28号
TEL 077-551-1455 FAX 077-551-2272

栗東芸術文化会館 SAKIRA さきら

●JR琵琶湖線「栗東駅」東口より約400m
（大阪から約60分、京都から約25分）
●名神高速道路「栗東I.C」より約3Km

<大阪方面からJR利用>
米原・長浜方面行きの新快速で草津まで、各停に乗り換えて一駅。

TOYOTA

Vol.27
トヨタ・アートマネジメント講座
神戸セッション　美術-9

# 芸術の基礎体力

## アートマネジメントのABC

アートを育む重要なファクターとして、創り手と受け手、表現者同士、プロジェクトとプロジェクトなど、それぞれの関係をつなぐアートマネージャーの存在は必須です。その文化のつなぎ手には、広報担当・技術者・経営者・創造者・鑑賞者といった、さまざまな役割をインタラクティブに使い分ける、しなやかな心と身体が求められます。「トヨタ・アートマネジメント講座」は、美術・演劇・音楽それぞれのジャンルにおける、アートマネージャーの育成を目的に、1996年から各地で開催されています。今、わたしたちには何ができるのでしょうか？ 神戸セッションでは、芸術の基礎体力を考え、より充実したアーツ環境の創造をめざします。

2000年3/3(金)4(土)5(日)

会場／神戸アートビレッジセンター2FKAVCホール
参加費A／3000円（3日間通し 初日精算）
参加費B／1000円（最終日3/5のみ 当日精算）
交流パーティー／2000円（講座初日に精算）
定員／90名（定員になり次第締切、3日間通しの方優先）
申し込み／必要事項を明記の上、FAX
または郵送で下記事務局までお送り下さい


送り先●神戸セッション事務局 神戸アートビレッジセンター
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14
TEL078-512-5500 FAX078-512-5356


### 3/3(金)

18:30〜20:30
基礎講座
**アートマネジメントの過去・現在・未来**

### 3/4(土)

連続講座
**アートマネジメントのAtoZ**

- 10:30〜11:40 ―― アイデアがカタチになる時
- 11:50〜13:00 ―― 現場報告／ジーベックホールの場合
- 14:00〜15:10 ―― アーティストによるマネジメント
- 15:20〜16:30 ―― パブリシティとドキュメンテーション
- 16:40〜17:50 ―― 関西におけるオルタナティブ活動報告
- 18:30〜20:30 ―― 交流パーティー（会場／ヒットパレット）

### 3/5(日)

- 10:30〜12:00 ―― リレープレゼンテーション：オルタナティブ活動／30分3本勝負
- 13:00〜14:00 ―― アートマネジメントQ&A
- 14:30〜16:30 ―― 円卓会議：〈いまどきの社会〉とアートの関係

●3日間の講座終了後、日をあらためて、より実践的なアートマネジメントのワークショップを行います。
内容の詳細やお申し込み方法は講座最終日にお知らせします。最後までお見逃しなく！

# 芸術の基礎体力

アートマネジメントのABC

**会場：神戸アートビレッジセンター2F【KAVCホール】**
●受付は講座開始時間より30分前からです。

## 3 3 金

**18:30〜20:30** 基礎講座
### アートマネジメントの過去・現在・未来
■熊倉純子（企業メセナ協議会プログラムディレクター）

1990年の"メセナ元年"から今日に至るまで、日本と世界のアートマネジメントの状況を解説します。

## 3 4 土

### 連続講座 アートマネジメントのAtoZ

**10:30〜11:40** アイデアがカタチになる時
■原久子（アート・プログラム・ディレクター）

オルタナティブスペースの発生、展覧会やワークショップの実施など、アートをカタチにするプロセスを熱く語ります。

**11:50〜13:00** 現場報告／ジーベックホールの場合
■下田展久（株式会社ジーベック／企画制作）

1989年に神戸の音響機器メーカーが"音の情報発信基地"として開設したスペース「ジーベック」の成り立ちとこれまでについて報告します。

**14:00〜15:10** アーティストによるマネジメント
■中ハシ克シゲ（アーティスト）

アーティストという個人商店を掲げるために必要不可欠な条件、あるいは代行者であるアートマネージャーに望むモノは？創作活動における「マネジメントの心得」とは？

**15:20〜16:30** パブリシティとドキュメンテーション
■塚村真美（繁昌花形本舗株式会社 代表取締役）

フリーペーパーの王様「花形文化通信」の名編集長をはじめ、さまざまな顔をもつ"アートの応援団長"が、プロジェクトの前後に実施する「広報と記録」の有効成分や効き目を検証します。

**16:40〜17:50** 関西におけるオルタナティブ活動報告
■山下里加（美術ライター）

ノンプロフィットスペース、アーティスト・イン・レジデンス、サポートスタッフ組織など、近年、次々に誕生する関西におけるオルタナティブな活動の動向をご紹介します。

**18:30〜20:30** 交流パーティー（会場／ヒットパレット　参加費2000円）

講師陣への質問はもちろんのこと、あらゆる人々とのコミュニケーションによって人脈の輪を広げて下さい。

## 3 5 日

**10:30〜12:00** リレープレゼンテーション
### オルタナティブ活動／30分3本勝負
パネリスト
■川端嘉人（美術家／クリーンブラザーズ、SUMISO代表）
■杉山知子（美術家／C.A.P.代表）
■宮本初音（ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長）

3つのオルタナティブな活動を通じて見えてくるのは、正確な状況把握と自己の力量の見極めで、実社会における「人、モノ（場）、金」の有用な活用法を生み出している知恵袋の数々です。

**13:00〜14:00** アートマネジメントQ&A
■森司（TAMディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）
■熊倉純子（企業メセナ協議会プログラムディレクター）

みなさんが抱えている"今そこにある問題・疑問"をお寄せ下さい。あなたの悩みをみんなで共有すれば、解決の糸口が見えてくるかも・・・

**14:30〜16:30** 円卓会議
### 〈いまどきの社会〉とアートの関係
パネリスト
■吉田順一（神戸大学大学院〈経営学研究科〉教授）
■村田真（美術ジャーナリスト）
■藤本由紀夫（サウンド・アーティスト）
■モデレーター 大野裕子（アートサイト・マネージャー）

人が人として生きていくための心の糧としてアートは必要不可欠です。では、アートはこれまでの社会ではどこにどのように存在していたのでしょうか？　また、これからの世紀におけるアートはどのような変貌を遂げるのでしょうか？　最後に、社会とアートの関係をじっくりと掘り下げます。

**全体進行役　木ノ下智恵子**（神戸アートビレッジセンター美術担当）

**その他**
1）3日間の講座終了後、日をあらためて、関西におけるいくつかのオルタナティブスペースの調査・検証し、より実践的なアートマネジメントのワークショップを行います。内容の詳細やお申し込み方法は講座最終日にお知らせします。最後までお見逃しなく！
2）オルタナティブスペース、プロジェクト資料、フリーペーパーなど、無料配布資料の情報公開コーナーの設置を予定しています。

**お申し込み方法**　以下の事項を明記の上、郵送もしくはFAXにて下記事務局までお申し込み下さい。また、情報公開コーナーへの参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

キリトリ線

A　3日間通し参加　　B　最終日のみ参加

| | |
|---|---|
| 氏名 | 住所<br>電話　FAX　E-mail |
| 職業 | 所属団体／役職、学校名／専攻 |
| 交流会の参加の有無（会費別途2000円） | 参加　／　不参加 |
| 参加の動機 | |

●すべての参加費は講座初日または当日精算です。　●尚、プログラムは都合により変更になる場合があります。

お問い合わせ・お申し込み先 ―― トヨタアートマネジメント講座　神戸セッション事務局 神戸アートビレッジセンター（担当／木ノ下智恵子）
〒652-0811神戸市兵庫区新開地5-3-14　TEL078-512-5500 FAX078-512-5356

神戸アートビレッジセンター
〒652-0811　神戸市兵庫区新開地5-3-14
TEL078-512-5500　FAX078-512-5356
http://www2.osk.3web.ne.jp/~kavc/

●神戸高速「新開地駅」東6番出口より 徒歩約5分
●JR「神戸駅」北出口より 徒歩約10分
●神戸市営地下鉄「湊川公園駅」より 徒歩約15分

TOYOTA

Vol.28
トヨタ・アートマネジメント講座
釧路セッション　演劇-12

# 地域演劇が未来をひらく

2000年を迎え社会が大きな転換期の中にあり、生きていくことの座標軸が揺らぎ病んでいるのが現代ではないでしょうか。
現代の閉塞状況の中で、地域のコミュニティが希薄になり危機的状況に直面しています。一方、その状況を克服すべき新たな動きも出てきています。
どんな社会状況の中でも人間の生きる様を描いてきた「演劇」は、60年代に入り、今までの新劇の流れから小劇場が生まれ、さらに90年代に入り"静かな演劇"が生まれ現在に至っております。それを今一度見つめ直し、演劇の必要性と地域演劇の課題を浮き彫りし、これからの可能性を見い出していきたいと思います。ご期待ください。
演劇好きの方も、始めての方も、多くの参加をお待ちしております。

## 21世紀にむけた地域演劇の可能性を探る

トヨタ・アートマネジメント講座は、トヨタ自動車のメセナ活動の一貫として、1996年より全国各地で開催されています。〈演劇〉〈音楽〉〈美術〉の各ジャンルで行われるこの講座は、「アート（つくり手）」と「社会（受け手）」をつなぐ「つなぎ手＝アートマネージャー」たちを増やすことを目的に、それぞれの地域における芸術活動の可能性を模索するため、現場の第一線で活躍する担当者を講師に迎えて全国各都市で開催されているものです。

**会場**

**北海道立釧路芸術館アートホール**
〒085-0017 釧路市幸町4-1-5 ℡ 0154-23-2381

**2000年**

**3月18日(土)** 18:30～21:00
講演「演劇 21世紀　過去、現在、未来」

**3月19日(日)** 10:00～12:00
ワークショップ「弘前劇場の芝居づくりの方法論」
13:30～15:30
講演&パネルディスカッション「地域演劇の可能性」

**参加費／1,000円**（2日間通し）

■主催／北海道舞台塾釧路地域大会実行委員会・トヨタ自動車株式会社
■共催／釧路市・釧路市教育委員会・北海道トヨタ販売会社グループ
■後援／財釧路市民文化振興財団・北海道新聞釧路支社・釧路新聞社・朝日新聞釧路支局・NHK釧路放送局・HBC釧路放送局・STV釧路放送局・HTB釧路支社・uhb釧路支社・FMくしろ
■協力／㈱企業メセナ協議会
■監修／TAM運営委員会　舞台芸術ディレクター 内村作知雄
【事務局／社団法人企業メセナ協議会】
〒100-0006東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン13F

お問い合わせ
北海道舞台塾釧路地域大会事務局／釧路市南浜町5-1 ℡・FAX 0154-24-7734
釧路演劇協議会事務局／釧路市長場1-6-19 加藤方 ℡・FAX 0154-42-6009

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットで詳しくご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

Vol.28

# トヨタ・アートマネジメント講座

釧路セッション　演劇-12

MILLENNIUM

# 地域演劇が未来をきりひらく

## 3月18日(土)

受付開始18:00より　18:30〜21:00

### 演劇の21世紀 過去・現在・未来

**映像で振り返る演劇の現在と課題**

1960年に入り、今までの新劇の流れから小劇場運動が始まります。寺山修司氏、鈴木忠志氏、唐十郎氏、佐藤信氏等傑出した才能が登場します。80年代に入り、つかこうへい氏が登場し、その後野田秀樹氏等により、若者の支持を得てファッション化されていきます。90年代に入り、平田オリザ氏等の「静かな演劇」が登場します。演劇評論家として、日本演劇界で先駆的な舞台を批評し続けてきた扇田氏に、話題となった演劇シーンを映像で振り返りながら、現在の課題と21世紀の演劇を展望していただきます。

レポーター　扇田昭彦
（演劇評論家、朝日新聞学芸部編集委員）

司　　会　加藤直樹
（劇団北芸代表）

## 3月19日(日)

受付開始9:30より　10:00〜12:00

### ワークショップ 弘前劇場の芝居づくりの方法論

青森県浪岡町に拠点を持ち、劇団員がそれぞれ仕事を持ちながら演劇活動を行っている地域劇団で、長谷川氏は、劇作、演出の他、浪岡町主催の「なみおか映画祭」のディレクターや浪岡町現代美術空間のキュレーターも務めています。自分の生まれた土地の言葉を愛し、現代口語津軽弁として演劇の言語まで普遍化した、長谷川氏と弘前劇場の俳優たちの試みは、地域で活動している演劇人に大きな示唆を与えてくれると思います。

長谷川孝治
（弘前劇場主宰）

## 3月19日(日)

受付開始13:00より　13:30〜15:30

### 地域演劇の可能性 映像で紹介する地域で活躍する劇団

全国で活躍する地域劇団については、なかなか知る機会がありません。自ら兵庫県伊丹市アイホールのチーフプロデューサーを務め、地域劇団の現状に詳しい講師に全国各地で活躍する地域劇団を、映像により舞台を観ながら紹介していただきます。

レポーター①　津村　卓
（財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー）

地域での公演活動の他、1987年に渋谷ジァンジァンで上演依頼、アゴラ劇場（東京）での「大世紀末演劇展」へ8回の参加、スズナリ、青山円形劇場、グローブ座等で上演。昨年10月、地域で活躍する劇団による「リージョナルシアター99」での公演でも最も高い評価を得ています。

レポーター②　長谷川孝治
（弘前劇場主宰）

帯広市で1975年、「劇団演研」を結成、小劇場にこだわり続け、90年より「演研芝居小屋」で年2回のペースで公演の他北海道内でも公演を行っています。

パネリスト　片寄晴則
（劇団演研代表）

司　　会　市村作知雄
（TAM運営委員会舞台芸術ディレクター）

※来館者専用駐車場はありませんので、釧路錦町駐車場をご利用の場合は、駐車料金が2割引になります。（駐車券を受付にご提示下さい）

■参　加　費／1,000円（2日間通し）
■お申し込み方法／氏名、住所、郵便番号、連絡先（TEL・FAX）を記入の上、郵送又は、FAXでお申し込み下さい。準備の都合上、ワークショップについては、参加又は見学を明記してください。

お申し込み・お問い合わせ

北海道舞台塾釧路地域大会事務局／釧路市南浜町5-1 TEL・FAX 0154-24-7734
釧路演劇協議会事務局／釧路市貝塚1-6-19加藤方 TEL・FAX 0154-42-8009

# 2000年度

## チャレンジ編スタート

TAMの開催後、新たな動きが芽生えた地域でセカンド・ステップを試みる「チャレンジ編」を開始。
スタートは、岡山と福岡でアートNPOをめぐる2つの活動をサポートするプロジェクトでした。実際に地域にアートマネジメントが定着し、まちにアートに、新たなエネルギーを吹き込むことができるかどうか、ぜひこれからも見守ってください。また東海地区での初開催となる名古屋で2回目の総合セッションを試みるなど、TAMの次なる展開を探る年でした。

Vol. 29　岡山　チャレンジ編 -1　2000年5-11月
「アートマネジメント実践道場 」
Vol. 30　名古屋　総合 - 2　2000年9月
「アートマネジメントの魅力
―これからの暮らしをアートで耕す―」
Vol. 31　福岡　チャレンジ編 -2　2000年9月-2001年3月
「21世紀へのチャレンジ」
Vol. 32　神戸　チャレンジ編 - 3　2000年9-10月
「演劇と社会の接点」
Vol. 33　沖縄　演劇 - 13　2000年10月
「アートチャンプルマネジメント」
Vol. 34　宇都宮　音楽 - 7　2000年11月
「アートで開こう! 地域の未来
～舞台と地域をつなぐアートマネジメント新世紀～」
Vol. 35　大阪　美術 - 10　2001年2月
「アートマネジメントに必要な発想の転換」

Vol. 29　2000年5月-11月

## アートマネジメント実践道場

岡山セッション　チャレンジ-1

NPO meats TAM担当、岡山県立美術館学芸員　柳沢秀行

まだ29歳の僕が、はじめてトヨタ・アートマネジメント講座を引き受けてから、はや5年。その頃はまだTAM（タム）なんて言い方だってなかったっけ。

あの時、蒔いた種のいくつかはちゃんと実になり、なんたって後楽園で現代美術展もできちゃったし。でも、それもこれも何よりTAMからいただいた人のつながりがあってこそ。そしてこれからもなによりも大切なのは人。と、思っていたから今回のTAMのフォローアップセッションも喜んで引き受けさせてもらいました。それも僕個人ではなく、折り良く立ち上がったばかりのNPO meatsとして。

「まあ10人位かな」と思っていたところに50人近い応募。びっくり!

後楽園の現代美術展でも設営ボランティアにのべ300人近い人たちも来たし…。今、みんな、こんな形でアートに触れたいんだ。

でも正直、これだけの数の人がいれば、熱意もスキルもバラバラなのは当然。そこに適切な距離を持ちながら同伴し、適切な役割を見出してもらうのは、ほんとにシンドイ。なかには講座の早々に姿を見せなくなった人もいるし（どうしてるかな？ あの熱意を形にしてあげられなく、ほんとにごめん）、今ではバリバリと自分で突き進んでいる人もいるし（そう言う人は最初から自分で出来たんだよな。かえってこっちが教わるくらいだ）。

ともかくあつく濃い半年のプログラムだった。もちろんそんな濃〜い体験をした者同士がそれで終わるはずもなく…。いまだに僕は、彼ら彼女らが「あれ、やりたい」と言えば、のこのこそばに行ったり、眠れる火山にはこちらからそっと火をつけにいったり。

「TAMチャレンジ編-1 岡山」が始まり、もう1年でもあり、まだ1年でもある。　（01年7月）

Vol. 30　2000年9月

## アートマネジメントの魅力―これからの暮らしをアートで耕す―

名古屋大会2000　総合-2

愛知県文化情報センター学芸員　越後谷卓司

愛知県での初の開催となった「トヨタ・アートマネジメント講座」（TAM）は、通算で30回となる節目の記念大会で、98年7月東京の第14回大会以来、2度目の3分野を総合した合同セッションであるという意味でも、画期的な場となった。

近年、美術の分野では、作品がある枠組みの中で純粋に完結するのではなく、作家からの問題提起に基づいて一般の鑑賞者がその成り立ちに参加する、いわゆる「プロジェクト型」の作品を多く見るようになった。演劇や舞踊、音楽において数多く行われるワークショップや、市民の出資や参加による映画の製作も、またしかりである。そこには、社会において芸術が担う役割や、芸術への市民参加のあり方の模索という側面が読み取れる。こうした状況を反映してか、今回、愛知県で初開催にもかかわらず、多数の参加者があり、この地においてアートマネジメントへの関心を持つ潜在的な層の厚さの驚かされた。

その成果としては、まずアートマネジメントの基礎的事項を伝え、さらにその奥深さや可能性を知る機会としての役割を果たしたといえよう。また、この地域の今後の芸術活動への刺激という点でも、例えば「芸術交流広場」が、当地の芸術団体や文化機関の活動をアピールする場としてはもちろん、ジャンルを越えた出会いと人材の交流する機会として、より積極的に活用されたいう形となって反映されていた。実際、これ以降この地で行われたいくつかのアートイベントの運営面などで、「TAM」をきっかけに生まれた協力関係が活かされていたようだ。分科会として行われたワークショップの「美術編」に演劇関係者が参加したり、あるいは、演劇とは縁がなかったにもかかわらず講師への関心から「演劇編」に参加した受講者がいたりと、ジャンルを越えた出会いや触れ合いがあったことも、3分野の合同セッションならではのことで、今回の「TAM」への反応の中でも、最も嬉しいものの一つとして深く印象に残っている。　（01年7月）

Vol. 31　2000年9月-2001年3月

## 21世紀へのチャレンジ／地域が支える芸術―新世紀の芸術環境をデザインする

福岡セッション　チャレンジ-2

TAM 2001 福岡　実行委員長　大畑恵三

TAM'98 福岡（98年2月）に続く音楽編。今回は、音楽としては全国に先駆けた「チャレンジ編-2 福岡」の開催となり、その内容がいかにあるべきか？・・・について大いに悩むことになった。98年のTAMでは「音楽普及プログラム」の研究開発の必要性が認識され、その後＜研究会＞を立ち上げて活動を続けていたが、チャレンジ編はその流れを引き継ぐものでなければならない。アートマネジメントの役割を考える時、＜プログラム開発＞→＜運営組織と形態＞→＜社会との接点＞→＜芸術音楽を社会に開く＞ のプロセスをいかにして実現するかが問題となってくる。

先ず（1）2000年9月「アートマネジメント入門講座」で、マネジメントの基礎知識を学ぶ講座を開催。同時に（2）演奏家の募集（オーディション）を始めた。次に（3）入門講座の受講者よりTAM 2001 福岡《公開講座》の実行委員を選び、6ヶ月をかけて《公開講座》の制作を準備経験することで「実践教室」とした。

（4）2001年3月に開催した《公開講座》では、地域社会における「21世紀の芸術環境デザインを試みる」ことをテーマに、＜日本全体の方向性＞→＜地方の時代での連携の可能性＞→＜アウトリーチとは何か？＞→＜NPO・公共ホール・企業メセナの連携＞ の構成によって、21世紀の地域社会における「芸術支援の形態」と「芸術活動の実際」について模索し、デザインの提示を試みた。

アートマネジメントにおいて日本の最先端をゆく講師陣に来ていただいたおかげで、非常に充実した内容の公開講座が実現できたと自負している。実行委員として残された課題は、その充実した内容が提示したものを『現実』のものにする行動力であろう。現在、実行委員会のメンバーにより『ミュージック2001』の組織を立ち上げ、NPO法人化への準備をすすめると同時に、「NPO・公共ホール・企業メセナ連携」による地域社会における芸術支援の企画を準備中である。（01年7月）

Vol. 32　2000年9月

## 演劇と社会の接点

神戸セッション　チャレンジ-3

神戸アートビレッジセンター　福島史子

チャレンジ編ということで、「芸術と社会の接点」というテーマのもと、2つの企画《プレゼンテーション》と《講評会》を行いました。

プレゼンテーションでは、実際に企業のメセナ担当者や公共の助成担当者ら5名にお越しいただき、各社、支援の趣旨に合った魅力的な企画があれば、実際に支援いただくという前提で実践的に行いました。各社合同の公開プレゼンという、通常のプレゼンとは形式が異なるところがありましたが、プレゼンテイター個々の企画書の書き方から企画内容に関して、パネリストの方々からのご意見やアドバイスは大変貴重なものでした。プレゼンの結果は後日、2社から劇団公演への支援を、1社から「即興演劇プロジェクト」にイベントへの出演依頼の話をいただきました。

講評会は「作品について話す」というタイトルで行いましたが、作品よりも、作品創作に取り組む姿勢や劇団の体制が問われる場となりました。同じ現役の表現者であるパネリストから三者三様、厳しい発言もあり、劇団側が落ち込む場面もありました。しかし、劇団は、このチャレンジ編以降、大きく変わってきています。いい作品を作るために、気持ちをひきしめて積極的に努力しているようです。これからが楽しみです。

これら2つの企画を通じて、演劇と社会をつなぐアイテムとして「言葉」を意識しました。アートマネジメントの視点に立てば、私どものようなホール運営者もそうですが、表現者や制作者もまた、作品や企画の面白さを社会の価値観に置き換えて社会にアプローチする方法を見つけることが大切なのではないかと、現場にいて、強く感じています。（01年7月）

Vol. 33　2000年10月

## アートチャンプルマネジメント

沖縄セッション　演劇 -13

沖縄市文化振興課、あしびなー副館長　照屋幹夫

沖縄は、琉球王国を形成していた時代から中国、韓国をはじめ広く東南アジアとの文化交流が盛んであり、先達が育んだ独自の文化的要素は色濃く今日まで残っており、戦後、アメリカ軍の駐留により、さらにチャンプルーな文化の融合がおこり、全国的にも特異な文化圏を形成するに至っています。

私たちは、この多種多様な芸術的文化的土壌をフルに活用し、伝統的なものと外来的なものをうまくチャンプルーして新たな出会いを構築することを求めてアートマネジメント講座を企画しました。

企業メセナの概念の定着が薄い沖縄の現状を踏まえ、セッション1においては「アートと企業が向き合う時」と題して沖縄の状況を再確認し、沖縄の地理的・文化的な視点から、セッション2において「国境を越えてアートは出会う」と銘打って、将来的な国境のボーダーをアートはどのように越え、新たな創造を行うかを議題としました。

また、セッション3においては、「行政とアーティストの対話と地域づくり」と題して、ホールを所管する行政自体の施策の方向性を具体的事例の中で討議しました。

今マネジメント講座のハイライトともいうべきセッション4「どこへ行く、沖縄の舞台芸術」においては、アートの創作現場の問題点や、その活動を支援する環境づくり等の課題が討議され、プロをどのように育てるか、観客を育てる・観客のニーズにいかに応えていくかを客席の参加者を巻き込みながら進行されたことはとても有意義でありました。

沖縄の舞台芸術は、中央への方向性ではなく広くアジアや環太平洋地域等をめざしたものにしたい。そのためには国際性を視野に入れた、よりグローバルな意味でのグローカル化をはかり、地域特性を活かしたアートマネジメントの必要性を痛感し、人材育成、行政の施策、企業メセナの理解が現時点では重要であるという認識に行き着きました。今後ともホールと実演家、市民がよりよい舞台芸術を創造する場の構築を推進していけたらと思います。

（01年7月）

Vol. 34　2000年11月

## アートで開こう！ 地域の未来 ～ 舞台と地域をつなぐアートマネジメント新世紀 ～

宇都宮セッション　音楽 -7

財団法人とちぎ生涯学習文化財団 文化生涯学習部文化振興担当 主査　野中正知

自分で演奏会を企画してみたい！ アートマネジメントって何？ 仕事でどうしても音楽会を開催しなくちゃいけないけどどうしよう！ クラシック音楽って堅苦しくて嫌い！ 栃木県内のホールではどうして男性を見かけないの？ 等々、ホールを巡る様々な疑問から本セッションはスタートした。

欲張りにも、この欲求を満たそうといくつものカリキュラムが組まれた。

日本における芸術という言葉の意味、生活文化との関わり合い…。ガチンコで討論したとちぎ、全国におけるクラシック音楽の抱える諸問題…。クラシック音楽の聞き手を増やすにはどうしたらいいの…。よく耳にするけど、実体の分からないアートマネジメント？ メセナ?…。クラシック音楽のライブ演奏の魅力！ それをいかに聴衆は共有し、聞き手の楽しみを見つけるのか?…。音楽会を開催したいけど予算の組み立てはどうしたらいいの?…。アイディアを出し、企画することは楽しいこと？ それとも苦しみ?…。より充実した演奏会を開催するために、企業協賛金はどのようにして獲得したらいいの?…。以上の項目を実際のプレゼンテーション、ワークショップ等を通して語り合おう！と呼びかけた。

講師には、とちぎをはじめとして、全国の現場で第一線で活躍している熱い方々にお願いした。もちろん、TAMとして開催したからこそお集まりいただいた方々である。

参加者は、約40名。この方々もそれぞれの立場で熱い思いを持ちながら模索していた方々ばかり。いわゆる耳学問的な人はいなかった。彼らはTAMを通して見えたわずかな光を追いかけて、ゆっくりではあるが着実に地域に根ざし、連携を図っている！と確信している。この分野、人が動かなければ何も起きないし、生まれない！ そんな漠然と思っていた考えが、間違いでないことを教えてくれたTAMであった。

全国のホール担当者や地域のアート制作者が、ベースとしてこんな考えを共通認識し、あらゆるネットワークが展開される日が近いことを信じている。そして、益々TAMの役割は大きく、大いなる期待をさせていただきたい。

（01年7月）

Vol. 35　2001年2月

## アートマネジメントに必要な発想の転換

大阪セッション　美術-10

原　久子

すでに美術の分野の開催も大阪セッションが10回目。神戸に引き続き関西での開催は2年連続ということになった。TAMの受講者にリピーターが非常に多いことには定評がある。神戸での『芸術の基礎体力―アートマネジメントのABC』を基礎編と位置づけ、昨年の講座の次のステップとして今回の講座を考えた。

試行錯誤しながら現場を支えるアートマネジメントの仕事だが、慣れが出てくると経験的に行ってきたことを繰り返してしまうことに陥りがちだ。とはいえ、仕事によって条件は異なるし、社会状況の変化に応じて処理せねばならない問題への対応方法も変わってくる。そこで、トピックとしてあげたのが、美術市場の循環に“地域通貨”をあてられないかといったことや“ボランティア”などの問題だ。

これまでのTAMでもお金の話題は頻繁にあがってきたが、その多くはどうすれば助成金や企業協賛を獲得できるといったことだったと記憶する。しかし、助成金や協賛金の予算が無尽蔵に確保されているわけではない。そこで、“地域通貨”を導入するなど、アートにかかわる人々のコミュニティそのものや意識の変革を行い、美術作品の流通や、さまざまな価値交換による市場の循環を考えようとする美術家・白川昌生氏の実践例を聞いた。

また、人手が必要になる大規模な展覧会等の催しでは、ボランティアの支援なくしては、人件費の問題などから開催さえ難しい。そんなボランティアについて、参加する立場と、ボランティアのサポートを受ける立場から、それぞれ発言してもらった。非営利団体の代表をつとめる鬼塚哲郎氏は、ボランティアのニーズアセスメントを知り、そのニーズに沿ったプログラムを作成・実行し、実践後の評価を行い、次の活動、あるいは他の活動への参考モデルとして記録を残し役立てていく事の重要性を説いてくれた。

つねに動いている現場では、アートマネジメントの知識や経験も重要だが、状況を的確に判断し柔軟な態度で仕事をすることが大切だ。美術界の文脈のなかだけで考えるのではなく、現実と向き合いながら、その場に応じ発想の転換のできる人材が育つことの必要性を改めて強く感じた。（01年7月）

誰かやるんだ!

俺がやるんだ!

meats

## アートマネジメント実践道場

# 5/21日 堂々開講

## 詳しくは裏面に!

■ 芸術・文化を応援し、「岡山をもっと楽しくしちゃおう!」と、発足したNPO【meats】。
今回【meats】が企画したプログラムは、「アートマネジメント実践道場」。
アートマネジメントは、アーティストを支え、多くの人たちへと作品を結びつける大事な役割。この講座は、あなた自身がその【アートマネージャー】となり、希望の分野においてプランを実現していこう!と、いうものです。

■ 講座内容にともない、経験豊かな各分野のエキスパートをナビゲーターとして迎え、様々な局面であなたをサポートしていきます。

■ 今回【meats】は【TAM(トヨタ・アートマネジメント講座)】とタッグを組み、あなたのお手伝いをしていきます。
4年前に岡山で産声をあげた【TAM】は、美術・演劇・音楽それぞれのジャンルでのアートマネージャーの育成のため、すでに全国各地ですばらしい実績を挙げています。
その【TAM】自体も、「チャレンジ編」へと突入し、新たなステージを目指します。

■主催■
meats
トヨタ自動車株式会社
■共催■
岡山県トヨタ販売会社グループ
■企画・プログラム■
meats
■監修■
森 司(TAM運営委員会・美術ディレクター)
■協力■
(社)企業メセナ協議会

TOYOTA

トヨタのメセナ(芸術文化活動)の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

# 君のmeとなり

## アートマネジメント実践道場

Vol.29
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-1 （岡山）

# 『俺がやらんと、誰がやるん!?』

## 全体共通講座 meats with TAM

● 希望コースに分かれる前の基礎講座。

**5/21 sun.**
■ ガイダンス（半田山植物園 番舎）
小石原 剛（美術家、meats代表）
柳沢 秀行（岡山県立美術館学芸員）
山田 和哉（広告企画会社IMS経営）

**6/3 sat. 4 sun.**
■ スクーリング合宿（直島コンテンポラリーアートミュージアム 直島国際キャンプ場）
【モデレーター】森 司（TAMディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）
【ゲスト講師】秋元 雄史（直島コンテンポラリーアートミュージアムチーフキュレーター）
熊倉 純子（企業メセナ協議会プログラムディレクター）
小石原 剛（美術家、meats代表）
柳沢 秀行（岡山県立美術館学芸員）
（※直島コンテンポラリーアートミュージアム 直島家プロジェクト見学も予定しています。）

**6/11 sun.**
■ PR 表現とその戦略（岡山県立美術館 講義室）
山田 和哉（広告企画会社IMS経営）
笹井 智之（webデザイナー）
鳥越眞生也（鳥越屋・デザイナー）

この講座では、経験豊かな歴戦の強者をナビゲーターとしてむかえ、正体不明な「アートマネジメント」という一言を様々な局面から解きほぐし、あなたの「?」を解消!様々な表現分野における、マネジメントの基礎固めを行います。必見!

ミーツメンバーが各々の専門領域を受け持つ3コース。受講するあなた自身がマネージャーとなり、展覧会やコンサートの実現を試みるプログラムです。主役はあくまでもあなた。ドリームプランを現実のものにできるかどうかは、あなた次第です。

## 個別講座 meats

● いずれのコースかをメインに選択。ただし他のコースの講座も事前に申し出れば全て受講可能。（※いずれのコースも、主催者の都合により変更することがあります）

### 美術コース art
「やるぞ美術展プロデュース」
【ナビゲーター】小石原 剛、柳沢 秀行

**6/25 sun.** 「こんな展覧会やりたーい」
**7/2 sun.** 「さっそくロケハン。そして展示実習」
**7/9 sun.** 「私のプラン。ドリームプラン?」

### 映像コース movie
「映写機の音を聞いてみよう」
～インディペンデント映画事始め～
【ナビゲーター】江川まゆみ
【ゲスト】小川 孝雄

**6/18 sun.** 「のぞいてみたい! 海のむこうの映画祭」
「映像と岡山の○○な関係」
**7/23 sun.** 「映像ワークショップって何するの?」
「8mmフィルムの編集と機材操作」
「これで完璧!上映会プロデュース」

### 音楽ステージコース music
「こんなライヴやりた～い!」
【ナビゲーター】山田 和哉

**7/2 sun.** 「こんなライヴやりた～い!」
**7/16 sun.** 「みんなに教えちゃお! 告知・広報の進め方」
**8/12 sat.** 「売って売って売りまくれ! プロモート実務体験」

## 11月のイベント meats with TAM

**11/22 wed. ・23 thu.** 受講生による体験発表&シンポジウム開催（予定）。併せて、同時期に、各コースの目標イベントを実施

参 加 費：15,000円【支払い日:講座初日】（直島宿泊費および滞在中の食費込み）
※参加は、全日程通しとします。単独講座のみの受講は不可です。
定 員：各コース10名（定員を超えた場合、主催者より連絡の上、人数を調整することがあります）
申込方法：下記必要事項を記入の上、meats事務局までFaxにてお申し込みください。
【希望するコース名 氏名・住所・電話・Fax・e-mail・職業（所属団体、学校名、専攻等）】
自分が実現したいイベント内容（展覧会・コンサート等）を、出来るだけ具体的に。
申込締切：5月14日（日）必着（受講の可否とプログラムの詳細を5/16までに事務局より連絡いたします。）
問い合わせ：【meats事務局】Fax.086-228-2782（小石原）、e-mail：master@meats.to

ミーツの情報は、インターネットでご覧いただけます。 http://www.meats.to/

# となる。

ゆめのあと。

強者どもか

ミーツは、岡山市を拠点とし、広く様々な芸術活動を支援することを目的として設立された、NPO（特定非営利活動法人）です。特定の団体・表現領域に限定されることなく、web・カフェ・舞イベント等によって、「おもしろいこと・楽しいこと」の好きな人たちを結びつけながら、そこに参加してくれた人々の資源を見つけ・伝え・生かしあうことで、より豊かな芸術活動を形成していきたいと考えています。

meats
Music Entertainment Art Town Session

NPO meats with TAM

# アートマネジメント実践道場
## 受講者報告会＆記念シンポジウム

# 11/23祝
# 13:00~16:30
## 岡山県立美術館 ホール

5月に始まった「アートマネジメント実践道場　NPO meats with TAM」も、約3ヶ月にわたる全体プログラムが終了。そして、受講者自らが展覧会やイベントの企画・実施を行う【実践編】へと突入し、その成果を皆様にご披露できるところまでこぎつけました。

今回の「受講者報告会」では、本講座受講生達に、【実践道場】での体験を通じて、「見えてきたもの」・「成し遂げたこと」、そして「成し遂げられなかったこと」についての報告をしてもらいます。

また「記念シンポジウム」では、"自身を触媒としながら数多くの様々な人々が自ら創造的な展開へと進むことをうながす活動"を行う二人のアーティストをお招きし、今回のプログラムの意義を検証し、社会とアートとの密接な関わりについて話し合って頂きます。

4年前に岡山で産声をあげた【TAM】は、美術・演劇・音楽それぞれのジャンルでのアートマネージャーの育成のため、すでに全国各地ですばらしい実績を挙げています。
その【TAM】自体も、「チャレンジ編」へと突入し、今後の新たなステージへの展開が、このシンポジウムから見えてくるのではないかと、我々も期待をしています。

■主催■
NPO meats
トヨタ自動車株式会社
■共催■
岡山県トヨタ販売会社グループ
■企画・プログラム■
NPO meats
■監修■
森 司（TAM運営委員会・美術ディレクター）
■協力■
(社)企業メセナ協議会

TOYOTA

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

後は野となれ、

Vol.29
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編・2（岡山）

アートマネジメント実践道場　受講者報告会＆記念シンポジウム

# 『強者どもが、ゆめのあと。』

## ■ 受講者報告会＆記念シンポジウム　NPO meats with TAM

**11/23 thu.**

【時間】13:00~16:30（12:30開場）　【定員】210名
【場所】岡山県立美術館 ホール　【料金】無料

**13:00~14:15　受講者報告会**

### 「強者どもが、ゆめのあと。」
～こんなことをしました 受講者体験報告会～

【話し手】受講者数名
柳沢 秀行（NPO meats実践道場担当者、岡山県立美術館学芸員）

【聞き手】森 司（TAMディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）

**14:30~16:15　記念シンポジウム**

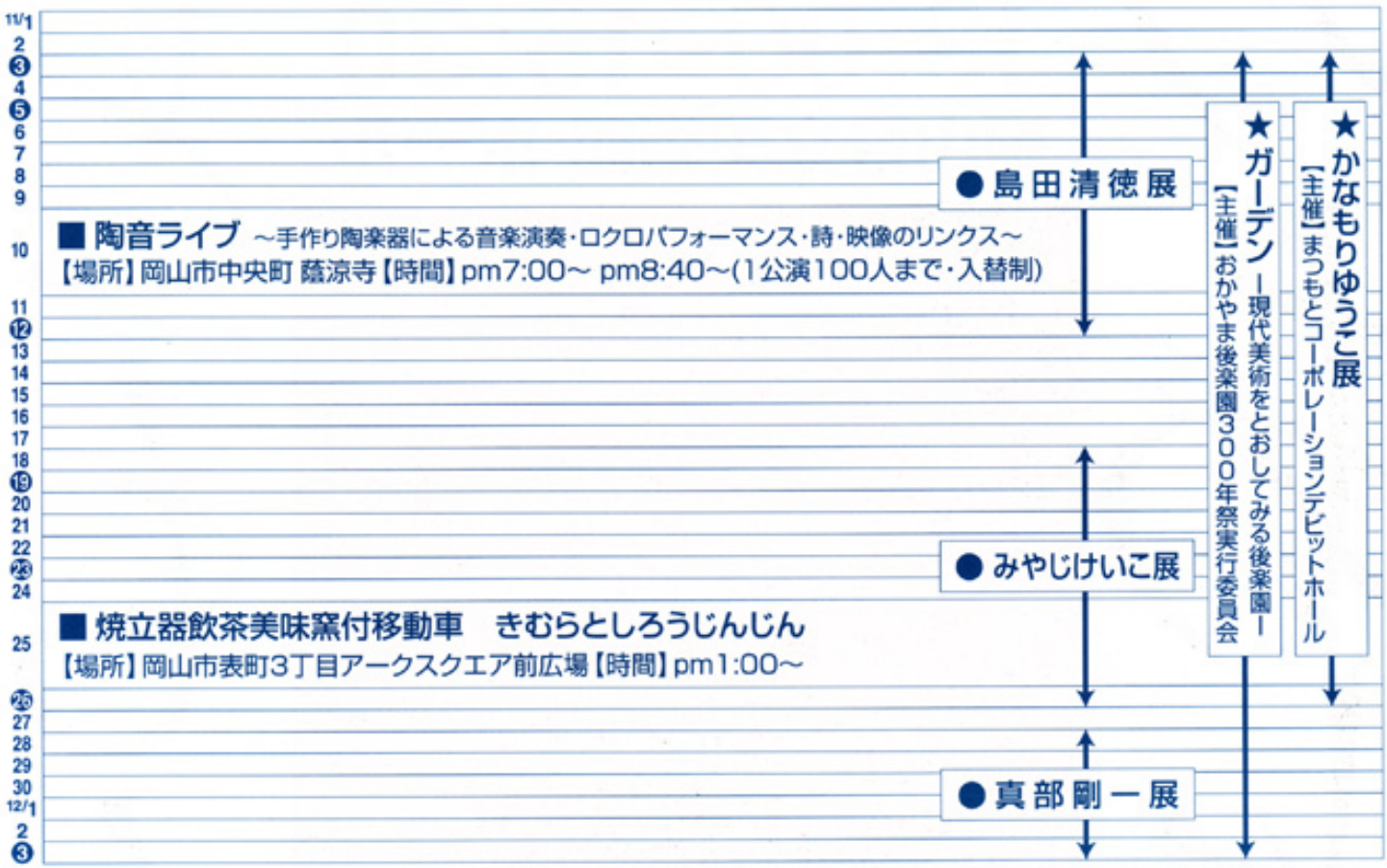
### 「後は野となれ、山となれ。」
～社会への仕掛け・アート～

【パネリスト】藤 浩志（美術家）
小石原 剛（美術家、NPO meats代表）
森 司（TAMディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【司　会】熊倉 純子（企業メセナ協議会プログラムディレクター、TAM運営委員）

## ■ 主な「強者どもが、ゆめのあと」

11月中に予定されている、本講座の受講者企画・実施によるイベント・展覧会を中心に紹介しています。




●印の展覧会の会場は、岡山市出石町「AKARI デザイン・ギャラリー」です。
★印の展覧会には、受講生達がスタッフとして参加しています。

上記イベント以外にも、
■ 岡山中心市街地アートイベントマップ作成・配布　■イベント動向調査 などを企画しています。

山となれ。

【問い合わせ先】NPO meats 事務局　fax：086-228-2782　e-mail：master@meats.to

TOYOTA

Vol.30
トヨタ・アートマネジメント講座
名古屋大会 2000

# アートマネジメントの魅力

## ── これからの暮らしをアートで耕す ──

日時：2000年9月1日（金）18:00-19:30／2日（土）10:30-17:00／3日（日）10:00-17:00
会場：愛知芸術文化センター12階　アートスペース

マネジメントはお金の話？ 観客動員数？ いえいえそれだけではありません。
わたしたちが考えるアートマネジメントは、アートと社会をつなぐ橋渡し。
人・まち・アートの埋蔵資源を掘り起こし、
アートがもっと実社会で効能を発揮するよう、時代にさらしてアートを鍛え、
さまざまな社会サービスを起業してゆくことです。
今回、全国から集うのは、
これからの暮らしをアートで耕すため、開墾のクワを振るうツワモノたち。
アートマネジメントの奥深い魅力に触れる、熱い3日間が名古屋で始まります。

名古屋
芸術交流広場
9月1日（金）16:00～19:30
9月2日（土）10:00～18:00
入場無料

知りたい！ 地域のアートシーン
名古屋アートシーンで注目の芸術団体や文化機関が活動をアピールする「芸術交流広場」。舞踊、美術、演劇、音楽、映像・・・さまざまにアートを企てる人々が軒をつらねます。ジャンルを超えた新鮮な出会いと情報交流で、あなたのアート・ネットワークをつくってください。チラシを置ける情報コーナーもあります。

参加費
¥3000［全講座］
¥2000［シンポジウム＋合同セッション］
¥1000［シンポジウム］
名古屋・芸術交流広場は入場無料

主　催：TAM名古屋大会実行委員会
　　トヨタ自動車株式会社
共　催：愛知芸術文化センター企画事業実行委員会
　　愛知県トヨタ販売会社グループ
後　援：東海メセナ研究会
協　力：（社）企業メセナ協議会
企　画：TAM運営委員会
　　当村作知雄／森 司／西巻正史／熊倉純子
制　作：オフィス・マッチング・モウル

「トヨタ・アートマネジメント講座」開催30回記念
「トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として96年から各地で開催されています。これまでに21都市で29回の講座を通じて、それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索してまいりました。トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

### アートマネジメントの魅力

**その1 ── 情報：シンポジウム＆合同セッション**
アート談義、マネジメント概論、各地の事例報告と多彩なディスカッション。芸術ジャンルもさまざまです。まずはぐぐっとヨコに視野を広げてみましょう。

**その2 ── 体験：分科会／ワークショップ**
TAM推奨の方法論を実地体験。アートと暮らしの未知なる遭遇に深く浸ってください。

**その3 ── アクト**
「名古屋・芸術交流広場」～知りたい！ 地域のアートシーン

# アートマネジメントの魅力 ── これからの暮らしをアートで耕す

## 9月1日(金)

**シンポジウム**
18:00-19:30
[アートスペースA]
定員:250名

**「Art into Life ── アーティストが語る芸術と社会の交信」**

同時代を呼吸するアーティストたちは、これからの私たちの生活にどのような関わりを持とうとしているのでしょうか? 地域・環境・教育など、独自のアプローチで社会に切り込む気鋭のアーティストたちが、ジャンルを越えて語り合います。

パネリスト:北村 想(劇作家、劇団プロジェクト・ナビ主宰)/椿 昇(美術家)
野村 誠(作曲家)
司　会:熊倉純子(TAM運営委員、[社]企業メセナ協議会プログラムディレクター)

## 9月2日(土)

連続講座
**合同セッション1~3**
10:30-17:00
[アートスペースA]
定員:250名

### 1. リレートーク
10:30-12:00

**「概論:アートマネジメントの考え方・いろはにほへと」**

報告①「アートマネジメントってなに?」伊藤裕夫(静岡文化芸術大学教授)
報告②「メセナ今昔物語」角山紘一([社]企業メセナ協議会事務局長)
報告③「これからの芸術運営」市村作知雄(東京国際舞台芸術フェスティバルディレクター)
司　会:森 司(TAM運営委員、水戸芸術館現代美術センター学芸員)

### 2. フォーラム
13:30-15:00

**「地域とアート ── 各地のアートシーンをのぞいてみる」**

各地で続々と行われる文化事業。それらが地域に残したものは何なのでしょう? また、直面する問題は何なのでしょう? 長年、質の高い事業を継続し、発展させている事例を検証します。

パネリスト:竹津宜男(PMF組織委員会オペレーティング・ディレクター)
秋元雄史(ベネッセ・コーポレーション「直島文化村」統括)
長谷川孝治(なみおか映画祭アソシエート・ディレクター、劇団弘前劇場主宰)
司　会:西巻正史(TAM運営委員、水戸芸術館コンサートホールATM主任学芸員)

### 3. Q&A
15:30-17:00

**「アートマネジメントの素朴なギモンをお寄せください」**

講座を聞いてもちょっと腑に落ちない疑問、かねてより気になっていたあれやこれや、あなたが抱えている問題など、なんでもOK。みんなで話し合えば解決の糸口が見えてくるかも・・・

解答者:TAM運営委員会ディレクター(西巻正史・森 司・市村作知雄)
中井久志(トヨタ自動車[株]広報部社会文化室課長)
司　会:熊倉純子

## 9月3日(日)

**分科会**(ワークショップ)
10:00-15:00

### 分科会1　演劇編
[アートスペースH]　定員60名

**公開ワークショップ「日常言語と演劇」**

講　師:長谷川孝治(劇作家・演出家、劇団弘前劇場主宰)
ナビゲーター:市村作知雄

青森県弘前市で活動する「弘前劇場」。主宰の長谷川孝治氏は標準語で脚本を書き、台本を受け取った俳優たちが、台詞を自分の日常言語に翻訳します。それぞれの地域の言語で演じることで、演劇という芸術創造は個人の生活や地域性とどのように切り結ぶのでしょうか。

### 分科会2　音楽編
[アートスペースA]　定員100名

**公開ワークショップ「音楽との新たな出会い」**

講　師:河野文昭(チェロ)/藤井一興(ピアノ)
ナビゲーター:西巻正史

私たちの音楽の聴き方は硬直化していないでしょうか。公開レッスンと演奏を通して、演奏の魅力という根源的な問題をもう一度考えてみましょう。音楽との出会いはここから始まります。

### 分科会3　美術編
[アートスペースG]　定員40名

**実践ワークショップ「たのしい作戦会議」**

アートプロジェクトの企画立案から打ち上げの宴会まで、起こりうることをいろいろ想定してシミュレーション。将来、儲からなくとも損しないアートプロジェクトを起業しようというあなた、自分のコミュニケーションとブレイクスルーの能力を試してみませんか? 経験不問、アート未経験者大歓迎です。

講　師:小石原剛(美術家、[NPO]Meats代表)
ナビゲーター:森 司

## 合同セッション4
15:30-17:00
[アートスペースA]

**フォーラム**

**「文化NPO発車オーライ! ── 新しいサービスの創出」**

アートマネジメントは個人プレーからチームワーク+ネットワークの時代に向かいます。そして単なるイベントから社会に根ざしたサービス業へと変容を遂げるのです。地域のニーズをボーダレスなニーズにつなぎ、立体的なサービスを開拓する文化NPOの時代を展望します。

パネリスト:吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主任研究員)/小石原剛
岡部修二(トヨタ自動車[株]広報部社会文化室長・担当部長)
司　会:森 司

## ● 懇親会

9月2日(土)　18:00-20:00　<ガーデンレストラン華(愛知芸術文化センター10階)>　懇親会参加費:¥2000

## [参加申込]

全講座通しのご参加を優先させていただき、定員になり次第、締め切ります。
ご参加いただく方には折り返し参加票(ハガキ)を郵送いたします。

● 申込方法
E-Mail、ファクス、あるいは郵送で下記項目をお知らせ下さい。
① ご希望の参加形態(分科会のみの参加は不可)
A=全講座 ¥3000　B=シンポジウム+合同セッション ¥2000　C=シンポジウムのみ ¥1000
※Aの場合は、参加を希望する分科会名もお忘れなく(音楽・美術・演劇)
また、第一希望の分科会が満員の場合、どの参加形態になさいますか?
[1]別の分科会に参加→第二希望の分科会名をお知らせください。
[2]BあるいはCに変更→BかCをお知らせください。
② ご住所(参加票の郵送先)・お名前・TEL・FAX・E-Mail
③ 職業(所属団体/役職、学校名/専攻)
④ 懇親会の参加の有無(別途参加費2000円が必要です。)

● 申込先
TAM名古屋大会事務局
〒444-0008　愛知県岡崎市洞町八王子11-12　オフィス・マッチング・モウル
TEL & FAX: 0564-25-2992　E-Mail: m-mole@frontia.co.jp

● 地下鉄/東山線、名城線「栄」駅下車、4番出口から東へ徒歩2分
● 名　鉄/瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩2分
● 自動車/名古屋I.C(東名阪)→楠I.C(名古屋高速)→東新町

TAM名古屋大会の公式ウェブ・サイトをご覧ください。　http://www.frontia.co.jp/mole/tam/index.html

TOYOTA

# 21世紀へのチャレンジ

アートマネージャーを志す人と芸術家の為の

## アートマネジメント入門講座

《CHALLENGE-1》

21世紀は、『文化の時代』といわれます。そして今日、「アート/アーティスト（作り手）」と「社会（受け手）」をつなぐ「アートマネージャー（つなぎ手）」の役割が大きな注目を集めています。彼らとアーティストが手を携えて新しい社会環境の醸成をめざすためには、アートマネージャーのみならず、アーティスト自身もマネジメントへの知識を高めることが不可欠です。STEP－Ⅰでは基礎理論を、STEP－ⅡではSTEP－Ⅱの制作・運営に参加しながら、マネジメントの実践を体験します。

**2000年9月3日[日] & 10日[日]**

会　場／赤煉瓦文化館　2F　会議室
時　間／10：30 ～ 14：30
定　員／30名
受講料／3,000円

主催：トヨタ自動車株式会社
「トヨタ・アートマネジメント講座2001福岡」実行委員会
共催：福岡県トヨタ販売会社グループ
後援：福岡市・福岡市教育委員会
協力：社団法人企業メセナ協議会
監修：西巻正史（TAM運営委員会／音楽ディレクター）

『トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）』は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、96年から各地で開催されています。これまでに22都市で30回の講座を通じて、それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索してまいりました。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報はインターネットでご覧いただけます。

http://www.toyota.co.jp/mecenat/

演奏家の為のNPO法人（ミュージック2001）設立

## Music2001 音楽家募集!!

《CHALLENGE-2》

日本人の演奏家の技術水準は、今や世界に肩を並べると言っても過言ではありません。そうした状況を活かす環境を整えるにはどうしたらよいか、社会とのつながりをもう一度再検討してみませんか？CHALLENGE－2では「演奏家のためのNPO法人－Music2001」設立を21世紀の日本の音楽環境への一つの答えとしてとらえ、社会に新たな提案をしていきます。
手始めに、音楽をより楽しんで聴いてもらうための環境づくりを考えてみようと思います。そして皆さんの優れた演奏技術をそうした場でフルに活かしてみてください。－Music2001－のめざすもの、それは社会とアートのいい関係です。皆さん、フルってご参加ください。

オリエンテーション

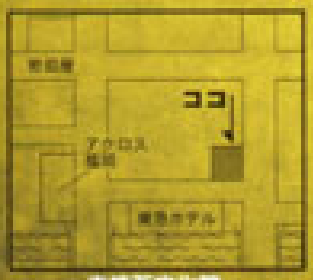
**2000年9月3日[日] or 10日[日]**

会　場／赤煉瓦文化館　2F　会議室
時　間／15：00 ～ 16：30

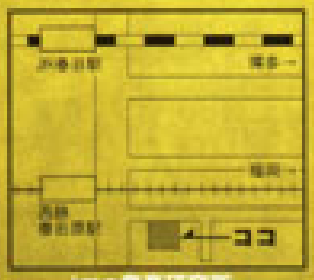
オーディション

**2000年9月15日[祝] or 24日[日]**

会　場／ジェイエムシー音楽研究所　2F　ホール
時　間／13：00 ～
参加費／2,000円




赤煉瓦文化館
TEL.092-722-4666




jmc音楽研究所
TEL.092-575-3267

事務局／〒816-0923 福岡県大野城市雑餉隈町5丁目4番21号（E-mail）jmc@ea.mbn.or.jp
ジェイエムシー音楽研究所 内「トヨタ・アートマネジメント講座2001福岡」実行委員会

CHALLENGE

Vol.31
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-2（福岡）

《CHALLENGE-1》
アートマネージャーを志す人と芸術家の為の

# アートマネジメント入門講座

《CHALLENGE-2》
演奏家の為の
NPO法人（ミュージック2001）設立

# Music2001 音楽家募集！

## STEP-Ⅰ アートマネジメントの寺子屋

アートマネジメントの『いろは』をわかりやすく、重要なポイントに絞って学びます。
対象は、あらゆるジャンルの芸術家、アートマネージャー志望者、公共施設文化担当者や文化活動をなさっている市民の方々、学生さん等どなたでも参加できます。
定員30名の小さな寺子屋です。サァ！貴方も気楽にアートマネージメントの手習いをはじめませんか！

会場／赤煉瓦文化館2F会議室

**9月3日[日]**

[1] 実現への第一歩「予算をくむ」
10:30~12:00
講師：川野康之（公認会計士）

[2] 実現への橋渡し「企画をたてる」
13:00~14:30
講師：添田譲二（ヒューマンコミュニケーション研究所 所長）

**9月10日[日]**

[3] 実現への段取り「アクション・プランの立てかた」
10:30~12:00
講師：米谷淳子（マーケティング プランナー）

[4] 実践「STEP-Ⅲ／制作プランの作り方」
13:00~14:30
講師：大畑恵三（ジェイエムシー音楽研究所 所長）

## STEP-Ⅱ アートマネジメント実践教室

STEP-Ⅰで学んだ基礎理論を基にSTEP-Ⅲ公開講座の制作プログラムを作成します。
又、Music2001と協同して音楽普及プログラム・コンサートの制作・運営を体験。さらにSTEP-Ⅲ公開講座の制作を通じてマネジメントの実際を体験します。

1）STEP-Ⅲ「公開講座」制作プログラムの作成
2）STEP-Ⅲ「公開講座」の制作
3）「音楽普及プログラム・コンサート」
制作プログラム作成と運営

ナビゲーター：大畑　恵三

## Music2001 応募者 オリエンテーション

2000年
**9月3日 or 10日**
赤煉瓦文化館／2F会議室
15:00~16:30
（いずれかにご参加下さい）

## Music2001 オーディション

2000年9月
**15日(祝) or 24日(日)**
13:00~
jmc音楽研究所2Fホール

1. 実技
（自由曲／タイプの違う3曲）
2. 面接

「芸術音楽」を社会に開くことを目的として「音楽普及プログラム」の研究開発に努めると共に、演奏活動を展開してゆきます。組織的には、芸術的な質の向上が見込まれて、且つ経営効率の高い運営形態を検討してゆきます。21世紀、新しい日本型音楽環境への提言としての挑戦。『Music2001』NPO法人化に広く音楽家を募ります！

## 予告 STEP-Ⅲ TAM2001福岡《公開講座》

2001年3月17日(土)・18日(日)
あいれふホール・講堂（予定）

21世紀の芸術文化支援のありかた、地方の時代に芸術がどのようにかかわってゆくのか、行政や公共施設の文化担当者必聴のシンポジウム。
現在、芸術の各分野で注目されている「アウトリーチ」について語り、さらに「21世紀の音楽環境」をテーマに討論します。

**《申込》**（お問い合わせ／事務局）TEL.092-575-3267 FAX.092-581-6797
必要事項記入の上、FAX、郵送にて8月25日事務局まで。

1）入門講座受講者：住所、TEL、氏名、職業（詳しく）、応募理由
（受付け順／定員30名）　受講料：3,000円

2）Music2001応募者：住所、TEL、氏名、音楽歴、演奏曲目3曲
（定員制限なし）　参加費：2,000円

**《参加費振込先》**
西日本銀行　本店
（普通）1818220
ミュージック2001

〈参加者はSTEP-Ⅲ無料〉

TOYOTA

Vol.31
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-2（福岡）

# 心に栄養アート

## 地域が支える芸術

### 新世紀の芸術環境をデザインする

21世紀を迎え「省庁再編成」「地方分権」「NPO法」など、どうやら日本の社会機構は大きな変革の波に洗われ始めている・・・・と、われわれ市民にも感じ取れます。このような時代に芸術はどのような仕組みの中で社会とかかわってゆけるのでしょうか。新しい時代の芸術の位置付け、そしてその支援の仕組みと具体的な方法について話し合います。

芸術文化に少しでも関心をお持ちの方は、皆さんお集まりください！皆さんと力を合わせながら、21世紀の芸術環境デザインへの提言にチャレンジしたいと思います。

**2001年3月17日[土]＆18日[日]**

会　場／ふくふくプラザ・ホール（17日）
NTT夢天神・ホール（18日）

定　員／200名

通し受講料／1,500円

CHALLENGE

■ 主催：トヨタ自動車株式会社・「トヨタ・アートマネジメント講座2001福岡」実行委員会
■ 共催：福岡県トヨタ販売会社グループ
■ 後援：福岡市・福岡県教育委員会・福岡市教育委員会・（財）福岡市文化芸術振興財団
■ 協力：（社）企業メセナ協議会・ミュージック2001
■ 監修：西巻正史（TAM運営委員会／音楽ディレクター）

「トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、96年から各地で開催されています。これまでに23都市で35回の講座を通じて、それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索してまいりました。トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報はインターネットでご覧いただけます。

http://www.toyota.co.jp/mecenat/

ふくふくプラザ
TEL.092-731-2929

NTT夢天神（岩田屋Z-SIDE 7F）
TEL.092-781-8888

●お問い合わせ●「トヨタ・アートマネジメント講座2001福岡」実行委員会
TEL.092-575-3267　FAX.092-581-6797　〈E-mail〉jmc@ea.mbn.or.jp

## 3月17日[土] 13:20～14:20 ふくふくプラザ／ホール

### 基調講演『21世紀の芸術文化支援の方向と課題』

21世紀を迎え、日本の社会機構は大きな変革の波に洗われています。新世紀において、芸術文化はどのように位置付けがなされ支援されてゆくのか。その方向と課題についてお話いただきます。

伊藤裕夫（静岡文化芸術大学教授）

## 14:30～16:30 ふくふくプラザ／ホール

### シンポジウム『地方の時代と芸術支援』

「地方の時代」に、地域の芸術文化施設・企業メセナ・芸術家・アートマネージャー・市民がどのように連携し、地域におけるアーツの芽を育んでゆけるのか、様々な角度から話し合います。

森山英明（財団法人アクロス福岡　副館長）
西巻正史（TAM運営委員会音楽ディレクター／水戸芸術館　学芸員）
岡部修二（トヨタ自動車広報部社会文化室　室長）
司会：熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会　プログラム・ディレクター）

## 3月18日[日] 10:20～11:50 NTT夢天神／ホール

### セッション1『アウトリーチって何？』

アートの分野で注目されている「アウトリーチ」・・・しかし、まだまだピンと来ない言葉です。各分野の様々な事例を紹介していただきながら、アウトリーチの本質にせまってみたいと思います。

西巻正史（TAM運営委員会音楽ディレクター／水戸芸術館　学芸員）
熊倉純子（社団法人企業メセナ協議会　プログラム・ディレクター）
司会：大畑惠三（TAM2001福岡実行委員長／jmc音楽研究所　所長）

## 昼食懇親会 12:05～13:20 福新樓

## 13:40～16:00 NTT夢天神／ホール

### セッション2『21世紀の芸術環境デザインを試みる』

昨年9月に始まった一連の講座の締めくくり。NPO法人化の意味合いもシッカリと見極め、受講者の皆様の意見も交えながら、新世紀のアート環境のデザインに「チャレンジ」してまいります。

吉本光宏（ニッセイ基礎研究所　主任研究員）
小石原剛（美術家／NPO meats代表）
大畑惠三（TAM2001福岡実行委員長／jmc音楽研究所　所長）
司会：伊藤裕夫（静岡文化芸術大学教授）

### 受講申込方法

下記の5項目を明記のうえ、郵送もしくはFAX.又はE-mailにてお申し込みください。
（電話での申込みは不可）

1.氏名
2.職業：所属、部署
3.連絡先：住所、TEL、FAX、E-mail address
4.受講を希望する動機
5.〈昼食懇親会〉参加の有無

■募集定員　200名
定員になり次第、締め切らせていただきます。

■通し受講料　￥1,500

■昼食懇親会　￥2,500(別途)
3月18日(日)12:05より懇親会を予定しています。
定員100名（会費お振込の先着順）

■納入について
懇親会ご参加の方は、4,000円
（懇親会費 2,500円＋受講料1,500円）を事前にお振り込み願います。
講座のみご参加の方は、初日、会場受付にて 1,500円 を申し受けます。

【銀行振込み】西日本銀行　本店（普通）1818220
ミュージック2001

■右記プログラムは、都合により変更される場合があります。

■お申し込み

「トヨタ・アートマネジメント講座2001福岡」実行委員会　事務局
〒816-0923　福岡県大野城市雑餉隈町5丁目4番21号
ジェイエムシー音楽研究所　内
FAX.092-581-6797　〈E-mail〉jmc@ea.mbn.or.jp

Vol.32
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-3 （神戸）

# TOYOTA ART MANEGEMENT

9/30 SAT
▼
10/1 SUN

## 「演劇と社会の接点」

60年代に始まり、80年代にひとつのブームになった小劇場演劇。その後も、優れた劇作家や役者を時代ごとに輩出しているにもかかわらず、いまだ社会の中で確かな位置付けを得てはいません。「小劇場」という言葉さえ広く知られているとはいえない状況のなか、小劇団は続々と旗揚げをしています。演劇のアートマネジメントにいま求められることは、そうした世間とのズレを縮め、演劇と社会の接点をつくっていくことではないでしょうか。そのためには、演劇を理解し、社会を理解し、両者をきちんとした言葉でつないでいくことが大切です。

神戸アートビレッジセンターでは、1997年に続き演劇で2度目のTAM開催となる今回、演劇の現場にさらに実践的にアプローチを試み、「演劇」と「社会」の接点を探る2つの企画を行います。

アートマネージャーをめざす人はもとより、創り手であるアーティストや、受け手である観客にとっても、大いに刺激のある場となるでしょう。

?

TAM

**会場**

神戸アートビレッジセンター

**受講料**

1,000 円
（2日通し・観劇料1,500円 別途必要）

トヨタ・アートマネジメント講座は、〈演劇〉〈音楽〉〈美術〉の各ジャンルで「アート（つくり手）」と「社会（受け手）」の橋渡し役となるアートマネージャーを育成するとともに、地域文化の活性化を目指して、1996年より全国で繰り広げられています。

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットで詳しくご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

**お問い合せ**

神戸アートビレッジセンター
アートマネジメント講座担当
tel.(078)512-5500

主催　神戸アートビレッジセンター
　　　トヨタ自動車株式会社
共催　兵庫県トヨタ販売会社グループ
後援　兵庫県　兵庫県教育委員会
　　　神戸市　神戸市教育委員会
　　　神戸新聞社
協力　（社）企業メセナ協議会

監修　TAM運営委員会
舞台芸術ディレクター　市村作知雄

―事務局―
社団法人企業メセナ協議会内
〒100-0006
東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13階

Mecenat
企業メセナ協議会設立10周年

企画1
# 本番!!プレゼンテーション
企画2
# 作品について話す

TOYOTA

# 企画1
# 「本番!!プレゼンテーション」

劇団のマネジメントにとって、自分たちの作品や活動を言葉にして伝えることは重要な仕事です。ここでは劇団の制作者が、行政や企業のメセナ担当者に向かって支援要請のプレゼンテーションをおこないます。彼らのプロジェクトや公演は、言葉にしてどこまで伝わるのでしょうか。そして演劇は企業のメセナ活動の中でどのように成り立つのでしょうか。演劇と社会の接点を探る本番ライブ!

シアター（地下一階）

10:30 受付

11:00 シンポジウム
**〈行政・企業から創り手に向けて〉**
行政はどのような方針で助成を行い、企業はどんな視点でメセナ活動に取り組んでいるのか——。
担当者たちに現場の仕組みを聞きます。

13:00

14:00 実践
**〈プレゼンテーション〉**
3団体の制作者が、実際に企画中のプロジェクトや公演を、行政・企業に向けてプレゼンテーション。

15:30

16:00 ディスカッション
**〈プレゼンテーションの成果〉**
各団体のプレゼンテーションに関してディスカッションを行い、今後の助成やメセナ活動について考えていきます。

17:30

■パネリスト
倉田 勢子　（神戸市市民局生活文化部文化振興課）
片山 正夫　（財団法人セゾン文化財団）
河村 めぐみ　（アサヒビール株式会社環境文化推進部）
小倉 美穂　（株式会社資生堂企業文化部）
鈴木 なを子　（トヨタ自動車株式会社広報部社会文化室）

■プレゼンテーション
芝居屋坂道ストア演劇公演
関興演劇トーナメントプロジェクト
実験劇「演劇フェスティバル」プロジェクト

■司会進行
市村 作知雄　（TAM運営委員会舞台芸術ディレクター）

# 企画2
# 「作品について話す」

演劇はストーリーだけでなく、空間、時間、俳優、メッセージ、構成、演出など様々な要素から成り立っています。企画2では、神戸で活動している劇団「太陽基地アパッシュ」の公演を実際に観て、その作品について語り合います。作品の理解を深めるための分析・講評を行なうのは3人の劇作家・演出家。アートマネージャー、観客、それぞれの立場から演劇作品へアプローチする手だてを考えていきます。

シアター（地下一階）

10:30 受付

11:00 シンポジウム
**〈創り手から観客へ —— 観劇の前に〉**
観客は演劇をどう楽しむか。
3人のパネリストが創り手の立場から演劇の現状や創作の現場を語ります。

13:00

13:30 開場

ホール（2階）

14:00 実践
**〈観劇〉**
神戸を拠点に活動している劇団太陽基地アパッシュ公演「フォーリ・ア・ドゥ」を観劇します。

15:30

15:50 ディスカッション
**〈講評会〉**
3人のパネリストによる講評や、参加者・観客からの感想・意見など、上演作品について話す場です。アートマネジメントは、創り手と観客をどのように結びつけるか、今後の展開を探ります。

17:00

■パネリスト
竹内 銃一郎　●劇作家・演出家（JIS企画、カメレオン会議など）
土田 英生　●劇作家・演出家・俳優（MONO）
西田 シャトナー　●劇作家・演出家・俳優（アプリコット）

■司会進行
小堀 純　●フリー編集者・ライター（季刊「劇の宇宙」編集長）

■上演劇団紹介—太陽基地アパッシュ
作・演出／小幡祥久　主宰／中瀬良一　制作／成清幸恵
1998年3月主宰者・中瀬氏の呼びかけで「N企画」を結成。
同年11月「劇団太陽基地アパッシュ」に改名。
劇団員8人。平均年齢24歳。作者の視点から、人間の深層心理を、日常の風景を舞台に、繊細に描くウエルメイドな作品を作っている。

■受講料　1,000円（2日通し）
企画2（10月1日）の観劇は、別途公演チケット代金1,500円が必要です。
尚、《観劇》と《講評会》は受講者以外の一般のお客様もご参加いただける形となっています。ご了承ください。

■受講申込方法　以下の項目を明記の上、下記事務局まで、郵便またはFAXにてお申込みください。
電話でのお申込みはご遠慮ください。

1.氏名　2.職業／所属団体名　3.連絡先／住所・TEL・FAX　4.受講を希望する動機
5.公演チケット予約の有無（前売料金1500円）
6.懇親会への参加の有無　※9/30の午後6時より開きます。別途会費3,000円程度を予定。
受講料及びチケットご予約、懇親会ご参加にあたっての費用は初日、会場受付にて申し受けます。

■定員　70名 程度

■申込受付期間　8月30日（水）～9月20日（水）　※ただし、定員になり次第締め切ります。


《受講申込み・お問い合せ》 神戸アートビレッジセンター　担当：福島、岡野
〒652-0811　兵庫県神戸市兵庫区新開地5-3-14
tel.(078)512-5500　fax.(078)512-5356


5th KAVC

神戸高速「新開地駅」東8番出口より　徒歩約5分
JR「神戸駅」北出口より　徒歩約10分
神戸市営地下鉄「湊川公園駅」より　徒歩約15分

Vol.33
トヨタ・アートマネジメント講座
沖縄セッション　演劇-13

# メーテキャンプルマネジメント

2000年
10月
**14(土)15(日)**

## 会場
沖縄市民小劇場あしびなー
参加費（2日間通し）
一般2,000円
学生1,500円

トヨタ・アートマネージメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として全国で開催されるものです。本講座は非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアートマネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが行政・文化機関・市民など様々なレヴェルで深んになることを目的とするものです。
舞台芸術（演劇、舞踊）、美術、音楽のいずれかのジャンルで行われるTAMは、今日における芸術と社会の関係に焦点をあて、同時代のアートをより地域社会に開かれたものにしていくための方法を模索するものです。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

主催/あしびなー自主事業実行委員会　トヨタ自動車株式会社
共催/沖縄市　沖縄県トヨタ販売会社グループ
後援/沖縄県、沖縄県教育委員会、沖縄市教育委員会、沖縄タイムス、琉球新報
　　ＮＨＫ沖縄放送局、琉球放送、沖縄テレビ、琉球朝日放送
協力/（社）企業メセナ協議会
監修/TAM運営委員会ディレクター/舞台芸術　市村作知雄

TAM運営委員会事務局（社）企業メセナ協議会内
〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン13階

TOYOTA

# アートチャンプルマネジメント

## 2000年10月14日（土）

**13:30～** 受　付

**13:45～14:00** オリエンテーション・ゲストスピーカー紹介

**14:00～16:30** セッション1

### 「アートと企業が向き合う時」
—企業メセナの発想—

企業がアートと向かい合うとき、どんな社会が生まれ得るのか。企業とアーティストが出会うためには?沖縄での実態をアーティスト、企業の立場からの発言と日本の代表的企業メセナの具体的事例報告を参考に沖縄のメセナの可能性を考えていく。

パネリスト：寺田　桂（オリオンビール営業企画部次長）
：稲嶺京子（沖縄イムス代表）
：田中弥生（笹川平和財団チーフプログラムオフィサー）
：岡部修二（トヨタ自動車広報部社会文化室長・担当部長）
コーディネイター：角山紘一（企業メセナ協議会事務局長）

**17:00～17:40** エキシビジョンプログラム

### オペラ「魔笛」ダイジェスト

あしびなーにおけるオペラ「魔笛」の制作過程公開ワークショップより

モーツアルト作曲オペラ「魔笛」～ムーヴメントによる象徴的上演。
構成・演出：小池哲央（沖縄県立芸大音楽部教授）

**18:00～** 情報交換会

於　：中国広東料理　香港酒家（コリンザ3F）
会　費：2000円

## 受講申込方法

以下の項目を明記のうえ、事務局まで、郵便またはFAXでお申し込みください。但し、定員（200名）に達し次第、締め切らせていただきます。
1. 氏名　2. 職業（団体名）　3. 連絡先（住所、TEL、FAX）　4. 参加希望日（10月14日・15日両日であれば、記入不要）　5. 情報交換会へ参加の有無（10月14日18:00～ 別途会費2,000円程度を予定）
●参加費2,000円（2日間通し、当日受付にて申し受けます。）


**■問い合わせ**
**あしびなー自主事業実行委員会事務局**
**（沖縄市民小劇場あしびなー内）**
TEL.098-934-8487　FAX.098-934-8490
〒904-0004　沖縄県沖縄市中央2丁目28番1号コリンザ・3F

## 2000年10月15日（日）

**9:30～** 受　付

**10:00～12:00** セッション2

### 「国境を越えてアートは出会う」
—国際文化交流フェスティバルの役割—

異文化との出会いから共存、共生へとアートはその空間に新たな境地を築いてきた。今ジャンル、国境のボーダーをアートは飛び越え、新たな創造を行うためには何が求められているか。

パネリスト：坂手洋二（劇作家、演出家、燐光郡主宰）
：土井克馬（国際交流基金芸術交流部公演課課長補佐）
：照屋幹夫（沖縄市経済文化部文化振興課）
コーディネイター：市村作知雄（東京国際舞台芸術フェスティバル・ディレクター）

**13:00～15:00** セッション3

### 「行政とアーティストの対話と地域づくり」

行政とアーティストは対話しているのか。行政の抱く地域づくりとアーティストの活動とはリンクしていけるのか。行政はアーティストの主体的活動を受け止めることができるのか。行政の地域づくりにアーティストの創造性を生かす上での問題点とは?具体的な事例の当事者双方による報告を参考に沖縄の現状検証と今後の可能性を探る。

パネリスト：長谷川孝治（劇作家、演出家、青森・弘前劇場主宰）
：幸喜良秀（演出家／元沖縄県商工労働部長、観光文化局長）
：中村透（作曲家／シュガーホール芸術監督、琉球大学教授）
：冨永健（沖縄市企画部企画課課長補佐）
コーディネイター：衛紀生（演劇評論家）

**15:15～17:45** セッション4

### 「どこへ行く、沖縄の舞台芸術」
—現状とその問題、プロ育成の観点から—

伝統芸能、演劇、ダンス、オペラとそれぞれの舞台芸術にプロアーティストは育成されているのか?育成システムの問題点はどこにあるのか?その後の活躍する場は作られているのか?環境整備において育成する場としての公教育機関との連携も不十分だと思われる。また観客を育てる・観客のニーズに答える場は作られているのか?国立組踊劇場の建設も見据えて今後の沖縄の舞台芸術・芸能についてホンネの議論を行う。

パネリスト：大城学（沖縄県教育庁文化課主幹）
：平田大一（南島詩人・演出家）
：玉城満（演出家、沖縄市民小劇場あしびなー館長）
コーディネイター：比嘉悦子（民俗音楽研究家）

沖縄市民小劇場
あしびなー
〒904-0004　沖縄県沖縄市中央2丁目28番1号コリンザ・3F
TEL.098-934-8487

TOYOTA

Vol.34
トヨタ・アートマネジメント講座
宇都宮セッション　音楽-7

とちぎ舞台芸術アカデミー2000
〔アートマネジメント部門〕

# アートで開こう！地域の未来

## ～舞台と地域をつなぐアートマネジメント新世紀～

自分で演奏会を企画してみたい。アートマネジメントって何？仕事でどうしても音楽会を開催しなくちゃいけないけどどうしよう。クラシック音楽って堅苦しくてきらい…。栃木県内のホールでは、どうして男性をみかけないの？etc.…。

そんな悩みや疑問をもつ人、さあ、気軽に来てください。疑問、質問コーナーから実際のプレゼンテーション、クラシックワークショップまでもりだくさん。深まる秋、栃木県総合文化センターで各地の仲間と語りあいませんか？

ただし、条件があります。だんまりはダメです。他のみんなの考えを聞きながら前向きに、自分の考えを語ってくれる人、これから行動を起こしてくれる人。トヨタが応援します！！

## 11月24日(金) ▸▸ 26日(日)

栃木県総合文化センター

◎参加費＝2,000円
（3日間通しで「公開レッスン&ミニ・コンサート」　入場料を含みます。）
※参加受付期間＝10月23日（月）～定員（120名）になり次第〆切

# 公開レッスン&ミニ・コンサート

## ～演奏の秘密・聴き手の楽しみ～

【講師・出演】ヴァイオリン：久保田 巧
ピ　ア　ノ：ヴァディム・サハロフ

◎入場料　全席自由1,000円（センタープレイガイドのみ取扱）
11月25日（土）15時00分～18時00分
会　場：栃木県総合文化センターサブホール

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として全国で開催されるものです。本講座は非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアートマネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが行政・文化機関・市民など様々なレヴェルで結んになることを目的とするものです。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.jp/mecenat/

■主催／財団法人とちぎ生涯学習文化財団
　トヨタ自動車株式会社
■共催／栃木県公立文化施設協議会
　栃木県トヨタ販売会社グループ
■後援／栃木県、栃木県教育委員会、下野新聞社　他
■協力／（社）企業メセナ協議会
■企画・監修／TAM運営委員会（音楽ディレクター）西巻正史
■助成／芸術文化振興基金

■お問い合わせ
（財）とちぎ生涯学習文化財団
文化生涯学習部文化振興担当
〒320-8530宇都宮市本町1-8
栃木県総合文化センター
☎028(643)1010

## 11月24日（金）
サブホール

| | | |
|---|---|---|
| 14:20<br>14:40 | 開講式　"アートで開こう!地域の未来" | |
| 14:45<br>15:30 | プログラム1　基調講演<br>「日本における芸術と生活文化の乖離（かいり）」<br>企業メセナ協議会専務理事　根本長兵衛 | 日頃、一歩引いてしまいがちな『芸術』という言葉。もう一度きちんと向き合って頭をすっきりさせましょう。 |
| 16:00<br>17:30 | プログラム2　ディスカッション<br>「とちぎ、そして全国における<br>クラシック音楽コンサートの抱える諸問題」<br>●コメンテーター:橋本恭一（福井県文化振興事業団）<br>鎌田邦義（エフエム栃木）<br>岩本克行（栃木県交響楽団）<br>●司会（聞き手）:熊倉純子（TAM運営委員・企業メセナ協議会） | 栃木及び他地域で文化活動に実際に携わっている方々に登場していただき、日頃感じている問題点などを語っていただきます。そこから現在のコンサートをとりまく状況を広く語り合います。 |

## 11月25日（土）
会議室

| | | |
|---|---|---|
| 10:00<br>11:30 | プログラム3<br>「新しい聴き手を探して」<br>●講師:西巻正史（TAM運営委員・水戸芸術館コンサートホールATM） | クラシック音楽の聴衆が減っているといわれています。聴き手を開拓するためにはどうしたらよいか考えてみます。 |
| 13:00<br>14:30 | プログラム4　質問、疑問にこたえるコーナー<br>アートマネジメント、メセナってなあに?<br>●解答者:トヨタ自動車（株）広報部社会文化室課長:中井久志<br>企業メセナ協議会プログラム・ディレクター:熊倉純子 | みなさんが感じている素朴な疑問、目の前にある問題をお寄せください。問題を共有することで解決の糸口を探りませんか。 |
| 15:00<br>18:00 | プログラム5<br>公開レッスン&ミニ・コンサート<br>～演奏の秘密・聴き手の楽しみ～<br>●講師・出演:ヴァイオリン:久保田　巧<br>ピ　ア　ノ:ヴァディム・サハロフ | 私たちの音楽の聴き方は硬直化していないでしょうか。公開レッスンとミニ・コンサートを通して、演奏の魅力という根元的なテーマをもう一度みつめ直してみませんか?音楽との出会いはここから始まります。 |
| 18:30<br>20:00 | 交流会 | |

サブホール
全席自由
1,000円

## 11月26日（日）
会議室

| | | A | B | C |
|---|---|---|---|---|
| 10:00<br>14:45 | プログラム6<br>分科会<br>（途中昼食休憩を含みます） | 予算の組み立てQ&A<br>・事業や催し物を行うにあたっては、お金の問題を抜きにして語ることはできません。予算の組み立てについて日頃聞けないことまで聞いて実際に予算書を作成してみましょう。<br>橋本恭一<br>（福井県文化振興事業団）<br>野中正知<br>（とちぎ生涯学習文化財団） | 企画アイディア楽しみ・苦しみ<br>・実際の事業が面白くなるかどうかはどのような企画を立てるかで決まります。どんな発想をし、具体的なプログラムにおとしていくのかを知り、自分の企画を見直しましょう。<br>中村透<br>（作曲家、シュガーホール芸術監督） | めざせ!企業協賛金獲得<br>・不況不況と言われながらも、企業のアートへの理解度は年々深まっています。プレゼンテーション・ワークショップで企業への理解を深めましょう。<br>中井久志<br>（トヨタ自動車・社会文化室）<br>田中典子<br>（松下電器・社会文化部） |
| 15:00<br>16:00 | まとめと閉講式 | | | |

## 参加ご希望の方は

【参加条件】アートマネジメントに興味関心がある方ならどなたでも参加できます。
・各分科会では課題が出される予定です。

【定員】各分科会40名　計120名
・ただし、『公開レッスン&ミニ・コンサート（11月25日（土）15時00分～）』については、入場料1,000円で一般の方も入場できます（定員400名）。

【講座参加費】2,000円（入場料含む）※交流会費（4,000円予定）を除きます。
・11月24日（金）受付時に納入してください。
・会場までの交通費、宿泊費等は自己負担となります。宿泊先については、特に指定はございませんので、各自手配願います。

【受付期間】平成12年10月23日（月）～定員になり次第締切り。

【申込方法】申込用紙（お問い合わせください）に記入のうえ、郵送またはFAX、Eメール等でお申込みください（定員に達しているか事前にお問い合わせください）。

【備考】※分科会については希望者が多数の場合、第2希望に回っていただくことがありますのでご了承ください。

### ◎申込先・お問い合わせ

（財）とちぎ生涯学習文化財団
〒320-8530宇都宮市本町1-8　栃木県総合文化センター内
☎028(643)1010（文化振興担当）📠028(643)1012
※当センターには一般の方の駐車場はございませんので、お車でお越しの方は周辺の有料駐車場をご利用ください。

## 交通のご案内

■東武宇都宮駅から徒歩にて約10分
■JR宇都宮駅（西口）から
作新学院・駒生行
戸祭行
江曽島行　他
バスにて 県庁前 下車
（バス約10分＋徒歩約3分）
◎乗り場番号 ①②④⑥⑦ ⑩～⑬

TOYOTA

Vol.35
トヨタ・アートマネジメント講座
大阪セッション　美術・10

アートマネジメントは、既成のプロセスを踏んでゆけば、ゴールが見えるという仕事ではありません。プログラム内容が決まってからが、アートマネジャーの本当の仕事のはじまりです。予算や場所の確保、スタッフの管理、広報…現場の仕事は、どれをとっても計画通りにはなかなか事が進まないのが現実です。経てゆく過程により、完成形が変わってくることも当然あります。どこで、何を、どう判断するか、現場を仕切るかは、担当者の裁量次第。少し角度を変えてみること、発想の転換が重要な鍵を握ることがあります。さまざまな問題を想定して、見通しをたてて動くことがたいせつです。本講座は具体的なケース・スタディ等を通して、いかにトラブルシューティングをしてゆくかを考えてゆきます。

**日程** 2001年2月24日(土)・25日(日)

**会場** 24日　大阪府立文化情報センター（さいかくホール）
25日　大阪府立女性総合センター（ドーンセンター特別会議室）
※初日と2日目の会場が異なりますのでお気をつけ下さい。

**定員** 80名（定員になり次第締切）

**受講料** 2000円（2日間通し初日精算）※交流パーティ参加費別途（3500円程度）

# アートマネジメントに必要な発想の転換

主催＝トヨタ自動車株式会社、トヨタ・アートマネジメント講座大阪セッション実行委員会
共催＝大阪府立現代美術センター、大阪府トヨタ販売会社グループ
後援＝大阪府立文化情報センター
協力＝社団法人企業メセナ協議会
監修＝TAM運営委員会　ディレクター（美術）森司
事務局（企業メセナ協議会内）
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F

**申込み** 裏面の必要事項を明記の上、fax、e-mailまたは郵送で下記事務局までお申し込み下さい。

**送り先** 大阪セッション事務局
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-19 大成ビル612
ハラ・アート・オフィス内
tel.06-4705-3217　fax.06-4705-3218
e-mail.MXI02776@nifty.ne.jp

トヨタ・アートマネジメント講座は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として96年から全国各地で開催されています。これまでに34回の講座を通じて、それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索してまいりました。
トヨタのメセナ活動（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

**2月24日(土)**

14:00—15:10
アートの現場を柔軟な対応でしなやかにこなす

15:20—16:40
それぞれが支える芸術文化—地域通貨による循環

（講座終了後オプションで、谷町界隈のアートスペースのツアーを開催）

18:30—20:30
交流パーティ

**2月25日(日)**

10:30—12:00
ボランティアというけれど

13:15—14:15
アートマネジメントなんでもQ&A

14:30—16:30
何をやりたいのか？何が求められているのか？

トヨタ・アートマネジメント講座　大阪セッション

# アートマネジメントに必要な発想の転換

## 2月24日(土)
**会場―大阪府立文化情報センター(さいかくホール)**

### 14:00―15:10
**アートの現場を柔軟な対応でしなやかにこなす**

**加藤義夫 Yoshio Katoh(加藤義夫芸術計画室代表)**

グラフィックデザイナーから美術の仕事に転身し、ギャラリスト、美術評論、インディペンデント・キュレーターという異なる立場で、豊かな経験を持つ加藤氏に、さまざまなトラブルに対処するための事前方策と現場での対処法を聞きます。

### 15:20―16:40
**それぞれが支える芸術文化―地域通貨による循環**

**白川昌生 Yoshio Shirakawa(美術家)**

美術雑誌「LR」に「市場と美術をめぐる問題」を連載し、アートを支える価値の交換や循環にどのようなシステムを用いることができるのかを考察している白川氏。地域通貨の試行などに取り組む氏から、その必要性と有効性について聞きます。

### 18:30―20:30
**交流パーティ**

**(参加費別途)**

## 2月25日(日)
**会場―大阪府立女性総合センター(ドーンセンター特別会議室)**

### 10:30―12:00
**ボランティアというけれど**

**鬼塚哲郎 Tetsuro Onizuka(京都産業大学助教授、MASH大阪代表)**
**原 蜜 Mitsu Hara**
**(BEATNIKメンバー、越後妻有アートトリエンナーレこへび隊・まとめ役)**

美術館ほか、アートイベントなどでもボランティアの志願者の数は年々増えています。しかし、現場では彼らをめぐる問題も発生しています。ボランティアを分類すると「自己実現型」「利他主義型」と2つに大きく分かれるといいます。どうボランティアに参加してゆくか、どう参加してもらうかを、両方の立場から実例をあげながら考察してゆきます。

### 13:15―14:15
**アートマネジメントなんでもQ&A**

**森 司 Tsukasa Mori(TAM運営委員会　ディレクター/美術)**

スペースや展覧会の運営や、イベントの立ち上げなど、さまざまな場面で悩みを抱えるあなたのために、トヨタ・アートマネジメント講座の仕掛人が質問に答えます。

### 14:30―16:30
**座談会:何をやりたいのか?何が求められているのか?**

**沢田眉香子 Mikako Sawada(情報誌エルマガジン編集者)**
**中村政人 Masato Nakamura(美術家、コマンドN代表)**
**モデレーター:谷川真美 Mami Tanigawa(静岡文化芸術大学専任講師)**

「秋葉原TV」や「スキマ・プロジェクト」など、私たちが意識せずに見ている死角に、実験的にどんどんアートの力を投入しているコマンドN。この組織は、アートを発信する側と受信する側の双方のコミュニケーションについて実践的に考える場を設けています。情報誌編集者として、つねに関西カルチャーの最前線を鋭い視線でとらえてきた編集者。彼女は自らのセレクトで若手作家のビデオ上映会を、メディアミックスで開くなどの活動にも着手しています。気鋭の2人がいま社会をどうみているのか、そして、発信する側としてアートを通して何を訴えようとしているのか。また、発信者と受け手の関係をつくることが、何につながると考えているのか。彼らの見ている方向や方法論を発想の転換のヒントにしていきたいと思います。

**●お申し込み方法**
必要事項を明記の上、fax、e-mailまたは郵送で下記事務局までお申し込み下さい。
(先着順の受付とし、定員になり次第、受付を締切らせていただきます。参加の可否はfaxあるいはe-mail等をもってお知らせします。)
参加費は講座初日または当日の精算になります。

**●お問合せ・お申し込み先**
トヨタアートマネジメント講座大阪セッション事務局
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-19大成ビル612　ハラ・アート・オフィス内
tel.06-4705-3217　fax.06-4705-3218　e-mail.MXI02776@nifty.ne.jp

## トヨタ・アートマネジメント講座　参加申込書

氏名　　年齢

住所

tel.　　fax.

e-mail.

職業(所属団体、学校名・専攻)

参加の動機

交流パーティ参加の有無　　参加希望する　　参加希望しない

**大阪府立文化情報センター**(大阪府新別館北館1階)
大阪市中央区大手町3-1-43　tel.06-4790-8520
地下鉄中央線・谷町線「谷町四丁目駅」下車、1A出口すぐ

**大阪府立女性総合センター**(ドーンセンター)
大阪市中央区大手前1-3-49　tel.06-6910-8500
地下鉄谷町線・京阪電車「天満橋駅」下車、1番出口から東へ350m

## 2001年度

### カフェ、ワークショップ―座学から実践へ

TAMも新世紀に突入。前年からスタートしたチャレンジ編も回を重ね、各セッションのタイトルからもうかがえるとおり、さまざまなバリエーションがあらわれます。講座のターゲットやテーマの多様化に加え、開催スタイルの変化がみられます。福岡のカフェや帯広のワークショップなど、TAMはいよいよ座学から、まちに向きあう実践の色あいを強め、社会にじわじわと染み出しつつあるようです。

Vol. 36　福岡　チャレンジ編 -4　2001年7月
「冷泉藝館 ― 3 days アートセンター」
Vol. 37　新潟　チャレンジ編 -5　2001年7-8月
「翔ばたけ! ジュニアオーケストラ～子どものために、
地域、企業、行政、そしてホールは何ができるか～」
Vol. 38　帯広　美術 -11　2001年8-9月
「はじめてのアートマネジメント
―人が動く、地域が目覚める」
Vol. 39　広島　音楽 -8　2001年10月
「コンサートって何？
― クラシックの音楽会について徹底的に考える ―」
Vol. 40　浪岡　演劇 -14　2001年11月
「映画祭メチエ ― 新しいアートマネジメントを目指して」
Vol. 41　名古屋　総合 -3　2002年1月
「アートで、つながる ― 芸術活動と地域社会を結ぶ
橋渡し役・アートマネジメントの真相とは ―」
Vol. 42　盛岡　チャレンジ編 -6　2002年3月
「市民参加から市民協働へ～アートの地産地消運動を～」

Vol. 36　2001年7月

## 冷泉藝館― 3 daysアートセンター

福岡セッション　チャレンジ-4

ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長員　宮本初音

『冷泉藝館』は、ひとことでいえば、カフェを併設したアートセンターである。街のなかで現代美術を展開するプロジェクトをおこなってきた「ミュージアム・シティ・プロジェクト」(MCP)のメンバーが中心になって企画を作り、若いボランティアが運営に携わった。このプログラムは「アート業界と異業種をつなぐアートセンター」の3日間限定のシミュレーションとして構想され、インフォメーションコーナー、レクチャールーム、オフィス、ギャラリー、カフェ等のスペースを作った。

また、ボランティアとして関わるスタッフをTAM受講生と位置づけ、事前に4回のレクチャーをおこなった。講師には、アーティストでありつつスペース等の運営に携わっている人を招き、いわゆる「アーティスト・ラン・スペース」のノウハウを聴いた。小石原剛(岡山・NPOミーツ代表)、宮川敬一(北九州・ギャラリーSOAP)、藤本由紀夫(神戸・CAPメンバー)らによる実践的な講義では、アーティストの柔軟かつ斬新なアイデアと運営方針が紹介され、若い受講生たちも刺激を受けた(敬称略)。

『冷泉藝館』当日の福岡は大変な猛暑となり、冷房がない旧小学校校舎の会場は、厳しいコンディションとなった。それでも、窓外に樹木の見える元図書室のアジア風カフェでお茶を飲み(茶菓は無料提供)、アート情報をぱらぱら見つつ、友人たちと会話を交わし、時々は隣室のパフォーマンスやトークに参加する、という三日間はなかなか充実していた。普段はあまりアートスペースに行かないというお客さんも、カフェでゆるゆるとした時間を過ごしてくださった。アートにはこんなぼんやりした時間と空間が必要なのではないだろうか。

アートを日常的に外とつなげていくための機能を持つスペースを常設にしたいというMCPの10年来の野望。『冷泉藝館』は貴重な3日間限定実験となったのである。　(02年9月)

「冷泉藝館」ホームページ　http://www.ne.jp/asahi/mcp/fukuoka/2001/07tam/index.html

Vol. 37　2001年7月-8月

## 翔ばたけ！ジュニアオーケストラ～子どもたちのために地域、企業、行政、そしてホールは何ができるか～

新潟セッション　チャレンジ-5

新潟市民芸術文化会館事業課　中尾友彰

97年の演劇編、98年の音楽編に引き続き、新潟では3回目の開催となったTAM。チャレンジ編(音楽)となった今回は、それにふさわしいようテーマも絞り込み、「ジュニアオーケストラ」にスポットを当てた。普段なかなか取り上げられることのない題材だけに、各地の育成法、運営法、問題点、また官民の違いを一斉に紹介できたことは、関係者はもちろんのこと、受講者の大半を占める新潟市民に、財団が行う「ジュニア育成事業」への意識を高めてもらう良い機会となった。

講座編に加えて今回は、公共ホールの仕事を体験する実践編を用意し、TAMの1ヵ月後に開催されたジュニアオーケストラの祭典「2001ジュニアオーケストラフェスティバル in NIIGATA」(岡山市、北九州市、浜松市、新潟市の4つの公立ジュニアオーケストラが参加)での制作・運営をこれにあてた。フェスティバルの10日前から参加した受講生は、出演団体との連絡調整、運営マニュアルの作成補助、当日の各団体のアテンドなど、単なる雑務にとどまらず核となる仕事も担当し、講座を聞くだけでは決して得難い具体的なコンサート制作の手法を体験した。

また、今回のTAMとジュニアオーケストラフェスティバルの開催がきっかけとなり、「全国公立ジュニアオーケストラ連絡協議会」(仮称)発足に向けて、準備を進めることとなった。この協議会は、フェスティバルの開催や各地の情報交換などを目的としており、現在、全国8つの公立ジュニアオーケストラと交流を深め、2003年4月発足を目指している。

TAMの開催から、今まさに新たな風が吹こうとしている。　(02年9月)

Vol. 38　2001年8月-9月

## はじめてのアートマネジメント―人が動く、地域(マチ)が目覚める

帯広セッション　美術-11

川瀬直美

帯広セッションは、ワークショップ、シンポジウム、講座の3本柱で構成され、アートマネジメント体験編として01年8月にワークショップ(4日間)、アートマネジメント講座編として9月にシンポジウム・講座(3日間)を開催した。実行委員は42名、職業や仕事内容、立場もさまざまで、はじめて顔を合わせる人も多かった。これだけ人が集まると、本セッションに対する思いは多種多様で、意見集約などには非常に時間がかかった。しかし、今まで繋がりがなかった人と出会い、十勝の地域性やアートについて、マネジメントについて、真剣に考え、話し合いを重ねたプロセスは大変意義深いものであった。

テーマ「はじめてのアートマネジメント」にもあるように、本セッションを開催するにあたり中心となって活動した実行委員は、私をはじめアートマネジメントの初心者たちが多い。マネジメント経験者である実行委員は、その活動をサポートする側にまわり、自分でやったほうがスムーズに進むところ、もどかしい状況を見守った。それゆえ、中心となって活動した実行委員が、本セッションで、一番吸収することが多かった参加者であると思う。

実行委員会を設立してから9ヶ月、やっと報告書をCD-ROM化するところまで辿り着き、すべての業務を終え、実行委員会は解散した。実行委員会設立までの準備を含めると1年以上にわたった活動の中で生まれたチームワークとネットワークは、何ものにも換えがたいものである。

帯広セッションを単なるイベントに終わらせないように、今回得た経験とネットワークをどう活かし、具体的な活動に発展させていくのかということを実行委員一人一人の今後の課題にしたい。そして、このセッションからアートマネジメント実践者が生まれ、次へとつながっていくことを信じている。　(02年9月)

Vol. 39　2001年10月

## コンサートって何?―クラシックの音楽会について徹底的に考える―

広島セッション　音楽-8

(財)広島市文化財団文化事業部事務課　武村綾美

トヨタ自動車(株)という民間企業との共催事業であったこと、実施主体の3者(ディレクター、メセナ協議会、当財団)が東京、広島と離れている状態で企画・準備を進めたことなど、私にとっては、今までに経験したことのない形での事業だったが、この事業にかかわったすべての方の協力で無事、事業を実施することができ、心から感謝している。

担当者としての反省点は数多くあったが、定員を超える応募があり、事業が盛会だったことが、全ての苦労や失敗を払拭できるほどの喜びだった。予想以上の大きな反響の原因は何だったのか、自分なりに考えてみたところ、1. プログラム内容の充実、2. アートマネジメントへのニーズ、3. 効果的な広報、の3つが思い当たった。

1のプログラムの作成については、十分に話し合った上で、最終的にはディレクターにまとめていただいた。そのため、一貫性があり、しかも、実験的なワークショップも含んだレベルの高い内容となったと自負している。2については、「アートマネジメント」へのニーズが、考えていたよりも大きかったという、うれしい誤算であった。音楽の分野に限らず、演劇、美術などさまざまなアートにおいて、「マネジメント」の必要性は高まっており、そこに携わってみたいという人も増えていると言える。3の広報であるが、特に目新しい手法は使っていない。ただ、例えばDMを出すにしても、音楽関係者からこのような事業に興味をもっているような人を紹介してもらったり、過去に同種の講座を実施したところから情報をもらうなど少しでも参加の可能性が高いような人、団体を探してDMを送った。地道なやり方ではあるが、確率は高かったように思う。

地域と芸術活動をつなぐコーディネーターであるアートマネージャー。アートマネージャーが育てば、音楽において聴衆とアーチストをつなぐ一番の接点である「コンサート」プログラムが充実し、クラシックコンサートが抱える大きな問題点である、観客の減少傾向に歯止めがかかるのではないだろうか。クラシックは敷居が高い、難しいという先入観なしに、多くの人が自由に楽しむことができる環境づくりのために、アートマネジメントの重要性はますます高まっていくと痛感した。　(02年9月)

Vol. 40　2001年11月

## 映画祭メチエ―新しいアートマネジメントを目指して

浪岡セッション　演劇 -14

なみおか映画祭アソシエート・ディレクター　長谷川孝治

TAMで初めての「映画」アートマネジメント講座は、様々な可能性を孕みつつ終了した。正確には「映画祭」のマネジメントに関する講座である。

映画祭の技術とは、作品の選定・組み合わせ・映画そのものへの深い理解に他ならない。しかも、映画に対する愛を欠いていては成立しないのである。107年間の映画史は、作られつつある映画と消えつつある映画の攻防の歴史であった。映画祭を作り上げるということは、常に新たな映画史観を構築することである。

本講座がなみおか映画祭の現場で開催されたことは決して故なきことではない。そこには映画を見せる側と見せられる側の攻防が展開されていたからだ。それは、映画祭スタッフの映画史観と観客のそれがぶつかり合う場だと言い換えることができる。受講者は、ギリギリまで到着しないフィルムを忍耐と確信を持って待つ映画祭スタッフの姿、古い映画を保存する修復者の姿、映写技師の姿、未見のフィルム群に刻々と白熱していく観客の姿を目撃したはずだ。映画祭が成立する瞬間に立ち合うことは、そのまま本講座最大のセッションであった。

世界では、少なく見積もっても毎年3000本の映画が製作されている。映画祭を作り上げるとは、今まで製作されてきたおびただしいフィルム相互のシークェンス（組み合わせ）を考え抜き、実行することに他ならない。誰かにとって重要な映画は、別な誰かにとって必ずしも重要であるとは限らず、しかし、個人的事情を越えて屹立する映画は確実にあるのである。

もしも、TAMで映画をテーマとしたセッションが何処かで継続されるとしたら、次の課題は作られつつある優れた映画をどのようにしたらサポートできるかを考えることであり、その製作の現場に映画祭が積極的に荷担することであるだろう。デジタルムービーの普及は従来の映画製作のしきたりとバジェットを変えてきた。バラバラに存在するのではなく、横断的に繋がること、映画祭開催のメチエ（技術）を獲得することは、演劇や美術や音楽を繋ぐためのスキルを獲得することでもある筈だ。　（02年9月）

Vol. 41　2002年1月

## アートで、つながる―芸術活動と地域社会を結ぶ橋渡し役・アートマネジメントの真相とは―

名古屋セッション　総合-3

愛知県文化情報センター　中村章子

名古屋で2回目となった今回は、アートマネジメントを考える際、最も重要な課題のひとつである様々な“つながり”をテーマに、合同セッションと①「アウトリーチについて」②「ネットワークの構築について」③「企業メセナへのアプローチ」の3つの分科会で参加型の討議を行った。参加者は113名と定員を上回り、その内の40％の方が県外からであった。これは各地でアートマネージャー志向の輪が着実に育ってきている証であり、過去約5年にわたり全国で既に40回も行われてきた、TAMの成果でもあると言えよう。また、参加者層が、実際に企画・制作等にたずさわる実務経験者の方が多かったのもひとつの特徴であった。事前に参加者から募った仮の企画書をもとにプレゼンテーションを行ったワークショップは大変好評で、参加者からは「時間が足らなかった」「もっと深く話し合いたかった」などの熱いコメントがアンケートで寄せられた。

各分科会の概要は、①では、ワタリウム美術館や小出郷文化会館における斬新なアウトリーチ活動の事例紹介と、グループ課題研究が行われた。②では、地域社会・市民・自治体とのつながり、行政とのつながり、同種の活動拠点同士（劇場間など）の基礎的な各ネットワークが機能するためのアートマネージャーの役割として、ひとりひとりが主体的に関わり、自分の能力を出せる場をつくっていくことの重要性が提示された。③では、メセナ支援申し込みのケーススタディと、それに対する企業側の率直な印象が述べられるなど、全体として参加者にとって今後の企画制作等に大変参考となる講座であった。　（02年9月）

Vol. 42　2002年3月

## 市民参加から市民協働へ～アートの地産地消運動を～

盛岡セッション　チャレンジ－6

盛岡市観光文化交流センター副館長　坂田裕一

前回（1998年1月）の盛岡セッションのテーマは「地域文化と演劇」、市民参加型の演劇運動で地域に演劇を根付かせるための方策について議論し、その際の課題として、地域で生み出される作品の質や地域と演劇の関係性が提起された。

今回は、その提起された課題を継承し、「市民参加という底辺拡充型の文化ホール側の仕掛け」から「市民と行政・地域が共通・対等の立場で協働する市民協働型演劇振興」による「アートの地産地消」の実践について討議するとともに、作品を高める方策として「ドラマリーディング」の活用を実践した。

ドラマリーディングは、公募作品と地元作家による既上演作品併せて3本の作品を上演。

アートの地産地消の実践については、「地域通貨」の可能性と、「中心市街地にアートの空間を」という二つの提起を行った。地域通貨についてはアートの現場でのキチンとした実践例がないことから、地域通貨そのものの基本的考え方の議論で終わったが、試行・実践へのアプローチとして大切な一歩を記した。「中心市街地にアートの空間を」というメッセージは、近年の郊外型大型ショッピングセンターの立地により、衰退を余儀なくされている地方中核都市の市街地の活性化をアートの現場との協働で、という趣旨で提起したものであった。しかし、盛岡市の現実が、既にアートとの協働を歴史的にも実践し、地方都市の中では比較的中心市街地が元気であることから、現実性を帯びた論議としては成立し難かった。

「ドラマリーディング」「地域通貨」「中心市街地にアートの空間を」の3つの提起は市民参加型の演劇振興から一歩すすめる上で、大切なアプローチであり、今回はその入口を紹介した形だった。今後、如何にこれらの実践につなげていくかが課題となろう。（02年9月）

TOYOTA

Vol.38
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-4（福岡）

Toyota Art Management Lecture, Art Session 2001 Fukuoka

# REISEN ART HOUSE
# 冷泉藝館

## 3days アートセンター

a temporary art center, 3days in Fukuoka

## 2001年 7月20㊊・21㊏・22㊐ 11:00–19:00

**会場：旧冷泉小学校**（福岡市博多区上川端6-38）

✦主催：トヨタ自動車株式会社、トヨタ・アートマネジメント講座 美術セッション2001（福岡）実行委員会 ✦共催：福岡県トヨタ販売会社グループ、ミュージアム・シティ・プロジェクト ✦後援：福岡市、福岡市教育委員会、博多部まちづくり協議会（事務局 NPO博多まちづくり） ✦協力：（社）企業メセナ協議会 ✦監修：TAM運営委員会 ディレクター（美術）森 司

✦問い合わせ先：TAM美術セッション2001（福岡）実行委員会（ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局内）
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町5-18 ぎんなんビル#403 電話/fax 092-283-6205

✦**date: July 20 (Fri./Holiday), 21 (Sat.), 22 (Sun.), 2001**

✦**venue: the former Reisen elementary school** (6-38 Kami-kawabata, Hakata-ku, Fukuoka, JAPAN)

✦**produced by** Toyota Motor Corporation, Toyota Art Management Lecture Art Session 2001 Fukuoka executive committee

✦**More Information** : TAM Art Session 2001 Fukuoka executive committee (c/o Museum City Project Office)
#403 Gin'nan BLD. 5-18 Komondo-cho, Hakata-ku, Fukuoka 812-0029 JAPAN phone and fax +81- (0)92-283-6205

✦http://www.ne.jp/asahi/mcp/fukuoka/ ✦e-mail <gokusho@nn.iijfu.or.jp>

Vol.36
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-4（福岡）

Toyota Art Management Lecture, Art Session 2001 Fukuoka

# REISEN ART HOUSE 冷泉藝館

## ✦トヨタ・アートマネジメント講座とは

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、全国で開催されているセミナーシリーズです。非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアート・マネジャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが行政・文化機関・市民などさまざまなレベルで盛んになることを目的としています。TAMは、舞台芸術（演劇・舞踊）、美術、音楽のジャンルでおこなわれ、各講座の企画立案は、現地の主催者（実行委員会）とTAM運営委員会ディレクターとの共同作業によりおこなわれます。

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat

## ✦「冷泉藝館」とは

アートと異業種をつなぐ「3日間限定」のアートセンターです。芸術の情報を市民向けに知らせるだけでなく、企業や行政、非営利組織等の異業種との交流を深め、アートをめぐって新たな社会的活動を起こすことを目指します。期間限定のシミュレーション実施により将来の実現へつなげたいと考えています。アートマネジャー志望者が運営に参加することで人材育成も図ります。

＋「冷泉」の名の由来には諸説ありますが、13世紀博多湾に漂着した人魚を見に都から訪れた「冷泉大納言」の名を湾の名としたことに由来するという説もあります。

## ✦「冷泉藝館」の主な構成

### ✤インフォメーションコーナーとカフェ

アート、演劇、音楽等芸術活動にかかわる情報を提供するスペース。カフェを併設し、打ち合わせなどができるようにします（カフェは無料）。カフェではアジアのお菓子などを限定提供する予定です。

### ✤ギャラリー

福岡で活躍するアーティストの作品を展示します。

### ✤オフィス

本物の建築事務所が登場します。アーティストとの共同制作によりデザインされます。

### ✤ワークショップルーム

子どもたちや一般のかたが気軽に利用できるアート体験スペースです。

### ✤レクチャールーム

アートをテーマに、会期中随時レクチャーを実施します。

✦Toyota Art Management Seminar (TAM) is the art lecture series to grow up art managers, produced by Toyota Motor Corporation, as its mécénat activity.
The Reisen Art House is a program of the TAM 2001 art session in Fukuoka, a kind of temporary art center project which consists of a information café, gallery, workshop room, lecture room and an architect's office, etc.
The art house aims to connect art and society.
To get more information about the Reisen Art House, please visit the website.
✦http://www.ne.jp/asahi/mcp/fukuoka/

## 主なスケジュール SCHEDULE

会場オープン時間：11時－19時
入場無料
※ 実施時間や内容は変更になることがあります。

### 7.20（祝） 13:00－15:00 OPENING EVENT オープニングイベント

✤アーティスト：藤浩志
福岡を拠点に国内外で活躍する美術作家・藤浩志によるアートイベントです。

### 7.21（土） 13:00－16:00 WORKSHOP ワークショップ

✤プロデュース：ASAP
1999年に福岡で行われたアートプロジェクト「ヴォッヘンクラウズール：アートによる提案と実践」を契機に発足した、教育と社会を考える非営利組織ASAPが、ワークショップを企画します。どなたでも参加できます。

### 7.22（日） 13:00－16:00 SYMPOSIUM シンポジウム

「共同事業体としてのアートセンター」

✤出演予定者（順不同）
広川　大八（福岡市　都市整備局都市計画課）、高崎　繁行（西日本鉄道株式会社　都市開発事業本部）、稲舛　積（博多部まちづくり協議会）、森　司（TAM運営委員会ディレクター／美術、水戸芸術館）、熊倉　純子（TAM運営委員会事務局、社団法人企業メセナ協議会）、山野　真悟（ミュージアム・シティ・プロジェクト）

＋初日11時より開所式をおこないます。

その他の企画は、随時ホームページ等で発表されます。
TAM受講生等により立案されるものも含まれる予定です。

### 会場へのアクセス

［福岡市地下鉄］
中洲川端駅（5番出口）より徒歩約5分

［西鉄バス］
キャナルシティ博多前バス停より徒歩約3分

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

TOYOTA

Vol.37
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-5（新潟）

# 翔は翔ばたけ！

98年に好評を博した新潟音楽編では、「きほんにもどって、オーケストラ」と題し、プロオーケストラとコンサートホール、そして地域社会の理想的な関係について考察したTAM。チャレンジ編となる今回は、アマチュアオーケストラ、その中でもとりわけジュニアオーケストラがテーマです。少子化や授業数の減少により、学校での部活動が成立しにくい今、子どもたちが身近な場所でアートに触れる機会も失われつつあります。そんな時代に、地域は、企業は、行政は、そしてホールは、アートを通して子どもたちのために何ができるか。さまざまな視点から探ります。なお8月に新潟で開催するジュニアオーケストラの祭典「2001ジュニアオーケストラ・フェスティバル in NIIGATA」のホットな情報もお伝えします。どうぞふるってご参加ください。

## ジュニアオーケストラ

～子どものために、地域、企業、行政、そしてホールは何ができるか～

**日程**

講座編：2001年
**7/28（土）～7/29（日）**
実践編：2001年
**8/23（木）～8/25（土）**

**会場**

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 スタジオA

**定員**

講座編：70名（先着順）
実践編：10名（講座編受講者対象、7/29（日）以降に申込受付開始）

**受講料**

3,000円（全講座通し券）
※交流パーティ参加費別途（3,000円程度）

主催：トヨタ自動車株式会社、財団法人新潟市芸術文化振興財団
共催：新潟県トヨタ販売会社グループ
後援：新潟市
協力：社団法人企業メセナ協議会
監修：西巻正史（[redacted]）
事務局／社団法人企業メセナ協議会内
〒100-0004 東京都千代田区[redacted]

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、96年から各地で開催されています。
舞台芸術（演劇・舞踊）、美術、音楽の各ジャンルで行われるこの講座は、アートと社会の橋渡し役となるアートマネージャーを育成するとともに、地域文化の活性化をめざしてまいりました。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

りゅーとぴあ
新潟市民芸術文化会館
〒951-8132 新潟市一番堀通町3番地2（白山公園内）
http://www.ryutopia.or.jp

トヨタ・アートマネジメント講座
新潟チャレンジ編

# 翔(は)ばたけ！ジュニアオーケストラ

## ～子どものために、地域、企業、行政、そしてホールは何ができるか～

### 講座編

## 7/28（土）　会場：スタジオA

**受　付**　12：45～13：15

**オリエンテーション**　13：15～13：30

**Ⅰ『アートマネジメントって何？』**　13：30～14：30

チャレンジ編をはじめるにあたって、アートマネジメントの意義、役割など、基本的な考え方のおさらいをします。

講師：西巻正史［（株）トッパンホール企画制作部長／TAM運営委員会音楽ディレクター］
　　熊倉純子［（社）企業メセナ協議会シニア・プログラムディレクター］

**Ⅱ『ジュニアオーケストラの育成法』**　14：45～16：45

―ユニークな2つの事例を比較する―

楽器未経験者でも受け入れる「教室方式」や、楽器教室、初級合奏、合奏と続く「進級制」など、ユニークな育成システムで知られる新潟市。一方、地元のプロオーケストラである仙台フィルを最大限活用し、団員自らがジュニアの指導にあたる仙台市。ユニークな両者の事例を分析し、よりよいオーケストラの育成方法を考えます。ジュニアオーケストラ主宰者必見！

パネリスト：志賀野桂一［仙台市市民局生活文化部文化振興課長］
　　寺田尚弘［新潟市民芸術文化会館事業課］
コメンテーター：樽本広樹［小出郷文化会館主事］
進　　行：中尾友彰［新潟市民芸術文化会館事業課］

## 7/29（日）　会場：スタジオA

**Ⅲ「アマチュアオーケストラのマネジメント」**―ジュニアオケを中心に―

**第1部　ジュニアオーケストラが抱える諸問題**　10：00～12：00

―民間・公立両ケースから探る―

「練習場所が無い」「レベルが上がらない」「団員が集まらない」など、年齢構成や運営形態がさまざまなジュニアオーケストラには、常に問題がつきまといます。今、各団体がどのような問題に直面し、どう解決しようとしているのか？民間、公立両オーケストラの担当者とその糸口を探ります。

パネリスト：戸本保子［（社）岐阜県交響楽団団員／岐響ジュニアオーケストラ代表］
　　吉郷浩一［（財）北九州市芸術文化振興財団文化事業課］
　　小林徳規［新潟市民芸術文化会館事業課］
進　　行：本田加代子［新潟市民芸術文化会館事業課］

**第2部　アマチュアオーケストラの支援について**　14：00～16：00

行政や企業は、プロだけではなく地域に密着しながら活動するアマチュアオーケストラも支援しています。またその方法もさまざまで、金銭面での支援から楽譜の貸与、本番時のホール無償提供など多岐にわたります。ここでは、なぜ行政や企業がアマチュアオーケストラを支援するのか、またその方法にはどのようなものがあるのかを多角的に探ります。

パネリスト：足立悠司［（財）三鷹市芸術文化振興財団音楽企画員］
　　今枝幹夫［岩倉市役所生涯学習課文化振興係長］
　　戸本保子［（社）岐阜県交響楽団団員／岐響ジュニアオーケストラ代表］
　　長沼真巳［トヨタ自動車（株）広報部社会文化室］
進　　行：小林淳一［新潟市民芸術文化会館事業課］

**Ⅳ 徹底討論『こんなアートマネージャーが求められている』**　16：15～17：30

全国各地で開催されるアートマネジメント講座。そして続々とできる大学のアートマネジメント学科。これらは、この業界を志す人々を生み出した点で、大きな貢献をしています。しかし、机の上での勉強だけで、本当にアートマネージャーとして必要な能力を身に付けることができるのでしょうか？厳しい切り口から21世紀に求められるアートマネージャー像を探ります。

パネリスト：西巻正史［（株）トッパンホール企画制作部長／TAM運営委員会音楽ディレクター］
　　熊倉純子［（社）企業メセナ協議会シニア・プログラムディレクター］
　　寺田尚弘［新潟市民芸術文化会館事業課］

### 実践編／8/23（木）～25（土）

**『2001 ジュニアオーケストラ・フェスティバル in NIIGATA』の制作・運営**

TAM新潟編の1カ月後には、全国の公立ジュニアオーケストラ4団体（岡山市、北九州市、浜松市、新潟市）がりゅーとぴあに集まり、『2001ジュニアオーケストラ・フェスティバル in NIIGATA』が開催されます。そこで実践編では、実際にフェスティバルの制作現場に立会っていただき、「子どもたちから100%以上の力を引き出すにはどうするか？」「指導者にはどういったお話をすればいいの？」など、フェスティバルに関する「？」を一緒に考えていただきます。

※実践編の募集は、講座編の受講生を対象に、7/29（日）以降行います。（定員10名）
※コンサートは8/25（土）13：30からになります。
※上記日程以外にも、事前説明会等で何度かホールへお越しいただきます。

### オプション企画

1. 7/29（日）13：00～14：00の間、新潟市音楽文化会館（りゅーとぴあ隣り）で行われる新潟市ジュニアオーケストラ教室の練習風景をご見学いただけます。
2. TAM受講者には、8/25（土）にりゅーとぴあコンサートホールで開催される『2001ジュニアオーケストラ・フェスティバル in NIIGATA』へ無料ご招待いたします。
3. TAM受講者には、7/28（土）にりゅーとぴあコンサートホールで開催されるアシュケナージ指揮「フィルハーモニア管弦楽団」の日常を￥7,000（一般販売価格：￥8,000）にてご優待いたします。（先着順。定員40名）

※上記プログラムは、都合により変更される場合があります。

### 受講申込方法

必要事項を明記の上、7月20日（金）必着で新潟市民芸術文化会館アートマネジメント講座係まで、郵送またはFAXでお申し込みください。（電話での申込は不可）

募集定員　講座編：70名（先着順）
　　実践編：10名（講座編受講者対象。7/29（日）以降に申込受付開始）
受 講 料　￥3,000（全講座通し券）初日に会場受付でお支払いください。
懇 親 会　7月29日（日）18：30より懇親会を予定しております。
　　（別途会費3,000円を予定。初日に会場受付でお支払いください）


受講お申込・お問い合わせ先

〒951-8132　新潟市一番掘通町3番地2　新潟市民芸術文化会館　事業課
「トヨタ・アートマネジメント講座」係　（担当：中尾）
TEL:025-224-7000 FAX:025-224-5626　e-mail:jigyou@ryutopia.or.jp


■会館のご案内

●新潟駅より車で7分
●関越自動車道・磐越自動車道　新潟中央ICより車で18分
●新潟駅万代口より「昭和大橋経由入船町」行で「白山公園前」バス停下車徒歩2分、「新潟県庁」行で「陸上競技場前」バス停下車徒歩5分、「信濃町」行で「市役所前」バス停下車徒歩7分
●新潟空港より車で27分

■白山公園駐車場のご案内

●駐車場A.B.C.D合わせて約600台
※身障者用駐車場スペースを用意しております。
※新潟市音楽文化会館には専用の駐車場がありません。なるべく公共交通機関をご利用ください。なお、自家用車は白山公園駐車場（有料：30分100円）をご利用いただけますが、混雑する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

### トヨタ・アートマネジメント講座『講座編』参加申込書

氏名　　年齢　　住所

tel.　　fax.　　e-mail　　職業（所属、部署、学校名、専攻等）

参加の動機

懇親会参加の有無（別途会費￥3,000程度）　参加希望する　参加希望しない

「フィルハーモニア管弦楽団」優待席購入の有無（B席￥7,000）　希望する　希望しない

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

みんなあつまれ！
参加無料（さんかむりょう）

# ばくりっこフェスティバル

## かいさい

帯広の中心街、広小路３区に、お金を使わない
物々交換の子どもの商店街「かえっこタウン」が、
２時間だけオープンします。
そこで開催される、子どもによる、子どものお祭り、
それが「ばくりっこフェスティバル」です。
不要になったおもちゃなどを集めてぜひご参加下さい。

### ばくりっこフェスティバルのあそびかた

**1** いらないものを、うちからもってくる。
（おもちゃ、アクセサリー、グッズ、ぶんぼうぐ、本、CDなど）
※カード類はかえっこできません。

**2** かえっこバンクへ、いらないものをもって行き
そのぶんの、かえるポイントを、スタンプしてもらう。

そこそこのもの　１ポイント
まあまあのもの　２ポイント
なかなかのもの　３ポイント

※バンクではっこうするポイントは、バンクマンがきめますのでもんくなしです。
あくまでもあそびですので、たいせつなもののもちこみは、おことわりしております。

**3** かえっこカードに、スタンプされた、ポイントを
つかって、かえっこショップで、かいものをたのしむ。

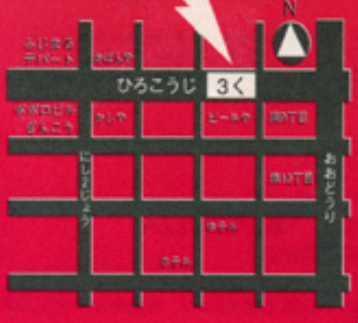
**4** かえるポイントを、もっとほしい人は、かえっこ
ファクトリーやかえっこステージで、おてつだいをして、
ポイントをもらう。

**5** またかえっこショップで、かいものを、たのしめる。

とき **8/14** (2001 かようび) **1じ～3じ**

ばしょ 帯広広小路（ひろこうじ）

## かえっこタウン



TOYOTA

Vol.38
トヨタ・アートマネジメント講座
帯広セッション　美術-11

藤浩志ワークショップ
8月11日(土)▶14日(火)

「はじめてのアートマネジメント：体験編」

# みんなでつくろう！「ばくりっこフェスティバル」かえっこタウンの住人募集！

このワークショップは、福岡在住のアーティスト・藤浩志さんと、「かえっこタウン」という物々交換の街をつくり、そこで子どもが楽しめる祭り「ばくりっこフェスティバル」を開催する体験講座です。大人の参加者は「かえっこタウン」の露店や工房、飾り付けやパフォーマンスなどのさまざまな仕掛けを提案し、実行します。子どもの参加者は「かえっこタウン」のいろいろなショップや工房の店員になったり、飾り付けをしたり、またパフォーマンスの助手や出演者になったりして、「ばくりっこフェスティバル」の運営を体験します。その道のプロでも素人でも、大人だけでも、子どもだけでも、帯広の街を舞台に遊びたい方はぜひご参加ください。

**[募集要項]**

**日　程**

| 日　時 | 内　容 | 場　所 | 対象 | |
|---|---|---|---|---|
| 8/11(土)<br>15時～18時 | 藤　浩志<br>トークとオリエンテーション | 広小路商店街周辺倉庫<br>（帯広市大通南8） | 大人 | |
| 8/12(日)<br>10時～17時 | かえっこタウンを作る | 広小路商店街周辺倉庫 | | |
| 8/13(月)<br>10時～17時 | ばくりっこフェスティバルを作る | 広小路商店街周辺倉庫 | | 子ども |
| 8/14(火)<br>10時～17時 | ばくりっこフェスティバル開催<br>（開催時間：13時～15時） | 広小路商店街3区<br>（帯広市西1条南8・9） | | |

**募集人数**　大人20名・子ども40名　※子ども参加者は小学生以上

**参 加 費**　500円（大人・子ども同額、レクレーション保険含む）

**そ の 他**

・大人は4日間、子どもは2日間を通しての参加が原則です。
・動きやすい服装と昼食をご用意ください。
・現地集合、現地解散、雨天決行です。

**申込方法**

住所・氏名・年齢・職業(子どもの場合は学校名と学年)・電話番号を書いて
下記事務局宛に「はがき」か「FAX」でお申し込みください。(先着優先)

## 藤（ふじ）浩志（ひろし）　プロフィール　1960年生まれ　美術家

1960／鹿児島生まれ。鹿児島市内の中心部で排気ガスと騒音と３人の姉に鍛えられて育つ。
1970／喘息と弱視と慢性鼻炎とアレルギー体質の為病弱に育ち、ぬいぐるみマニアとなる。
1979／仏像と寺院と小説柄に興味を持ち京都市立芸術大学染織科に入学、演劇にはまる。
1983／京都三条鴨川に自作のこいのぼり１５匹を設置。土木局に撤去され社会システムと出会う。
1985／京都市立芸術大学大学院美術研究科を「ゴジラとハニワの関係シリーズ」にて修了。
1986／青年海外協力隊員として日本を脱出。パプアニューギニア国立芸術大学講師として赴任。
1987／プリミティブと格闘する中、ヤセ犬との運命的な出会い。変化することの美を確信する。
1988／取り壊される家に興味を持ち、東京の土地開発業者に就職するが、半年で会社が崩壊。
1989／都市計画コンサルタント事務所に転職。当時の地域計画にストレスを蓄積しはじめる。
1991／会社の社長への抗議の為、一ヶ月分の給料すべてを使って一トンのお米を購入し後悔する。
1992／一トンのお米から2048匹のお米のカエルの作品「2025カエルの池シンポジウム」を制作。
1993／地域計画の実践のつもりで鹿児島に移住。いきなり水害に会い鹿児島との戦いがはじまる。
1994／腐りかけたお米のカエルを引きつれ水害がテーマの「カエルのキャンペーン」を各地で展開。
1995／地域研究の為に入団した鹿児島混声合唱団がいきなりレベルアップ。合唱にかなりはまる。
1996／ニューギニア時代より作り始めていた「ヤセ犬」が目標の101匹となり、彼らと各地を旅する。
1997／福岡の田舎への移住をきっかけに「家庭内ゴミゼロエミッション」を開始。大変な思いをする。
1998／３０年後にアートセンターとして変換可能な複合ビル「e-terrace」を鹿児島に竣工させる。
1999／３年間コレクションしたビニプラで展覧会を構成。ビニプラに生涯付き合う決心をさせられる。
2000／ビニールプラスチックを利用した活動を各地で展開する中、「かえっこショップ」が生まれる。
2001／商店街、学校、町内会、NPO等様々な組織と協力し各地で「かえっこプロジェクト」を展開中。

## 予告

**「はじめてのアート・マネジメント：講座編」**

・公開シンポジウム　平成13年9月14日（金）とかちプラザ
・講　座（1日目）　平成13年9月15日（土）とかちプラザ
・講　座（2日目）　平成13年9月16日（日）北海道立帯広美術館

トヨタ・アートマネジメント講座は〈演劇〉〈音楽〉〈美術〉の各ジャンルを「アート（つくり手）」と「社会（受け手）」の橋渡し役となるアートマネージャーを育成するとともに、地域文化の活性化を目指し、1996年より全国で繰り広げられています。


お問い合わせ・参加申込先（電話でのお申し込みはご遠慮ください）
〒080-0012 帯広市西2条南9丁目　ポポロビル2F　Di・Café　帯広であいカフェ内
トヨタ・アートマネジメント講座帯広セッション実行委員会事務局
Tel.0155-20-2277・Fax.0155-20-1125



主　催　トヨタ・アートマネジメント講座帯広セッション実行委員会　トヨタ自動車株式会社
共　催　帯広市　帯広市教育委員会　帯広商工会議所　マチは美術館づくり実行委員会　十勝毎日新聞社　北海道トヨタ販売会社グループ
後　援　北海道十勝支庁　北海道教育庁十勝教育局　北海道立帯広美術館　(財)帯広市文化スポーツ振興財団　帯広市民劇場運営委員会　十勝文化団体協議会
NPO十勝文化会議　十勝小・中校長会　帯広市校長会　十勝管内教育研究サークル協議会造形サークル　帯広市教育研究会図工美術部会
協　力　(社)企業メセナ協議会　帯広広小路商店街振興組合
監　修　森　司（TAM運営委員会／美術ディレクター）　TAM運営委員会事務局　(社)企業メセナ協議会内　〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1　有楽町マリオン13F



EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

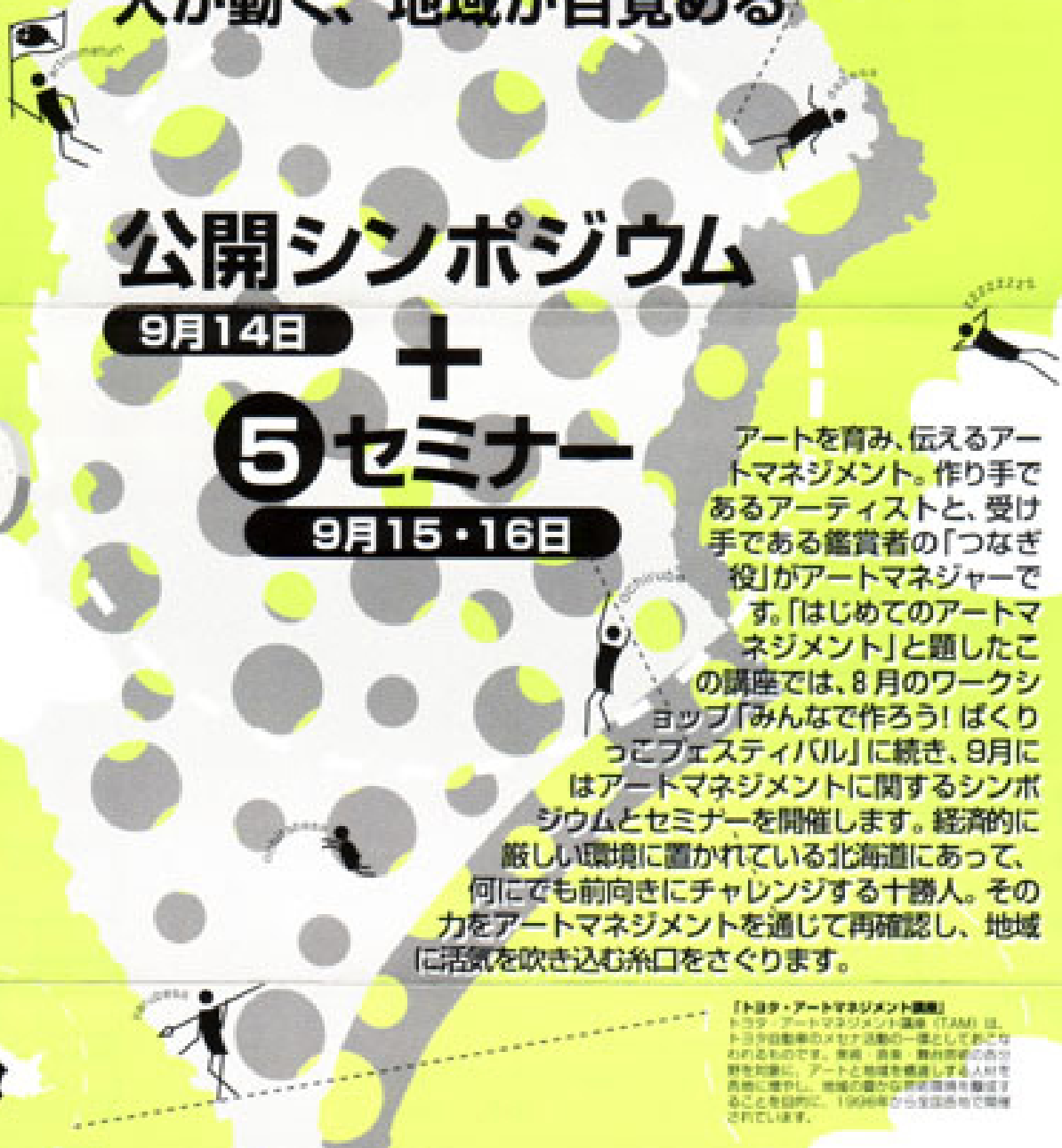
TOYOTA

Vol.38
トヨタ・アートマネジメント講座
帯広セッション　美術-11

Art Management Seminar in Obihiro, Tokachi

# はじめてのアートマネジメント

## 人が動く、地域(マチ)が目覚める



## 公開シンポジウム 9月14日 ＋ ⑤セミナー 9月15・16日

アートを育み、伝えるアートマネジメント。作り手であるアーティストと、受け手である鑑賞者の「つなぎ役」がアートマネジャーです。「はじめてのアートマネジメント」と題したこの講座では、8月のワークショップ「みんなで作ろう! ばくりっこフェスティバル」に続き、9月にはアートマネジメントに関するシンポジウムとセミナーを開催します。経済的に厳しい環境に置かれている北海道にあって、何にでも前向きにチャレンジする十勝人。その力をアートマネジメントを通じて再確認し、地域に活気を吹き込む糸口をさぐります。

**「トヨタ・アートマネジメント講座」**
トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として創られたものです。美術・音楽・舞台芸術の各分野を対象に、アートと地域を橋渡しする人材を各地に増やし、地域の豊かな芸術環境を醸成することを目的に、1998年から全国各地で開催されています。

**日程** 2001年9月14日(金)～16日(日)

**会場**
- 公開シンポジウム 14日 とかちプラザ視聴覚室 19：00～21：00
- セミナー 15日 とかちプラザ402号室 10：30～17：00
- セミナー 16日 北海道立帯広美術館講堂 10：30～15：30

**参加費** 1,000円（全講座通し券）（シンポジウムのみ500円）

主　催　トヨタ・アートマネジメント講座帯広セッション実行委員会　トヨタ自動車株式会社
共　催　帯広市　帯広市教育委員会　帯広商工会議所　マチは美術館づくり実行委員会　十勝毎日新聞社　帯広地区トヨタ販売会社グループ
後　援　北海道十勝支庁　北海道教育庁十勝教育局　北海道立帯広美術館　(財)帯広市文化スポーツ振興財団　帯広市民劇場運営委員会　十勝文化団体協議会　NPO十勝文化会議　十勝小・中校長会　帯広市校長会　十勝圏内教育研究サークル協議会連絡サークル　帯広市教育研究会図工美術部会
協　力　(社)企業メセナ協議会　帯広広小路商店街振興組合
監　修　森　司（TAM運営委員会／美術ディレクター）TAM運営委員会事務局　(社)企業メセナ協議会内　〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F

Art Management Seminar in Obihiro, Tokachi

# はじめてのアートマネジメント

## 人が動く、地域が目覚める（マチ）

### ■公開シンポジウム「地域とアートの新しい関係を求めて」

とかちプラザ視聴覚室　開場18:30▶19:00~21:00　**9/14(金)**

みなさんの暮らしにアートはどんな関わりがありますか？ アートがもたらす経済効果や、まちの活性化などを考えるとともに、さらに奥深いアートの「効き目」をさぐります。

パネリスト：椿　昇〔美術家（神戸在住）〕　長谷川 孝治〔劇団・弘前劇場主宰、なみおか映画祭アソシエイトディレクター（弘前在住）〕
林　光繁〔（株）十勝毎日新聞社代表取締役社長（帯広在住）〕
モデレーター：熊倉 純子〔（社）企業メセナ協議会シニア・プログラム・ディレクター、TAM運営委員（TAM東京事務局）〕

### ■セミナー1　9/15(土)　とかちプラザ402号室　開場10:00▶10:30~11:30

#### アートマネジメントって？・・・！

アートマネジメントの意味は？手法は？効用は？マネジメント初体験の地元コーディネーターがTAMディレクターに素朴な疑問を投げかけます。まずは、「基本のいろは」についてのガイダンス。

質問者：川瀬直美〔TAM帯広地域コーディネーター〕
解答者：森　司〔水戸芸術館現代美術センター学芸員、TAM運営委員会美術ディレクター〕

### ■セミナー2　13:00~14:30

#### アートイベントのバックステージ

1990年から福岡の街を舞台に隔年で開催されているアートイベント「ミュージアム・シティ・福岡」。立ち上げから、酸いも甘いも体験してきたツワモノが語る、10年のマネジメントの舞台裏。

講師：宮本初音〔ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長〕

### ■セミナー3　15:00~17:00

ワークショップ報告

#### 帯広『ばくりっこフェスティバル』でできたこと！

8月におこなわれたワークショップ『ばくりっこフェスティバル』。このアートプログラムがもたらした成果や、そこから見えてきた課題を、その企画と運営を体験した参加者が語ります。

パネリスト：藤　浩志〔美術家〕
高田佳子〔TAM帯広実行委員〕
「ばくりっこフェスティバル」一般参加者
モデレーター：吉野隆幸〔TAM帯広実行委員長〕

### ■セミナー4　9/16(日)　北海道立帯広美術館講堂　開場10:00▶10:30~12:00

#### 街にアートが染み出る意味

ドイツで10年に一度開催される野外彫刻展「ミュンスター彫刻プロジェクト」や、今秋に開催される「横浜トリエンナーレ」など、内外の国際美術展やアートプロジェクトの事例を通して、アートが街に展開されていくことの意味を考えます。美術と社会の相互作用とは？

講師：村田 真〔美術ジャーナリスト〕

### ■セミナー5　13:30~15:30

#### アートマネジメントの可能性―地域の発見

人・まち・アートをつなぐアートマネジメント。十勝帯広において、私達はアートとどのような関係を切り結ぶことができるのでしょうか？また、そのためにはどのようなマネジメントの手法が求められるのでしょうか？十勝の現況と今後の可能性を市民の視点から展望します。

パネリスト：宮本初音〔ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長〕
佐野まさの〔十勝のアートを考える会ディレクター〕
高橋寿美雄〔TAM帯広地域コーディネーター〕
森　司〔水戸芸術館現代美術センター学芸員、TAM運営委員会美術ディレクター〕
モデレーター：熊倉純子〔（社）企業メセナ協議会シニア・プログラム・ディレクター、TAM運営委員〕

## 参加申込方法

●参加ご希望の方は、住所・氏名・電話番号・職業（お持ちであればE-メールアドレス）をご記入のうえ、下記事務局宛にファクスあるいは郵便でお申し込みください。（電話でのお申し込みは受付けておりません）

募集定員　全講座（3日間）通しの参加者　70名
公開シンポジウムのみの参加者　70名
※定員になり次第、締め切ります。また、全講座通してのご参加を優先させていただきます。

参加費　全講座（3日間）通し 1,000円　公開シンポジウムのみ 500円
※いずれも当日、会場受付にて申し受けます。

交流会　9月15日（土）の講座終了後に交流会を予定しております。
会場：とかちプラザ内レストランパタータ　会費：1,000円

●お問い合わせ・参加申込先

〒080-0012　帯広市西2条南9丁目　ポポロビル2F　Di・Cafe　帯広であいカフェ内
トヨタ・アートマネジメント講座帯広セッション実行委員会事務局
Tel.0155-20-2277・Fax.0155-20-1125

■とかちプラザ・帯広美術館のご案内

■とかちプラザ　Tel.0155-22-7890
JR帯広駅より徒歩1分
【駐車場】とかちプラザ駐車場（無料）
帯広市役所駐車場（無料）

■帯広美術館　Tel.0155-22-6963
【バス】十勝バス：「73自衛隊線」「74大空団地線」「76春大線」または「13S循環左回り」で美術館前下車徒歩1分
【タクシー】JR帯広駅より10分
【駐車場】緑ケ丘公園駐車場（無料）

キリトリ線

### トヨタ・アートマネジメント講座「講座編」参加申込書

氏名　　年齢　　住所　〒

Tel.　　Fax.　　e-mail　　職業 所属、部署 学校名、専攻等

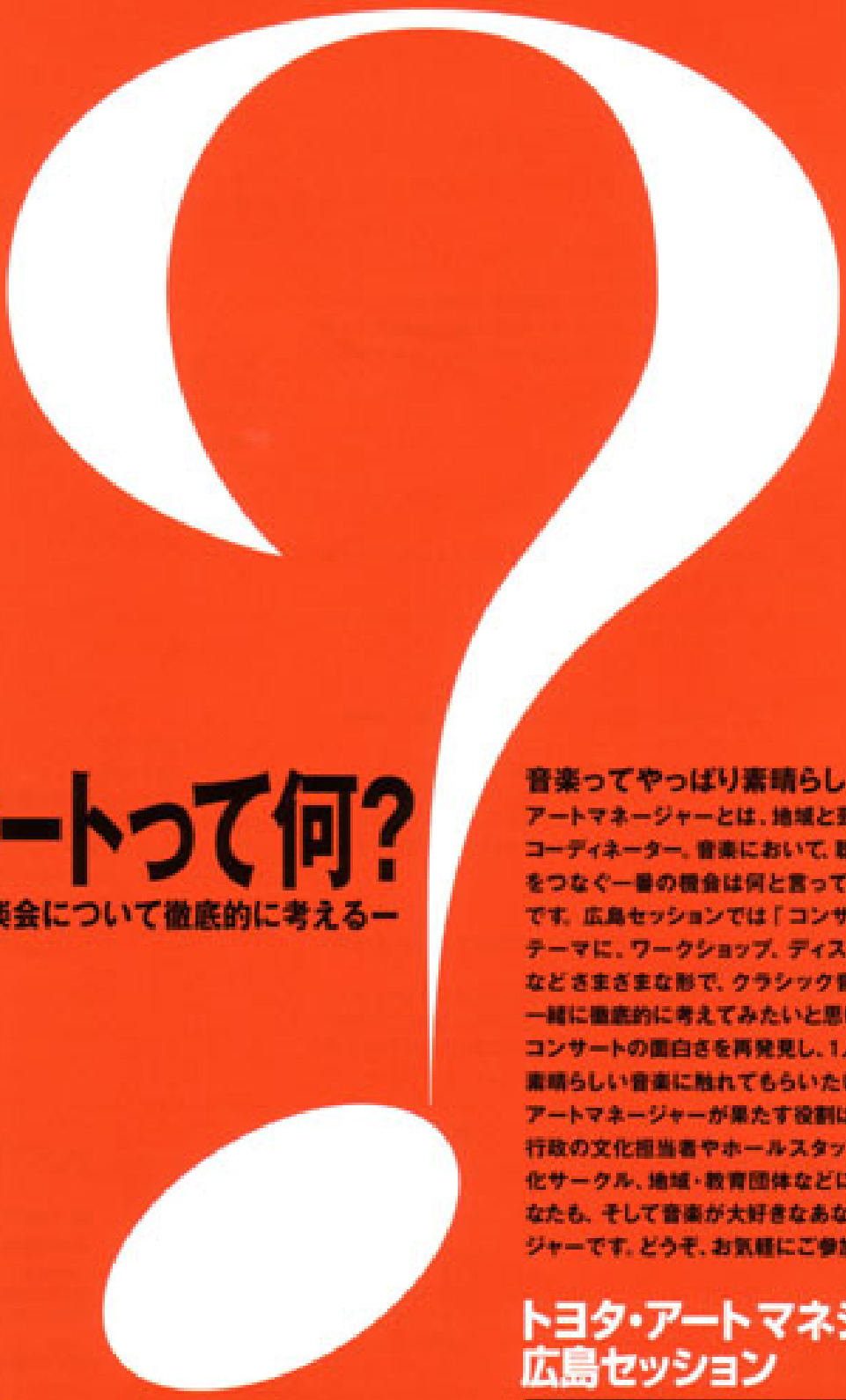
・全講座参加　・公開シンポジウムのみ参加（どちらかに○をつけてください）　交流会参加　YES　NO

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

TOYOTA

Vol.39
トヨタ・アートマネジメント講座
広島セッション　音楽-B



# コンサートって何?

## ークラシックの音楽会について徹底的に考えるー

### 音楽ってやっぱり素晴らしい!

アートマネージャーとは、地域と芸術活動をつなぐコーディネーター。音楽において、聴衆とアーティストをつなぐ一番の機会は何と言っても「コンサート」です。広島セッションでは「コンサートって何?」をテーマに、ワークショップ、ディスカッション、講義などさまざまな形で、クラシック音楽をみなさまと一緒に徹底的に考えてみたいと思います。

コンサートの面白さを再発見し、1人でも多くの人に素晴らしい音楽に触れてもらいたい…。そのためにアートマネージャーが果たす役割はとても重要です。行政の文化担当者やホールスタッフはもちろん、文化サークル、地域・教育団体などに関わっているあなたも、そして音楽が大好きなあなたもアートマネージャーです。どうぞ、お気軽にご参加ください。

## トヨタ・アートマネジメント講座
## 広島セッション

日　程：平成13(2001)年10月21日(日)~22日(月)
会　場：アステールプラザ
定　員：100名(先着順)
参加費：2,000円(2日間通し)
※交流会参加費別途(3,000円程度)

主催：トヨタ自動車株式会社、財団法人 広島市文化財団
共催：広島県トヨタ販売会社グループ
後援：広島市、広島市教育委員会、中国新聞社
協力：社団法人 企業メセナ協議会
監修：吉冨正史(TAM運営委員会音楽ディレクター)

事務局／(社)企業メセナ協議会内
〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F

トヨタ・アートマネジメント講座(TAM)は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、おこなわれるものです。美術・音楽・舞台芸術(演劇・舞踊)の各分野を対象に、アートと地域を概念し、する人材を各地に増やし、地域の豊かな芸術環境を醸成することを目的に、1999年から全国各地で開催されています。

トヨタ・アートマネジメント講座
Hiroshima Session

# コンサートって何？

## −クラシックの音楽会について徹底的に考える−

### 10月21日(日)
会場：2階中ホール

13:00−13:15
**オリエンテーション**

13:15−14:45
**ワークショップ1：公開レッスン**

指　導：ヴァディム・サハロフ［ピアニスト］
久保田　巧［ヴァイオリニスト］
ナビゲーター：西巻 正史［(株)トッパンホール企画制作部長/TAM運営委員会音楽ディレクター］

日頃、演奏という行為を通してのみ、曲への想い、感じ方を表現する演奏家たちに、言葉を交えてより分かりやすい形で私たちに音楽へのアプローチの仕方を語ってもらう。

15:00−16:15
**ワークショップ2：ピアノの弾き比べ、聴き較べ**

出　演：ヴァディム・サハロフ
久保田　巧
ナビゲーター：西巻 正史

ピアノの弾き比べを鑑賞するワークショップ。2台の異なるピアノで同じ曲を弾いた時、それはどのように響くのか？

16:30−17:30
**講座1：コンサートの楽しみを発掘する**

ナビゲーター：西巻 正史

2つのワークショップを踏まえ、クラシック音楽の楽しみ方をもう一度探ってみよう。

18:00−19:00
**ミニ・コンサート：Live!!それはやはりクラシックの醍醐味**

出　演：久保田　巧
ヴァディム・サハロフ

初日の締めくくりとして、ミニ・コンサートを。音楽について考えるのは、いい音楽に出会うため…というあたり前の事実をもう一度みんなで肌で確認しよう。

19:30−21:00
**交流会（厚生年金会館）**

### 10月22日(月)
会場：7階研修室

13:00−15:00
**徹底討論：クラシックコンサートのここが好き、ここが嫌い**

出　演：ホールスタッフ、レコード店のスタッフ、評論家、演奏家など（予定）
ナビゲーター：熊倉 純子［(社)企業メセナ協議会シニア・プログラムディレクター］

クラシック音楽を聴く人のスタイルはいろいろ。ここでは、コンサートを作る人、CDを売る人、演奏家などさまざまな立場の人が意見を出し合い、クラシックコンサートのあるべき姿を徹底的に本音で検証する。

15:30−16:30
**講座2：アートマネジメントって何？ メセナって何？**

出　演：岡部 修二［トヨタ自動車(株)広報部社会文化室長・担当部長］
西巻 正史

これまでの講座やディスカッションの内容をもう1度交通整理。NPO、ボランティアなどの事例にも触れながら、芸術活動と地域をつなぐコーディネーターとしてのアートマネージャーの役割とは何かについて考えてみよう。

16:30−17:30
**講座3：アートマネージャーはクラシックコンサートにどう関わるのか**

出　演：熊倉 純子
西巻 正史
高宮 敏浩［(財)広島市文化財団・東区民文化センター］

前の講座で整理されたアートマネージャー像。では、クラシックのコンサートで、地域のホールで、アートマネージャーとはどういう役割を担う存在であるべきか。さらに文化サークル、地域・教育団体など市民のアートマネージャー達は地域のホールにどう関わればよいのか。これらを通して広島のアートシーンのさらなる発展を図る。

**参加申込方法**

必要事項を明記の上、10月10日(水)までに下記まで、
郵送またはFAXでお申し込みください。
希望者多数の場合は先着順とさせていただきます。

■お問い合わせ・参加申込先
〒730-0812　広島市中区加古町4-17
(財)広島市文化財団事業課
TEL(082)244-0750・FAX(082)245-0246
e-mail:bunka@cf.city.hiroshima.jp（お問い合わせ専用）

■会場案内図

ASTER PLAZA

■ 交通のご案内
●JR広島駅から
〈市内電車〉
宇品行（紙屋町経由）〜市役所前下車　徒歩8分
江波行〜舟入町下車　徒歩5分
〈市内バス〉
広島バス吉島営業所行〜厚生年金会館前下車　徒歩1分
〈タクシー〉15分
※自家用車でのご来場はご遠慮ください。

トヨタ・アートマネジメント講座「講座編」参加申込書

氏名　　年齢

住所　〒　-

職業（所属、部署、学校名、専攻等）

Tel.　　Fax.　　e-mail

下記についていずれかに○印をつけてください

●参加希望日（プログラム構成上、できるだけ両日ご参加ください。）
・10/21（日）・10/22（月）の2日間
・10/21（日）のみ
・10/22（月）のみ
※1日の参加でも参加費は2,000円ですのでご了承ください。

●交流会への参加（会費3,000円程度）希望
・希望する
・希望しない

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

TOYOTA

Vol.40
トヨタ・アートマネジメント講座
浪岡セッション　演劇-14

# 映画祭メチエ

## 2001年11月21日[水]～22日[木]

## 青森県浪岡町中世の館

038-1311 青森県浪岡町岡田43 TEL.0172-62-1020

募集人員：30人（定員になり次第締め切り）
受 講 料：2,000円（全講座通し、なみおか映画祭2日間チケット付）

トヨタ・アートマネジメント講座で「映画」を取り上げることは、美術・演劇・音楽のアートマネジメントとは別な意味があります。「映画」は「娯楽」であるというのが一般認識でしょう。しかし、映画とは優れた「加の組み換え技術である」という認識や、映画祭とは「一見ばらばらな映画を、美意識を持って再構成するアートである」という認識もまたあるのです。

例えば、国民的映画であるといわれる『男はつらいよ』をそれだけでスクリーンに映写するとき、それは明らかに「娯楽」以外の何物でもありません。しかし、マドンナが浅丘ルリ子の『寅次郎相合傘』と1960年代の浅丘ルリ子出演日活映画を並べるとき、そこには松竹撮影所システムに対する日活撮影所システムという、映画にとっては大きな問題がすでに浮かび上がります。さらに、黒沢清監督哀川翔主演作品『勝手にしやがれ』とジャン・リュック・ゴダール監督ジャン・ポール・ベルモンド主演作品『勝手にしやがれ』を並べるとき、日本のヌーベルバーグとはなんだったかという問いが既にしてあります。

「映画祭の構築」は、価値観や問題意識を世に問いただすという点において、美術や演劇と同値なのです。映画祭の素材としての「映画」は世に多数存在します。その「映画」を使って「映画祭」を組み立てるというのは、新しいアートマネジメントであると確信します。

先発の湯布院映画祭（邦画）に続く、福岡アジアフォーカス国際映画祭（アジア映画）、山形国際ドキュメンタリー映画祭（ドキュメンタリー）は、なみおか映画祭とほぼ同じ10年という歴史を持っています。言い換えれば、日本の「地域映画祭」の歴史はまだほんの10年であるということです。まだまだ、プログラミングというアートマネジメント行為は出尽くしていません。

映画祭と映画にどっぷりと浸りながら、新しい映画祭をマネジメントする方法を学ぶ小学校レベルから大学院レベルまでの各講座です。

TAM浪岡地域コーディネーター　長谷川孝治

主催：トヨタ自動車株式会社、なみおか映画祭実行委員会
共催：青森県トヨタ販売会社グループ
協力：（社）企業メセナ協議会
監修：市村作知雄（TAM運営委員会／舞台芸術ディレクター）
[TAM運営委員会事務局]（社）企業メセナ協議会内
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F

Toyota art management seminar vol.40

# 映画祭メチエ ——新しいアートマネジメントを目指して

## 11月21日[水] 受付 10:00~10:45

**【セミナー1】10:45~12:00**

### 「なみおか映画祭10年の軌跡」

パネリスト：三上　雅通（なみおか映画祭ディレクター）
長谷川孝治（なみおか映画祭アソシエート・ディレクター）
山内　秀範（なみおか映画祭事務局）
聞き手：大久保賢一（映画評論家）

なみおか映画祭10年の軌跡を、その立ち上げから現在に至るまでの経緯を語り尽くすことで、映画を見せるという行為そのものの本質を問います。また、国内外の映画祭経験豊富な大久保氏を聞き手にお迎えすることで、なみおか映画祭と他の映画祭の比較を通じて、映画祭の未来像を模索します。

**【講演1】12:45~13:45**

### 「アメリカにおけるフィルム保存と修復のアドミニストレーション」

講師：マイク・マション（アメリカ議会図書館キュレター）
通訳：ヴィクター・リー・カーペンター（弘前大学人文学部教授）

絵画の保存・修復は一般的なのですが、映画の保存・修復とはなんでしょうか。映画を保存し、修復することの意義・そのマネジメントに関して聞きます。

**【映画上映1】14:00~15:15**

### 「アメリカ議会図書館所蔵作品」

**【映画上映2】15:30~17:00**

### 「セミョーン・アラノヴィッチ監督作品」

■申し込み方法
氏名・年齢・郵便番号・住所・連絡先（TEL・FAX・E-mail）・職業（所属）を記入の上、郵送又はFAX、E-mailでお申込みください。定員になり次第、締め切りとなります。受講料は初日受付にて申し受けます。

■お申込み・お問い合せ先
弘前劇場事務所TAM係
〒038-1311 青森県浪岡町若松47-2 tel/fax：0172.62.0717
E-mail：office@hirogeki.co.jp
担当：松井麻佐江（070.5129.6791） 佐藤誠（090.3124.0339）
＊浪岡町の宿泊に関しては、事務局にお尋ね下さい。

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、おこなわれるものです。美術・音楽・舞台芸術（演劇・舞踊）の各分野を対象に、アートと地域を橋渡しする人材を各地に増やし、地域の豊かな芸術環境を醸成することを目的に、1996年から全国各地で開催されています。

トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
**http://www.toyota.co.jp/mecenat/**

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

## 11月22日[木]

**【セミナー2】10:00~11:00**

### 「プログラミングの思想」

パネリスト：北條　誠人（ユーロスペース支配人）
定井　勇二（ビターズ・エンド代表）
大矢　　敏（三百人劇場プロデューサー）
聞き手：三上　雅通（なみおか映画祭ディレクター）

地域の映画祭でプログラミングしようとする際、どうしてもお世話にならざるを得ないのがインディペンデント系の映画を輸入・配給している配給会社です。何故ならば、ハリウッド系列の映画は商業的な劇場で公開され、映画的な文脈も決められているからです。
さらに、映画を配給するだけではなく、映画制作そのものをサポートしようという新しい動きがあります。商業ベースには決して乗らない映画を、海外の映画祭出品をも視野に入れて製作協力しようとする動きは、ただ見せるだけの映画祭を一歩越える新しい映画祭プログラムとなるでしょう。本講座は、そうした新しい映画的な試みを紹介する講座です。

**【講演2】11:15~12:00**

### 「子供たちは何を体験したか…映像ワークショップ」

講師：板倉容子（青森県美術館整備・芸術パーク構想推進室キュレター）

2001年7月に開催された「キッズ・アート・ワールドあおもり2001」において、計5日間にわたって行われたドキュメンタリー作家佐藤真（代表作「阿賀に生きる」）による子供たちへの映像ワークショップの報告です。ワークショップのなかで子供たちが何を体験したのか、そして映像を使って何ができたのか、映像の持つ可能性について検証していきます。

**【セミナー3】13:00~17:00**

### 「それぞれの映画祭・それぞれの映画アートマネジメント」

ナビゲーター：大久保賢一（映画評論家）
森山　京子（映画評論家）
北條　誠人（ユーロスペース支配人）
定井　勇二（ビターズ・エンド代表）
大矢　　敏（三百人劇場プロデューサー）

本講座、最大の目的である講座です。全体を5グループに分け、それぞれに講師がひとりずつ付きます。まず、グループメンバーと講師の間で映画に対する知識の共有のための討論が行われます。次になるべく実現可能な映画に関する企画を立案していきます。各ナビゲーターはあくまでもアドヴァイスをあたえるだけで、プレゼンテーションへの決定権はありません。ただし、以下の基本的なフォーマットにのっとって企画書を作成してもらいます。このフォーマットは講座のまえに受講者に送られ、あらかじめ個人の企画に関しては提出して貰います。グループごとの企画は講座日当日に提出してもらいます。
映画祭を企画してもよし、映画制作をサポートしてもよし、上映会を企画してもよし、とにかく映画を通じて地域とつながる活動を企画していただきます。そして、その行為全体をもって「映画におけるアートマネジメント」と位置づけます。
さらに、150万円規模での企画については、次年度のチャレンジコースで実施する計画です。
■実施母体／名称／予算規模／プログラミングの方法・または製作サポートの方法／目的／観客動員／作品

### トヨタ・アートマネジメント講座 参加申込書

氏名　　年齢

（　　－　　）
住所

TEL　　FAX

E-Mail

職業・所属

**会場：青森県浪岡町中世の館**
038-1311 青森県浪岡町岡田43 TEL.0172-62-1020

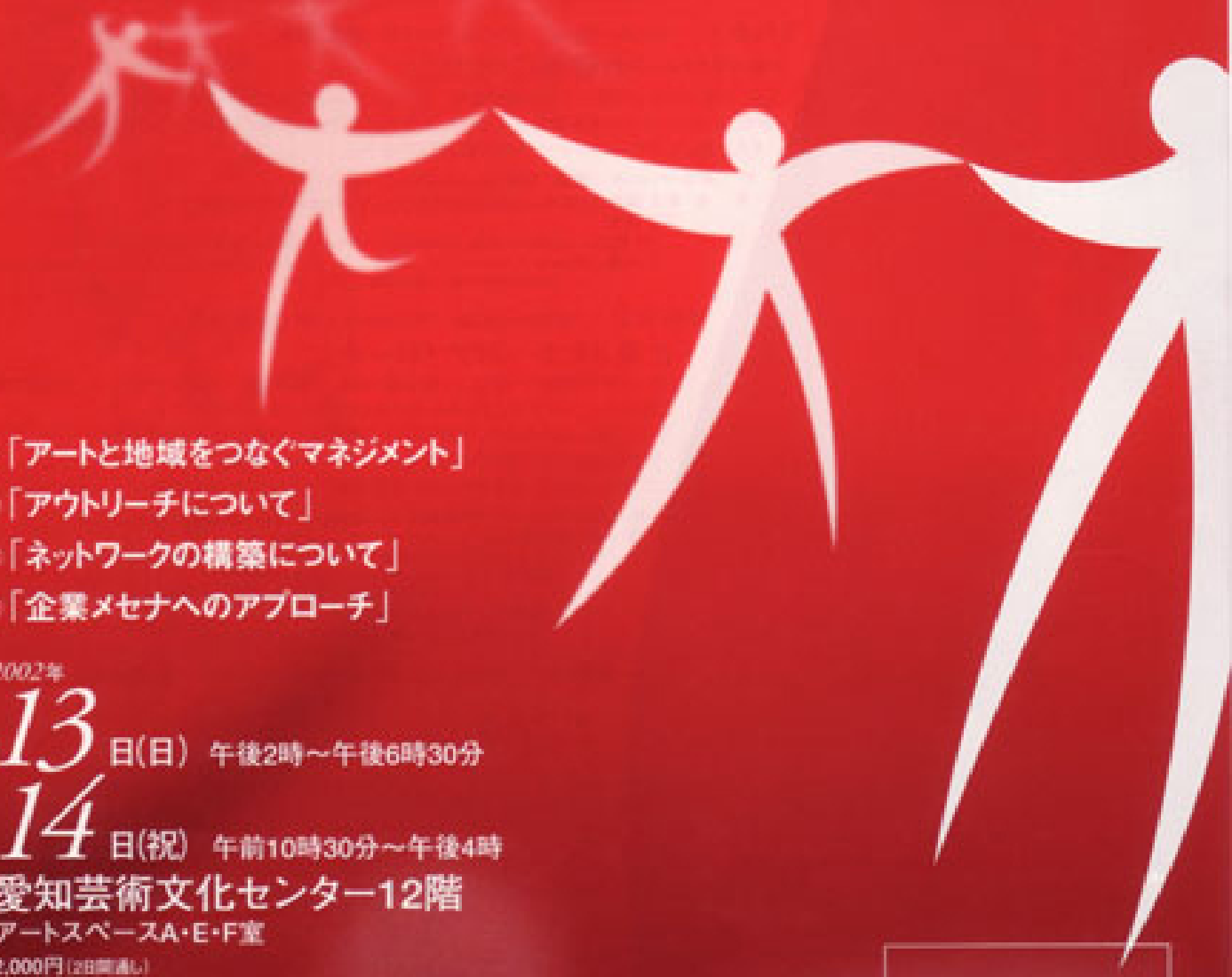
TOYOTA

Vol.41
トヨタ・アートマネジメント講座
名古屋セッション　総合-3

# アートで、つながる

## ―芸術活動と地域社会を結ぶ橋渡し役・アートマネジメントの真相とは―

ひとことで「アート」と言ってもクラシックからコンテンポラリーまでその表現は様々です。
音楽・美術・舞台芸術（演劇・舞踊）等すべての分野において芸術家たちは各々の思いを作品にぶつけ、
最近では観客をも巻き込んで更にエネルギーを増す生き物のような作品も少なくありません。
そんなアーティスト側からの力強い発信も、受ける側がなければ威力は半減。
そこで芸術活動と受け手である地域社会を結ぶ重要な役割を担うのがアートマネジメントです。
今回は「アート」を巡る様々な"つながり"をテーマに、講師と参加者のみなさまとが本音で話し合える場をつくりたいと思います。
堅苦しいことは何もありません。ひとりでも多くの人に「アート」を楽しんでもらいたい、その手助けをしたいと思ったあなたは、
もうアートマネージャーの素質は十分！ 2日間の参加型トークセッションで各々の熱い思いを共有してみませんか!!



合同セッション「アートと地域をつなぐマネジメント」
分科会①「アウトリーチについて」
②「ネットワークの構築について」
③「企業メセナへのアプローチ」

<日　程>2002年
1月13日(日)　午後2時～午後6時30分
14日(祝)　午前10時30分～午後4時

<会　場>愛知芸術文化センター12階
アートスペースA・E・F室

<参加費>2,000円（2日間通し）
※懇親会参加費別途（1,500円）

<定　員>100名（先着順）

主　催：TAM名古屋セッション実行委員会、トヨタ自動車株式会社
共　催：愛知芸術文化センター企画事業実行委員会
愛知県トヨタ販売会社グループ
後　援：愛知県、東海メセナ研究会
協　力：社団法人企業メセナ協議会
監　修：西春正史（TAM運営委員会／音楽ディレクター）
TAM運営委員会事務局　社団法人企業メセナ協議会内　〒100-0006 東京都千代田区有楽町3-5-4有楽町マリオン13F
企画制作：愛知県文化情報センター
制　作：有限会社 オフィス マッチング モウル

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、1996年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を検索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指しています。トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

TAM名古屋セッション―総合3―の公式ウェブサイトをご覧ください。 http://www.m-mole.com/tam/index.html

Vol.41
トヨタ・アートマネジメント講座
名古屋セッション　総合-3

# アートで、つながる
―芸術活動と地域社会を結ぶ橋渡し役・アートマネジメントの真相とは―

## 1月13日(日)

合同セッション　14:00～16:00　アートスペースA　定員:100名

### 「アートと地域をつなぐマネジメント」

アートマネジメントを考える際、もっとも重要なのは、様々な"つながり"をどのように構築するかではないでしょうか。
つまり、観客とアーティスト、そして劇場や美術館を直につなぐアウトリーチ・プログラム、
催しを様々な方向から協力して支えるネットワークの構築、
さらには地域企業を巻き込んだ資金等の支援にもつながる企業メセナへのアプローチです。
次の3分科会のテーマでもある、この3つの課題について考えます。

司　会：小暮 宣雄（京都橋女子大学 文化政策学部助教授　（財）地域創造の創設に関わり、以来、地域（自治体）と芸術の関係づくりに携わる。現在、日本アートマネジメント学会関西部会長も務める。）
パネリスト：下田 展久（C.A.P.メンバー、Acte Kobe Japan事務局　アーティスト主導の非営利団体C.A.Pに参加、また震災を機に生まれた日仏の芸術交流組織アクト・コウベの日本側事務局を務める。）
湛 大尋（ピアニスト、作曲家、他いろいろ）
岡部 修二（TAM運営委員、トヨタ自動車(株)広報部 社会文化室長・担当部長）

分科会①　16:15～18:30　アートスペースA　定員:40名

### 「アウトリーチについて」

劇場や美術館側から観客に近づいていくアウトリーチ・プログラム。
最近どの文化施設でも盛んに行われていますが、観客を劇場や美術館に呼び込むという最終目的までは到達が難しいようです。
ここでは美術および音楽の事例を中心に、様々なアウトリーチについて今一度整理し、その方法を確認します。

司会・コーディネーター：西巻 正史（TAM運営委員会音楽ディレクター、(株)トッパンホール企画制作部長）
講　師：榎本 広樹（小出郷文化会館主事　新潟県の6町村が合併することで大きな効果を上げている小出地域広域圏、小出郷文化会館では芸術活動を積極的に展開している。）
小暮 宣雄
和多利 浩一（ワタリウム美術館キュレイター　内外を問わず国際的な現代美術の分野で活躍。
1998年には日常とアートを結ぶコミュニケーションをテーマにした展覧会「to the living room」を企画、話題を呼んだ。）

分科会②　16:15～18:30　アートスペースE　定員:30名

### 「ネットワークの構築について」

文化・芸術に対する行政の予算削減が進む一方で、ゆとりある社会生活が求められる昨今、
行政（公共ホールや文化振興財団）と民間（企業やNPO等）など、様々な形でネットワーク構築が求められています。
それに際してのアートマネジャーが担う役割を探ります。

司　会・コーディネーター：唐津 絵理（愛知県文化情報センター学芸員）
講　師：児玉 道久（舞台照明家、(株)若尾総合舞台取締役　NPO法人世界劇場会議名古屋理事も務める。）
下田 展久
二村 利之（七ツ寺共同スタジオ代表　名古屋大須において将来性のある演劇家たちを支援し、発表の場を提供し続けている。）
三木 隆二郎（NPOトリトン・アーツ・ネットワークの創立メンバー　2001年11月15日に新しく誕生した第一生命ホールを拠点としたNPOの地域在住メンバーとして、
芸術活動と地域との融合、活性化を目指している。）

分科会③　16:15～18:30　アートスペースF　定員:30名

### 「企業メセナへのアプローチ」

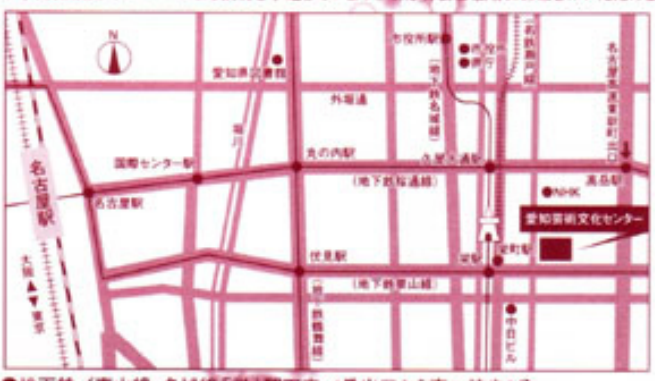
企業はメセナ活動の一環として、他主催（行政・一般問わず）の芸術プロジェクトや公演に対して
支援を行っていますが、近年の不況のあおりは否めないのが現状です。
そうした厳しい状況の中、支援を得られる魅力的な企画とはどんなものなのか、
実際に参加者から提案される仮企画に対してメセナ担当者の生の意見を伺います。
グループ形式で、仮企画のメセナ支援要請シュミレーションをするワークショップも予定しています。

司　会・コーディネーター：熊倉 純子（TAM運営委員、(社)企業メセナ協議会シニア・プログラムディレクター）
講　師：谷口 享（(財)ロームミュージックファンデーション事務局長
音楽活動に対する助成、奨学援助のほか、コンサートや触れ合いの開催を通じ音楽家の育成にも力を入れている。）
武藤 雅之（名古屋鉄道(株)広報宣伝部 広報担当課長
2005年愛知万博支援活動の一環として、市民参加型「世界民族楽器オーケストラ（LEEO）」を結成、万博での演奏を目標に活動している。）
森 信之（松下電器産業(株)社会文化グループ東京リーダー）
木下 雅美（TAM運営委員、トヨタ自動車(株)広報部 社会文化室）

懇親会　19:00～20:30　アートスペースE・F　（希望者のみ・参加費1,500円別途）

## 1月14日(祝)

分科会①②③　10:30～16:00　（前日の続き、昼食休憩60分）
※午後、LEEOのメンバーによる演奏を予定しています。全分科会参加者にお楽しみいただけます。




●地下鉄／東山線、名城線「栄」駅下車、4番出口から東へ徒歩2分
●名　鉄／瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩2分
●自動車／名古屋I.C.（東名高速・東名阪）→栄I.C.（名古屋高速）→東新町出口

[参加申込]
定員になり次第、締め切ります。
ご参加いただく方には折り返し参加票（はがき）を郵送いたします。
●申込方法：Eメール、FAX、あるいは郵送で下記項目をお知らせください。
①ご希望の分科会番号（第2希望まで。合同セッションは全員参加です）
②ご住所（参加票の郵送先）・お名前・電話番号・FAX番号・Eメールアドレス
③ご職業（所属団体/役職、学校名/専攻）
④懇親会参加の有無（別途参加費1,500円が必要です）
●申込先：
（有）オフィス マッチング モウル
〒444-0008　愛知県岡崎市洞町八王子11-12
Fax.0564-25-3350　Eメール：tam@m-mole.com

[問い合わせ先]
愛知県文化情報センター
〒461-8525　名古屋市東区東桜1-13-2
Tel.052-971-5511　Fax.052-971-5644
（有）オフィス マッチング モウル
Tel.0564-25-2992

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

TOYOTA

Vol.42
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-6（盛岡）

# 「市民参加から市民協働へ アートの地産地消運動を」

『地産地消（ちさんちしょう）』
地域で産み育て地域に還元すること。
TAM盛岡セッションでは、文化のキーワードとして考えてみます。
これからのアートは、地域での観光活用やコミュニティへのアウトリーチ活動の中で、
ダイナミックに創造され展開していく可能性を持っています。
市民参加から一歩進んだ、
市民協働でのアートへの取り組みを進めるため、あらゆるジャンルの最前線で活躍する方をゲストに、
街、観光、芸術の結びつきを探り、
アートマネジメントの意義を深めていきます。

## とき

**3月23日[土]・24日[日]**

23日／10:30～18:30（夜学塾19:00～）　24日／9:30～16:00

## ところ

**プラザおでって「盛岡市観光文化交流センター」**
（定員約200名）

## 参加費

●2日通し券 **1,500円**　●1日券 **1,000円**

●主　催／TAM盛岡セッション実行委員会、トヨタ自動車株式会社
●共　催／（社）盛岡観光協会、盛岡市、盛岡演劇協会、岩手県トヨタ販売会社グループ
●後　援／（財）盛岡市文化振興事業団、岩手県演劇協会
●協　力／（社）企業メセナ協議会、もりげき演劇アカデミー講師有志の方々、もりげき演劇ファーム
●監　修／市村　作知雄（TAM運営委員会・舞台芸術ディレクター）

TAM運営委員会事務局　（社）企業メセナ協議会内　〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1　有楽町マリオン13F

# トヨタアートマネジメント講座（TAM）とは…

トヨタアートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として全国で開催されるものです。本講座は非営利の芸術活動を通して地域社会を活性化するアートマネージャーを各地に増やし、地元に密着したアート・プロデュースが、行政・文化機関・市民などさまざまなレベルで盛んになることを目的としています。

舞台芸術（演劇・舞踊）、美術、音楽のいずれかのジャンルで行われるTAMは、今日における芸術と社会の関係に焦点をあて、同時代のアートをより地域社会に開かれたものにしていくための方途を、講座やワークショップを通じて模索していきます。

企画立案は、現地の主催者（地域コーディネーター／実行委員会）とTAM運営委員会の担当ディレクターの共同作業により行われ、その地域に則したプログラムをつくります。

**※トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでもご覧いただけます。 http://www.toyota.co.jp/mecenat/**

# プログラム

## 3月23日[土]

### ●受　付

10:30～

### ●チャレンジ・ドラマリーディング（地元作家の作品による）●

**第一線で活躍する演出家による指導と、地元俳優の出演　【講　師】山元清多・坂手洋二・深津篤史**

| | |
|---|---|
| 11:00～12:00 | ドラマリーディング作品① |
| 12:00～12:30 | ●作家・講師対談 |
| 14:00～15:00 | ドラマリーディング作品② |
| 15:00～15:30 | ●作家・講師対談 |

### ●フォーラム1

**「地域づくりと演劇・観光と演劇～地域通貨の可能性～」**

15:30～18:30

演劇は各地で地域づくりにどのような貢献をしているのか。従来の市民参加型から一歩進めて、市民協働の考え方、市民や演劇人の役割、地域づくりの実践例について、各地から報告をもらうとともに、今後の可能性として、観光活用や中心市街地の活性化のための演劇・ホールの役割について語り合う。また、そうした地域づくりとアートとの関わり合いの中で、最近福祉分野などで実験的に行われている「地域通貨」の可能性についても論議を深める。

■パネリスト
岡野　壹紀子（神戸アートビレッジセンター）
熊倉　純子（社団法人企業メセナ協議会）
市村　作知雄（TAM運営委員会・舞台芸術ディレクター）
■司　会
坂田　裕一（盛岡市観光文化交流センター副館長）

### ●夜学塾（番外編）

19:00～　出演者・講師等を囲んでの交流会（会費制・3,000円程度）

## 3月24日[日]

### ●受　付

9:30～

| | |
|---|---|
| 10:00～11:00 | ドラマリーディング作品③ |
| 11:00～11:30 | ●作家・講師対談 |
| 11:30～12:30 | 「ドラマリーディングの役割と効果」<br>■講師／松井憲太郎 |

### ●フォーラム2「市街地の空店舗にアートの空間を」

13:30～16:00

最近、中心市街地の活性化が地域の大きな問題となっている。1984年、東北演劇祭が盛岡で開催され、「劇場小路で会いたいね」をキャッチフレーズにして、街中に小さな演劇空間を仮設し、街全体の演劇化を図り、そのことが盛岡劇場やアウンホールの開設につながってきている。地方都市の多くは、大型SCやロードサイト店の影響で歴史のある市街地が病んでいる。古くからの市街地は単なる商いの街ではなく、文化と伝統を築き守ってきた。市街地再生のキーワードのひとつにアートはなり得るか。空店舗の小劇場化、ギャラリー活用という視点で議論する。

■基調講演
草加叔也（空間創造研究所）
劇場コンサルタント。小空間を簡単に劇場化できるユニットを開発。小ホールユニットの説明と空間活用の可能性について講演。
■ゲスト
斎藤　純（作家）
喜多　正敏（盛岡市産業部次長）
玉山　哲（盛岡市肴町商店街振興組合副理事長）
■司会
瀬川　君雄（イベントプロデューサー）

## 受講申し込み方法

①以下の3項目を明記のうえ、平成14年3月18日（月）必着で下記まで郵送またはFAX・Eメールでお申し込み下さい。
●氏名　●職業：所属、部署　●連絡先：住所、TEL、FAX、Eメールアドレス
受講料1,500円（2日通し）・1,000円（1日のみ）は当日会場受付で申し受けます。出席できない日があっても返金はいたしませんので予めご了承ください。
②次の場所でも受講券を発売しています……プラザおでって、盛岡劇場、盛岡市民文化ホール

## 受講申し込み・お問い合わせ先

事務局／プラザおでって「盛岡市観光文化交流センター」内　トヨタアートマネジメント講座盛岡セッション実行委員会
〒020-0871　盛岡市中ノ橋通一丁目1-10　TEL.019-604-3300 FAX.019-653-4417
E-mail　kobo@odette.or.jp　　担当／鐙（あぶみ）・飯田

●交通のご案内
JR盛岡駅前バス乗り場6番線盛岡バスセンター行き、または、盛岡都心循環バス「でんでんむし号」乗車
盛岡バスセンター下車　徒歩2分

EXPO 2005 AICHI 応援します愛知万博

# 2002年度

## 目指せベンチャー起業

浪岡に続き、TAMとしては2回目の映画を取りあげるセッションを開催。また、アートを動かすシステムや流通に注目したベンチャー企業を支援するようなプログラムや、ビジネス・スクールの方法論を取り入れたセッションも開催され、アートマネジメントがイベント開催から恒常的な活動として捉えられるよう潮流を反映した年となりました。2000年から始まった名古屋大会は、その後も毎年開催され、この年3回目を迎えました。

Vol.43　名古屋　総合-4　2002年8-9月
「アートマネジメントを動かす力
―求められる〈場・人・ネットワーク〉―」
Vol.44　神戸　チャレンジ編-7　2002年10月-03年8月
「システムリサイクルプロジェクト
期間限定〈芸術環境整備事務所〉の設立と運営」
Vol.45　東京　総合-5　2002年10月
「アートマネジメント教育― 現場が求める人材とは」
Vol.46　浜松　美術-12　2002年11月
「アートマネジメント・こと・はじめ
―地域にとって、美術は何ができるか―」
Vol.47　小出郷　音楽-9　2002年11-12月
「子どもはハタラけ、大人は学べ?!」
Vol.48　高知　演劇-15　2003年1月
「シネママネジメントの挑戦
―公共的な映画事業を立ち上げよう!」
Vol.49　横浜　音楽-10　2003年3月
「もう一度! アートマネジメント」

Vol. 43　2002年8月-9月

## アートマネジメントを動かす力 ― 求められる〈場・人・ネットワーク〉―

名古屋セッション　総合-4

オフィス・マッチング・モウル　池田ちか

2000年より名古屋で毎年開催しているトヨタ・アートマネジメント講座も第3回目をむかえ、地元名古屋ではかなり定着してきたTAMに新しい流れを取り入れたいと企画された今回。会場をいつもの愛知県芸術文化センターから、名古屋市民芸術村構想の「アートポート」、N-markによるアートリゾートプロジェクト「KIGUTSU（キグツ）」、「ISEA（電子芸術国際会議2002名古屋）」などで何かと話題の多い港区の名古屋港湾会館に移し、地元のアドバイザーで構成された実行委員会によって内容が組み立てられました。

毎回「総合」で行われる名古屋TAMですが、アートマネジメントの魅力と可能性、アートマネジメントの役割と機能について考えてきたこれまでの基礎的な段階から、今回は名古屋にいくつか存在するアートスペースに注目し、現場で起こるさまざまな課題のなかから、「場（スペース）の運営方法」「運営のための人材育成」「ネットワーク機能の活用」に焦点をしぼって、現場で役立つマネジメントを検証するという実践的な段階へと名古屋TAMが移行する節目の講座となりました。

キーワードは〈場・人・ネットワーク〉。この3つの要素がうまく機能するか否かによって、プロジェクトの結果は大きく左右されます。真に求められる〈場〉〈人〉〈ネットワーク〉とは何か、またその力を最大限に生かすにはどうしたらよいのか、実際の現場で活躍しているアートマネージャーたちの報告をもとに、徹底的な討論が交わされました。当日最後は、すべての分科会が時間を延長するという白熱のセッションで終了しました。

リピーターの多い名古屋TAMですが、今回はアートマネジメントの現場に携わっていたり、また将来アートマネジメントの現場に関わっていきたいという参加者がいつもにまして多く、アンケートでは「他の分科会にも参加したい」「時間が足りない」という熱心な意見が目立ったのも特徴です。マネジメントの現場について地元名古屋の関心の高さをうかがい知ることのできたセッションとなりました。　（04年8月）

Vol. 44　2002年10月-03年8月

## システムリサイクルプロジェクト〈芸術環境整備事務所〉の設立と運営

神戸セッション　チャレンジ-7

神戸アートビレッジセンター　木ノ下智恵子

TAMとは、Vol. 27「芸術の基礎体力」、アフターTAM「自主トレ編〈記憶の賞味期限展〉」は元より、演劇部門をふまえると通算5度目になる長いおつきあいです。その集大成ともいえるチャレンジ編として始動した「システムリサイクルプロジェクト〈芸術環境整備事務所〉」。この架空の事務所は、芸術環境の問題点を洗い出し、その解決策を試みるために必要な場として、さまざまな実験を通じながら基盤整備を目指す期間限定のアートマネジメントの実践プログラムです。

軍資金と開催場所を活用して有効な芸術環境整備を発案・実践をすることを目的に集まった、芸術系大学院生、美術家、ライター、建築関係者など8名の有志は、個人の活動よりも更に大きな枠組みを意識して、何らかのアクションをおこすために、多くの時間と濃密なコミュニケーションを共有してきました。個々のフィールドや経験知の違いによる遠慮や摩擦。物事に対する解釈の違いや問題認識のズレなど。常に何かに悩みながらミーティングを重ね、メーリングリストでは1000件近い膨大な言葉を交わしました。メンバー自身が個々に現状を自問自答すると共に、他者との対話を繰り広げながら解決の糸口を見つけだす月日。この濃密な時間と経験に重要なキーワードが宿っていることに気付いた彼らは、芸術環境の“困りコト”を相談の実践によってもみほぐし、“アイデア”に出会える場を提供するプロジェクト「ソーダンタンク」を生み出しました。

2003年8月、藤浩志（美術家）、下田展久（CAPHOUSEディレクター）、雨森信（フリーランスキュレーター/remo）など、魅力的なバーマスターをお迎えし、1日限定のスペシャル対話空間「ソーダンサロン/ソーダッタンダ」を開催。真夏のひととき、飲物を片手に様々な「ソーダン」を繰り広げ、互いの足下を確認しあい、そして顔をあげ、対話した個々人は、自身の日常にある芸術環境の整備について、【?】モヤモヤから【!】アイデアという心のお土産を持ち帰られたことでしょう。　（04年8月）

Vol. 45　2002年10月

## アートマネジメント教育 ― 現場が求める人材とは

東京会議2002　総合-5

TAM運営委員会

4年ぶりに東京で開催されたTAM。各地のセッションでは扱いきれないマクロな問題を取り上げるのが総合セッションの位置付けだが、あくまで等身大かつタイムリーな問題にこだわるTAMの現場主義は、今回のテーマとして日本におけるアートマネジメント教育と職業的な現場との溝を取り上げることとした。

アートマネジメントを専門に教える講座が日本の大学に開設されて10年。いまやアートプロデュースの学科や文化政策の学部が続々と増え、大学院も含めて「アートマネジメントを専攻した」と称する専門家の卵たちが世に輩出される時代となった。しかし現場はこうした人材を受け入れる環境が整っているとは言いがたく、心情的にもためらいや否定論が根強い。「専門学科を出たとはいえ、新卒者が即戦力になるのか?」「教室で学ぶアートマネジメントなど、役にたたない」「マネジメント以前に、アートに対する情熱は本物か?」――こうした逆風のなか、夢を抱き純粋な意欲に燃える若者たちを育てる大学側は、どのように考えているのか?

10時間におよぶ東京会議は多くの学生たちがつめかけ、会場は朝から熱気を帯びた。「大学と現場の対論」形式で始まった討議は、人材バンクに関する産学協同研究の報告のあと、円卓会議へと続き、大学と現場をつなぐシステムとしてインターン制度が取り上げられた。この日の会議を通じて確認されたのは、今後、両者の連携が深まり人材が往来する回路ができると、「学部を卒業⇒現場での職務経験⇒大学院でのリカレント教育」という人材育成システムだけでなく、「現場の経験知⇒専門研究機関への情報提供⇒研究成果を現場にフィードバック」という専門的研究の発展も期待されるということである。即戦力云々の近視眼的議論から脱却し、より長期的な展望を共有することで、両者の心情的な溝はかなり埋まった感がした1日であった。(文責:ディレクター・熊倉)

(04年8月)

会議録申込先:〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F
TAM運営委員会事務局(企業メセナ協議会内) e-mail:kmk@mecenat.or.jp

Vol. 46　2002年11月

## アートマネジメント・こと・はじめ ― 地域にとって、美術は何ができるか ―

浜松セッション　美術-12

静岡文化芸術大学　谷川真美

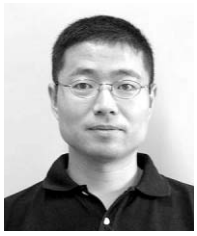
浜松セッションでは、コーディネーター自身が浜松という土地に赴任して持った個人的な実感から企画を始めたこともあって、正面から「地域」の問題にぶち当たるといった感じの、良くも悪くもシリアスなものになった。他のジャンルのアートよりも取り組みがやや弱い、と県内でも自認されている美術分野での開催ということも、より企画を難しくしたといえるかもしれない。

地域によっては、すでに広い意味でのアートイベントが数多く開催され、その実施結果に関して様々な問題が出ているようなところもあるだろうが、いっぽうで、アートイベント自体を開催するにあたってのノウハウの蓄積も、スタッフの共有知識もまだなく、それでもアートへの愛情を持ち、自分のいる地域の現状をなんとかしたいという熱意を持っている人々が散在しているというところもある。いうまでもなく我々の地域は後者であり、そういう意味ではパネラーらと一般の講座参加者の間で、まず認識を共有することの難しさがあった。しかし、さまざまなレベルで抱えている「この現状をなんとかしたい」という切羽詰った感情だけは、すべての参加者に共通であった。それまで一度もこのような美術セッションが行われたことがなかった同地での開催が、新しく「アートマネジメント」の入り口に立つためのきっかけになったという参加者もいたことが、あえていうならこのセッションの意義だったのではないだろうか。

このような地域においては、アートに関してすでに何らかの実務についている者同士は、絶対数が少なく日々の仕事に追われるために、ネットワークを有効に活用することも難しいのが現実だが、それでも、セッションでの経験を布石として、草の根的な活動が徐々にお互いにつながりを持ちつつあるところもあり、より長期的なスパンでの活動を促すためにはさらなる研鑽の機会が必要だろう。TAMの投げた「石」の責任を改めていま感じているところである。

(04年8月)


142



Vol. 47　2002年11月-12月

## 子どもはハタラけ、大人は学べ?!

小出郷セッション　音楽-9

小出郷文化会館　榎本広樹

子どもたち自身が形作っているコミュニティの姿は、大人にはなかなか見えない。大人は自分の子ども時代を思い返して、「子どものことがわかる」と思いたがるが、「人は記憶を捏造し、粉飾するものだ」という心理学のさまざまな実験結果を知れば、それが虚像に過ぎないことに鳥肌が立つ。子どもが成長して大人になるのではなく、子どもは死んで、大人になるのだ。

「子どもはハタラけ、大人は学べ」と題されたTAM小出郷セッションで明らかになったのは、子どもと大人の意識のずれだった。アウトリーチで学校訪問があっても、数ヶ月すると「出演した音楽家の名前も演奏された曲名も覚えていない」と言い放つ子どもたち。週1回2時間だけ集まるジュニア吹奏楽団には、音楽が楽しくて来ているのだろうという大人の側の思い込みを打ち砕いて、「話したことがなくても、メンバーは全員友達だから」と主張する子どもたち。大人の幻想に何の頓着もせず、子どもたちは独自の世界を作る。

その差を認めるところからしか、新たな方策は生まれ得ない。群馬県新町で地域総合スポーツクラブを設立・運営する小出利一氏の報告は、スポーツが人と人を結ぶことができるという確信に満ちていた。チェロ奏者堀了介氏の言葉からは、子どもたちがどう受け取ろうと自分は自分の信じた音楽を作り続けるだけだという強固な意志が腹の底にあった。それ以外にも、学校現場で、塾で、あるいはアート系のサークル活動の場で、それぞれ苦悩しつつもその場に生き続けようとしている大人たちの声を今あらためて振り返って思う。もし芸術に、人が生きていく上で欠くべからざる力があると信じるなら、それをできるかぎり多様に展開していくことだけが、私たち大人にできることのほとんど全てなのだ。倦むことなく、飽くことなく。　（04年8月）

Vol. 48　2003年1月

## シネママネジメントの挑戦 ― 公共的な映画事業を立ち上げよう!

高知セッション　演劇 -15

高知県文化財団企画課　藤田直義

高知県で2度目となったTAMは、浪岡セッションに続いて「映画」を取り上げさせていただいた。今回のセッションは、ある意味アートマネジメントの手練れである自主上映活動主宰者を主な対象にしたセッションであり、マネジメントの技術を磨くというより次のアクションを期待してのプログラム構成となった。

高知市は自主上映活動が盛んだと言われており、実際映画館以外での上映本数が全国的に見ても多い。しかしそれは映画館での上映作品が少ないことの裏返しである。それに、自主上映グループの顔ぶれも20年前とほとんど変わらない。そのような状況で高知県の映画状況に一石を投じるには?

本講座の内容を検討していた頃、(財)国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)などの主宰する映画上映ネットワーク会議において「コミュニティ・シネマ」という概念が提起された。それを受けて本講座では「コミュニティ・シネマ」について取り上げると共に、上映活動を様々な角度から取り上げた。

「コミュニティ・シネマ」はその後燎原の火の如く全国に広がっているが、本講座を契機に高知にもその火は点火した。本講座の実行委員の一人が中心となって「高知に市民映画館(コミュニティ・シネマ)を作る会」が結成され、近い内にNPO設立を申請する見通しである。

今年7月には高知県に初めてのシネコンが郊外のショッピングセンターに誕生した。しかし、さまざまな映画が見られるようになるという県民の期待に反して、上映作品は既存の映画館の上映作品とほとんど同じである。一方「市民映画館」は上映作品の多様化に貢献するだけでなく、中心商店街の新たな文化発信拠点としても期待されている。8月には「コミュニティ・シネマ」の生みの親、映画上映ネットワーク会議を高知県立美術館で開催する。会議の開催が「シネママネジメントの挑戦」が成就する後押しとなることを期待したい。　（04年8月）

報告集申込先：〒781-8123　高知市高須353-2　高知県文化財団企画課（送料160円分の切手同封）

Vol. 49　2003年3月

# もう一度！アートマネジメント

横浜セッション　音楽-10

特定非営利活動法人ポップ・ライフ・ジャパン代表　宮野尚紀

横浜で初めてのTAM音楽セッションだったと聞いておりますが、音楽自体や演奏という芸術活動そのものにフォーカスすることではなく、音楽・芸術を通じてどのように社会と接点を見出していくかが、アートマネジメント講座の趣旨にふさわしいと考え、その上で以下のプログラムを考えました。

1日目は、「社会を変える芸術の可能性」を池上惇先生のレクチャーを皮切りに、社会に近づくアート〈Part 1〉として私共の特定非営利活動法人ポップ・ライフ・ジャパンの3年間の活動とその成果について、〈Part 2〉は野村誠氏の演奏を含めてアウトリーチ活動を紹介し、熊倉さんのナビゲートでディスカッションを行いました。2日目はより実務的なアートマネジメントの勉強になるように、参加者を40名前後まで絞りこみ6グループに分け、現実の活動を題材にケーススタディメソッドを用い、その背景にある戦略、迷い、悩みなどを赤裸々なケースについてグループごとに検討・議論し発表を行いました。具体的には、1日目にアートの可能性、その可能性を社会につなぐマネジメントの必要性をそれぞれ原点に返って考えてみることにしました。「アートマネジメント」が、何か特別なマネジメント体系というよりは、アートという創作物を、その魅力を最大化させ、広く社会とつなげていくようにマネジメントを行うというものであり、他の組織マネジメントやマーケティング戦略と大きく異なるものではないことを確認する機会になりました。2日目は、コンサート事業を行う団体P社のケーステキストを前日に参加者へ配布し、P社の戦略について、自らがP社の代表になったつもりで、読み込んできてもらい、グループごとに討議・発表してもらいました。そして、それぞれのグループの考えを発表し、更に皆でディスカッションを行い、アートをいかにマネジメントしていくかについて、意見交換が活発に行なわれました。

以上が横浜における音楽セッションの中身ですが、参加者はとても熱心であり、特に2日目におこなったケースメソッドは白熱し、ほとんどの参加者がまたやりたいと感じてくれました。何よりも、私共のような小さな団体の3年強の活動について、TAMという大きな舞台で総括する機会を与えられ、更にジャンプアップする意欲を持てたことに、大変感謝しております。（04年8月）



144

TOYOTA

Vol.43
トヨタ・アートマネジメント講座
名古屋セッション　総合-4

# アートマネジメントを動かす力
## ――求められる〈場・人・ネットワーク〉――

アーティストや作品を発掘し、そのすばらしさを社会に伝え、それをまたアートにフィードバックさせる。そんな豊かな循環にたずさわり、感動のよろこびをつくり出すアートマネジメント。マネジメントの現場はエネルギーにあふれ、さまざまなモノ、ヒト、コトが集まってきます。アートを立ち上げる〈場〉ができ、情熱を持った〈人〉が集まり、支え合う〈ネットワーク〉の輪がうまれる。アートマネジメントという概念が社会に浸透してきたいま、〈場・人・ネットワーク〉という3つの要素はどんな力を発揮し、マネジメントを動かしてゆくことができるのでしょうか。名古屋で開催されるトヨタ・アートマネジメント講座の3回目。今回は、マネジメントの現場で求められる〈場・人・ネットワーク〉を再発見します。

2002

**8/31**（土）14:00～17:30

**9/1**（日）10:30～16:00

会　場｜**名古屋港湾会館**　名古屋市港区入船2-1-17

定　員｜**120名**（先着順、定員になり次第締切）

参加費｜一般…2,000円／学生…1,500円（2日間通し）
※懇親会参加費別途　1,500円

主催　トヨタ自動車株式会社、TAM名古屋セッション実行委員会
共催　愛知県トヨタ販売会社グループ
後援　愛知県、東海メセナ研究会
協力　社団法人企業メセナ協議会
監修　熊倉純子（TAM運営委員会／ディレクター）
TAM運営委員会事務局　社団法人企業メセナ協議会内
〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F
制作　オフィスマッチングモウル

TAM名古屋セッション〔総合4〕の公式ウェブサイトをご覧ください。
http://www.m-mole.com/tam/

### 8月31日（土）
14:00～15:30
合同セッション「〈場・人・ネットワーク〉の再発見！」
16:00～17:30
北山美那子ワークショップ「ミーナの恋愛美術・入門編」

### 9月1日（日）
10:30～16:00（途中昼休み）
分科会1「ホットな〈場〉づくりの挑戦」
分科会2「アートを支える柱―〈人〉を活かす」
分科会3「豊かな〈ネットワーク〉を育てる」

**特設コーナー**
企業メセナ協議会による「助成認定制度・相談コーナー」を当日設置します。
新制度となり、広く活用できるようになった助成認定制度のご説明いたします。
お問い合わせは企業メセナ協議会 助成認定担当まで
TEL. 03-3213-3097　http://www.mecenat.or.jp/

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、1996年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指しています。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

# アートマネジメントを動かす力
## ——求められる〈場・人・ネットワーク〉——

# 8/31 土

**5F大会議室／定員120名**

**14:00〜15:30　パネルディスカッション**

### 合同セッション「〈場・人・ネットワーク〉の再発見!」

アートマネジメントに求められるダイナミックな起業精神と現場の力。車を快適に走行させるためにさまざまなエネルギーが必要なように、マネジメントにもそれを実際に動かす力が必要です。キーワードは〈場・人・ネットワーク〉。このうちのどれかひとつ欠けてもマネジメントはとどこおってしまいます。密接にからみあうこれら3つの要素を順番にひも解き、それぞれの働きを再確認します。次に待ち受ける分科会の入口へようこそ。

パネリスト／**長田 謙一**（千葉大学教授・芸術学　千葉市で学生と住民とアーティストとの協働プロジェクト「アートプロジェクト検見川送信所」を実施。地域社会と大学の新しい関係づくりに取り組む。）

**河村 めぐみ**（アサヒビール環境社会貢献部 課長補佐　パフォーミングアーツ専門の担当として、アサヒビールロビーコンサートなどを企画。またNPO法人芸術家と子供たち（ASIAS）、NPO法人芸術文化ワークスに理事として参加。）

**熊倉 純子**（TAM運営委員ディレクター、東京藝術大学音楽環境創造科助教授）

司　会／**森 司**（TAM運営委員美術ディレクター、水戸芸術館現代美術センター学芸員）

**16:00〜17:30　ワークショップ**

### ワークショップ「ミーナの恋愛美術・入門編」

講師／**北山 美那子**（アーティスト）

足にどんどん物をまとわせて「大足」をつくる〈体編〉と、ラブレターを書く〈心編〉で構成された美術を愛する心を育む入門ワークショップです。それゆえにいたって簡単。脱落者無し。しかしその効用は絶大!体と心をほぐし、明日からのセッションに耐えうる心身を短時間で養成します。照れを捨て体当たりで参加し、心のコリを取り除いた爽快感を満喫ください。

**[北山 美那子　プロフィール]**
常識に忍ぶズレや歪みをデフォルメし表現することで、日常をより楽しく豊かにする回路を日々模索する若きアーティスト。こどもアートセンター「Ya-hoi! Mina Show Art for Kids」（1995年〜）や中学校や幼稚園にて「ヤッホイA会話講座」（1999年〜）を主宰。2001年から2002年3月まで、古い旅館の浴室で見せ物小屋「eight8」を運営し、毎晩ゲストを招いてイベントを展開。パンケーキを焼くワークショップが話題となり本年9月から茨城県アーティスト・イン・レジデンス「アーカスプロジェクト」に参加予定。

### 懇親会

**8月31日（土）18:00〜19:30　名古屋市港湾会館／4Fレストラン（予定）**
初日の講座終了後に講師と参加者を交えた懇親会を予定しています。ネットワークを広げる場としてぜひご参加ください。飲み物と軽食をご用意しています。
・参加費別途…1,500円

**[参加申込]**
定員になり次第、締め切ります。ご参加いただく方には折り返し参加票（はがき）を郵送いたします。

**●申込方法**
Eメール、FAX、あるいは郵送で下記項目をお知らせください。
①ご希望の分科会番号（第2希望まで。合同セッションは全員参加です）
②ご住所（参加票の郵送先）・お名前・電話番号・FAX番号・Eメールアドレス
③ご職業（所属団体／役職、学校名／専攻）
④懇親会参加の有無（別途参加費1,500円が必要です）

**●申込先**
TAM名古屋セッション事務局
〒444-0008　愛知県岡崎市洞町八王子11-12　オフィス・マッチング・モウル内
Eメール:tam@m-mole.com　　FAX. 0564-25-3350
※電話での申込は受付けておりませんので、ご了承ください。
※TAM名古屋セッション公式ウェブ・サイトの専用フォームからも申込できます。
http://www.m-mole.com/tam/

【問い合わせ先】オフィス・マッチング・モウル／TEL. 0564-25-2992

**名古屋港湾会館**
名古屋市港区入船2-1-17
TEL 052-652-7151（代表）

●名古屋駅から地下鉄／東山線「栄」経由、名城線「名古屋港」まで約30分
●金山駅から地下鉄／名城線「名古屋港」まで約10分
●地下鉄／名城線「名古屋港」下車、2番出口から徒歩3分
●自動車／名神高速道路「一宮インター」から約50分
●国道23号線（名四国道）「築地インター」から5分

# 9/1 日

**10:30〜16:00（途中昼休み）　分科会**

### 分科会1 | 5F第2会議室／定員40名
## 「ホットな〈場〉づくりの挑戦」

芸術活動の実験的な試みがくり広げられるアート最前線の〈場〉。アーティストの夢や希望、何かを求めて集まる人々の気持ちを引きつけてやまない魅力的な〈場〉の運営は容易なことではありません。小さなハコから大きなハコまで、〈場〉を開くことで何をめざし、どのように〈場〉を機能させていくのか。現場で奮闘中の生の声・ノウハウを参考にしながら、いま求められる〈場〉づくりを考えます。〈場〉の運営に悩むあなた、必ず役に立ちます!

**●前半　10:30〜12:30「リレートーク」**

報告①　**林 薫**（Club METRO プロデューサー　今年で12周年を迎えた京都のクラブ・メトロ、プロデューサー。音楽だけに留まらず、映像、アート、パフォーマンスなどさまざまなイベントを発信。）

報告②　**新見 永治**（イベント・プロデューサー、カノーヴァン代表　　名古屋新栄にカフェを併設したアートスペース「カノーヴァン」を経営。若手アーティストを中心に美術展やライブなどを企画。）

報告③　**秋田 光彦**（應典院住職　インディーズ映画のプロデュースに携わり、その後30歳で出家、浄土宗僧侶。大阪に劇場型寺院・應典院を再建し、NPO+アーツセンター活動を行なう。）

**●後半　14:00〜16:00「徹底討論ラウンド・テーブル」**

講師／**林 薫、新見 永治、秋田 光彦**
**武藤 勇**（N-mark　1998年にアーティスト自主運営組織N-mark設立。名古屋を中心に展覧会やイベントを展開。2001年5月より2002年12月までアートリゾートプロジェクト「KIGUTSU（キグツ）」を運営中。）

コーディネーター／**藤井 明子**（音楽制作・コーディネーター　現代音楽、民族音楽、即興などのミュージシャンや作曲家に焦点を当て、コンサートやレクチャーを企画。映像やダンスとのコラボレーションも手がける。）

### 分科会2 | 4F第5会議室／定員40名
## 「アートを支える柱—〈人〉を活かす」

世代や地域、専門や立場を超えて、アートにかかわる〈人〉の層はますます厚くなっています。ボランティアの役割はより主体的で能動的なものへと変化し、インターンシップを積極的に取り入れる大学や企業も増えてきました。実践的な経験と明確な意識を持った人材の増加は、アート環境に、また社会にどのような影響をもたらすのでしょうか。アートめぐる〈人〉と〈人〉とのつながり、組織のあり方とは?　アートを支える大黒柱はあなたです!

**●前半　10:30〜12:30「リレートーク」**

報告①　**長田 謙一**

報告②　**白坂 ゆり**（美術ライター　「WEEKLYぴあ」編集部を経て、現在フリーランス。雑誌やウェブマガジンなど多数執筆。横浜トリエンナーレを取材し、「BT/美術手帖」に連載中。）

報告③　**高橋 綾子**（名古屋芸術大学美術学部美術文化学科講師　大学ギャラリーや名古屋港でのアートボートなど、学内外で学生が参画するアートプロジェクトのプログラムに取り組む。）

**●後半　14:00〜16:00「徹底討論ラウンド・テーブル」**

講師／**長田 謙一、白坂 ゆり、高橋 綾子**
**立松 由美子**（電子芸術国際会議2002名古屋（ISEA2002）事務局長　10月27日〜31日、アジアで初めて開催される電子芸術国際会議に携わる。メディアアートを中心に関連イベントも企画。）

コーディネーター／**森 司**

### 分科会3 | 4F第7会議室／定員40名
## 「豊かな〈ネットワーク〉を育てる」

〈ネットワーク〉を上手に活用することは、マネジメントの結果を左右させる重要なポイントです。最近増えてきたサービス・オーガニゼーションは、社会とアートを結ぶことを専門にする機関。アーティストの育成や芸術コミュニティへのサポートを通じて、アートマネジメントのネットワークは急速に拡大しています。情報化が進む社会のなかで、ネットワークにできることとは何か。ネットワークの結びつきがもたらす実りのカタチを大予測!

**●前半　10:30〜12:30「リレートーク」**

報告①　**佐東 範一**（NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）ディレクター　社会とダンスを結ぶネットワーク型NPOとして、3年間の準備期間を経て、2001年にJCDNを京都にて設立。）

報告②　**河村 めぐみ**

報告③　**藤井 克**（長円寺会館／グリーン・エコー　オペラ、ミュージカル、民族芸能など音楽を中心とした事業に参画。世界劇場会議、文化政策提言ネットワーク（CP.NET）など多数のネットワークに関わる。）

**●後半　14:00〜16:00「徹底討論ラウンド・テーブル」**

講師／**佐東 範一、河村 めぐみ、藤井 克、北山 美那子**

コーディネーター／**熊倉 純子**

EXPO 2005 AICHI JAPAN
応援します愛・地球博

TOYOTA

Vol.44
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編・7（東京）

アートマネジネントの実践・トレーニングプログラム始動！

## 期間限定！2002年10月～2003年3月！

## SYSTEM RECYCLE PROJECT
## システムリサイクルプロジェクト

# 芸術環境整備事務所

## の設立と運営（10月1日開設）
## プロダクションスタッフの募集（若干名）

主催　トヨタ自動車株式会社、神戸アートビレッジセンター
共催　兵庫県トヨタ販売会社グループ
連携　神戸新聞社
協力　（社）企業メセナ協議会、開町ミュージアムスクエア
監修　TAM運営委員会ディレクター　（東京）森　司

来たれ、気鋭のアートマネージャー。

このプログラムはトヨタ自動車が提供する軍資金と参加者の協賛の出資金を使用し、KAVCが提供する開催場所を活用して、参加者の協賛が有効な芸術環境整備を共催・実施していただくものであり、給与などの報酬は支払われません。

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、1996年から全国各地で開催されています。美術・演劇／舞踊・音楽の各ジャンルにおいて、開催地域に根ざしたアートマネジメントの可能性に着目したプログラムを実施して参りました。トヨタのメセナ活動（芸術文化活動）の情報はインターネットでご覧頂けます。http://www.toyota.co.jp/mecenat/

EXPO 2005 AICHI JAPAN
応援します愛・地球博

SYSTEM RECYCLE PROJECT

# 芸術環境整備事務所

## システムリサイクルプロジェクト

関西における芸術文化の活性度は創造と発表の機会がある程度充実しています。しかし、ここでの顕ぶれは一定層に止まり、現状の場や機会も有効に機能していません。その為、この飽和状態を打破する新たな観客創造やシステムの改善が求められています。一方、タレントをマネジメントする「芸能プロダクション」、作品を買い付けて流通させる「映像配給プロダクション」など、表現を社会に提供するための既存のシステムがあります。2002年TAMチャレンジ編・神戸では、【関西のアート事情（人・場所・金/モノ）のリサイクル】と【他ジャンルのマネジメントシステムのリミックス】といった、二つのシステムを意味する「システムリサイクルプロジェクト」を立ち上げ、期間限定の「芸術環境整備事務所」を設立し、事務所の共同出資＋運営者=プロダクションスタッフを募ります。ここでは、参加者が展覧会などのアート的なソフトを創り上げるのではなく、アートの需要と供給に関する問題点を洗い出しながら、その解決策としてさまざまな実験を通じて、アートが社会に根ざす為の基盤整備を試みます。実施内容やスケジュールは参加者=プロダクションスタッフの知恵袋と腕次第！活動に応じたご案内や情報を随時お届けする予定ですので、乞うご期待！

- **期間**　2002年10月～2003年3月（11/4［月・祝］コアスタッフとお見合い、11/15［金］スタッフオリエンテーションを予定）
- **活動内容**　トヨタ自動車が提供する運営資金と参加者の皆様の出資金を使用し、KAVCが提供する開催場所を活用して、参加者の皆様が有効な芸術環境整備を発案・実践するアートマネジメントプログラム。
- **参加費**　5,000円（事務所出資金）
- **参加条件**
  - 日常的に現場リサーチ（観客）をしていること。
  - 何らかの活動経験と今後の継続の意志があること。
  - 考えを言葉で表現し具体的に実践できること。
  - 携帯電話以外のメールアドレスの取得。
  - 各種ミーティングに参加可能であること。（日数や日程は採用スタッフのスケジュールによって決定）
- **応募方法**　下記の必要書類 1）～ 3）をメール（添付不可）+4）を郵送で送付
  1）プロフィール（名前、住所、電話・携帯・FAX、メールアドレス、職業・所属、年令、最終学歴）
  2）小論文「芸術環境の分析とそのシステム整備について」（1000字以内）
  3）プラン書「個が出来るアートマネジメントの提案」（A4/1枚程度）
  4）活動資料（DM、媒体資料、記録、報告書など）※返却はいたしません。
- **送付先**　神戸アートビレッジセンター内「芸術環境整備事務所」
  1）～3）メール → tam@kavc.or.jp　http://kavc.or.jp/tam/（申込みフォーム）
  4）郵送 → 〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14（078）512-5500
- **応募締切**　2002年10月24日（木）必着
- **採用方法**　書類審査後にコアスタッフとのお見合いでパートナーシップを確認して最終結果を通知
- **スケジュール**
  - ○ 10／1（火）　事務所開設＋プロジェクト開始
  - ○ 10／24（木）　募集締切、書類選考 → 結果報告
  - ○ 11／4（月・祝）　コアスタッフとお見合い → 最終結果報告
  - ○ 11／15（金）　スタッフオリエンテーション
  - ○ 11月～3月　ミーティング、実施内容の検討と実践

  ※ 期間中に実施プランに応じて勉強会、WS、レクチャーリサーチなどあり。
  ※ 最終的に事務所主催のレセプションなどを予定


事務所所在地・問い合わせ先
芸術環境整備事務所（神戸アートビレッジセンター内）
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14（078）512-5500
tam@kavc.or.jp　http://kavc.or.jp/tam/

神戸高速「新開地駅」東8番出口より　徒歩約5分
JR「神戸駅」北出口より　徒歩約10分
神戸市営地下鉄「湊川公園駅」より　徒歩約15分

# ソーダッタンダ 開催概要

**日時 ：** 2003年8月10日(日)

**営業時間 ：** 3:00pm ～ 9:00pm （8:30pmラスト・ソーダン）

**場所 ：** 神戸アートビレッジセンター 1Fギャラリー

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14
神戸高速「新開地駅」東8番出口より 徒歩約5分
JR「神戸駅」北出口より 徒歩約10分
神戸市営地下鉄「湊川公園駅」より 徒歩約15分

**料金 ：** 1000円（ドリンク付）

**定員 ：** 50名

**申し込み方法 ：** e-mailまたはfaxで下記項目にご記入のうえ、申し込み先に送信ください。当日参加も承りますが、事前にお問い合わせの上ご来場いただきますようお願いします。

①氏名
②電話番号もしくはe-mailアドレス
③プロフィール（200字程度）
④あなたのアートの困りコト（200字程度）
⑤来店予定時間

**申し込み先 ：**
e-mail / k-tam@kavc.or.jp
fax / 078-512-5356

**問い合わせ先 ：**
芸術環境整備事務所（神戸アートビレッジセンター内）
tel / 078-512-5500

**主催 ：** 芸術環境整備事務所
トヨタ自動車株式会社
**共催 ：** 神戸アートビレッジセンター
**協賛 ：** アサヒビール株式会社
**協力 ：** 社団法人企業メセナ協議会

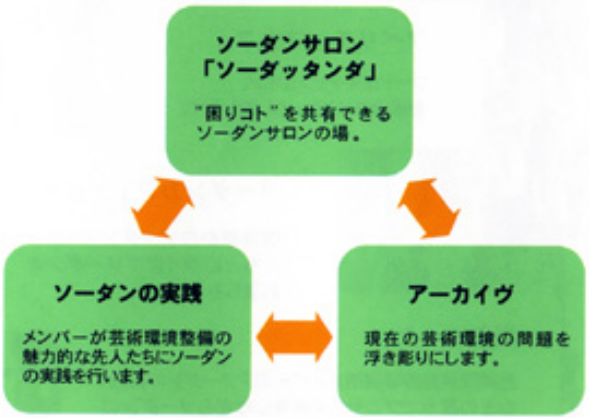
# 芸術環境整備事務所のソーダンタンクとは？

2002年秋、神戸アートビレッジセンターでは『トヨタ・アートマネジメント講座チャレンジ編・神戸』として、現在の芸術環境の数ある問題点を洗い出しながら、その解決策を試みるための『芸術環境整備事務所』を設立しました。ここに集ったアートに関わる多様な8名のメンバーが独自の視点で紡ぎ出したのが『ソーダンタンク』。

『ソーダンタンク』は、芸術環境（＝社会とアートがつながる場）で活動する各々が、"アイディア"に出会える場を提供するプロジェクトです。

## ソーダンタンクのしくみ

『ソーダンタンク』は、私達メンバーが相談の作法やアイディアを発見する『ソーダンの実践』、たくさんの"困りコト"を共有・明文化する対話空間を設える『ソーダンサロン』、これらをさまざまな手法で貯蔵する『アーカイヴ』という3つの循環機能によって成立します。




## 芸術環境整備事務所 構成メンバー

大石 真依子（東京藝術大学大学院生）
岡山 拓（美術家、ライター）
酒井 千穂（美術ライター）
中西 麻友（成安造形大学研究生）
樋口 貞幸（ARTS SATFF NETWORK 代表）
古川 誠（びあ関西版編集部）
吉田 裕枝（建築・ミラボ代表）
渡辺 大介（新世界アーツパーク事業事務局スタッフ）

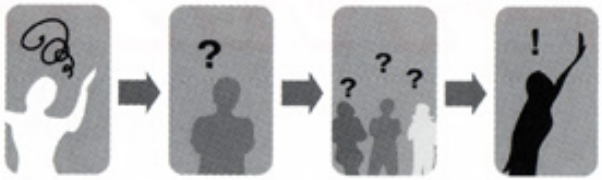
Vol.44
トヨタ・アートマネジメント講座
チャレンジ編-2（神戸）

芸術環境整備事務所

# ソーダッタンダ

2003.08.10 sun.
1000yen(with drink)
at KAVC

## アートのソーダンとは？



アートの“困りコト”を思い切って言葉にしてみませんか？“困りコト”のツボを知り、自分でもみほぐせるようになれば、アイディアへの道が開けるかも!?ソーダンタンクはそんなあなたと一緒に“困りコト”をもみほぐします。

### あなたの“困りコト”タイプは？

**モヤモヤ・タイプ**

アート大好き！観てるばかりじゃなく、もっといろいろな関わり方をしてみたい。でも、ちょっと敷居が高そうと気後れしているあなた。あるいは困ってはいないけど何かがひっかかる、様子を覗いてみたいあなた。とにかく会場へGO！

**ウッスラ・タイプ**

アートと社会のあいだで何か仕掛けたいのだけれど、そのために必要なものがもうひとつよくつかめないあなた。アートマネジメントや、NPO、雰囲気は分かるけど実際はどうなっているの？ 知りたい、見てみたいあなた。やっぱりソーダンでしょ！

**ハッキリ・タイプ**

すでに活動をはじめていて、何らかの成果を出しつつも、あれこれと困りコトが噴出。これってもしかしてみんなで共有すれば話は早い？と気づきはじめたあなた。あなたなくしてソーダッタンダなし！

## ソーダッタンダとは？

ソーダンサロン「ソーダッタンダ」は魅力的なソーダンマスターやソーダン招待客とともに、あなた自身がさまざまな「ソーダン」を繰り広げる対話空間です。この場で出会う一人一人が、時間を共有する「ひとりひとり」のアイディア探しのきっかけに！

### ソーダッタンダの流れ

**申し込み（7/31締め切り）**

**当日受付(8/10)**

当日のソーダンを書きとめるソーダンシートをGet!

**アペリティフカフェ**

フードはキャッシュオン。
会場内デリバリーもいたします。

**ソーダンカフェ／バー**

個性豊かなソーダンマスターたちと心ゆくまでソーダンをお楽しみください。

**展示コーナー**

芸術環境整備事務所メンバーの「ソーダンの実践」などの展示でプロセスを共有しながらソーダンのティスティングを。

**ソーダンの回収**

ソーダンをタンク!

# ソーダッタンダ
## ソーダンマスターメニュー

### 藤 浩志（ふじひろし）／美術家

笑顔が素敵な3児のパパは、焼酎／蒸留酒系じっくりどっぷり型ソーダン。でも深酒には注意して！

1985年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。パプアニューギニア国立芸術大学講師、建築企画都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室を設立。現在は福岡を拠点に地域資源、適正技術、協力関係を基盤としたユニークな活動の企画・制作を行う。

### 下田 展久（しもだのぶひさ）／C.A.P.ディレクター

しぶいひと言がたまらないマネジメント兄貴。穴場のスペースを仕掛けたいなら、30分1本勝負の立ち飲みバーへ！

1988年の設立時より設備音響メーカーの実験ホール[XEBEC]にて、音と社会をテーマに、コンサート、展覧会、ワークショップなどの企画制作を担当。1996年より[C.A.P.]（芸術と計画会議）に参加。現在は、旧神戸移住センターで進行中のCAPHOUSEプロジェクトのディレクターを担当する。

### 雨森 信（あめのもりのぶ）／インディペンデント・キュレーター

少年の雰囲気を残すおちゃめなお姉サマ。社会とアートとお茶をとり混ぜたキュレーターのセンスが光るひと時はいかが？

京都市立芸術大学美術学部卒業後、設計事務所、ギャラリー勤務を経てアムステルダムへ渡る。現在は、NPO法人[remo 記録と表現とメディアのための組織]（大阪）を拠点に、映像表現に関するリサーチ、上映会、展覧会の企画を行う。

### あなたのソーダンを彩るシークレットゲストたち

芸術環境整備事務所メンバーがこれまで出会った魅力的な先人たちが突然あなたのソーダンに参加する!?

TOYOTA

Vol.45
トヨタ・アートマネジメント講座
東京会議'02

# アートマネジメント教育 現場が求める人材とは

## 日時：2002年10月31日（木）10:30—20:00
## 会場：オリベホール

1.対論「現場 vs. 教育　連続5セッション」
2.報告「アートマネージャーに関する人材バンクの共同研究について」
3.円卓会議「教育と現場に架かる橋、インターンシステムを考える」

アートマネージャーって職業なの？ わたしは**企画**がやりたい！ アートを支えるのは人です 現場に入る前にやっとけばよかった この世界は**サバイバル** どこへ行っても人が足りない、なのに就職できない なんで使えるヤツがちっともいないのか だって**経験**積める場がないんだもん 少しは自分で考えろよ アートマネージャーって、アートマネジメントって、いったい何？ アートで儲けたい **就職活動**ってどうすればいいの？ パソコンと外国語ができないとって・・・アートは？ どういう国をめざしていくのか アートマネージャーは女ばかり、偉い人はオヤジばかり?! クオリティをどう教えよう うちはマーケティングやってます 東京にある文化は**東京の文化**なのか 研究したいわけじゃないんだけど もはや**システム**をなんとかするしかない 実習生受け入れろって言われても、こっちの体制も考えてくれ アートマネージャー**同時多発** 情報がぜんぜん行き届いていない こういうご時世ですから・・・ こんなにイベントいらないよ ちゃんとアート見てるかい？ アーティストとどこがちがうの ちゃんと考えたいのに仕事が忙しくてそのままになっちゃう マネージャーより客になってくれ 足りないのは**お金**なのか 事務屋さん？ **採算性**や効率性はそぐわない、かなあ？ アートってどこがいいのかわからない 政治に関心ないのと同じところでつながってんだよね **マニュアル**なんかないぞ 格闘・独唱・混戦 インターンシップと博物館実習ってちがうの？ **危機管理能力** アーティストってどうつきあったらいいんだ アートマネジメント学科なんて要らない **現場**が欲しい

日本の大学に「アートマネジメント講座」が誕生してはや10年。文化政策やアートマネジメントの専門学科や専門学部も続々と新設されています。しかし、卒業後の就職となるとなかなか厳しいのが現状です。現場は大学教育に何を求め、そして教育機関が養成する未来の「専門家」たちは、アートマネジメントにどのような新境地を切り拓いてくれるのでしょうか？ 教育と現場、双方の人びとが一同に会し、熱い議論を展開します。

参加費：一般 ¥1800／学生 ¥500
定　員：200人（先着順、定員になり次第締切）

東京会議'02 公式サイト
http://www.tam-kouza.net/tokyo02/

主催：トヨタ自動車株式会社
共催：東京都トヨタ販売会社グループ
協力：[社]企業メセナ協議会
企画：TAM運営委員会
　吉村作治館長／森 司／西巻正史／熊倉純子
制作：TAM運営委員会事務局
　[社]企業メセナ協議会内
　コンテンポラリー・アート・ネットワーク（C.A.N）

「トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として、1998年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指しています。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

# アートマネジメント教育―現場が求める人材とは

## 1. 対 論　10:30―16:40

**現場 vs. 教育　連続5セッション**

10:30―11:30
**セッション1　演 劇**

教育機関はどのような方法論で人材育成にのぞみ、また現場はどのような人材を欲しているのでしょうか？ 大学とアートマネジメントの現場、それぞれの第一線で奮闘している方々に状況分析と問題提起をしていただきます。各分野の現状と課題、そして展望とは？

津村 卓（〔財〕地域創造プロデューサー）
古井戸秀夫（早稲田大学教授 第一文学部演劇映像専修、第二文学部表現・芸術系専修）
モデレーター：市村作知雄（TAM運営委員／東京国際芸術祭ディレクター）

11:30―12:30
**セッション2　メセナ**

高辻ひろみ（〔株〕資生堂コーポレートコミュニケーション本部企業文化部長）
池上 惇（京都橘女子大学教授 文化政策学部長）
モデレーター：出口正之（〔社〕企業メセナ協議会専務理事／総合研究大学院大学教授）

13:30―14:30
**セッション3　文化政策**

寺脇 研（文化庁文化部長）
伊藤裕夫（静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科教授）
モデレーター：熊倉純子（TAM運営委員／東京藝術大学音楽環境創造科教授）

14:30―15:30
**セッション4　美 術**

黒沢 伸（金沢市21世紀美術館建設事務局学芸員）
岡部あおみ（武蔵野美術大学芸術文化学科教授）
モデレーター：森 司（TAM運営委員／水戸芸術館現代美術センター学芸員）

15:40―16:40
**セッション5　音 楽**

入山功一（梶本音楽事務所事業部長／宮崎国際音楽祭アシスタント・プロデューサー）
武溝京子（昭和音楽大学音楽学部音楽芸術運営学科助教授）
モデレーター：西巻正史（TAM運営委員／〔株〕トッパンホール企画制作部長）

## 2. 報 告　16:40―17:00

**アートマネージャーに関する人材バンクの共同研究について**

アートマネージャーを志す人たちを現場につなぐ仕組みづくりが急務です。産学が共同で行った「クラシックコンサート・人材バンクシステム」の研究報告を中心に、人材の流通がより活性化するための新たな仕組みづくりを提案します。

岡部修二（トヨタ自動車〔株〕広報部社会文化室 室長・担当部長）

## 3. 円卓会議　17:30―20:00（終了予定　最大延長20:30）

**教育と現場に架かる橋、インターンシステムを考える**

専門教育機関を卒業しても現場の戦力となるには実地訓練が必要です。そのひとつの可能性としてインターンシップに注目します。「忙しい現場のお荷物」「体のいいボランティア」といった懐疑的な声もありますが、実効性のある制度とはどんなものなのでしょう。

高萩 宏（世田谷パブリックシアター制作課長）／古井戸秀夫
石原 徹（愛知県県民生活部文化学事課主任主査）／伊藤裕夫
長田謙一（千葉大学教授 教育学部、博士前期課程社会文化科学研究科）／黒沢 伸
中村晃也（すみだトリフォニーホール事業課長）
角山紘一（〔社〕企業メセナ協議会事務局長）
TAMディレクター：市村作知雄／森 司／西巻正史
モデレーター：熊倉純子

### ［参加申込］

● お申し込み方法
Eメール、FAX、あるいは郵送で下記項目をお知らせください。
①氏名　②郵便番号・住所　③電話番号・FAX番号・Eメールアドレス　④ご職業（所属団体／役職、学校名／専攻）　⑤講座・講師への質問、人材養成について思うこと、アートの現場への就職や採用について不安、提案など（当日議論する内容、あるいは東京会議から発信する提言に反映させる予定ですので、ご協力ください）　⑥参加動機など

TAM東京会議'02 公式ウェブ・サイトの専用フォームからも申込できます。
**http://www.tam-kouza.net/tokyo02/**

● お申し込み先
TAM東京会議'02 受付（コンテンポラリー・アート・ネットワーク内）
〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町36-22 ノア渋谷パート2 1006
E-Mail: TAM2002.TOKYO@info.email.ne.jp FAX. 03-5457-3164
※電話での申込は受付けておりませんので、ご了承ください。

● お問い合わせ先
TAM東京会議'02 受付（コンテンポラリー・アート・ネットワーク内）
TEL. 03-5457-3163 FAX. 03-5457-3164

### 特設コーナー

企業メセナ協議会による「助成認定制度：相談コーナー」を当日設置します。新制度となり、広く活用できるようになった助成認定制度のご説明もいたします。

お問い合わせは企業メセナ協議会 助成認定担当まで。
TEL. 03-3213-3397 http://www.mecenat.or.jp/

オリベホール
東京都港区六本木6-1-24 ラピロス六本木8F

営団地下鉄日比谷線・都営地下鉄大江戸線
六本木駅3番出口すぐ
http://www.shiseido.co.jp/oribe/html/index.htm

TOYOTA

Vol.46
トヨタ・アートマネジメント講座
浜松セッション 美術-12

# ART MANAGEMENT

# アートマネジメント・こと・はじめ

## ー地域にとって、美術は何ができるかー

アートマネジメントは机上の空論ではありません。美術と社会を結ぼうと考えるとき、もちろん理想の姿は必要ですが、<いま、ここにある状態>を、どのようにして少しでも理想的な方向へ導いていけるのかを頭におきながら実行することが必要です。
アートマネジメントについて考えることは、現状を様々な側面から見つめなおすことであり、同時に、美術とはわたしたちにとって何なのかという本質論を考えることになるでしょう。今回は、「地域」に徹底的にこだわりながら、何をしなければならないか考えたいと思います。美術としての質を保ち、実践に伴う実務的事項を含め将来への可能性をつないでいくアートマネジメント、このための方策について、さまざまな側面から検証します。

# 2002.11.16→11.17

**会　場：静岡文化芸術大学**（浜松市野口町1794-1）
**定　員：60名**（先着順、定員になり次第締切）
**参加費：1500円**（2日間通し初日精算）

**1日目**
11月16日（土）13：00ー17：30
1日目は、地域とつながる美術の形について考えます。地域に根ざした美術とは何なのでしょうか？美術と地域との新しい結びつきはどこにあるのでしょうか？

**2日目**
11月17日（日）10：30ー17：00
2日目は、様々な人と美術を結ぶための方法と可能性を探ります。地域において美術が有効に作用するには、異なる機関、異なる形で美術にかかわる人々が、どのように結びつけばよいのでしょうか？

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として1996年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指しています。トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

主催　トヨタ自動車株式会社　TAM浜松セッション2002実行委員会
共催　静岡県トヨタ販売会社グループ　静岡文化芸術大学
後援　静岡県　浜松市　浜松市教育委員会　静岡新聞社・SBS静岡放送　中日新聞東海本社　K-MIX
協力　社団法人企業メセナ協議会
監修　森司（TAM運営委員会／美術ディレクター）
TAM運営委員会事務局（社）企業メセナ協議会内　〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン13F

URL http://www.mecenat.or.jp/

A R T　M A N A G E M E N T

トヨタ・アートマネジメント講座　TAM浜松セッション：美術

# アートマネジメント・こと・はじめ

## ー地域にとって、美術は何ができるかー

### 1日目　11月16日（土）

**＜美術にとって地域とは＞**

■第1部　3つの事例報告　13：15－15：30

地域に根ざすことを意識する静岡在住のアーティスト、村上誠のアートプロジェクト「天地耕作」（あまつちこうさく）、行政と連携して展開した小笠山公園パブリック アート・プロジェクト、地域行政との連携を成功させた神戸のアート・プロジェクト「CAPHOUSE」の3つの活動報告から、美術を介した地域とのつながりを考えます。

報告者：村上誠（アーティスト）、加藤義夫（インディペンデント・キュレーター）、原久子（アートプログラム・ディレクター）

■第2部　15：45－17：30

第1部の事例をふまえ、美術と地域行政とがより密接な協力関係を構築し、活動をより充実したものにするには、何が必要なのかを導き出します。

座談会：岩瀬智久（静岡県生活・文化部文化政策室主査）、竹内礼子（「静岡の文化」編集長）、熊倉純子（TAM運営委員会ディレクター／東京藝術大学音楽環境創造科助教授）、村上誠、加藤義夫、原久子

司　会：小林真理（静岡文化芸術大学講師）

○交流パーティー　19：00－21：00（参加費別途）

### 2日目　11月17日（日）

**＜地域をはぐくむ文化施設の活動とは＞**　10：30－12：30

地域住民とのつながりを目指すワークショップ型文化施設・月見の里の試み、いっそうの地域密着を意識して構想される芸術文化センターの方策、所在地を強力にアピールする企画制作によって、地域における文化施設のモデルケースとなりえたコンテンポラリーアートミュージアムの実践、地域を意識した文化施設の方法から、より強固に地域と連携するための手がかりを探ります。

パネリスト：深井恵（袋井市月見の里学遊館館長）、南目美輝（島根県芸術文化センター建設室学芸員）、秋元雄史（直島コンテンポラリーアートミュージアム　チーフキュレーター）

モデレーター：荒川裕子（静岡文化芸術大学助教授）

**＜いまあるものをこれからの形へ＞**　13：45－17：00

さまざまな事例の検証から得られた有益な手法を、個別の地域に実際に適用するには、それぞれの場における地域、美術の状況を、今一度考察するのが一番の近道かもしれません。総合的な教育が学校に導入されるなど、美術と地域の連携方法が変わりつつある今、学校教育から美術にかかわる教育者、教育の現場を知る学芸員、学外から美術教育と連携する試みを始めた学芸員、美術に関わる立場がそれぞれ異なる人を結んだ、地域での有機的な連携の可能性を考えることからはじめます。

■第1部　事例報告　13：45－15：05

学校と美術館、2つの現場報告から、有効な結びつきの要素を探ります。

報告者：鈴木秀幸（静岡大学教育学部付属浜松中学校教諭）、蝶切正人（静岡県立美術館学芸員）

■第2部　パネルディスカッション　15：20－17：00

第1部の報告をふまえ、さまざまな立場を活用した連携の可能性を考えます。

パネリスト：鈴木秀幸、蝶切正人、今田徹（浜松市美術館指導主事）、谷川真美（静岡文化芸術大学講師）

司　会：森司（TAM運営委員会ディレクター／水戸芸術館現代美術センター学芸員）

EXPO 2005 AICHI JAPAN
応援します愛・地球博

【参加申込】

下記の項目をご記入の上、Eメール、FAX、または郵送で、事務局までお申し込みください。
参加費は講座初日または当日の精算になります。
定員になり次第、締切らせていただきます。参加の可否はEメール、FAX等をもってお知らせします。
1．ご住所、お名前、ご連絡先（電話、FAX、Eメールアドレス）、ご職業、参加動機
2．交流パーティー参加の有無（別途参加費3500円程度）

【申 込 先】

TAM浜松セッション事務局　〒430－8533　浜松市野口町1794－1　静岡文化芸術大学内
Eメール：Tam2002Ham@aol.com　FAX：053－457－8184
電話での申込は受付けておりません。ご了承ください。
お問い合わせ：TEL/FAX：053－457－6184

公共交通機関を御利用ください。
お車の場合は市営駐車場を御利用ください。

TOYOTA

Vol.47
トヨタ・アートマネジメント講座
小出郷セッション　響座-9

2002
11/30㊏~12/1㊐

会場：小出郷文化会館 小ホール
定員：120名（先着順、定員になり次第締切）
講座参加費：2,000円（懇親会参加費：3,500円）

# 子どもはハタラけ、大人は学べ?!

2002年4月、
公立学校週休二日制実施。
様々な議論はあるけれど、子どもたちが校門を出て、
地域の中で過ごす時間が多くなることだけは確か。
それをめぐって、子ども争奪戦を展開しているのが、
イベント会社、テレビ、ゲーム…
芸術の喜びは、日常から飛び去ってゆく。
このままでよいのか？
芸術教育を考える中で、地域における「文化機関」が
果たすべき役割を探る。

## 11月30日㊏ 13:00~19:15

**子どもたちの現実を知ろう!**

レポート1.「学校現場の2002」
レポート2.「塾から見た2002」
レポート3.「地域総合スポーツクラブの挑戦」
レポート4.「小出郷ジュニア・プラスの試み」
インタビュー&ミュージック.「子どもたちはどう思っているの?」

番外編！ 懇親会
「ヨロイをはずしてのみたべセッション!」

## 12月1日㊐ 9:30~15:00

**芸術教育と地域文化機関**

講演.「地域文化機関に求められる役割」
インタビュー.「芸術家から見た芸術教育」
パネルディスカッション.「芸術教育の未来」

### トヨタ・アートマネジメント講座

トヨタ自動車は、アートを通して地域社会を活性化させる重要性に注目し、1996年からメセナ活動の一環として「トヨタ・アートマネジメント講座」(TAM)を全国各地で開催しています。
芸術と社会の橋渡し役となる芸術活動の企画・コーディネートをする人材、いわゆるアートマネージャーの育成を図り、そのネットワークづくりの場を提供したいと考えています。この活動を通じて、地元に密着したアートプロデュースが、行政・文化機関・市民などさまざまなレベルで進んになることを目指しています。

主　催：トヨタ自動車株式会社　小出郷文化会館
共　催：新潟県トヨタ販売会社グループ
後　援：新潟県　北魚沼郡町村教育委員会協議会　北魚沼郡教育振興会　新潟日報社
協　力：社団法人企業メセナ協議会
監　修：西巻正史（TAM運営委員会／ディレクター）
TAM運営委員会事務局　社団法人企業メセナ協議会内
制　作：小出郷文化会館　〒946-0023 北魚沼郡小出町千溝　響きの森公園内　TEL.02579-2-8811　FAX.02579-2-6776　E-mail:koidego@mail.uonuma.ne.jp

## 11月30日㊏

12:30　受付開始

13:00　オリエンテーション

13:15　レポート1.「学校現場の2002」

学校へのアウトリーチが脚光を浴びているが、忙しい学校現場にとっては迷惑なことも。2002年4月から学校はどう変わったのか。その現実を語る。

講師：島村文男（小出町立小出小学校教頭）

14:30　レポート2.「塾から見た2002」

塾はいわば日本の公教育の「鏡」。塾から見た教育の現状を知ることで、日本の教育の姿がより立体的に見えてくる。子どもたちは、どのような世界に生きているのか。

講師：丹羽健夫（河合塾顧問・河合文化教育研究所長）

15:45　レポート3.「地域総合スポーツクラブの挑戦」

対応が遅れる文化面に先んじて、スポーツ界では様々な地域団体の協力で総合スポーツクラブが生まれつつある。その現状と展望。

講師：小出利一（群馬県新町スポーツクラブ運営委員）

17:00　レポート4.「小出郷ジュニア・ブラスの試み」

公共ホールは地域で子どもたちの受け皿になれるのか？そのために必要なことは？混乱から生まれたKJBO小出郷ジュニア・ブラスの試み。

講師：三浦義弘（音楽監督・県立小千谷高校教諭）
桜井俊幸（小出郷文化会館館長）

18:15　インタビュー＆ミュージック

「子どもたち自身はどう思っている?」

KJBO小出郷ジュニア・ブラスの演奏と、子どもたちへのインタビュー。このような活動と、小出郷で行なわれた学校訪問演奏会への思いを聞く。

出演：KJBO小出郷ジュニア・ブラス・オーケストラ

19:15　第一日目　終了予定

19:45　番外編！懇親会
「ヨロイをはずしてのみたべセッション!」
参加費：3,500円
オイシイ小出郷をたっぷりと！

### 参加お申し込み

定員になり次第、締め切ります。参加いただく方には、折り返しさらに詳しい案内をお送りします。

### お申し込み方法

Eメール、Fax、あるいは郵送で、「TAM小出郷セッション参加希望」とお書き添えの上、下記項目をお知らせください。

①住所　②氏名　③電話番号
④職業・学校名　⑤懇親会参加希望の有無

### ご　宿　泊

ご宿泊のお申し込みは、こちらまで。
奥只見インフォメーションセンター　TEL.02579-2-7300

## 12月1日㊍

9:00　受付

9:30　講演.「地域文化機関に求められる役割」

地域の文化機関には、地域の芸術文化教育に対して、どのような役割を果たすことが求められているのか。その使命を語る。

講師：西巻正史（トッパンホール企画制作部長）

10:45　インタビュー.「芸術家から見た芸術教育」

実際にアウトリーチなどで子どもたちと関わった芸術家はどんなことを考え、何を感じたのか。芸術家自身の言葉を聞く。

講師：堀了介（チェロ奏者）

13:00　パネルディスカッション.「芸術教育の未来」

地域の文化機関は、地域の芸術文化教育でどのような役割が果たせるのか。そこにはどのような可能性があるのだろうか。その可能性を追求して行くためには、社会の各層とどのような連携を行なう必要があるのか。

パネリスト：西巻正史・堀了介・桜井俊幸
横坂康彦（新潟大学教育人間科学部教授）

司会：熊倉純子（東京藝術大学音楽環境創造科助教授）

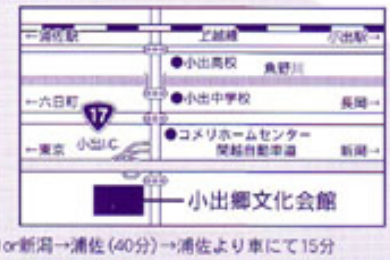
15:00　第二日目　終了予定

### 特設コーナー

企業メセナ協議会による「助成認定制度：相談コーナー」を当日設置します。
新制度となり、広く活用できるようになった助成認定制度のご説明もいたします。
TEL.03-3213-3397　http://www.mecenat.or.jp/


### お申し込み・お問い合せ先

〒946-0023
小出町千溝　響きの森公園内
小出郷文化会館TAM係
TEL.02579-2-8811　FAX.02579-2-6776
E-mail：koidego@mail.uonuma.ne.jp


### ACCESS

●上越新幹線の場合／東京→浦佐（1時間40分）or新潟→浦佐（40分）→浦佐より車にて15分
●関越自動車道の場合／練馬IC.→小出IC.（2時間30分）or新潟西IC.→小出IC.（1時間）→小出IC.より1分

EXPO 2005 AICHI JAPAN
応援します愛・地球博

TOYOTA

Vol.48
トヨタ・アートマネジメント講座
高知セッション 演劇・15

# シネマネジメントの挑戦

公共的な映画事業を
立ち上げよう!

2003
**1.11[土] 12[日]**

**会場　高知県立美術館ホール**

**募集人数: 70人**（先着順、定員になり次第締め切ります。）

**参 加 料: 1,000円**（2日間）

主催　トヨタ自動車株式会社
トヨタ・アートマネジメント講座高知セッション'03実行委員会

共催　高知県トヨタ販売会社グループ
（財）高知県文化財団・高知県立美術館
後援　高知県・（財）高知市文化振興事業団・高知新聞社・RKC高知放送
KUTVテレビ高知・エフエム高知・KSSさんさんテレビ
協力　社団法人企業メセナ協議会
監修　市村作知雄（TAM運営委員会 舞台芸術ディレクター）
TAM運営委員会事務局（社団法人企業メセナ協議会内）
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F
http://www.tam-kouza.net/

# 1.11 sat.

＊PM1:00〜1:10 オリエンテーション

## 自主上映バトルロイヤル
〜自主上映の未来〜

### PM1:10〜3:30 1

吉川修一（シネマサンライズ）
有光さやか（シネマLTG）
田辺浩三（小夏の映画会）
西川泉（ムービージャンキー）
内原理恵（高知シネマクラブ）
石本敬子（中国映画を見る会）
松吉恵子（高知・民族文化映像研究所の映画をみる会）
藤田直義（高知県立美術館）
［以上予定］

司会：山本嘉博（元高知映画鑑賞会）
コメンテーター：
とちぎあきら（フィルムネットワーク推進委員会）
堀越謙三（ユーロスペース）

高知県において、それぞれの自主上映グループが何故、どういう目的で上映活動を行ない、何を目指しているのか、また地域社会をどのようにしてゆきたいのか語ってもらいます。全国の自主上映事情に明るい堀越謙三氏、とちぎあきら氏に活動に対するコメントを加えてもらいます。

## コミュニティシネマ
〜公共的な（非営利の）上映活動について〜

### PM3:40〜4:40 2

とちぎあきら
（フィルムネットワーク推進委員会）

NPOの運営による公共的な映画館＝コミュニティ・シネマという概念の構築を目指すフィルム・ネットワーク推進委員会（事務局：（財）国際文化交流推進協会（エース・ジャパン））のとちぎあきら氏にその構想を詳しくお話いただきます。

特別プログラム
## 助成認定制度の説明

### PM4:40〜4:50 3

企業メセナ協議会の助成認定制度の利用方法についてご説明を致します。

## リンダ・ホーグランドのシネマ・マネジメント
（from N.Y）

### PM5:00〜6:30 4

リンダ・ホーグランド（英語字幕翻訳者）
聞き手：浜口眞吾（高知県文化財団）

ニューヨークで日本映画の上映の選定や英語字幕翻訳をしているリンダさんに、ニューヨークの非営利映画館「フィルム・フォーラム」の話を中心に活動を語ってもらいます。
（リンダさんは英語字幕翻訳者として、高知県出身の漫画家西原理恵子原作映画「ぼくんち」などに携わっています。）

## 懇親会パーティー

### PM6:40〜

会場：美術館内レストラン
ヴィラ・ヴィティス ギャレリア
別途参加費3,500円が必要です。

# 1.12 sun.

## 映画の輸入から、配給・興行まで
〜ユーロスペース＆金沢シネモンドの運営ノウハウ〜

### AM10:30〜PM12:00 1

堀越謙三（ユーロスペース）

「コミュニティ・シネマ」を維持・運営していく上で欠かせない、マーケティングやプログラミングについて、ミニシアターの激戦区・渋谷で勝ち抜いている個性的なミニシアター、ユーロスペースと金沢のミニシアター、シネモンドの運営ノウハウを聞きます。

## 公共的な上映活動に対する支援について

### PM1:00〜2:40 2

長谷川孝治（なみおか映画祭・弘前劇場）
市村作知雄（TAM運営委員会・舞台芸術ディレクター）
角山紘一（企業メセナ協議会事務局長）
とちぎあきら（フィルムネットワーク推進委員会）
堀越謙三（ユーロスペース）

司会：河島伸子（同志社大学助教授）

自主上映活動は、その果たしている役割に比べて、市民やマネジメント業界の理解と関心は薄いように感じます。自主上映活動やミニシアター、さらにこの講座で検討する「コミュニティ・シネマ」に対して、公的な支援や企業メセナは受けられるのか。各界の専門家に議論していただきます。

## 公共的な映画事業を立ち上げよう
（プレゼンテーション）

### PM3:00〜5:00 3

審査員：
長谷川孝治、市村作知雄、堀越謙三、とちぎあきら、藤田直義

司会：浜口眞吾

「コミュニティ・シネマ」を始めとする公共的な映画事業の企画をプレゼンテーションしてもらいます。優秀な企画の提案があれば、次年度での実現に向けて検討します。

公共的な映画事業を立ち上げよう！

# シネママネジメントの挑戦

EXPO 2005 AICHI JAPAN
応援します愛・地球博

地域に上映作品の多様化をもたらしてくれる「映画を上映し市民に鑑賞機会を提供する」という活動は、展覧会や、コンサート、演劇公演を開催することと基本的には同じ活動です。

今まで地方都市では、主として市民団体である自主上映グループ（都市によってはミニシアター）が多様な映画を見る環境づくりを担ってきました。特に、映画館が少なく、ミニシアターの無い高知県においては、多くの自主上映グループが存在し、それぞれの考えに基づいた映画上映を継続的に行ってきました。しかし、自主上映グループの力では1年に上映できる映画の本数は限られ、ミニシアターの存在する都市と比較すると明らかに差があります。一方、人口の少ない都市でミニシアターを経営するのもまた大変なことです。

この状況の改善を目指す構想が、フィルムネットワーク推進委員会（事務局：（財）国際文化交流推進協会（エース・ジャパン））の提唱する「コミュニティ・シネマ」構想です。NPOの運営による非営利の映画館を全国に作ろうという構想です。

その構想はどういうものでどの程度実現性はあるのか、また「コミュニティ・シネマ」を高知に設立することは可能なのかを、実現のためのファンドレイジングやプログラミングなどの方法、海外の公共上映の事例等を含め多面的に検討します。

また、「コミュニティ・シネマ」などの公共的な映画事業のプレゼンテーションを行なっていただき、優秀な企画の提案があれば、次年度での実現に向けて検討してゆきます。

**［受講申込方法］**

以下の項目を明記の上、郵送、FAX、E-mailで、1月9日（木）までにお申し込みください。
（お電話での申し込みは受け付けておりません。ご了承ください。）
●氏名●職業・学校・所属団体名●連絡先（住所・TEL・FAX・E-mail）
●懇親会への参加の有無　※1月11日（土）午後6時40分より美術館内レストラン、ヴィラ・ヴィティス ギャレリアで行います。
※別途参加費3,500円が必要です。

**［企画プレゼンテーション募集］**

コミュニティシネマを始めとする公共的な映画事業の企画を募集しています。
企画のプレゼンテーションをご希望の方は、1月5日（日）必着で企画概要（A4・1枚）を下記まで郵送又はFAXでお送り下さい。

**［宛先・お問い合わせ］**

高知県文化財団企画課　トヨタ・アートマネジメント講座係
〒781−8123高知市高須353−2
TEL:088−866−8006　FAX:088−866−8008
E-mail:kenbunka@tosa.net-kochi.gr.jp

受講料は、参加初日に会場受付にて申し受けます。
プログラム、出演者は都合により変更になる場合があります。

**特設コーナー**

企業メセナ協議会による「助成認定制度：相談コーナー」を当日設置します。新制度となり、広く活用できるようになった助成認定制度のご説明も致します。
お問い合わせは、企業メセナ協議会 助成認定担当まで。
TEL: 03-3213-3397
http://www.mecenat.or.jp/

**TAM**

「トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）」は、トヨタ自動車のメセナ活動の一環として1996年から全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会の０を結ぶ人材の育成を目指しています。トヨタのメセナ活動（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。

http://www.toyota.co.jp/mecenat/

■はりまや橋から土電電車「ごめん」「領石」「文珠通り」行で15分「県立美術館通」下車徒歩5分
■土電バス「高知医大」行・県交通バス「東高校」行「県立美術館」下車すぐ
■空港連絡バス「高知高速」下車徒歩10分
■車・タクシーをご利用の場合は、JR高知駅から20分、高知空港から30分
高知自動車道高知インターから15分、高知インターから10分
（無料駐車場は普通車144台、バス専用10台）

TOYOTA

Vol.49
トヨタ・アートマネジメント講座
横浜セッション　音楽-10

# もう一度!
# アートマネジメント

## 2003.3.21[金・祝] 22[土]

1日目 ひまわりの郷ホール（港南区民文化センター）
定員：150名　参加費：一般 1000円／学生 500円

2日目 ウィリング横浜 12階 127会議室
定員：45名　参加費：一般 2000円／学生 1000円

主催　トヨタ自動車株式会社 ／ 特定非営利活動法人ボップ・ライフ・ジャパン
共催　神奈川県トヨタ自動車販売会社グループ
後援　横浜市芸術文化振興財団
協力　社団法人企業メセナ協議会
監修　西岡正史（TAM運営委員会 委員／ディレクター）
TAM運営委員会事務局（社団法人企業メセナ協議会内）
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F　http://www.tam-kouza.net/

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）はトヨタ自動車のメセナ活動の一環として、1998年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の養成を目指しています。
トヨタのメセナ（芸術文化活動）の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

# 3.21 [FRI] PROGRAM

13:00~14:15 セッション 1

## 社会を変える芸術の可能性

**池上 惇** [京都橘女子大学教授 文化政策学部長]

○ 社会は芸術を通じて変革することを待望しているのでは？
○ 啓発されたアーティストがそのキーマンとなりうるのではないか？
○ そのために地域社会やNPOの役割がプラットフォームとして重要な役割を持つことに・・・。

14:30~15:45 セッション 2

## 社会に近づくアート<Part 1> コンサート編

**宮野尚紀** [NPO法人ポップ・ライフ・ジャパン代表]

○ 横浜市で初めての芸術NPO法人として2001年1月から毎月コンサートを開催してきた活動について報告する。
○ NPO法人の使命を具現化するために、芸術の市場開拓を目標として活動を開始。そのためにコンサートの品質、顧客のニーズ・満足度、コストやサービスなど、一般のビジネス手法を重視したマネジメントの成果と課題を発表する。

16:00~17:50 セッション 3

## 社会に近づくアート<Part 2> アーティスト編

**野村 誠** [アーティスト]
ナビゲーター **熊倉純子** [TAMディレクター / 東京芸術大学音楽環境創造科助教授]

○ 多彩な創造活動を通じて、芸術の可能性を積極的に広げながら、芸術を楽しむ人や社会を確実に広げているアーティスト野村誠さんを、ご本人による演奏やVTRを含めて紹介する。
○ 老人ホームや小学校などに赴いて、参加する人たちと一緒になって作曲していく「しょうぎ作曲」を中心に、能動的に社会に踏み出す中で、芸術性を追求する動機、背景、そして芸術の可能性についてお話を伺う。

18:00~18:50 **懇親会** (ご参加の場合は200円程度の飲み物代を各自でご負担いただきます)

(18:30~19:30) **2日目受講者顔合わせ** (概要説明とグループ分け)

# 3.22 [SAT] PROGRAM

12:30~16:30 ワークショップ

## ケースメソッド「体験版・芸術経営」

ケースメソッドとは・・・？
進め方――事前に与えられたケース(実話を基に作成した物語)と課題を、受講者各自で読み考えてきてもらいます。当日はグループ討議とアドバイザーを交えた全体討議を行います。
目　的――アートマネジメントに必要な一般ビジネスの戦略やマーケティングの基本等を、ケースを通じて考えることでより理解が深まります。
今回は、ある団体の活動を基に作成したケースを用いて、この団体のこれまで行った戦略等を分析し、更に受講者自身が団体の代表として今後のあり方も考えてもらう予定です。

アドバイザー **垣内恵美子** [一橋大学大学院 国際企業戦略研究科教授]
**野田邦弘** [武蔵工業大学非常勤講師、前文化経済学会理事長]
**鎌形太郎** [三菱総合研究所 主席研究員]
**小林義信** [トヨタ自動車(株) 広報部社会文化室課長] 他
ナビゲーター **宮野尚紀**

16:45~18:30 ワークショップのまとめ

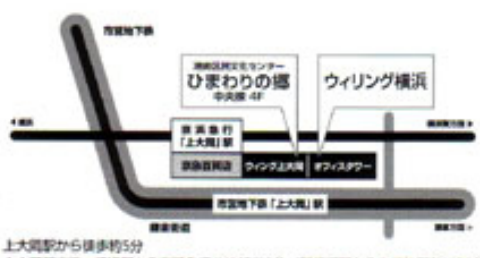
## ワークショップおよび横浜セッションを終えて

パネリスト **垣内恵美子／野田邦弘 ／ 鎌形太郎 ／ 小林義信**
**熊倉純子／ 西巻正史** [TAMディレクター / (株)トッパンホール 企画制作部長] 他
ナビゲーター **宮野尚紀**

**〔参加申込み方法〕**
以下の項目を明記の上、Eメール・FAX・郵送にて、3月20日（木）までにお申込みください。定員になり次第、締め切ります。
（お電話でのお申込みは受け付けておりませんので、ご了承ください）
●参加希望日 ●氏名・年齢 ● 職業・学校・所属団体名
●連絡先（住所・TEL・FAX・Eメール） ●懇親会参加の有無（1日目参加者のみ）
※なお、ワークショップについては、両日参加できる方を優先させていただきますので、予めご了承ください。

**〔お申込み・お問合せ先〕**
特定非営利活動法人 ポップ・ライフ・ジャパン TAM横浜セッション係
〒240-0044 横浜市保土ヶ谷区仏向町1716-1 C-1406
TEL/FAX 045-335-6918　e-mail poplifejapan@nifty.com
受講料は、参加初日に会場受付にて申し受けます。
プログラム・出演者は都合により変更になる場合がございます。

**■ 特設コーナー**
[特設] 企業メセナ協議会「助成認定制度：相談コーナー」新制度となり、広く活用できるようになった助成認定制度のご説明もいたします。TEL:03-3213-3397 http://www.mecenat.or.jp/



上大岡駅から徒歩約5分
上大岡駅まで：横浜駅から京浜急行の快特で8分／新横浜駅から市営地下鉄で28分

EXPO 2005 AICHI
応援します愛・地球博

# 2003年度

## 8年間の参加者数、延べ1万人

8年間の活動を総括し、アートマネジメントの未来を探ることを目標に、2003年度は一連の流れにそって4講座を開催しました。名古屋大会では、過去にTAMを開催した13名の地域コーディネーターが地域の現状と課題を議論。続く大阪、山口では、フィールドワークや評価をキーワードにケーススタディと新たな方法論を試みました。最終回となる東京会議では初の公募スピーチ大会を実施。全国32地域で53回実施したTAMの参加者は、延べ1万人に達しました。

Vol.50　名古屋　総合－6　2003年10月
「これでいいのか？アートマネジメント！」
Vol.51　大阪　総合－7　2004年1月
「まちとアートの練習問題
―芸術化する現場のフィールドワーク」
Vol.52　山口　総合－8　2004年2月
「評価システムを評価する
― 21世紀型の公共文化施設を目指してー」
Vol.53　東京　総合－9　2004年3月
「続・これでいいのか？アートマネジメント！
次世代からのマニフェスト― TAMスピーチ大会」

Vol. 50　2003年10月

## これでいいのか？アートマネジメント!

名古屋大会2003　総合-6

TAM名古屋大会実行委員会

通算50回目のセッションを名古屋で迎えることとなったTAM。しかもファイナルの年の幕開けである。これまでTAMの7年間を振り返り、アートマネジメントの現場がいまどうなっているのかを総括すべく、4つの分科会には各地の地域コーディネーターの方々にお集まりいただいた。

このセッションの後、大阪セッションでは地域のフィールドワーク、山口セッションでは観客による文化施設の通信簿づくり、最後の東京会議ではスピーチ大会というように、新機軸の実験を試み続けてファイナル・イヤーを走り抜けたTAMにとって、この名古屋大会は最後のじっくりとした語り合いの場となった。

TAMを契機に地域で新たな活動が派生したコーディネーターたちが集まった美術分野（分科会1「TAMを経験した地域と現場」）。比較的マネジメント業が確立しているなかで、文化施設を軸に地域ベースの新たな流れが明確に確認された音楽分野（分科会2「日本のコンサートシーンが元気になるために」）。アートマネジメントは果たしてアートにとって本当に有益なのか、セッションの題目どおり「これでいいのか」という根源的な問題提起から始まり未来像を模索した演劇分野（分科会3「現場からの逆襲」）。「ソーダンタンク」という画期的な非講座形式のチャレンジ編TAMを体験した神戸や、ファイナル・イヤーのバトンを受け取る大阪と山口からコーディネーターが集まり、アートマネジメントのこれからの拠点や役割、方法論を語った総合分野（分科会4「〈市民のための文化施設〉って?」）。4回目となった名古屋大会は、TAMが7年間こだわり続けた「地域と現場」を焦点として、講座の基本であるパネル・ディスカッション形式で、静かに熱く議論が展開された。（文責：ディレクター・熊倉）

（04年8月）

会議録申込先：〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F
TAM運営委員会事務局（企業メセナ協議会内）e-mail:kmk@mecenat.or.jp

Vol. 51　2004年1月

## まちとアートの練習問題 ― 芸術化する現場のフィールドワーク

大阪セッション　総合-7

應典院寺町倶楽部　秋田光彦

お寺でTAMを開催したのには、訳がある。仏教は、すべての関係性に気づき（縁起）、関係性に生きる（慈悲）教えである。アーツと社会の架橋の行方に、ともに生きて、支えあうような関係性の成熟を見て取る。それが、講座の底辺に秘められた私たちの願いであった。

2日間の大部分は、空堀、新世界、寺町という大阪の3つのまちについて、それを識り、歩き、学び、分かち合う、という参加型のグループワークで進行した。ゲストの多くは、芸術の専門家というより、さまざまな職業人である。建築家あり、社会福祉法人理事長あり、菓子屋の社長あり。まちとひとを通じて、私たちがさまざまな関係性の上に生きている、というごく当たり前のことを当事者の語りを通して、伝えることを目的としていた。またグループの世話役を務めたリーダーたち11名も大学生、社会人院生、新聞記者や都市計画家など、應典院の呼びかけに応じてくれた、非専門家の人々だった。誰もが一人称でアーツとの親密な関係性を語り始める時、自分の内部に目に見えないものの価値を浮かび上がらせる。私は、そこに宗教と相似した感覚を覚える。

80名の受講者にとって、今回の企画が懇切丁寧なものであったとは思えない。参加意識、自発性、対人関係、協調性、問題解決等々、数々のポジティブな「基礎体力」が求められた。しかし、対話、交流、協働など新しい関係性構築の能力が必要とされる今、アーツから、新しい社会参加（表現）へのモチベーションを提示することも、今回の講座のねらいであった。

TAMで得た私たちの収穫は大きい。アーツを社会につなぐため、私たちの次のプロジェクト「アーツによる若年者の雇用能力開発」が動き始めている。生き方にかかわるアーツマネジメントとは、個人のエンパワーメントを育むものでなくてはならない、と思う。

（04年8月）

Vol. 52　2004年2月

## 評価システムを評価する―21世紀型の公共文化施設を目指して―

山口セッション　総合-8

山口情報芸術センター　シアターディレクター　岸　正人

山口情報芸術センターは、建設中に3ヶ月に及ぶ工事中断と「見直し」論議を経て、2003年11月に開館しました。その過程で多くの議論を巻き起こした施設なのだから、今後の公共文化施設のあり方を問うセッションにしたいと、「評価」をテーマとすることを提案させていただきました。

TAM開始より8年の間で公共文化施設を取り巻く環境も大きく変わって来ています。貸館型ではない拠点施設の増加やミッションの必要性が叫ばれる一方で、自治体の予算削減に伴う文化予算の見直し、指定管理者制度の導入や独立行政法人化など、存在そのものを問う状況にも置かれてきています。いずれも、その施設や事業をどのように評価するかが問われていると言えます。

そんな時期的にも注目を集めているテーマだったため、かなり遠方も含め広域から多くの文化施設や行政関係、劇団やNPO関係、「見直し」に関わった方も含めた多くの市民にご参加いただくことができました。

基調講演を始め、各地の事例報告、そして、つなぐNPOによる「公共施設の通信簿YCAM版」評価ツアーと、参加者のみならず開催側自らが参考になることが多く、企画から開催に至る過程も含め非常に勉強になりました。また、講座は、参加者も含め活発な議論をいただくことができました。半年を経過したいまでも、資料のお問い合わせをいただいています。「文化施設の通信簿」ツアーも、他文化施設でも開催の予定と伺っています。

「評価」は、公共施設として避けては通れない課題であり、個人的にもまたYCAMとしても、引き続き取り組んでいかなければならないと考えています。合わせて、YCAM独自のアートマネジメントに関する講座も今年度中に開催を計画しています。TAM山口セッション開催で培ったノウハウやネットワークを今後の事業や施設運営に生かすことで、「評価」に値する魅力ある文化施設としたいと思います。　（04年8月）

Vol. 53　2004年3月

## 続・これでいいのか？アートマネジメント！　次世代からのマニフェスト―TAMスピーチ大会

東京会議2004　総合-9

TAM運営委員会

TAMのファイナル・セッションをどのように締めくくるか。悩みに悩んだ挙句、TAMはやはり最後まで現場主義を貫くことになった。最後にこだわった現場のテーマは、ずばりTAMの成果。つまり、アートマネジメントの分野で次世代の人材が育ってきていることを確認することである。若い芽が確実に存在することを見届けるには、実際に若い芽に出てきてもらわねばならない。そこで全国公募のスピーチ大会となったのだが、果たして本当にそんなツワモノが何人もいるのか? しかも賞金は10万円。とはいえ、決して主催者が賞金を出し渋ったわけではなく、これは敢えて「賞金目当て」の可能性を排除したいというディレクター側のこだわりである。

幸い50名の応募をいただき、しかも、内容はいずれ劣らぬ力作で一次選考は大変だったが、選考にあたっては「次世代からのマニフェスト」にふさわしいよう、論文的な分析よりも具体的な提案を重視した。

そしてスピーチ大会当日。「アート・ソムリエ―企業メセナを変える21世紀型アートビジネス―」（小林真由子さん。兵庫・学生）、「アートが社会の中で自立するために」（山吹善彦さん。東京・会社員）、「アートにおけるNPOの可能性」（奥村圭二郎さん。東京・学生）、「新指標による社会のイノベーション」（藤浪諭之さん。静岡・会社員）、そして特別枠として「“楽ガキ”のススメ」（後藤秀樹さん。愛知・会社員）の5つのスピーチが壇上で披露された。流麗なプレゼンもあれば、本題に入る前に時間切れになったり、頭が真っ白になったりする人もあり、会場は8年間のTAMでは味わえなかった新鮮なスリルに満ちた。「次世代のマニフェスト賞」は、新鮮なアイディアを提案した学生の小林さんが受賞した。

TAMが最後に差し出したマイクを、多くの人がしっかり受けとめてくださったことにわれわれは大きな手ごたえを感じた。全ての応募者の勇気に心からの感謝を捧げたい。（文責：ディレクター・熊倉）　（04年8月）

会議録申込先：〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13F
TAM運営委員会事務局（企業メセナ協議会内）e-mail:kmk@mecenat.or.jp

TOYOTA

Vol.50
トヨタ・アートマネジメント講座
名古屋大会 2003

# これでいいのか？ アートマネジメント！

2003年 10 月 11 日（土） 10:40-18:00（10:15開場）

会場：愛知芸術文化センター12階 アートスペース

1996年に始まり、今回で50回を迎える「トヨタ・アートマネジメント講座」（TAM）。この間、アートマネジメントを取り巻く状況は大きな展開を遂げました。文化芸術振興基本法の制定、続々と開講する大学や文化施設のアートマネジメント講座、各地に誕生する芸術系NPO――。しかし、多様な広がりを見せるとともに、アートマネジメントは少々とらえどころがなくなってきてはいませんか？

TAMのFinal Yearの幕開けとなる本セッションは、TAMの一貫したこだわりである〈地域と現場〉に焦点をしぼり、地域コーディネーターが全国から集まります。参加者のみなさんも、アートマネジメントの現状に対する期待と不安を声にしてください。総括の年の締めくくりとなる東京会議2004に向けて、いま現場を支えるあなた、そしてこれからアートマネジメントを志すあなたの声が名古屋に結集！ いったい、いま、まずわれわれがすべきことは何なのか???

参加費：一般¥1500／学生¥500
定　員：120名（先着順、定員になり次第締切）

主催：TAM名古屋大会実行委員会
　　トヨタ自動車（株）
共催：愛知芸術文化センター企画事業実行委員会
協力：愛知県トヨタ販売会社グループ
　　（社）企業メセナ協議会
企画：TAM運営委員会
　　赤村作知雄／森　司／西巻正史／熊倉純子
制作：TAM運営委員会事務局　（社）企業メセナ協議会内
　　オフィス・マッチング・モウル

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ（芸術文化活動）の一環として、1996年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に即ぶしたアートマネジメントの可能性を探索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指しています。トヨタのメセナ活動の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

7年の活動を徹底検証し、
アートマネジメントの未来を探る
2003年度TAM年間開催予定

【地域の現状と課題を議論】
Vol.50 名古屋大会2003　2003年10月11日（土）
↓
【ケーススタディと新たな方法論の試み】
Vol.51 大阪セッション　2004年1月24日（土）・25日（日）
Vol.52 山口セッション　2004年2月7日（土）・8日（日）
↓
【総括討論】
Vol.53 東京会議2004　2004年3月20日（祝）

※日程は変更の可能性もあります。最新情報はhttp://www.tam-kouza.net/でご確認ください。

名古屋大会2003公式サイト
http://www.tam-kouza.net/nagoya03/

# これでいいのか？ アートマネジメント！

EXPO 2005 AICHI JAPAN

10:40〜11:00 **主催者挨拶**［アートスペースA］ トヨタ自動車（株）

11:00〜13:00

## 分科会 1
「TAMを体験した地域と現場―美術編」

［アートスペースA］
定員：60名

TAMを開催した地域がその後どのような活動を実践しているのか、数ある事例の中から、充実した展開を示す福岡・岡山・青森の活動報告を地域コーディネーターのみなさんからいただきます。その上で、理想的なアートマネジメントが展開されるための環境整備を、どのような活動を通じて地域に定着し発展させてきたのか、またTAMの開催がいかなる役割を果たすことができたのか検証したいと思います。

パネリスト：柳沢秀行（〔財〕大原美術館プログラムコーディネーター・学芸員／Vol.1 岡山セッション）
川浪千鶴（福岡県立美術館学芸員／Vol.3 福岡セッション）
立木祥一郎（青森県環境生活部美術館整備・芸術パーク構想推進室総括学芸主査／Vol.24 青森セッション）
越後谷卓司（愛知県文化情報センター学芸員／Vol.30 名古屋大会）
司　会：森　司（水戸芸術館現代美術センター学芸員／TAM運営委員）

## 分科会 2
「日本のコンサートシーンが元気になるために ～アートマネジメントの担う役割」

［アートスペースE・F］
定員：60名

大きな曲がり角に直面する日本のクラシック音楽界。TAMを経て変化を遂げた地域の活動事例も紹介しながら、日本のコンサートシーンが元気になるために、関係各所が果たすべき役割、変わるべきこと、守るべきことを、アートマネジメントの視点から本音で語り合います。

パネリスト：中村　透（作曲家・シュガーホール芸術監督／Vol.22 沖縄セッション）
入山功一（〔株〕梶本音楽事務所事業部長）
檀本広樹（小出郷文化会館主事／Vol.47 小出郷セッション）
藤井明子（愛知県文化情報センター学芸員／Vol.41 名古屋セッション）
司　会：西巻正史（〔株〕トッパンホール企画制作部長／TAM運営委員）

14:00〜16:00

## 分科会 3
「現場からの逆襲」

［アートスペースE・F］
定員：60名

マネジメントがアートの「経営」にかかわることに狭められた結果、制作者とアーティストの距離がますます離れていったと考えられます。アートを扱う専門家としてのマネジメントとは何なのでしょうか？ 現場がアートマネジメント教育を見る目もますます厳しくなっています。新しい制作者は古い現場のしきたりをやぶれるのでしょうか？ 静かに語り合います。

パネリスト：伊藤裕夫（静岡文化芸術大学文化政策学部教授）
唐津絵理（愛知県文化情報センター学芸員／Vol.41 名古屋セッション）
平田修二（北海道演劇財団事務局長／Vol.2 札幌セッション）
松尾洋一郎（青年団制作）
司　会：市村作知雄（東京国際芸術祭ディレクター／TAM運営委員）

## 分科会 4
「〈市民のための文化施設〉って？～芸術拠点と地域社会の近未来的関係構築」

［アートスペースA］
定員：60名

建設反対派による市長選勝利から工事中断、見直し市民委員会などの荒波を経て今秋いよいよ開館する山口情報芸術センター。本堂を地域文化拠点として21世紀の寺子屋をめざす大都市・大阪の應典院。震災の傷に苦しむ神戸でのTAM開催から地域との交流を深めたKAVC。ネットワーク時代の地縁／知縁と、アートを通じたコミュニティ形成とは？

パネリスト：岸　正人（山口情報芸術センタースタジオ・ディレクター／Vol.52 山口セッション）
秋田光彦（應典院主幹／Vol.51 大阪セッション）
木ノ下智恵子（神戸アートビレッジセンター美術担当／Vol.27、Vol.44 神戸セッション）
古川　誠（芸術環境整備事務所・ソーダンタンク／Vol.44 神戸セッション）
司　会：熊倉純子（東京藝術大学音楽環境創造科助教授／TAM運営委員）

16:15〜18:00 **合同セッション**
「これでいいのか？ アートマネジメント！」

［アートスペースA］
定員：120名

分科会の報告を踏まえ、参加者を含めたディスカッション。これからの日本の文化政策に有意義な問題提起や建設的な具体案を寄せてください。アートマネジメントの現場がきちんと機能するための仕組みって、どんなカタチなのでしょう？

パネリスト：柳沢秀行／中村　透／平田修二／秋田光彦／市村作知雄／森　司／西巻正史／熊倉純子
司　会：若林朋子（〔社〕企業メセナ協議会プログラム・オフィサー）

18:30〜20:00 **懇親会**（希望者のみ・参加費：一般¥2000、学生¥1000）

## ［参加申込］

● お申込み方法
E-mail、FAX、または郵送で下記項目をお知らせください。
①氏名　②郵便番号・住所　③電話番号・FAX番号・E-mailアドレス　④ご職業［所属団体/役職、学校名/専攻］　⑤ご希望の分科会番号［午前［1・2］、午後［3・4］から各1。合同セッションは全員ご参加いただけます］　⑥懇親会参加の有無［別途参加費一般¥2000、学生¥1000が必要です］　⑦講座・講師への質問

TAM名古屋大会2003公式ウェブ・サイトの専用フォームからもお申込みいただけます。
**http://www.tam-kouza.net/nagoya03/**

● お申込み先
TAM名古屋大会事務局
〒444-0008　愛知県岡崎市渕町八王子11-12　オフィス・マッチング・モウル内
E-Mail：tam@m-mole.com　FAX：0564-25-3350
※電話でのお申込みは受け付けておりませんので、ご了承ください。

● お問合せ先
＊名古屋大会2003申込みについて
TAM名古屋大会事務局 オフィス・マッチング・モウル内　TEL：0564-25-2992
＊講座内容・TAM全般について
TAM運営委員会事務局（社）企業メセナ協議会内　TEL：03-3213-3397

愛知芸術文化センター　名古屋市東区東桜1-13-2　TEL：052-971-5511
●地下鉄＝東山線、名城線「栄」駅下車、4番出口から東へ徒歩2分
●名　鉄＝瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩2分
●自動車＝名古屋I.C→［東名阪］→上社JCT→［東名阪］→高針JCT→［名古屋高速］→東新町出口
http://www.aac.pref.aichi.jp/

Vol.51

**トヨタ・アートマネジメント講座**

大阪セッション　総合-7

TOYOTA

参加費：一般2000円、学生1500円
（2日間通し。交流会は別途参加費2500円が必要です）
定　員：90名（先着順。定員になり次第締め切ります）

主　催：トヨタ自動車株式会社
應典院寺町倶楽部
協　力：大阪府トヨタ販売会社グループ
社団法人企業メセナ協議会
監　修：市村作知雄
（TAM運営委員会／舞台芸術ディレクター）
ＴＡＭ運営委員会事務局　（社）企業メセナ協議会内
〔〒100-0006　東京都千代田区有楽町2－5－1
有楽町マリオン13F
http://www.tam-kouza.net〕

芸術化する現場のフィールドワーク

# まちとアートの練習問題

２００４年

１月

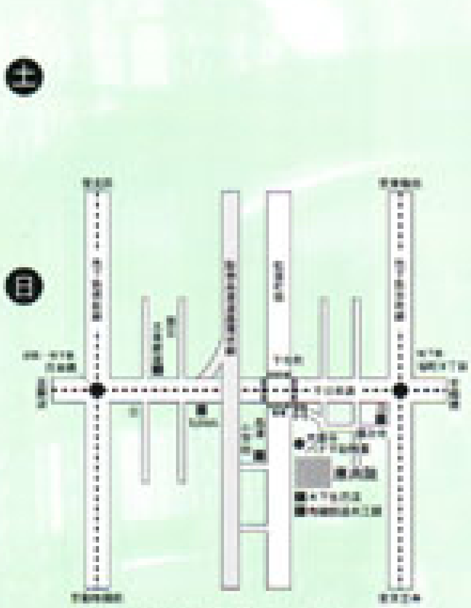
24日（土）
13:00～18:00

25日（日）
9:30～16:30

TAM大阪セッションでは、各地のアートマネジメントの現状と課題を議論した名古屋大会（vol.50　2003年10月開催）を受け、ケーススタディとして、新たな方法論を試みます。
アートマネジメントとは、たんに「アートと社会をつなぐ」というだけではなく、芸術文化活動のもつ創造的パワーを生かし、地域や共同体を創造性豊かな場に再編する営みです。
「こうしたい」というイメージを描き、さまざまな情報、ヒト、モノ、コトを編集し、アウトプットして人に伝えることから始まります。
本セッションではフィールドワークを実施。訪れる3つの場所は、「～したい」という思いを他者に伝え、協力者と場を作って事業を立ち上げ、連鎖反応を次々に起こしている現場です。その中核を担う人々の実践に触れるとともに、参加者自身が「立ち上げ力」や「段取り力」を駆使する体験を通して、共振のマネジメントの実際を学びます。

**フィールドワーク訪問地**（下記3カ所から1つを選択）

（a）"からほり"＝空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト
～新旧の融合、長屋再生による文化づくり（大阪市中央区谷町）
（b）"SAP"＝新世界アーツパーク
～コンテンポラリー・アートの梁山泊（大阪市浪速区恵美須東）
（c）"應典院"＝應典院／應典院寺町倶楽部
～ちがいと出会い、エンパワーする劇場寺院（大阪市天王寺区下寺町）



メイン会場
**應典院**

大阪市天王寺区下寺町1－1－27
TEL：06－6771－7641
●地下鉄谷町9丁目駅③番出口から西へ徒歩9分
●地下鉄日本橋駅⑧番出口から東へ徒歩8分
※両駅とも地上直通エレベーターがあります。

「トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）」は、……全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指……いただけます。http://www.toyota.co.jp/mecenat/

【予告】2004年2月7・8日TAMvol.52仙台セッション、3月20日TAMvol.53東京会議2003　開催します！

EXPO 2005 AICHI JAPAN

# まちとアートの練習問題

## 24日(土) SATURDAY

※フィールドワーク(6)以外の会場はすべて應典院

新世界アーツパーク

### 1 大阪セッション・ことはじめ
13:00〜13:15

開催主旨の説明&
2日間のオリエンテーション

### 2 ウォーミング・アップ
13:15〜15:05

**「アートは都市再生の特効薬になり得るか？」**

「創造都市」という概念を提唱している佐々木雅幸さん、創業支援と協働を2本柱にクリエーターたちの活動を支援している山納洋さんをお招きし、創造都市を具現化していくためのアートについて検証します。

講　　師：佐々木雅幸(大阪市立大学大学院創造都市研究科教授)
　　山納洋(扇町インキュベーションプラザ　コラボレーション・マネージャー)
モデレーター：熊倉純子(東京藝術大学音楽環境創造科助教授／TAM運営委員)

### 3 フィールドワーク作戦会議
15:15〜18:00

フィールドワークの対象となる3現地のガイダンスを聞いた後、参加者が約10人ずつのグループに分かれ、2日目の段取りや役割分担を話し合います。

ガイダンス担当：(a) からほり→山根秀宣(からほり倶楽部理事／大阪まちプロデュース主宰)
　　(b) SAP→文(NPO法人DANCE BOX　ディレクター)
　　(c) 應典院→池野亮(應典院事務局長)
コメンテーター：弘本由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所客員研究員)

佐々木雅幸さん

### 4 だるまトーク
18:15〜18:45
※希望者のみ

**「遠くて近い？ 宗教とアートの関係を問う」**

語　り　手：秋田光彦(應典院主幹／應典院寺町倶楽部事務局長)
「地域の拠点」だった寺院の機能を現代に取り戻すべく再建された應典院は、NPO「應典院寺町倶楽部」と協働でアートを媒介にした活動を続けています。その根底にある思いとは？　秋田住職が語ります。

### 5 交流会
19:00〜20:30
※希望者のみ、参加費別途要

應典院

空堀商店街界隈

芸術化する現場のフィールドワーク

## 25日(日) SUNDAY

### 6 フィールドワーク
それぞれの現場に集合し、ヒアリングやまち歩きをしながら情報を収集します。

**(a)"からほり"**
9:30〜11:30
[空堀商店街界隈]
定員30名

**新旧の融合、長屋再生による文化づくり** http://members.aol.com/Karahori01/nagaya.htm

長屋という地域資源に光をあてて活動を続ける「からほり倶楽部」。長屋でアーティストが暮らすためのコーディネートや起業家支援、アートイベントの企画などを通じて、まちに変化が起こり続けています。アートがもたらした波及効果とは？

ゲ　ス　ト：六波羅雅一(からほり倶楽部代表／六波羅真建築研究室代表)
　　植松秀王(チョコレート・ショップ「エクチュア」オーナー)
　　松富謙一(からほり倶楽部理事／ケースまちづくり研究所)
　　三島啓子(橋ギャラリー　オーナー)
伴　走　者：熊倉純子

**(b)"SAP"**
9:30〜11:30
[新世界アーツパーク]
定員30名

**コンテンポラリー・アートの梁山泊** http://www.sap-s.jp

2002年10月にオープンした公設民営の新世界アーツパーク。拠点を得たアーティストたちは、場を維持し、自立していくためにどのような取り組みをしているのか、周辺地域との関係づくりなど、アーティストたちの奮闘ぶりを伺います。

ゲ　ス　ト：大谷燠(NPO法人DANCE BOX　エグゼクティブ・ディレクター)
　　上田假奈代(詩業家／cocoroom主宰)
　　甲斐賢治(NPO法人【remo　記録と表現とメディアのための組織】代表)
伴　走　者：小暮宣雄(京都橋女子大学文化政策学部助教授)

**(c)"應典院"**
9:30〜12:00
[應典院]
定員30名

**ちがいと出会い、エンパワーする劇場寺院** http://www.outenin.com

劇場寺院・應典院という場の特性を活かした事業を展開しているNPO「應典院寺町倶楽部」。アートを媒介に人々が出会い、「共(コモンズ)の場」を創出することが活動の主眼です。分野を横断する実践のマネジメントとは？

ゲ　ス　ト：秋田光彦(應典院主幹／應典院寺町倶楽部事務局長)
　　今中博之(社会福祉法人素王会理事長／一級建築士、デザイナー)
　　森下静香(財団法人たんぽぽの家スタッフ)
伴　走　者：市村作知雄(東京国際芸術祭ディレクター／TAM運営委員)

### 7 グループ・ワーク&プレゼンテーション大会
13:00〜15:15

フィールドワークで収集した情報をもとに、グループごとにフィールドワークでの発見を発表しあいましょう。個々に触発されたものを大事にしながら、他者と交渉・調整を行うプロセスで、いまの自分に必要な能力を再発見できれば、しめたもの！

### 8 全体会
15:30〜16:30

2日間で話し合ったことや、フィールドワークを通じて見えてきたことを総括します。アートマネジメントに必要な要素を抽出しながら、参加者が今後、各地で活動していくためのヒントを提示します。

パネリスト：市村作知雄、熊倉純子、小暮宣雄
コーディネーター：弘本由香里

文化力

## ■申し込み方法

E-mail、FAX、または郵送で下記項目をお知らせください。
❶氏名、❷郵便番号・住所、❸電話番号、FAX番号、E-mailアドレス、❹ご職業(所属団体／役職、学校名／専攻)、❺ご希望のフィールドワーク先(第2希望まで)、❻交流会参加の有無(参加費2500円別途要)、❼参加動機

## ■申し込み・問い合わせ先

應典院寺町倶楽部
〒543−0076
大阪市天王寺区下寺町1-1-27
E-mail:info@outenin.com
FAX:06−6770−3147
http://www.outenin.com
※電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、ご了承ください。

TOYOTA

Vol.52
トヨタ・アートマネジメント講座
山口セッション　総合-8

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ（芸術文化活動）の一環として、1998年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成をめざしています。
トヨタのメセナの情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

# 評価システムを評価する

## —21世紀型の公共文化施設をめざして—

2004

2月7日（土）
2月8日（日）

美術館や博物館、あるいは劇場は、市民に必要とされているのか？ある街では市立美術館が民間委託か団塊かと存続自体を問われています。新劇場建設に住民訴訟を含む反対運動が起こっている街もあります。いま、自治体の予算削減や市民の文化的ニーズの変化を受け、公共文化施設を取り巻く状況が大きく変わろうとしています。
それは、文化施設の役割や活動を、誰がどのような方法で、どう評価するかのモノサシが問われていることでもあります。
トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）山口セッションでは、一昨年「建設見直し」を掲げる新市長当選により工事が3ヶ月中断し、昨年11月に開館したばかりの山口情報芸術センターを舞台に、公共文化施設の評価のモノサシについて考えます。
内部評価を導入した事例や外部からの達成評価の当事者対談など、各地の取り組みを報告。また、山口情報芸術センターを観客の立場で視察して評価する「エヴァリュエーション・ツアー*」を実施、評価結果である「公共文化施設の通信簿」を報告します。
公共文化施設の「評価」のモノサシはどこにあるのか、そして、評価結果をどのように現場運営にいかせるのか。
—あなたは、このセッションをどのように評価しますか？

＊エヴァリエーション・ツアー　施設評価ツアー

会　場　山口情報芸術センター
山口市中園町7-7

参加費　一般￥1,000　学生￥500
2日間通し（懇親会参加は別途￥3,000、ツアーは昼食等実費）

定　員　100名（先着順）

2月7日（土）　1:00pm～
1. 基調講演「公共文化施設をどのように評価するのか」
2. 評価事例紹介
　(1)「数値化による内部業績評価」
　(2)「外部からの達成評価」
　(3)基調講演および事例紹介への参加者からの質疑応答
3. 懇親会　センター内レストラン「アンコーラ」

2月8日（日）　10:00am～
4. 評価ワークショップと報告
　「エヴァリュエーション・ツアーin YCAM」（参加者による施設評価ツアー）
5. シンポジウム「評価のモノサシと運営への反映をめぐって」

主催　トヨタ自動車株式会社
　　財団法人山口市文化振興財団
共催　山口市
協力　山口県トヨタ販売会社グループ
　　社団法人企業メセナ協議会
監修　市村作知雄
　　（TAM運営委員会/舞台芸術ディレクター）
　　TAM運営委員会事務局
制作　山口情報芸術センター

TAM vol.53 東京会議2004
「次世代からのマニフェスト-TAMスピーチ大会-」
（3月20日、東京・オリベホール）出場者募集中！
応募締切2月20日（金）。
詳細 www.tam-kouza.net/tokyo04

# 評価システムを評価する

## —21世紀型の公共文化施設をめざして—

2月7日（土）
山口情報芸術センター
スタジオC

### 1 基調講演
1:00pm〜2:30pm

「公共文化施設をどのように評価するのか」

講師：片山正夫（（財）セゾン文化財団常務理事）

公共文化施設にとってなぜ評価が重要なのか、どのような流れのなかで評価を行うのか、評価結果をどのように運営にいかすのかなど、「評価」の基本的な捉え方を確認します。

### 2 評価事例紹介
2:45pm〜5:30pm

(1)「数値化による内部業績評価」 http://www.kccf.or.jp/kccf/index.html

講師：今関総一郎（（財）葛飾区文化国際財団事務局長） 2:45pm〜3:45pm

かつしかシンフォニーヒルズなどを運営する財団法人葛飾区文化国際財団では、1999年度より、事業コストや満足度の数値化による業績評価を行い、ホームページで公開しています。評価結果は、企画の立案や職員の勤務評定に活用しています。判定が「A」なら翌年も事業拡充、「E」だと廃止。あなたの街の文化事業を「かつしか」的に採点すると、「A」?、それとも‥‥

(2)「外部からの達成評価」 http://www.setagaya-ac.or.jp/sept/frame.html

講師：吉本光宏（ニッセイ基礎研究所主任研究員） 4:00pm〜5:00pm
松井憲太郎（世田谷パブリックシアター学芸課長）

世田谷パブリックシアターでは、芸術方針や組織、財政、事業活動をアニュアルレポートとして公表するとともに、開館3年目に、ニッセイ基礎研究所に依頼して、劇場の運営方針を定めた事業計画大綱に基づいて、それまでの公演やワークショップなどの活動実績の評価を実施しました。評価はどのようになされ、結果はどう反映されたのか。評価の目的や役割について考えます。

(3) 基調講演および事例紹介への参加者からの質疑応答

司会進行：岸　正人（山口情報芸術センターシアターディレクター） 5:00pm〜5:30pm

### 3 懇親会
センター内レストラン「アンコーラ」
5:30pm〜7:00pm

講師と参加者、地元と遠方からの各参加者の相互交流の場です。ふるってご参加ください。

2月8日（日）
山口情報芸術センター
スタジオC

### 4 評価ワークショップと報告
10:00am〜3:00pm

「エヴァリュエーション・ツアーin YCAM」 http://www2a.biglobe.ne.jp/~yamaiku/

講師：山本育夫（「特定非営利活動法人つなぐ（つなぐNPO）」代表理事）

エヴァリュエーション・ツアーとは、観客による施設評価ツアーのこと。美術館などの文化施設や文化資源を有効利用できるように、観客サイドからの活動を展開する「つなぐNPO」が、TAM参加者や講師とともにミニ・エヴァリュエーション・ツアーで館内を巡ります。また、1月18日（日）に事前実施したツアーの模様をビデオ映像にて報告し、ツアー参加者による「公共文化施設の通信簿・YCAM版」の集計結果を発表します。あなたも一緒に山口情報芸術センターを評価してみませんか。
（10:00am〜12:00pm 評価報告/12:00pm〜1:00pm 昼食（各自）/1:00pm〜3:00pm ミニツアー）

### 5 シンポジウム
3:30pm〜5:00pm

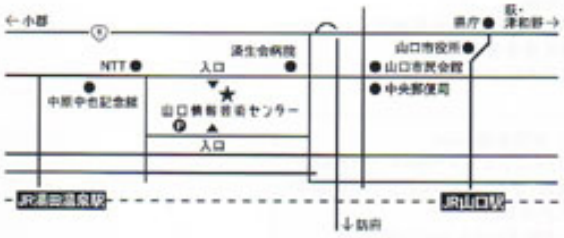
「評価のモノサシと運営への反映をめぐって」

パネリスト：片山正夫、今関総一郎、吉本光宏、松井憲太郎、山本育夫
司会：岸　正人

2日間の講座とエヴァリュエーション・ツアーを通して、どのような「評価」の道筋が見えたのか。多面的な「評価」とは? また、それを施設運営や事業計画にどのように反映するのか。これからの公共文化施設が取り組むべき「評価システム」を探ります。

参加申込：はがき、FAX、e-mailにて、
①住所、②氏名（ふりがな）、③性別、④年齢、⑤電話番号・e-mail等連絡先、⑥ご職業（所属団体/役職、学校名/専攻）、⑦懇親会参加の有無（別途¥3,000が必要です）をご記入の上、以下までお申し込みください。
定員になり次第、締め切ります。ご参加いただく方には折り返し参加票（はがき）を郵送いたします。

講座申し込み/お問い合わせ先：
山口情報芸術センター 開館時間10:00-22:00　火曜休館（祝日の場合は翌日）
〒753-0075　山口市中園町 7-7
TEL: 083-901-2222　FAX: 083-901-2216
e-mail: info@ycam.jp　http://www.ycam.jp/
※電話での申し込みは受付けておりませんので、ご了承ください。




※遠方からのアクセスはホームページを参照下さい。

EXPO 2005 AICHI JAPAN

最後のトヨタ・アートマネジメント講座、主役はキミだ！

# 次世代からのマニフェスト
## ―TAMスピーチ大会―

2004年3月20日(土・祝) 13:00～18:00 (12:30開場)
会場:オリベホール(東京・六本木) 当日参加費:¥500 定員:200名

いよいよTAMもファイナル・セッション。7年間、全国各地でアートマネジメントを語ってきたTAMですが、終幕にあたって、マイクを次世代の皆さんにお渡します。ついては、アートマネジメントの未来を担う、若い心意気のスピーカー大募集中です。これからの日本社会とアートについて、ちょっと気になり始めたあなた。どうぞ意見やギモンをTAMの舞台で語ってください。経験不足でも構いません。きれいにまとまったスピーチでなくても構いません。アートマネジメント、企業メセナ、まちづくり、文化政策、アートNPO、教育や福祉とアート、新たなアートビジネスの提案…切り口は自由です。アートマネジメントの新たな胎動を感じさせるようなスピーカーの応募をお待ちしています。

そして大会当日、スピーチを聞いて「次世代のマニフェスト賞」を決めるのは、会場のオーディエンスのみなさんです。この10年で大きな変化を遂げた日本のアートマネジメントで、何かが新たに動き出す――そんな瞬間になるのかどうか、ぜひ、オーディエンスとして立ちあってください。TAMの最終回に多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

### 「次世代のマニフェスト賞」
副賞10万円(アート活動支援金・奨学金)

TAMスピーチ大会にて、1名に授与。オーディエンスのみなさんと審査員による投票で決定します。

### スピーチ募集中！

● テーマ
**「これからの日本社会とアートについて、私の主張」**

● 応募方法
E-mailにファイルを添付あるいは郵送にて、以下の①～③の書類をお送りください。
①スピーチ概要(2000字以上)、またはスピーチ原稿(15分の持ち時間で発表可能な分量:6000字程度)どちらのご応募でも可　②サマリー:200～800字程度の要旨　③所定の申込用紙

● 応募方法等の詳細は
**東京会議2004公式サイト**
**http://www.tam-kouza.net/tokyo04/**
をご覧ください。2004年2月20日(金)締め切りです(必着)。

主催:トヨタ自動車(株)
協力:東京都トヨタ販売会社グループ/(社)企業メセナ協議会
企画:TAM運営委員会　制作:(株)ミサック

トヨタ・アートマネジメント講座ファイナルセッション

# 「次世代からのマニフェスト―TAMスピーチ大会」

EXPO 2005 AICHI JAPAN

## 第1部　「TAMディレクター総まとめスピーチ―続・これでいいのか？ アートマネジメント！―」

13:00～14:30　TAMディレクターが7年間の講座を振り返り、これからのアートマネジメントについて、各々がスピーチします。

【TAMディレクター】
市村作知雄（東京国際芸術祭ディレクター／TAM運営委員）
森　司（水戸芸術館現代美術センター学芸員／TAM運営委員）
西巻正史（（株）トッパンホール企画制作部長／TAM運営委員）
熊倉純子（東京藝術大学音楽環境創造科助教授／TAM運営委員）

## 第2部　「これからの日本社会とアートについて、私の主張」

14:45～16:45　**「4人のスピーカーによる〈私の主張〉」**

書類選考を突破した4名の出場者が、15分の持ち時間で"私の主張"を繰り広げます。続いて、それぞれのスピーチに対して、審査員のコメントや会場参加者（オーディエンス）のご意見をいただきます。賛否両論、みなさんの声が集まることでのシナジー効果も期待されます。

【審査員】
国山土筆（劇団あしぶえ代表／八雲国際演劇祭マネジング・芸術監督）
寺脇　研（文化庁文化部長）
星野　学（朝日新聞記者）
吉本光宏（ニッセイ基礎研究所主任研究員）
布施直人（トヨタ自動車広報部社会文化室長・担当部長）

16:45～17:00　**投票**

オーディエンスのみなさんに、「次世代のマニフェスト賞」に最もふさわしいと思われる主張に投票していただきます。

17:00～18:00　**「次世代のアートマネジメントに向けて ～審査員討論・開票・表彰式～」**

ステージにてオーディエンス票を公開開票。平行して、審査員がスピーチ大会の講評と、アートマネジメント・企業メセナ・文化政策等の今後について、マクロな視点から討論をおこないます。

●「次世代のマニフェスト賞」……1名
もっとも斬新かつ独創性に溢れた内容で、説得力に富んだスピーチを、オーディエンスと審査員の投票で決定。
●「企業メセナ協議会特別賞」…1名
協議会機関紙『メセナnote』にスピーチを掲載。

18:00～20:00　**懇親会** ※希望者のみ（参加費：¥1000）

終了後、ホワイエにて懇親会を開催します。

---

トヨタ・アートマネジメント講座（TAM）は、トヨタ自動車のメセナ（芸術文化活動）の一環として、1996年より全国各地で開催されています。それぞれの地域に根ざしたアートマネジメントの可能性を模索し、芸術活動と地域社会を結ぶ人材の育成を目指しています。トヨタのメセナ活動の情報は、インターネットでご覧いただけます。
http://www.toyota.co.jp/mecenat/

［参加申込］

● お申込み方法
E-mail、FAX、または郵送で下記項目をお知らせください。
①氏名　②郵便番号・住所　③電話番号・FAX番号・E-mailアドレス　④ご職業（所属団体/役職、学校名/専攻）　⑤懇親会参加の有無（別途参加費¥1000が必要です）

TAM東京会議2004公式サイトの専用フォームからもお申込みいただけます。
**http://www.tam-kouza.net/tokyo04/**

● お申込み先
TAM東京会議2004事務局
〒106-0031　東京都港区西麻布4-4-11　麻布クレセント102　（株）ミサック内
E-mail：misack@attglobal.net　FAX：03-3498-0341
※電話でのお申込みは受け付けておりませんので、ご了承ください。
※先着順、定員になり次第締切。

● お問合せ先
＊東京会議2004申込みについて
TAM東京会議2004事務局（株）ミサック内　TEL：03-3498-0339

＊スピーチ原稿の応募・TAM全般について
TAM運営委員会事務局（社）企業メセナ協議会内
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1　有楽町マリオン13F
TEL：03-3213-3397　E-mail：kmk@mecenat.or.jp

**オリベホール**
東京都港区六本木6-1-24　ラピロス六本木8F　03-3403-9400
営団地下鉄日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木」駅3番出口すぐ
http://www.oribehall.com

「トヨタ・アートマネジメント講座の軌跡　1996-2004」
2004年9月15日発行

企画・編集：TAM運営委員会

| | |
|---|---|
| トヨタ自動車（株）広報部社会文化広報室 | 布施直人 |
| | 小林義信 |
| | 赤澤健司 |
| | 宇野あかり |
| ディレクター | 市村作知雄 |
| | 森　司 |
| | 西巻正史 |
| | 熊倉純子 |
| 事務局：（社）企業メセナ協議会 | 角山紘一 |
| | 若林朋子 |
| デザイン | 峯石景子 |
| 印刷・製本 | トヨタ自動車（株） |
©禁無断転載

トヨタ自動車株式会社　広報部社会文化広報室
〒112-8701　東京都文京区後楽1-4-18
Tel. 03-3817-9139　Fax. 03-3817-9036
http://www.toyota.co.jp/jp/community_care/domestic/mecenat/

TAM運営委員会事務局
〒100-0006　東京都千代田区有楽町2-5-1　有楽町マリオン13F
社団法人企業メセナ協議会内
Tel. 03-3213-3397　Fax. 03-3215-6222
http://www.mecenat.or.jp

TOYOTA